元総社蒼海遺跡群(26)

前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う

埋蔵文化財発掘調査報告書

1区　H－2号住居跡出土墨書土器

前橋市埋蔵文化財発掘調査団

２～４区　調査区遠景　南から国分尼寺方向を見る

２区　調査区全景（北から）

３区　中央部全景（北から）

３区　西側全景（南から）

６区　Ｗ－２号溝跡全景（北から）

1区　H－2号住居跡出土墨書土器「大館」

1区　H－2号住居跡出土墨書土器「少」

はじめに

前橋市は、関東平野の北西部に位置し、名山赤城山を背に利根川や広瀬川が市街地を貫流する、四季折々の風情に溢れる県都です。市域は豊かな自然環境に恵まれ、2万年前から人々が生活を始めました。そのため市内のいたる所に人々の息吹を感ぜられる歴史遺産が存在します。

古代において前橋台地には、広大に分布する穀倉地帯を控え、前橋天神山古墳などの初期古墳をはじめ王山古墳・天川二子山古墳といった首長墓が連綿と築かれ、上野毛の国の中心地として栄えました。また、続く律令時代になってからは総社・元総社地区に山王廃寺、国分僧寺、国分尼寺、国府など上野国の中枢をなす施設が次々に造られました。

中世になると、戦国武将の長尾氏、上杉氏、武田氏、北条氏が鎬をけずった地として知られ、近世においては、譜代大名の酒井氏、松平氏が居城した関東三名城の一つに数えられる厩橋城が築かれました。

やがて近代になると、生糸の一大生産地であり、横浜港から前橋シルクの名前で遠く海外に輸出され、日本の発展の一翼を担いました。

今回、報告書を上梓する元総社蒼海遺跡群(26)は古代上野国の中枢地域の調査であります。上野国府推定区域に隣接することから、調査成果に多くの注目を集めております。今回の調査では、国府そのものに関連する遺構の検出はかないませんでしたが、古墳時代から平安時代にいたる多くの竪穴式住居跡を検出しました。今は一本の糸に過ぎない調査成果も織り上げて行けば、国府や国府のまちの姿を再現できるものと考えております。残念ながら、現状のままでの保存が無理なため、記録保存という形になりましたが、今後、地域の歴史・前橋の歴史を解明する上で、貴重な資料を得ることができました。

最後になりましたが、この調査事業を円滑に進められたのは、関係機関や各方面のご配慮の結果といえます。また、寒風の中、直接調査に携わってくださった担当者・作業員のみなさんに厚くお礼申しあげます。

本報告書が斯学の発展に少しでも寄与できれば幸いに存じます。

平成22年3月

前橋市埋蔵文化財発掘調査団
団長　戸塚良明

例　　言

1．本報告書は、前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う元総社蒼海遺跡群(26)発掘調査報告書である。

2．調査主体は、前橋市埋蔵文化財発掘調査団である。

3．発掘調査の要項は次のとおりである。

調　査　場　所　　群馬県前橋市元総社町1802番地１　ほか

発掘調査期間　　平成21年5月18日～平成21年12月25日

整理・報告書作成期間　　平成21年12月22日～平成22年3月13日

発掘・整理担当者　　山下歳信・阿久澤真一・並木勝洋・福田貫之・清水亮介（発掘調査係員）

4．本書の原稿執筆・編集は山下・阿久澤・並木・福田・清水が行った。

5．発掘調査・整理作業にかかわった方々は次のとおりである。

阿部シゲ子・石倉稔夫・岩木　操・大木伸二・小畑憲治・神山早苗・佐藤　修・佐藤佳子・品川祐二・杉渕富雄・須田博治・須藤　豊・関根その子・高澤京子・高野　繁・瀧上政信・多田啓子・千葉伍郎・角田節子・角田昌幸・渡木秋子・中澤光江・中林美智子・奈良啓子・庭山皓正・橋本ちづる・平林しのぶ・星野和子・堀込とよ江・町田妙子・町田敏彦・真庭武志・峰岸あや子・弥郡啓吾・矢島　忠・湯浅たま江・湯浅道子

6．発掘調査で出土した遺物は、当発掘調査団より前橋市教育委員会に保管を依頼し、前橋市教育委員会文化財保護課で保管されている。

凡　　例

1．挿図中に使用した北は、座標北である。

2．挿図に国土交通省国土地理院発行の1：200,000地形図（宇都宮、長野）、1：25,000地形図（前橋）、1：6,000前橋市現形図を使用した。

3．遺跡の略称は、21A130-26である。

4．遺構及び遺構施設の略称は、次のとおりである。

H…古墳・奈良・平安時代の竪穴住居跡　T…竪穴状遺構　W…溝跡　A…道路状遺構　D…土坑

ＤＢ…土壙墓　P…ピット・貯蔵穴（住居内Ｐ５を貯蔵穴とした。）　X…性格不明遺構　O…風倒木跡

5．遺構・遺物の実測図の縮尺は、原則的に次のとおりである。その他、各図スケールを参照されたい。

遺構　全体図…1/200・住居跡・竪穴状遺構・溝跡・土坑・ピット…1/60　竈・炉断面図…1/30

遺物　土器・鉄製品…1/3、1/4　石器・石製品・土製品…2/3、1/3　鉄器・鉄製品…1/2　瓦…1/6

6．計測値については、（　　）は現存値、［　　］は復元値を表す。

7．セクション注記の記号は、締まり・粘性の順で示し、それぞれ以下のように表現する。

◎ 非常に締まり・粘性あり、○ 締まり・粘性あり、△ 締まり・粘性ややあり、× 締まり・粘性なし

なお、セクション注記と遺物観察表の色調について新版標準土色帳(小山・竹原1967)を基準とした。

8．遺構平面図の--------は推定線を表す。

9．スクリーントーンの使用は、次のとおりである。

遺構平面図　　焼　土…　　粘土…

遺構断面図　　構築面…

遺物実測図　　須恵器断面…　　灰釉陶器断面…　　灰釉陶器表面…

緑釉陶器断面…　　内黒…　　粘土、たたき…

いぶし焼成…　　煤、炭化物付着…　　石：煤、被熱痕…

10．主な火山降下物等の略称と年代は次のとおりである。

As-B　（浅間Ｂ軽石：供給火山・浅間山、1108年）

Hr-FP　（榛名二ッ岳伊香保テフラ：供給火山・榛名山、６世紀中葉）

Hr-FA　（榛名二ッ岳渋川テフラ：供給火山・榛名山、６世紀初頭）

As-C　（浅間Ｃ軽石：供給火山・浅間山、４世紀前半～中葉）

目　　次

序…… i

Ⅰ　調査に至る経緯…… 1

Ⅱ　遺跡の位置と環境

1　遺　跡　の　立　地…… 1

2　歴　史　的　環　境…… 1

Ⅲ　調査の方針と経過

1　調　査　方　針…… 7

2　調　査　経　過…… 7

Ⅳ　基　本　層　序…… 18

Ⅴ　遺　構　と　遺　物…… 19

Ⅵ　ま　　と　　め…… 59

図　版

口絵1　2～4区　調査区遠景
2　2区　調査区全景
3　3区　中央部全景
4　3区　西側全景
5　6区　W－2号溝跡全景
6　1区　H－2号住居跡出土墨書土器「大館」
7　1区　H－2号住居跡出土墨書土器「少」

PL. 1　1区全景、H－1～3号住居跡
2　1区H－4～6号住居跡
3　1区H－8～12号住居跡
4　2区H－1～4号住居跡
5　2区H－5・6・9号住居跡、T－1号竪穴状遺構、3区H－1・2号住居跡
6　3区H－3・5～7号住居跡
7　3区H－8～11号住居跡
8　3区H－12～15号住居跡、DB－2号土坑墓
9　3区T－3号竪穴状遺構、W－1・2号溝跡、調査区中央部全景
10　3区W－5号溝跡、I－1号井戸跡全景、O－1号落ちこみ、調査区西側全景
11　3区H－16・17号住居跡
12　3区H－18～24号住居跡、T－4・5号竪穴状遺構、D－4・5号土坑
13　3区D－6～8号土坑、DB－3号土坑墓、4区調査区全景
14　4区H－1～3号住居跡、D－1～6号土坑、5区H－1号住居跡
15　5区調査区全景、H－2～5号住居跡、W－5号溝跡、D－1号土坑
16　6区調査区全景、H－1・4号住居跡、T－1・2号竪穴状遺構
17　6区地下式土坑、W－1～3号溝跡
18　7区調査区全景、H－1・2・6・8号住居跡
19　7区H－3～7・9～11号住居跡
20　7区H－12号住居跡、W－1号溝跡、D－1号土坑、I－1井戸跡
21　8区調査区全景、H－2・3号住居跡
22　8区H－4～7・10号住居跡、P－1号ピット、O－1号落ち込み
23　9区調査区全景、H－1～3号住居跡、W－1号溝跡、A－1号道路状遺構
24　10A・B区調査区全景、10B区H－1・2号住居跡
25　10B区H－2～6・8・10号住居跡
26　10B区H－7～9号住居跡、DB－1号土坑墓、11区H－1・2号住居跡
27　11区調査区全景、H－2～4号住居跡
28　11区H－4～7号住居跡、D－1・2号土坑、I－1号井戸跡
29　13区調査区全景、H－1号住居跡、蒼海城の土塁として考えられていた盛り土
30　1区出土遺物
31　1区出土遺物
32　2区出土遺物
33　2・3区出土遺物
34　3区出土遺物
35　3区出土遺物
36　3区出土遺物
37　4・5区出土遺物
38　6・7区出土遺物
39　7・8区出土遺物
40　8・9・10区出土遺物
41　10区出土遺物
42　10・11区出土遺物
43　瓦（1）
44　瓦（2）
45　瓦（3）
46　瓦（4）
47　瓦（5）
48　瓦（6）
49　瓦（7）
50　縄文土器、石製品（1）
51　石製品(2)、土製品、鉄製品

挿　図

Fig. 1　元総社蒼海遺跡群位置図
2　周辺遺跡図
3　元総社蒼海遺跡群位置図とグリッド設定図
4　元総社蒼海遺跡群(26)調査区位置図
5　元総社蒼海遺跡群(26)1・2・3区東側全体図
6　元総社蒼海遺跡群(26)3区西側・4区全体図
7　元総社蒼海遺跡群(26)5・6区全体図
8　元総社蒼海遺跡群(26)7・8区全体図
9　元総社蒼海遺跡群(26)9区全体図
10　元総社蒼海遺跡群(26)10・11区全体図
11　元総社蒼海遺跡群(26)12・13区全体図
12　基本層序
13　1区H－1～3号住居跡
14　1区H－4・5号住居跡
15　1区H－6号住居跡
16　1区H－7・8・12号住居跡
17　1区H－9・10号住居跡
18　1区H－11・13号住居跡
19　1区W－1号溝跡、D－1号土坑、P－1号ピット、2区H－1号住居跡
20　2区H－2・3号住居跡
21　2区H－4・5号住居跡、D－6号土坑
22　2区H－6～8号住居跡
23　2区H－9号住居跡、T－1号竪穴状遺構、D－2～5号土坑
24　2区W－1・2号溝跡、P－1・2号ピット、3区I－1号井戸跡
25　3区H－1・2・15号住居跡

26　3区H－3・5・6号住居跡
27　3区H－7・8・11号住居跡
28　3区H－9・10号住居跡
29　3区H－12・14号住居跡
30　3区H－13・16号住居跡
31　3区H－17・19・23号住居跡
32　3区H－18・20～23号住居跡
33　3区T－1～5号竪穴状遺構、D－7号土坑
34　3区W－1～3号溝跡
35　3区W－3～5号溝跡、D－1～3号土坑
36　3区D－4～8号土坑、P－1～10号ピット、DB－1号土坑墓
37　3区O－1号落ち込み
38　4区H－1・2号住居跡、D－2・3号土坑
39　4区H－3号住居跡、D－1・4～7号土坑
40　5区H－1号住居跡
41　5区H－2・4・5号住居跡、W－3号溝跡
42　5区H－3号住居跡、D－1号土坑、W－2・4号溝跡
43　6区H－1・4号住居跡、
44　6区T－1・2号竪穴状遺構
45　6区W－2号溝跡、地下式土坑
46　7区H－1号住居跡
47　7区H－2・4・6・8号住居跡
48　7区H－5・10・12～14・16号住居跡、D－3・4号土坑、P－1・3～5号ピット
49　7区H－3・7・9・11・15号住居跡、D－4・5号土坑
50　7区W－1号溝跡、JD－1・2号土坑、D－1～7号土坑
51　7区P－1～15号ピット、8区H－2号住居跡、P－5・6号ピット
52　8区H－3・4号住居跡、D－1号土坑、O－1号落ちこみ、P－1～3号ピット
53　8区H－5・6・10号住居跡、D－2号土坑
54　8区H－7号住居跡、T－1号竪穴状遺構
55　9区H－1・2号住居跡
56　9区H－3号住居跡・D－1・2号土坑
57　10B区H－1・4・6号住居跡
58　10B区H－2・7号住居跡、DB－1号土坑墓
59　10B区H－3・5・8・10号住居跡
60　10B区P－1・2号ピット、11区H－1・2・7号住居跡
61　11区H－3～5号住居跡、D－1・2号土坑、I－1号井戸跡
62　13区H－1号住居跡
63　蒼海城の土塁として考えられていた盛り土
64　1区H－2・4号住居跡出土遺物
65　1区H－6～8号住居跡出土遺物
66　1区H－9～11号住居跡出土遺物
67　2区H－2・4号住居跡出土遺物
68　2区H－4～9号住居跡出土遺物
69　2区D－2号土坑、表採、グリッド、3区H－1～3号住居跡出土遺物
70　3区H－2・3号住居跡出土遺物
71　3区H－3・5・7～10号出土遺物
72　3区H－11～14・16号住居跡出土遺物
73　3区H－15・17・20・23号住居跡、T－1～3号、竪穴状遺構出土遺物
74　3区T－4号竪穴状遺構、W－3・4号溝跡、D－1・3号土坑、I－1号井戸跡出土遺物
75　3区O－1号落ち込み出土遺物
76　3区O－1号落ち込み、4区H－1号住居跡出土遺物
77　4区H－1・2号住居跡、グリッド、5区H－1・5区、W－3号溝跡出土遺物
78　5区D－1号土坑、6区P－1号ピット、地下式土坑出土遺物
79　7区H－1～5・7区出土遺物
80　7区H－6～11区出土遺物
81　7区H－12区、P－4号ピット出土遺物
82　8区H－2・4・5・7区、T－1号竪穴状遺構、P－6号ピット、グリッド出土遺物
83　9区H－1号住居跡、W－1号溝跡、10B区H－2・3号住居跡出土遺物
84　10B区H－2・4・5・7・8区出土遺物
85　10B区H－5・6・8・10区、DB－1号土坑墓、11区H－2～4・7区出土遺物
86　11区H－4・5・7・11・12区、グリッド出土遺物
87　縄文土器
88　石製品（1）
89　石製品（2）
90　鉄製品（1）
91　鉄製品（2）・土製品・弥生土器・銭
92　瓦（1）
93　瓦（2）
94　瓦（3）
95　瓦（4）
96　瓦（5）
97　瓦（6）
98　瓦（7）

表

Tab. 1　元総社蒼海遺跡群周辺遺跡概要一覧表
2　住居跡等一覧表
3　溝跡・道路跡計測表
4　土坑・ピット・井戸跡・落ち込み計測表
5　縄文土器観察表
6　古墳・奈良。平安時代出土土器観察表
7　石器・石製品観察表
8　鉄器・鉄製品観察表
9　土製品観察表
10　銅銭観察表
11　瓦観察表

Ⅰ　調査に至る経緯

本発掘調査は、前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴い実施され、10年目にあたる。本調査地は、周辺で埋蔵文化財調査が長年に渡って行われていることから、遺跡地であることが確認されている。

平成21年４月16日付けで、前橋市長　高　木　政　夫より前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査の依頼が前橋市教育委員会に提出された。前橋市教育委員会ではこれを受け、内部組織である前橋市埋蔵文化財発掘調査団　団長　戸　塚　良　明に対し、調査実施について協議を行い、調査団はこれを受諾した。平成21年５月８日、調査依頼者である前橋市長　高　木　政　夫と前橋市埋蔵文化財発掘調査団　団長　戸　塚　良　明との間で、本発掘調査の委託契約を締結し、５月18日に現地での発掘調査を開始するに至った。

なお、遺跡名称「元総社蒼海遺跡群(26)」（遺跡コード：21A130-26）の「元総社蒼海遺跡群」は区画整理事業名を採用し、数字の「(26)」は過年度に発掘調査を実施した遺跡と区別するために付したものである。

Ⅱ　遺跡の位置と環境

1　遺跡の立地

前橋市は、利根川が赤城・榛名の両火山の裾合を経て関東平野を望むところに位置し、地形・地質の特徴から、北東部の赤城火山斜面、南西部の前橋台地利根川右岸、南部から南西部にかけての前橋台地の利根川左岸、東部の広瀬川低地帯という4つの地域に分けられる。

本遺跡の立地する前橋台地は、約24,000年前の浅間山噴火によって引き起こされた火山泥流堆積物とそれを被覆するローム層(水成)から成り立っている。台地の東部は、広瀬川低地帯と直線的な崖で画されていて、台地の中央には現利根川が貫流している。現在の利根川の流路は中世以降のもので、旧利根川は現在の広瀬川流域と推定される。台地の西部には榛名山麓の相馬ヶ原扇状地が広がり、榛名山を源とする中小河川が利根川に向かって流下し、台地面を刻んで細長い微高地を作り上げている。総社・元総社付近の染谷川や牛池川は、微高地との比高３ｍ～５ｍを測り、段丘崖上は高燥な台地で、桑畑を主とした畑地として利用されてきた。

本遺跡は、前橋市街地から利根川を隔て、西へ約３kmの地点、前橋市元総社町地内に所在している。南東へ約１kmの所に上野国総社神社があり、すぐ西には関越自動車道が南北に走っている。さらに、遺跡地の南側には国道17号線、主要地方道前橋・群馬・高崎線が東西に走り、東側には市道大友・石倉線が南北に走り、これらの幹線道路を中心にオフィスビルや大規模小売店が進出している。本遺跡はこれらの幹線道路から奥に入ったところに位置し、周囲には田畑が多い住宅地という静かで落ち着いた環境である。

2　歴史的環境

本遺跡地周辺には、古墳時代後期から終末までの上野地域と中央政権との関連をうかがわせる総社古墳群と山王廃寺、古代の中心地であった上野国府、さらに、中世には長尾氏により国府の堀割を利用し築かれたとされる蒼海城があり、歴史的環境に優れている。周辺の埋蔵文化財発掘調査によって、これまで連綿と続いてきた歴史を物語る多くの新しい知見が集積されている。

縄文時代の遺跡としては、前期・中期の集落跡が検出された産業道路東・西遺跡や上野国分僧寺・尼寺中間地

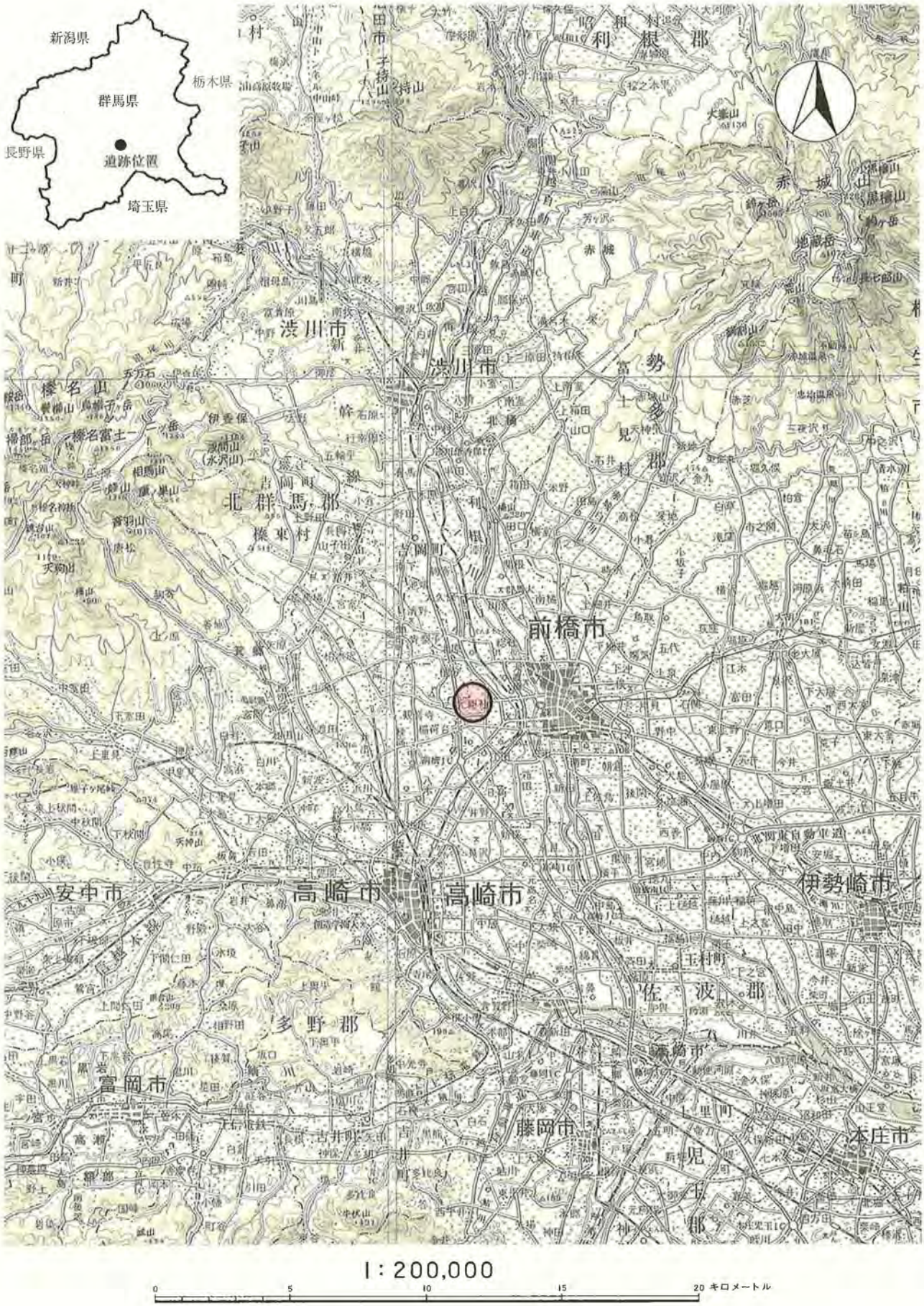


Fig. 1　元総社蒼海遺跡群位置図

域が筆頭に挙げられ、縄文文化を考える上で重要な資料といえる。

弥生時代の調査例は少ない。当時の稲作の様子を示す水田・集落跡等が検出された日高遺跡、後期住居跡が検出された上野国分僧寺・尼寺中間地域や桜ヶ丘遺跡、下東西遺跡等に散見するだけである。

古墳時代の遺跡としては、まず本遺跡の北東に広がる総社古墳群が挙げられる。総社古墳群を代表するものには、前方後円墳である遠見山古墳、川原石を用いた積石塚である王山古墳、前方部と後円部にそれぞれ横穴式両袖型の石室が築造された前方後円墳の総社二子山古墳、両袖型横穴式石室をもつ方墳の愛宕山古墳、県内古墳最終末期と考えられ仏教文化の影響を強く受けた方墳の宝塔山古墳があり、この地域と中央との関係を考えるうえで重要な意味をもつ古墳群といえる。また、宝塔山古墳の南西500mには白鳳期の建立と考えられる山王廃寺跡(放光寺）がある。さらにこの寺の塔心礎や石製鴟尾、根巻石等の石造物群は、宝塔山古墳の石棺や蛇穴山古墳の石室と同系統の石造技術を駆使して加工されている。これらのことから、この寺は上野地域を治めていた「上毛野氏」の氏寺であり、この古墳群には「上毛野氏」一族が葬られているとも考えられている。これらから、この地が「車評」の中心地として、仏教文化が古墳文化と併存しながら機能していた様子が窺える。なお、平成18年度から５カ年計画で「山王廃寺範囲内容確認調査」が実施され、平成18年度では「講堂」の版築基壇や「回廊」の北東根石、平成19年度では「金堂」の版築基壇や「回廊」の西側根石が、平成20年度では「塔」の基壇とその周辺部が確認された。平成21年度では「推定中門」と「西側南側回廊」の周辺部が確認された。

奈良・平安時代になると、上野国府、国分僧寺、国分尼寺の建設と相まって、本地域は古代の政治的・経済的・文化的中心地としての様相を呈してくる。律令期における国司の政治活動拠点で地方を統治する機能をもつ国府は、元総社地区に置かれたとされる。

国府に関連する遺跡には、県下最大級の掘立柱建物跡が検出された元総社小学校校庭遺跡や「國厨」「曹司」「国」「邑厨」等と書かれた墨書土器や人形が出土した元総社寺田遺跡などがある。また、国府域の推定を可能にした大規模な東西方向の溝跡が検出された閑泉樋遺跡や元総社蒼海遺跡群(7)(9)(10)と南北方向の溝跡が検出された元総社明神遺跡の調査成果により、国府域の東北外郭線が想定されるに至った。さらに、周辺遺跡からは、官人が用いたと考えられる円面硯、巡方(腰帯具)、緑釉陶器も出土し、国府について考えるうえで貴重な資料となっている。

国分僧寺は大正15年に国指定史跡となり、昭和40年代から部分的ながら調査が進められるようになった。本格的な発掘調査は昭和55年12月から始まり、主要伽藍の礎石、築垣、塀等が確認されている。さらに、国分尼寺の調査では、昭和44・45年に推定中軸線上のトレンチ調査が行われ伽藍配置が推定できるようになった。さらに平成12年に前橋市埋蔵文化財発掘調査団で南辺の寺域確認調査を行い、東南隅と南西隅の築垣、それと平行する溝跡や道路状遺構が確認された。国分僧寺、国分尼寺周辺では、関越自動車道建設に伴う発掘調査が行われ、上野国分僧寺、尼寺中間地域では、当時の大規模な集落跡や掘立柱建物群が検出されている。

また、群馬町(現高崎市)の調査等により、本遺跡から約1.5km南の地点にN－64°－E方向の東山道（国府ルート）があることが推定されている。推定日高道は、日高遺跡で検出された幅約4.5mの道路状遺構を国府方面へ延長したものである。これらは、当時の交通網を物語る重要な遺構である。

中世に至り、永享元年(1429)、上野国守護代の長尾氏によって古代国府跡に築かれた蒼海城は城郭としての機能を有し県内でも最古級に位置づけられる。しかも、県下最初の城下町を形成したと考えられている。蒼海城の縄張りは国府と関係が深く、現在の本地域の主要道路はこの縄張りに沿って造られていると推測される。

このように歴史的に重要な役割を果たしてきた総社・元総社地区であるが、その中でも上野国府が所在したと推定される元総社地区は注目される地域の一つである。元総社蒼海土地区画整理事業に伴い、平成11年より継続的に本地域の発掘調査が行われている。これにより、手付かず状態であった本地域の全容が明らかになっていくであろう。今後、この調査の進捗によって、上野国府や蒼海城が解明されていくことを期待する。

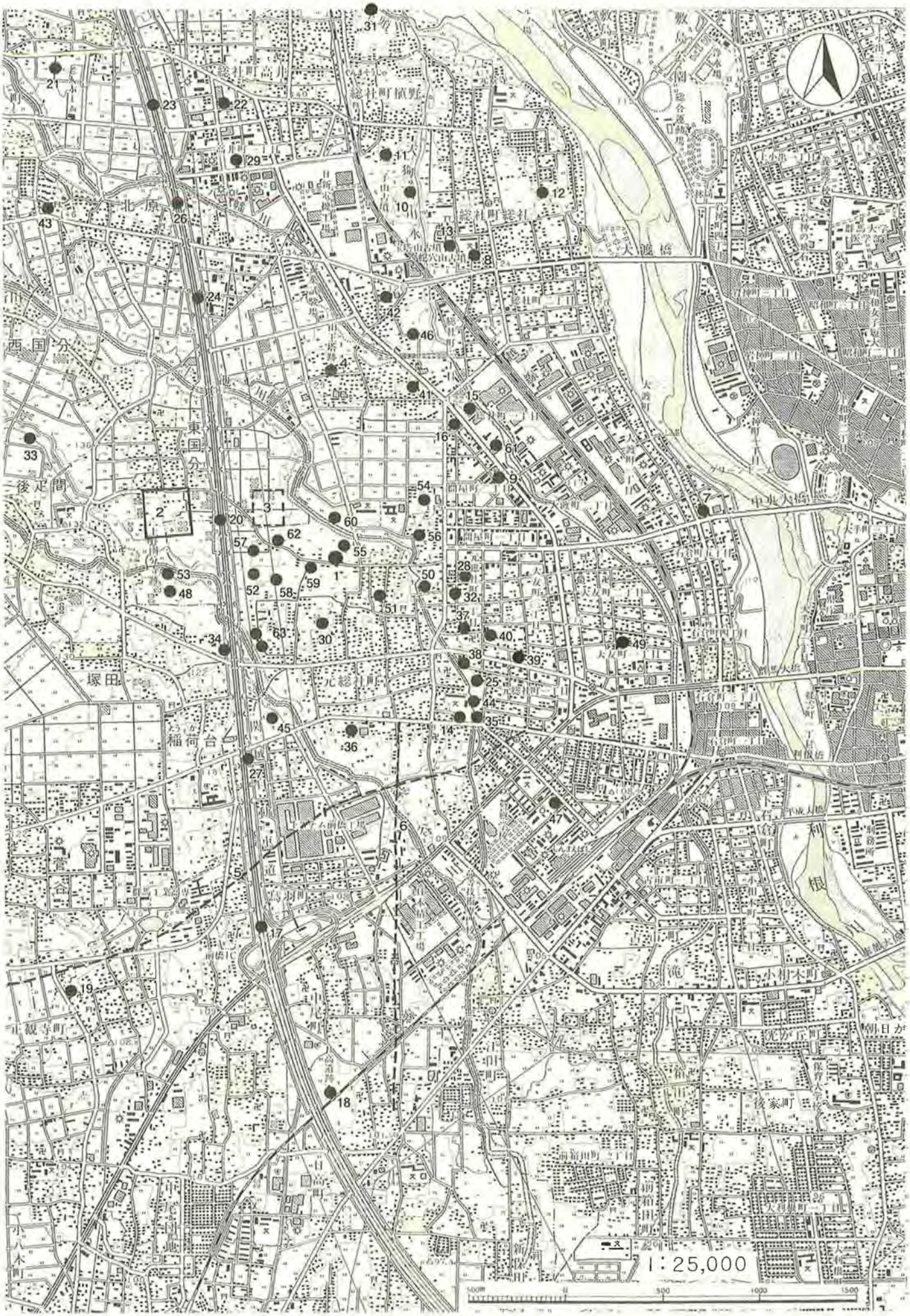

1:25,000
500m
0
500
1000
1500
北原
西国分
東国分
後疋間
塚田
稲荷台
元総社町
総社町
大渡橋
中央大橋
利根
後家町

Fig. 2　周辺遺跡図

Tab. 1　元総社蒼海遺跡群周辺遺跡概要一覧表

番号	遺　跡　名	調査年度	時代：主な遺構・出土遺物
1	元総社蒼海遺跡群（26）	2009	本遺跡
2	上野国分寺跡（県教委）	1980～88	奈良：金堂基壇・塔基壇
3	上野国分尼寺跡	(1999)	奈良：西南隅・東南隅築垣
4	山王廃寺跡	(1974)	古墳：塔心礎・根巻石
5	東山道（推定）		
6	日高道（推定）		
7	王山古墳	1972	古墳：前方後円墳（６Ｃ中）
8	蛇穴山古墳	1975	古墳：方墳（８Ｃ初）
9	稲荷山古墳	1988	古墳：円墳（６Ｃ後半）
10	愛宕山古墳	1996	古墳：円墳（７Ｃ初）
11	総社二子山古墳	未調査	古墳：前方後円墳（６Ｃ末～７Ｃ初）
12	遠見山古墳	未調査	古墳：前方後円墳（５Ｃ後半）
13	宝塔山古墳	未調査	古墳：方墳（７Ｃ末）
14	元総社小学校校庭遺跡	1962	平安：掘立柱建物跡・柱穴群・周濠跡
15	産業道路東遺跡	1966	縄文：住居跡
16	産業道路西遺跡		縄文：住居跡
17	中尾遺跡（事業団）	1976	奈良・平安：住居跡
18	日高遺跡（事業団）	1977	弥生：水田跡・方形周溝墓・住居跡・木製農耕具、平安：条里制水田跡
19	正観寺遺跡Ⅰ～Ⅳ（高崎市）	1979～81	弥生：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡、中世：溝跡
20	上野国分僧寺・尼寺中間地域（事業団）	1980～83	縄文：住居跡・配石遺構、弥生：住居跡・方形周溝墓、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡、中世：掘立柱建物跡・溝状遺構・道路状遺構
21	清里南部遺跡群・Ⅲ	1980	縄文：ピット、奈良・平安：住居跡、溝跡
22	中島遺跡	1980	奈良・平安：住居跡
23	下東西遺跡（事業団）	1980～84	縄文：屋外埋甕、弥生：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡・柵列、中世：住居跡・溝跡
24	国分境遺跡（事業団）	1990	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡
	国分境Ⅱ遺跡	1991	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡
	国分境Ⅲ遺跡（群馬町）	1991	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・畠跡、中世：土壙墓
25	元総社明神遺跡Ⅰ～ⅩⅢ	1982～96	古墳：住居跡・水田跡・堀跡、奈良・平安：住居跡・溝跡・大形人形、中世：住居跡・溝跡・天目茶碗
26	北原遺跡（群馬町）	1982	縄文：土坑・集石遺構、古墳：水田跡、奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡
27	鳥羽遺跡（事業団）	1978～83	古墳：住居跡・鍛冶場跡、奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡（神殿跡）
28	閑泉樋遺跡	1983	奈良・平安：溝跡（上幅6.5～７m、下幅3.24m、深さ２m）
29	柿木遺跡・Ⅱ遺跡	1983，88	奈良・平安：住居跡・溝跡
30	草作遺跡	1984	古墳：住居跡、平安：住居跡、中世：井戸跡
31	桜ヶ丘遺跡		弥生：住居跡
	総社桜ヶ丘遺跡・Ⅱ遺跡	1985，87	奈良・平安：住居跡
32	閑泉樋南遺跡	1985	古墳：住居跡、奈良・平安：溝跡
33	後疋間遺跡Ⅰ～Ⅲ（群馬町）	1985～87	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡、中世：道路状遺構
34	塚田村東遺跡（群馬町）	1985	平安：住居跡
35	寺田遺跡	1986	平安：溝跡・木製品
36	天神遺跡・Ⅱ遺跡	1986，88	奈良・平安：住居跡
37	屋敷遺跡・Ⅱ遺跡	1986，95	古墳：住居跡、平安：住居跡、中世：堀跡・石敷遺構
38	大友屋敷Ⅱ・Ⅲ遺跡	1987	古墳：住居跡、平安：住居跡・溝跡・地下式土坑
39	堰越遺跡	1987	奈良・平安：住居跡・溝跡
40	堰越Ⅱ遺跡	1988	平安：住居跡
41	昌楽寺廻向遺跡・Ⅱ遺跡	1988	奈良・平安：住居跡
42	村東遺跡	1988	古墳：住居跡・溝跡、奈良・平安：住居跡、中世：堀跡
43	熊野谷遺跡	1988	縄文：住居跡、平安：住居跡・溝跡
	熊野谷Ⅱ・Ⅲ遺跡	1989	平安：住居跡

番号	遺　跡　名	調査年度	時代：主な遺構・出土遺物
44	元総社寺田遺跡Ⅰ～Ⅲ（事業団）	1988～91	古墳：水田跡・溝跡、奈良・平安：住居跡・溝跡・人形・斎串・墨書土器、中世：溝跡
45	弥勒遺跡・Ⅱ遺跡	1989，95	古墳：住居跡、平安：住居跡
46	大屋敷遺跡Ⅰ～Ⅵ	1992～2000	縄文：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡、中世：掘立柱建物跡・地下式土坑・溝跡
47	元総社稲葉遺跡	1993	縄文：土坑、平安：住居跡・瓦塔
48	上野国分寺参道遺跡	1996	古墳：住居跡、平安：住居跡
49	大友宅地添遺跡	1998	平安：水田跡
50	総社閑泉明神北遺跡	1999	古墳：畠跡・水田跡・溝跡、中世：溝跡
	総社閑泉明神北Ⅱ遺跡	2001	古墳：住居跡・溝跡、平安：住居跡・溝跡
	総社閑泉明神北Ⅴ遺跡	2004	古墳：水田跡、奈良・平安：住居跡
	元総社蒼海遺跡群(7)	2005	奈良・平安：住居跡・溝跡
	元総社蒼海遺跡群(9)・(10)	2006	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・掘建柱建物跡・溝跡
51	元総社宅地遺跡1～23トレンチ	2000	古墳：住居跡、平安：住居跡・掘立柱建物跡・鍛冶場跡・溝跡・道路状遺構、中世：溝跡、近世：住居跡・五輪塔・埦類
52	元総社小見遺跡	2000	縄文：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡・溝跡・道路状遺構
53	元総社西川遺跡（事業団）	2000	古墳：住居跡・畠跡、奈良・平安：住居跡・溝跡
54	総社甲稲荷塚大道西遺跡	2001	奈良・平安：住居跡・溝跡、中世：畠跡、近世：溝跡
	総社甲稲荷塚大道西Ⅱ遺跡	2001	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・溝跡、近世：溝跡
55	元総社小見内Ⅲ遺跡	2001	古墳：住居跡・溝跡、奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡・溝跡、中世：掘立柱建物跡、溝跡
	元総社小見内Ⅵ遺跡	2003	奈良・平安：住居跡・溝跡、中世：井戸跡
	元総社蒼海遺跡群(12)	2006	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡、中世：井戸跡
56	総社甲稲荷塚大道西Ⅲ遺跡	2002	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・畠跡・溝跡
	総社閑泉明神北Ⅲ遺跡	2002	縄文：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡
	総社甲稲荷塚大道西Ⅳ遺跡	2003	古墳：畠跡、中世：畠跡
57	元総社小見Ⅱ遺跡	2002	縄文：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡、中世：溝跡・道路状遺構
	元総社小見Ⅳ・Ⅴ遺跡	2003	縄文：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡、中世:掘立柱建物跡
	元総社小見Ⅵ・Ⅶ遺跡	2004	縄文：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡
	元総社蒼海遺跡群(4)	2005	縄文：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡
58	元総社小見Ⅲ遺跡	2002	縄文：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・溝跡、中世：溝跡・道路状遺構
	元総社草作Ⅴ遺跡	2002	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡、中世：溝跡
59	元総社小見内Ⅳ遺跡	2002	奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡・溝跡、中世：土壙墓・掘立柱建物跡・溝跡
	元総社小見内Ⅷ遺跡	2003	奈良・平安：住居跡・溝跡、中世：竪穴状遺構
	元総社小見内Ⅸ・Ⅹ遺跡	2004	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・工房跡・粘土採掘坑・金片・金片、中世：溝跡・土壙墓
	元総社蒼海遺跡群(2)、(6)	2005	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・井戸跡、中世：溝跡
	元総社蒼海遺跡群(11)	2006	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡、中世：溝跡
60	元総社北川遺跡（事業団）	2002～04	古墳：水田跡、奈良・平安：住居跡・畠跡、中・近世：掘立柱建物跡・水田跡・火葬墓
61	稲荷塚道東遺跡（事業団）	2003	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・溝跡・竈構築材採掘痕・井戸跡
62	元総社小見内Ⅶ遺跡	2003	縄文：住居跡、奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡、中世：畠跡、溝跡
	元総社蒼海遺跡群(1)、(5)	2005	奈良・平安：住居跡・溝跡、中世：溝跡・土坑墓
63	元総社蒼海遺跡群(8)	2006	奈良・平安：住居跡、緑釉陶器

＊調査年度の欄の（　）は調査開始年度を表す。

＊遺跡名の欄の（事業団）は（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団を表す。

Ⅲ　調査の方針と経過

1　調査方針

委託された調査箇所は、前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴い築造予定の道路用地であるため、幅６ｍの極めて狭長なトレンチ状の調査区が中心となっている。総調査面積は約4,058㎡である。現地での調査では、遺構の付番等における混乱をさけるため、調査区全体を1～13区に区分した。遺構番号は、各区ごとに個別に付番することとし、１区Ｈ－１号住居跡、２区Ｈ－１号住居跡のように遺構の前に必ず地区名を付すこととした。

グリッド座標については国家座標(日本測地系)Ｘ＝＋44000・Ｙ＝－72200を基点(Ｘ０・Ｙ０)とする４ｍピッチのものを使用し、２区においては、西から東へＸ51、52、53…、北から南へＹ84、85、86…と付番し、グリッド呼称は北西杭の名称を使用した。

本遺跡のＸ52・Ｙ85の公共座標は以下のとおりである。

日本測地系	Ｘ＝＋43,660.000	Ｙ＝－71,992.000	
緯　　度	36° 23′ 27″ .3193	経　　度	139° 01′ 53″ .5311
子午線収差角	28′ 32″ .6	増 大 率	0.999964

調査方法については、表土掘削・遺構確認・方眼杭等設置・遺構掘下・遺構精査・測量・全景写真の手順で行うこととした。このうちの遺構確認については、基本的にAs-C・Hr-FP軽石とAs-B軽石が混入する土層を手がかりにした。

図面作成は、平板・簡易遣り方測量を用い、遺構平面図は原則として1/20、住居跡竈は1/10の縮尺で作成した。遺物については平面分布図を作成し、台帳に各種記録を記載しながら収納した。包含層の遺物はグリッド単位で収納し、重要遺物については分布図・遺物台帳の記載を行い収納した。

2　調査経過

現地調査は平成21年５月18日から12月25日まで行った。調査経過は下記一覧表のとおりである。

元総社蒼海遺跡群(26)の調査地は13ヵ所に分かれており、調査着手順で１区、２区…とした。

１区…国分尼寺のすぐ西側に位置する調査区。５月19日から重機による表土掘削から調査を開始した。５月22日に杭打ち測量を行い、遺構掘り下げを進めていった。精査の結果、土師住居跡13軒、溝跡１条、土坑１基を検出した。６月26日に調査区全景写真を行い、７月７日に埋め戻しを行った。

２区…国分尼寺南西部に位置する調査区。８月18, 19日に重機による表土掘削を行い、調査区西側にある３，４区の重機による表土掘削とプラン確認後、遺構掘り下げを進めていった。精査の結果、土師住居跡９軒、竪穴状遺構１軒、土坑５基等を検出した。

３区…国分尼寺南西隅から関越自動車道側道へ向かう東西の調査区。８月19日から２，４区と合わせて重機による表土掘削を行った。２区の調査終了の９月15日から遺構の掘り下げ、精査を進めていった。調査区中央部分から西は、乾けば非常に堅く、雨が降れば水が溜まりやすい粘質土で調査後半は苦労した。精査の結果、住居跡23軒、溝跡６条、土坑８基、落ち込み状遺構1基を検出した。また９月30日～10月２日までと12月２日～４日には中学生の職場体験を行った。

４区…３区と交差し南へ向かう調査区。８月26・27日に３区と合わせて重機による表土掘削を行った。９月１

～３日に３区と合わせてプラン確認後、杭打ち測量を行った。精査の結果、土師住居跡３軒、土坑６基等を検出した。12月９日に２・３区と合わせてラジコンヘリによる空中撮影を行い、12月14日～21日に２，３区と合わせて埋め戻しを行った。

５区…６月５日に重機で表土掘削を行い、調査を開始した。プラン確認、遺構掘り下げと平行して６月10日に杭打ち測量を行った。土師住居跡５軒、溝跡３条、土坑２基を検出した。８月20日に遺構精査、調査区全景写真撮影を行い、８月27日に埋め戻しを行った。

６区…６月４、５日に重機による表土掘削を行い、調査を開始した。また調査地の地権者の事情により、未掘削であった部分を７月29日に表土掘削を行った。６月10日に杭打ち測量を行い、遺構の掘り下げを進めた。精査の結果、土師住居跡４軒、竪穴状遺構２軒、溝４条、土坑１基、掘立建物跡２軒、ピットを多数検出した。８月19日に遺構精査、調査区全景写真撮影を行い、８月27日に５区と合わせて埋め戻しを行った。

７区…７月27･28日に重機による表土掘削を行い、調査を開始した。８月21日に杭打ち測量を行い、遺構掘り下げを開始した。土師住居跡15軒、土坑５基などを検出した。９月18日に遺構精査、調査区全景写真撮影を行い、10月５，６日に埋め戻しを行った。

８区…５月25日に重機による表土掘削を行い、調査を開始した。遺構掘り下げに平行して、５月27日に杭打ち測量を行った。調査の結果、土師住居跡６軒、竪穴状遺構１軒、溝１条、土坑２基、ピット７基を検出した。７月２日に調査区全景写真撮影を行い、７月８日に埋め戻しを行った。

９区…５月21、22日に重機による表土掘削を行い、調査を開始した。５月27日に杭打ち測量を行い、遺構の掘り下げを進めた。調査の結果、土師住居跡３軒、溝1条、土坑２基、道路状遺構２条を検出した。６月18日に調査区全景写真撮影を行い、６月29日に埋め戻しを行った。

10区…11月17、18日に重機による表土掘削を行い、調査を開始した。11月30日に11区と合わせて杭打ち測量を行い、遺構の掘り下げを進めた。二箇所に分かれるので、西側を10Ａ区、東側を10Ｂ区とした。調査の結果、住居跡10軒、土坑1基、土坑墓1基などを検出した。12月22日に11区と合わせて調査区全景写真撮影を行い、12月24･25日に埋め戻しを行った。

11区…11月18、19日に重機による表土掘削を行い、調査を開始した。調査の結果土師住居跡７軒、土坑2基などを検出した。

12区…12月９日に重機による表土掘削後、プラン確認を行った。調査区の西半分は近年の攪乱で、残り東半分も近年の土地改良で遺構の検出はなかった。12月18日に埋め戻しを行った。

13区…12月10日に重機による表土掘削を行い、プラン確認で住居跡1軒を検出した。遺構の掘り下げを行い、12月17日に調査区全景写真撮影を行い、12月18日に埋め戻しを12区と共に行い、調査は終了した。

12月21日より文化財保護課庁舎に戻り、出土遺物・図面・写真当の整理作業及び報告書作成にあたり、翌年3月13日までに全ての作業を終了した。

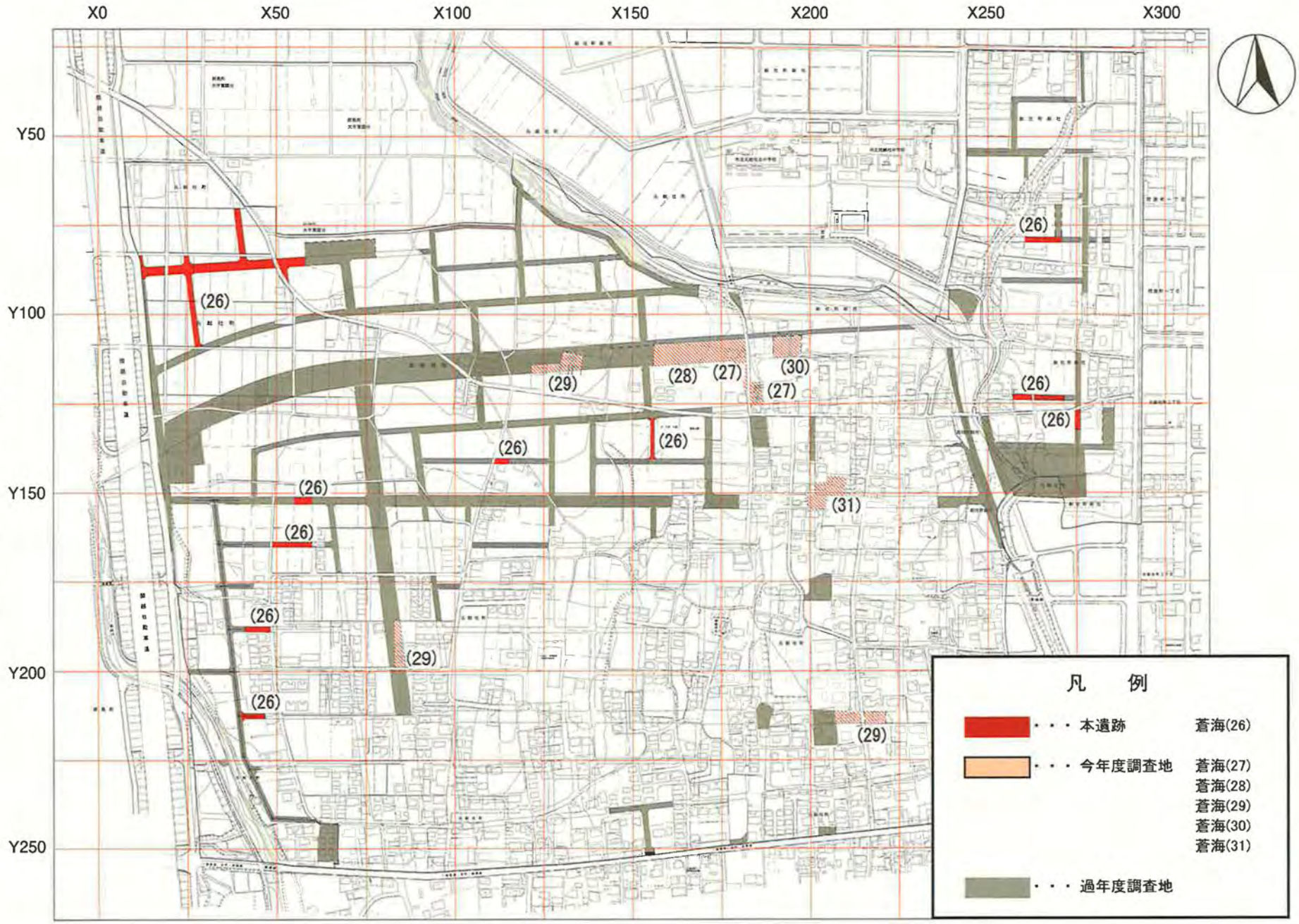


Fig. 3　元総社蒼海遺跡群位置図とグリッド設定図

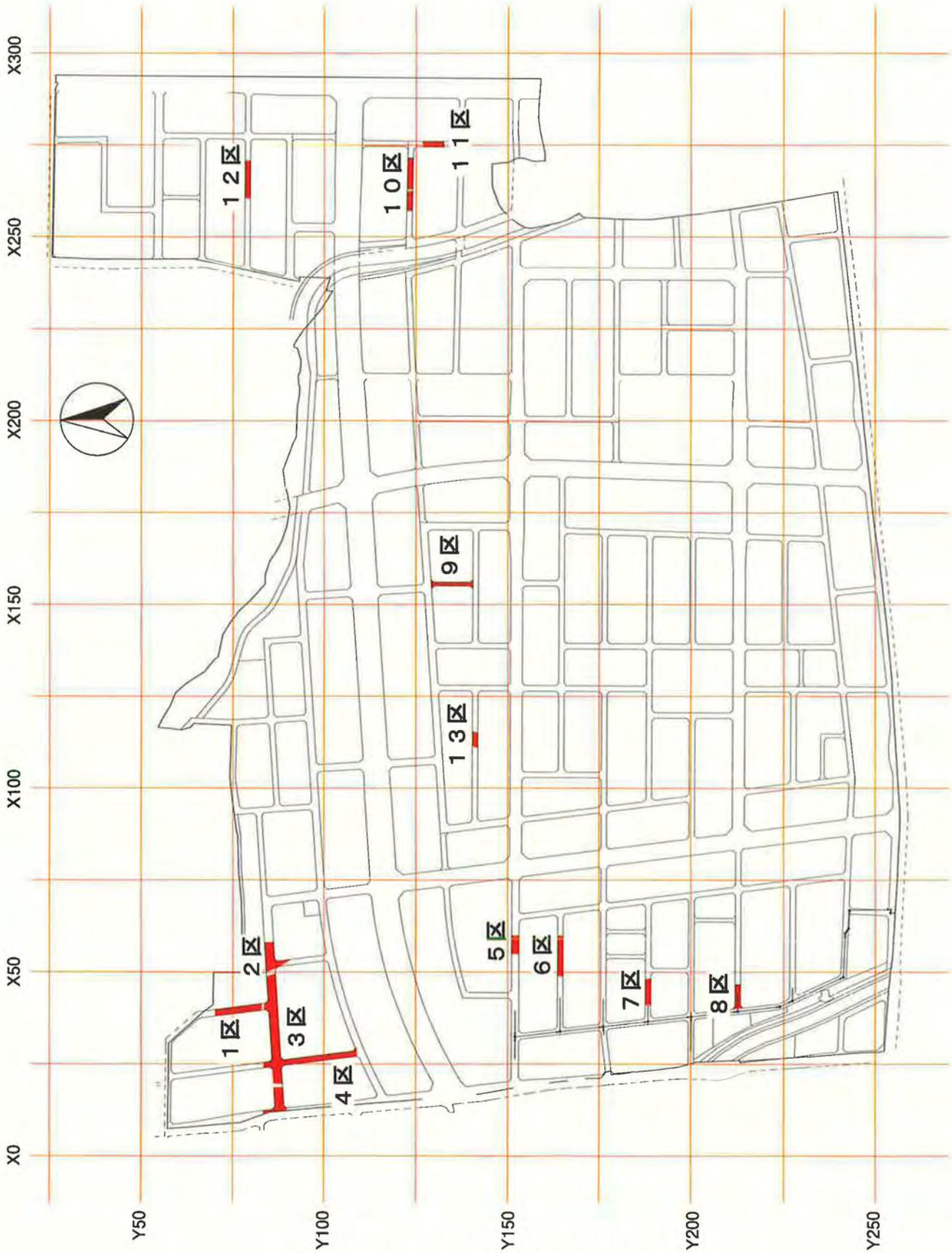


Fig. 4　元総社蒼海遺跡群位置図(26) 調査区位置図

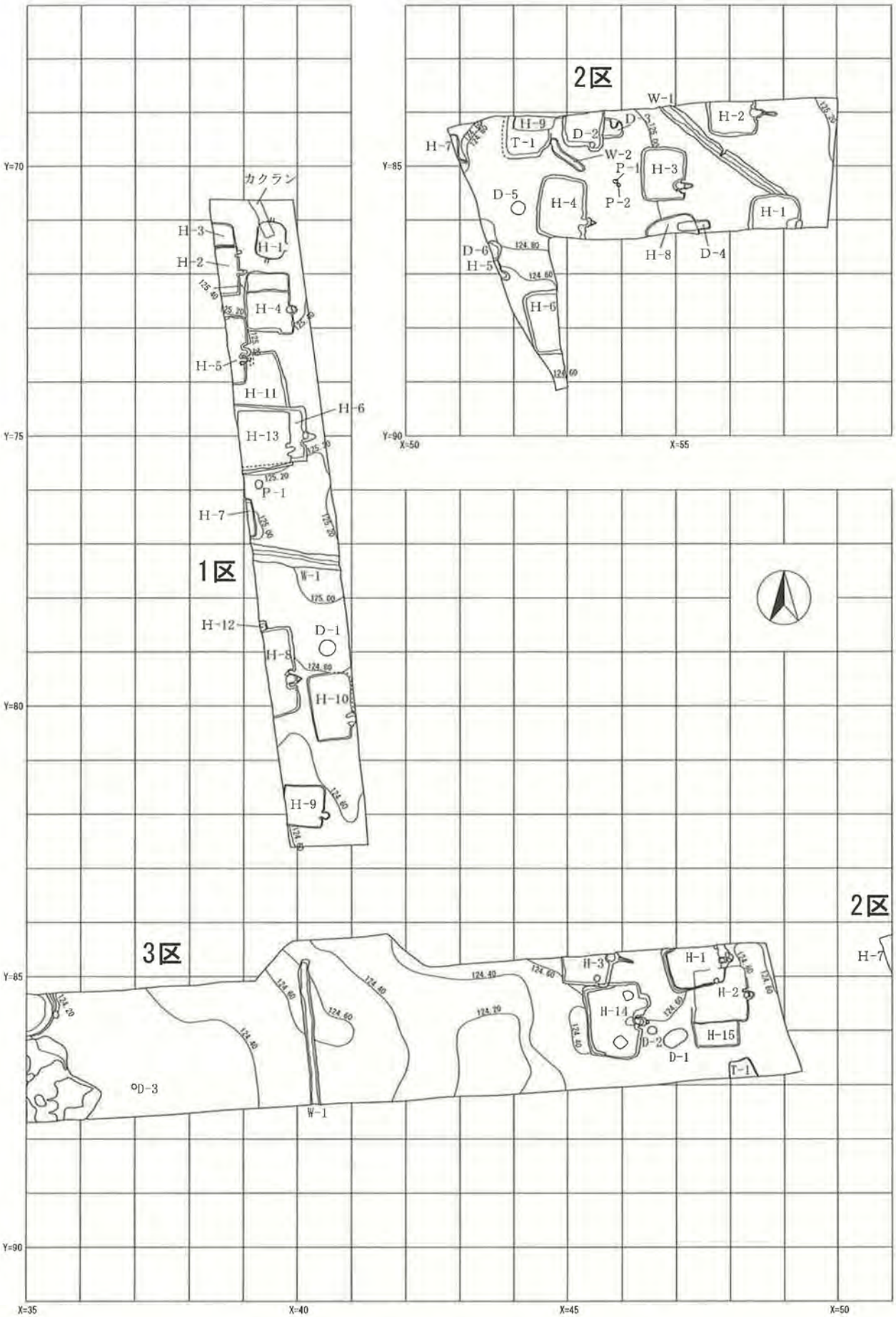


Fig.5　元総社蒼海遺跡群位置図(26)　1・2・3区東側全体図

1：400

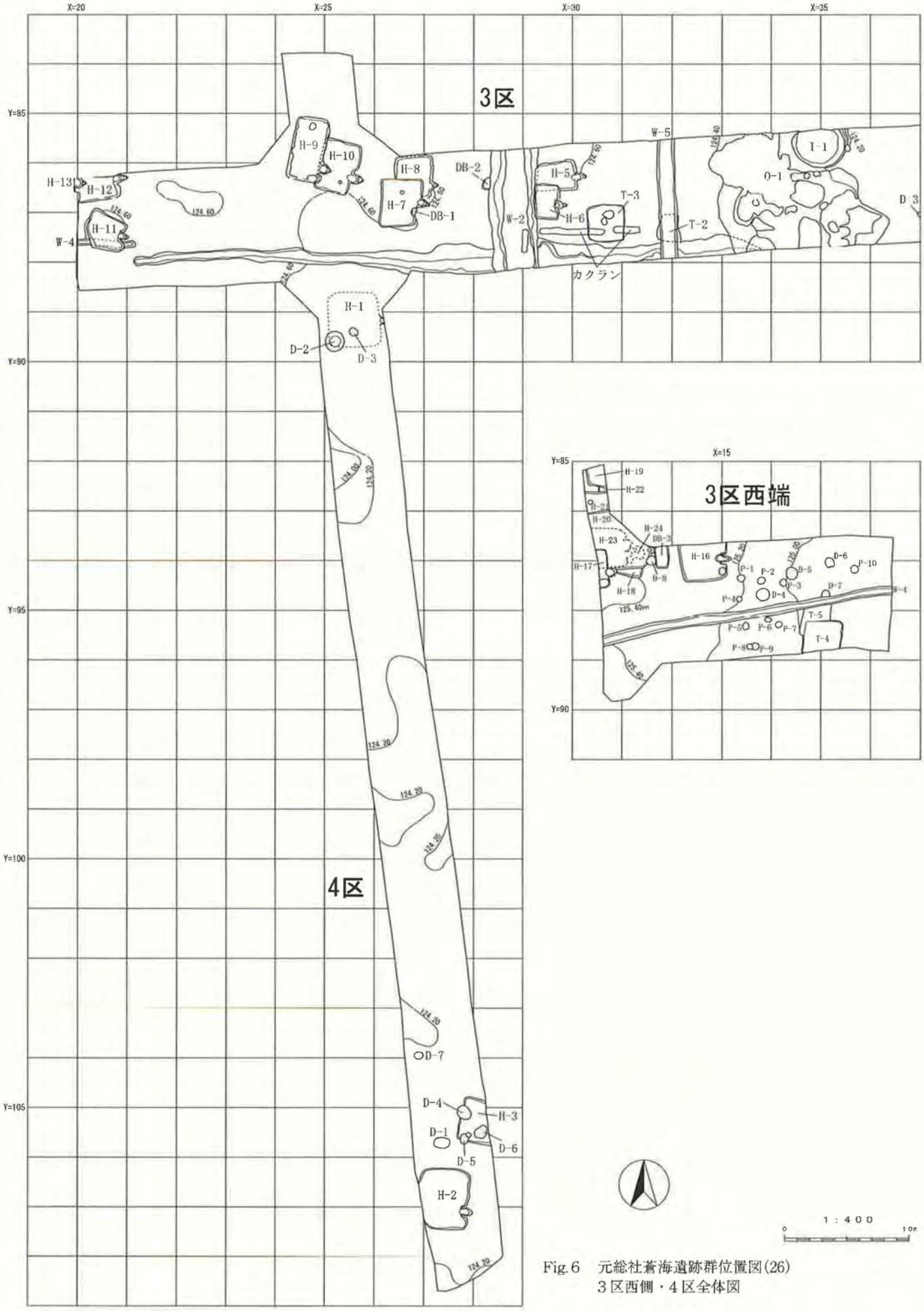


Fig.6　元総社蒼海遺跡群位置図(26)
3区西側・4区全体図

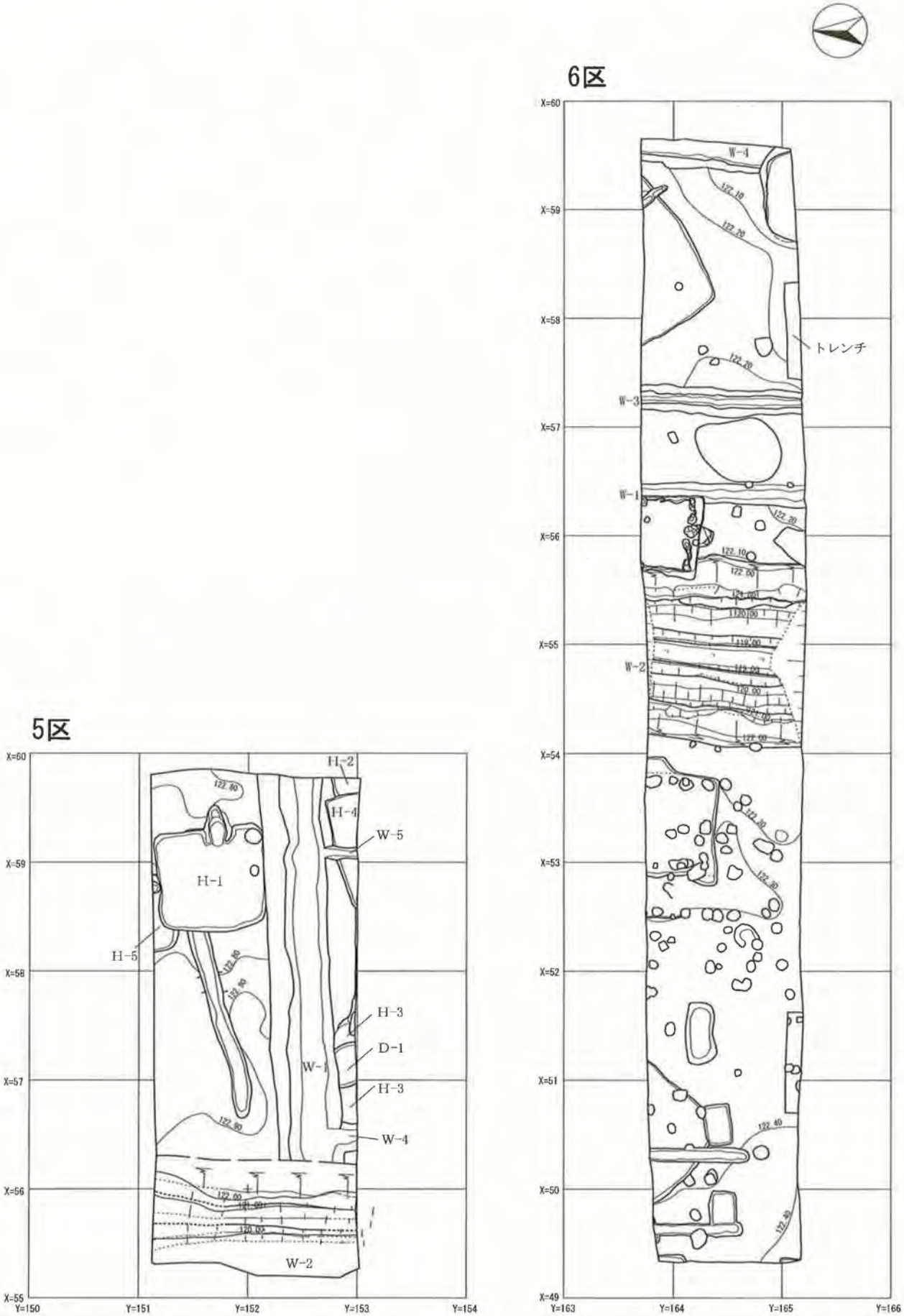


Fig. 7　元総社蒼海遺跡群位置図(26)　5・6区全体図

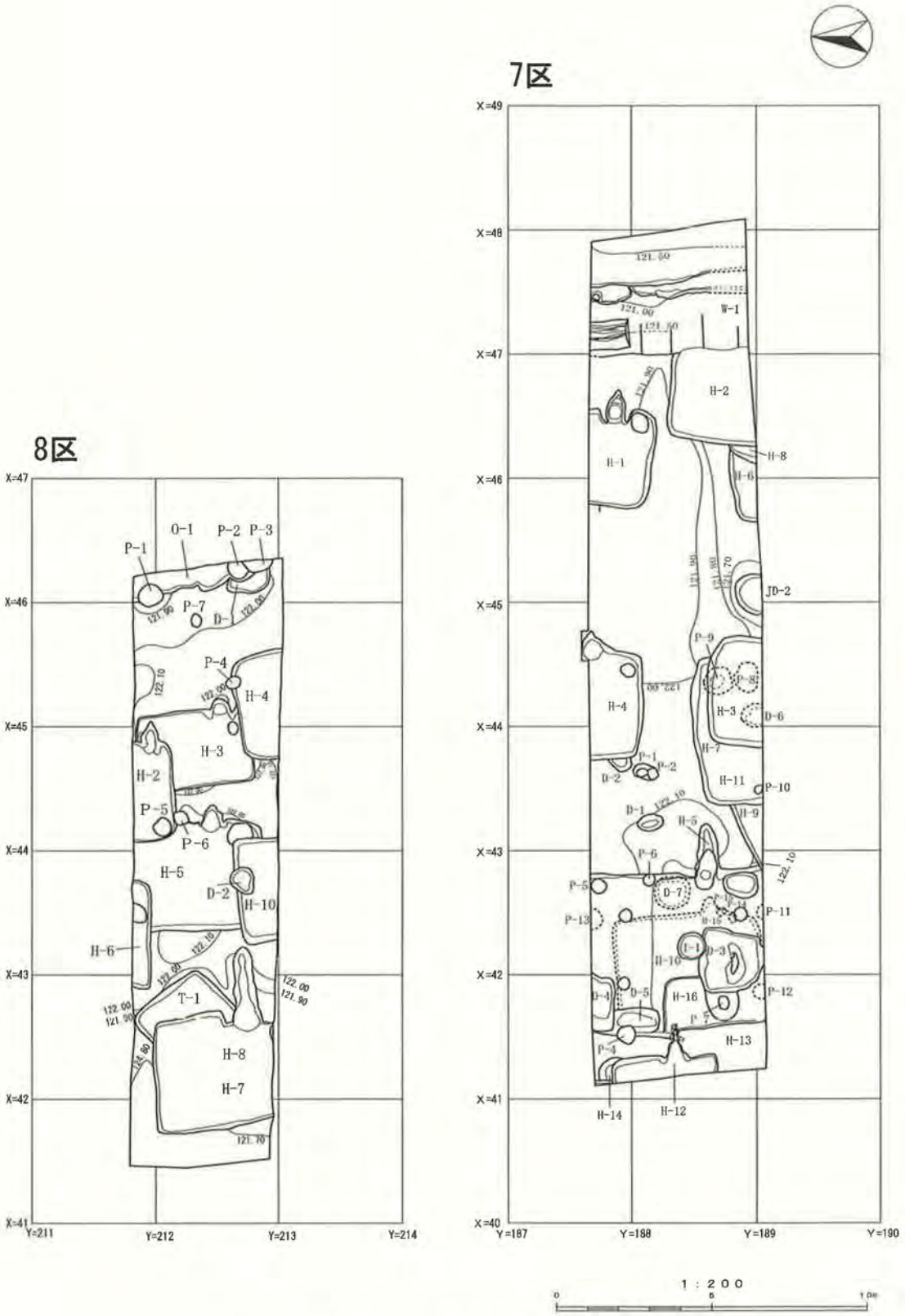


Fig. 8　元総社蒼海遺跡群位置図(26)　7・8区全体図

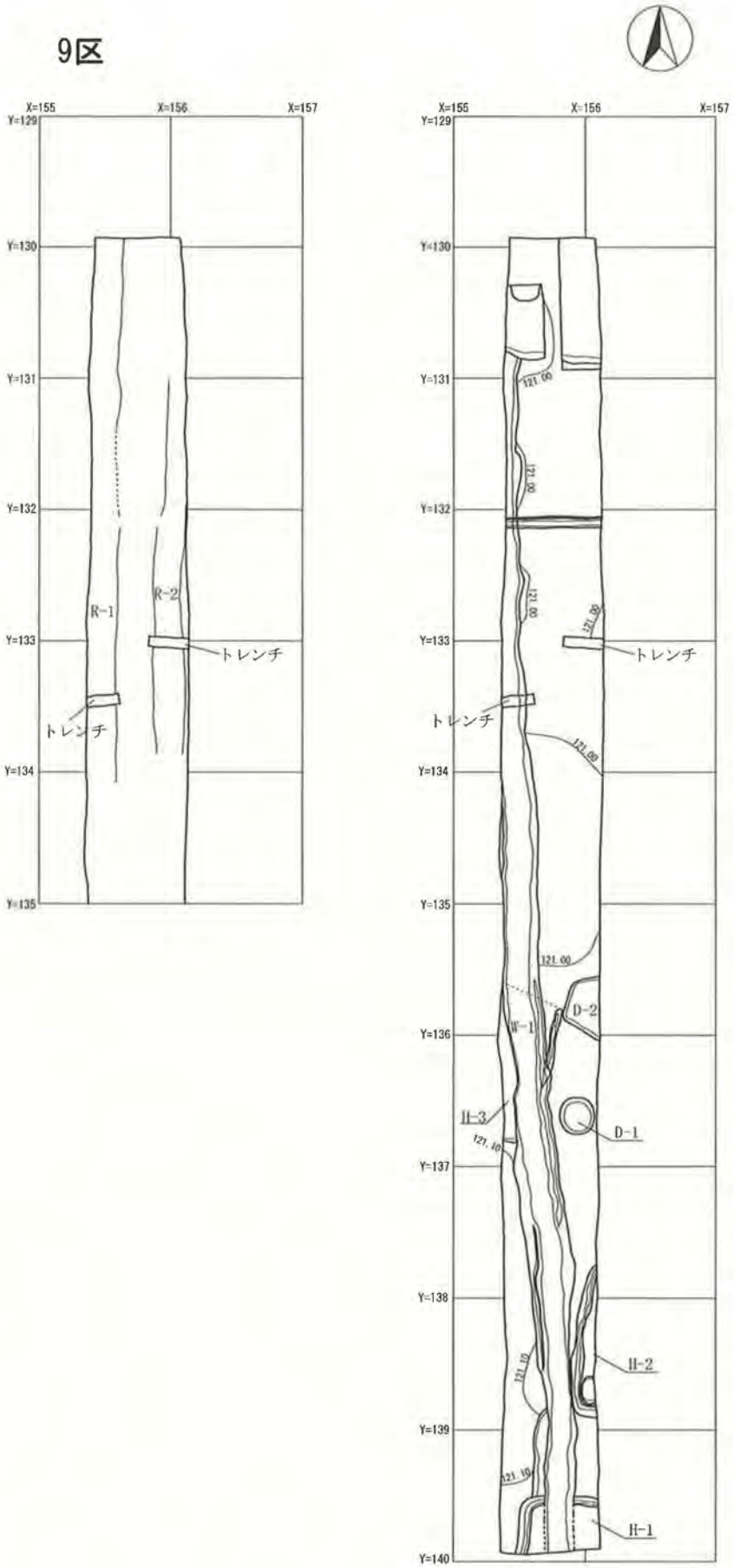
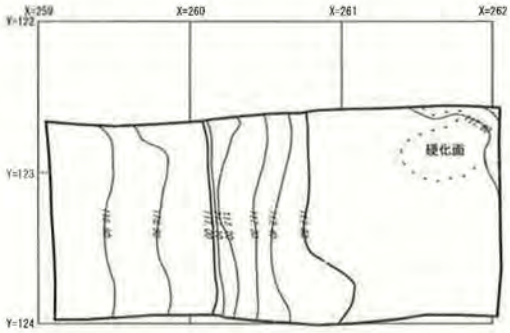
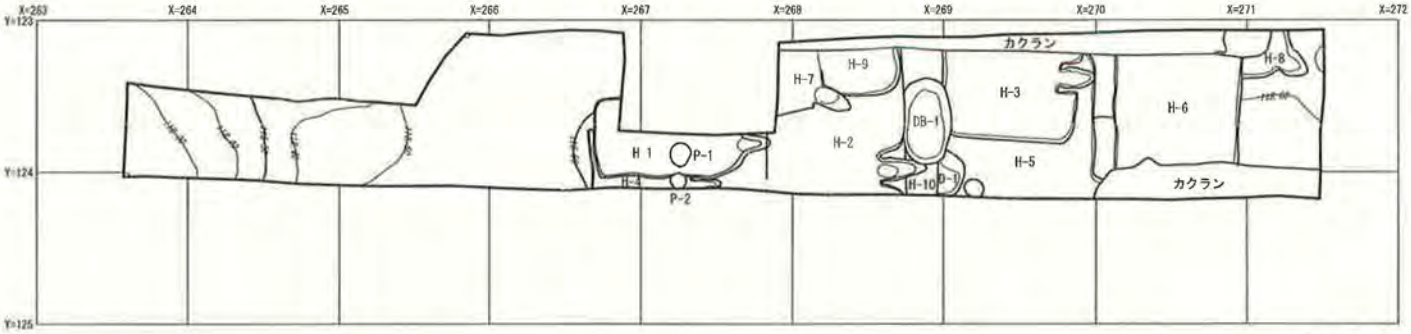


Fig. 9　元総社蒼海遺跡群位置図(26)　9区全体図

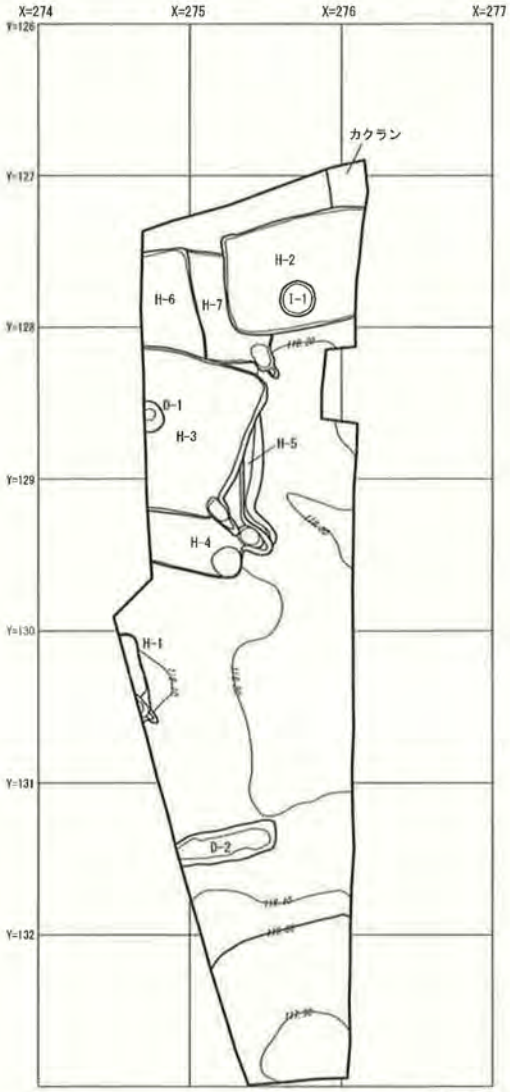
1：200



10A区



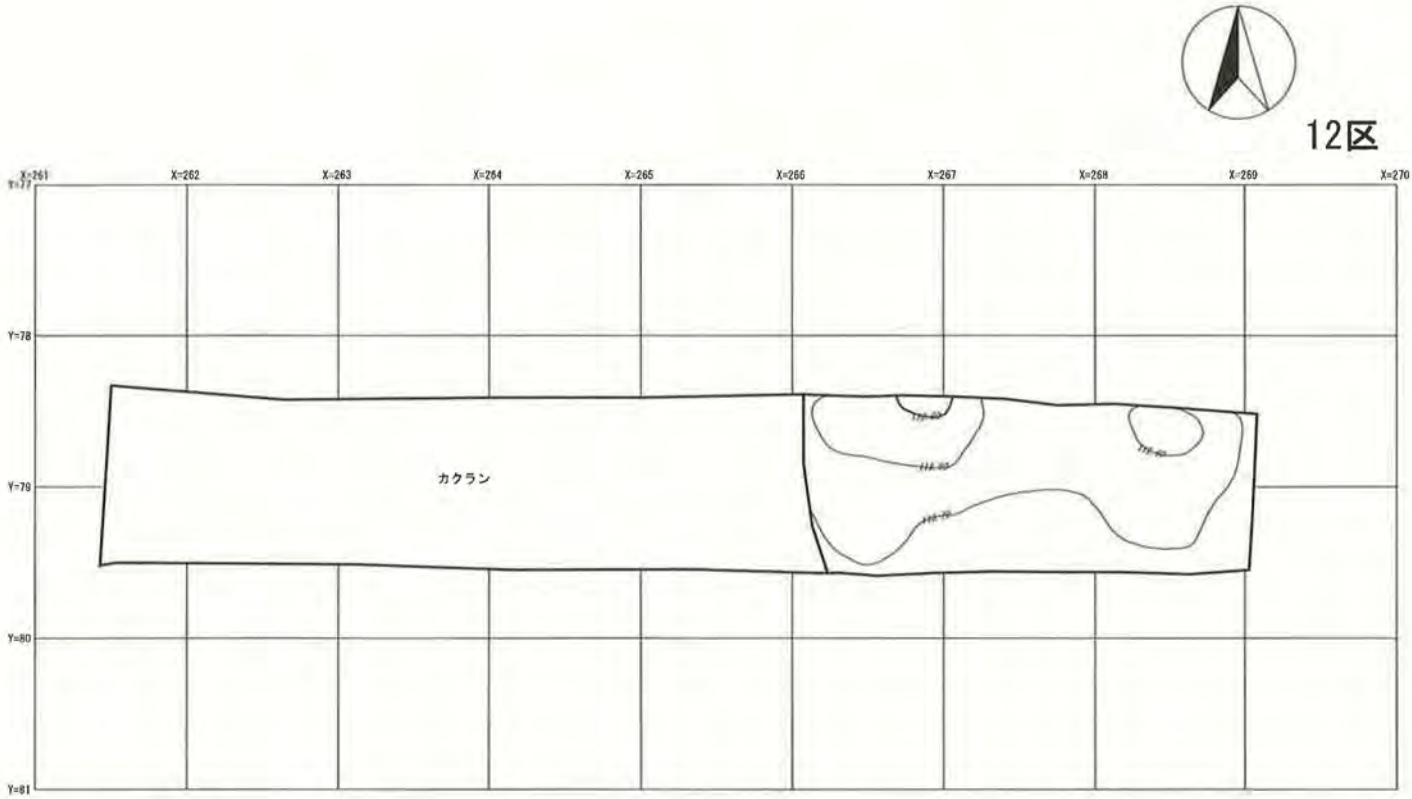
10B区



11区

Fig.10　元総社蒼海遺跡群位置図(26) 10・11区全体図

1：200



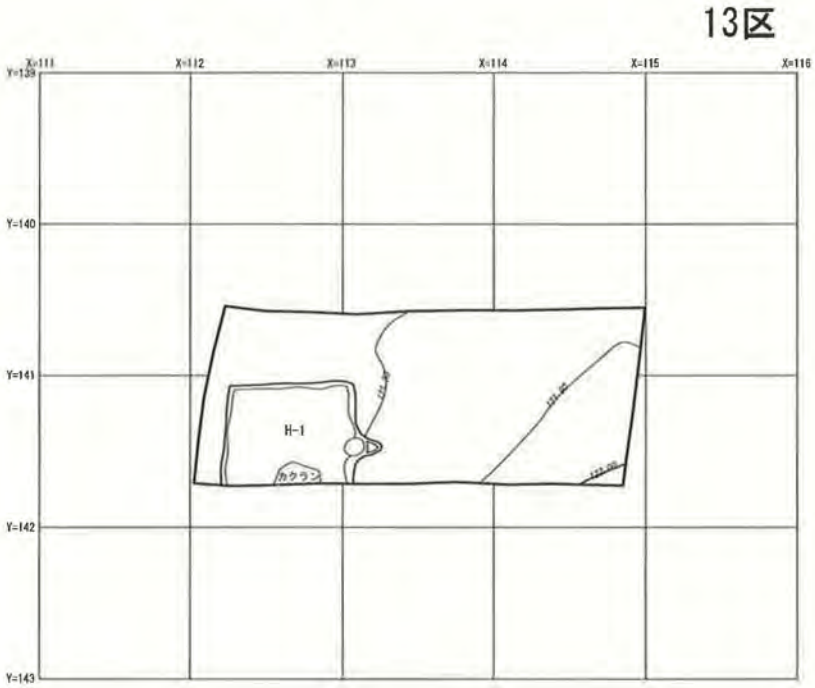
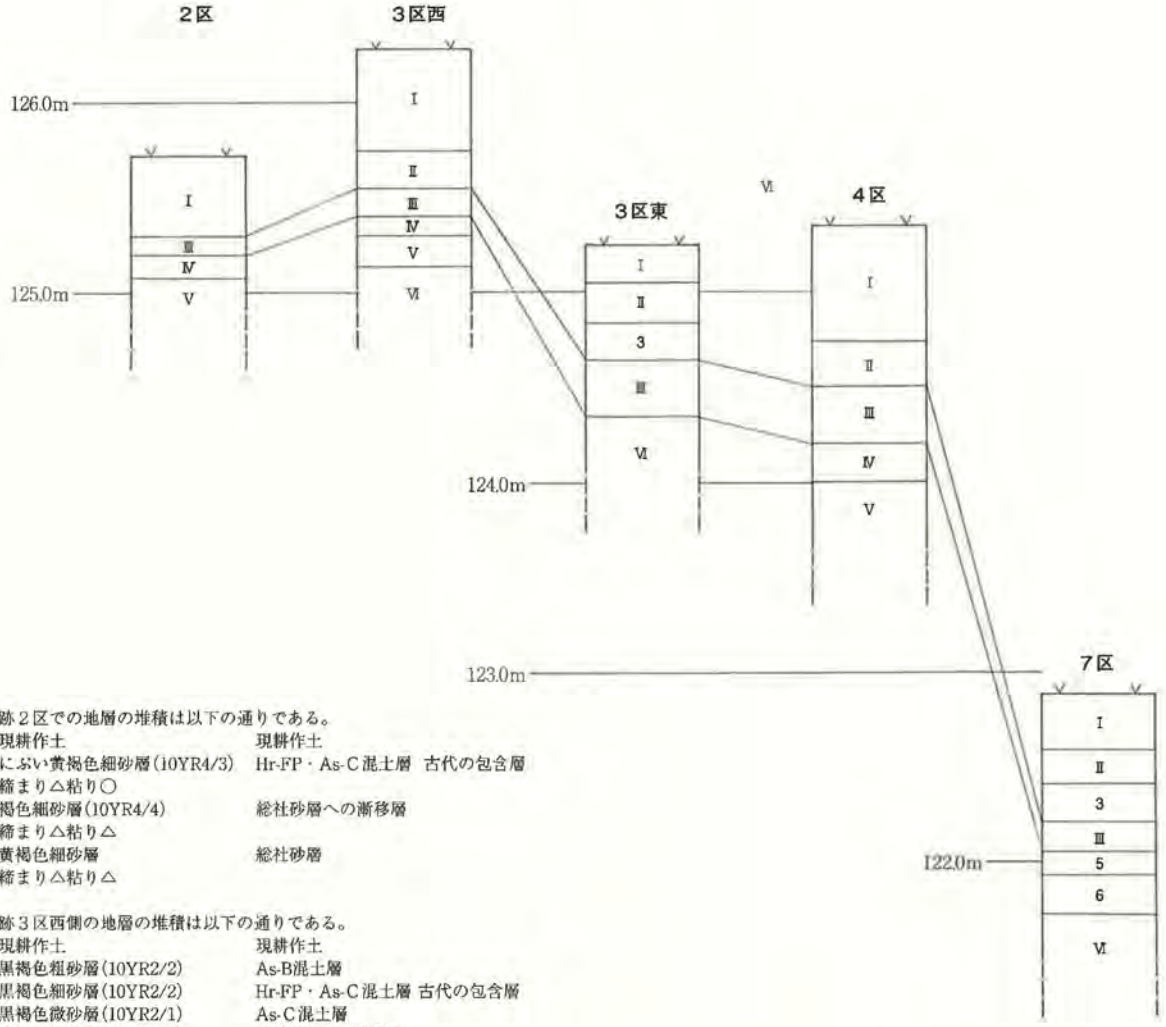


Fig.11　元総社蒼海遺跡群位置図(26) 12・13区全体図

1：200

Ⅳ　基本層序



本遺跡２区での地層の堆積は以下の通りである。

Ⅰ	現耕作土	現耕作土
Ⅲ	にぶい黄褐色細砂層(10YR4/3) 締まり△粘り○	Hr-FP・As-C混土層 古代の包含層
Ⅴ	褐色細砂層(10YR4/4) 締まり△粘り△	総社砂層への漸移層
Ⅵ	黄褐色細砂層 締まり△粘り△	総社砂層

本遺跡３区西側の地層の堆積は以下の通りである。

Ⅰ	現耕作土	現耕作土
Ⅱ	黒褐色粗砂層(10YR2/2)	As-B混土層
Ⅲ	黒褐色細砂層(10YR2/2)	Hr-FP・As-C混土層 古代の包含層
Ⅳ	黒褐色微砂層(10YR2/1)	As-C混土層
Ⅴ	暗褐色微砂層(10YR3/4)	総社砂層への漸移層
Ⅵ	褐色微砂層(10YR4/6)	総社砂層

本遺跡３区東側の地層の堆積は以下の通りである。

Ⅰ	現耕作土	現耕作土
Ⅱ	暗褐色細砂層(10YR3/3) 締まり○粘り○	As-B混土層
3	暗褐色細砂層(10YR3/3) 締まり○粘り○	
Ⅲ	暗褐色細砂層(10YR3/3) 締まり○粘り○	Hr-FP・As-C混土層 古代の包含層
Ⅵ	黒褐色微砂層(10YR3/2) 締まり◎粘り◎	総社砂層

本遺跡４区での地層の堆積は以下の通りである。

Ⅰ	現耕作土	現耕作土
Ⅱ	黒褐色粗砂層(10YR2/2)	As-B混土層
Ⅲ	黒褐色細砂層(10YR2/3)	Hr-FP・As-C混土層 古代の包含層
Ⅳ	黒褐色微砂層(10YR2/1)	As-C混土層
Ⅴ	極暗褐色微砂層(7.5YR2/3)	総社砂層への漸移層

本遺跡７区での地層の堆積は以下の通りである。

Ⅰ	現耕作土	現耕作土
Ⅱ	黒褐色粗砂層(10YR2/2)	As-B混土層
3	黒褐色粗砂層(10YR2/2)	
Ⅲ	黒褐色細砂層(10YR2/3)	Hr-FP・As-C混土層 古代の包含層
5	黒褐色微砂層(10YR2/3)	
6	黒褐色微砂層(10YR2/3)	
Ⅳ	褐色微砂層(10YR4/6)	総社砂層

Fig.12　基本層序

V　遺構と遺物

1区

（1）　竪穴住居跡

H－1号住居跡（Fig.8・41、PL.1・13）

位置　X39、Y71グリッド　**主軸方向**　N－96°－E　**形状等**　長方形と推定される。東西2.22m、南北2.82m、壁現高11cm。　**面積**　15.43㎡　**床面**　平坦な床。　**出土遺物**　土師器32点、須恵器８点、瓦２点。　**時期**　覆土や出土遺物から９世紀代と考えられる。

H－2号住居跡（Fig.13・65、PL.1・30）

位置　X38・39、Y71・72グリッド　**主軸方向**　N－88°－E　**形状等**　長方形と推定される。東西(1.76)m、南北（3.82）m、壁現高46.0cm。　**面積**　(5.94)㎡　**床面**　堅緻な貼り床。　**竈**　東壁中央南寄りに位置する。**主軸方向**　N－90°－E。全長96cm、最大幅56cm、焚口部幅22cm。　構築材に粘土を用いる。　**重複**　H－３と重複しており、新旧関係はH－３→本遺構　**出土遺物**　土師器138点、須恵器16点、瓦16点、石製品１点。そのうち土師器坏１点・土師器甕３点、須恵器蓋２点・須恵器坏２点、瓦１点を図示。　**時期**　覆土や出土遺物から９世紀中葉と考えられる。

H－3号住居跡（Fig.13、PL.1）

位置　X38、Y71グリッド　**主軸方向**　N－81°－E　**形状等**　長方形と推定される。東西(1.60)m、南北(1.94)m、壁現高18.0cm。　**面積**　(2.54)㎡　**床面**　平坦な貼り床。　**重複**　H－２と重複しており、新旧関係は本遺構→H－３　**出土遺物**　土師器23点、須恵器３点、瓦１点。　**時期**　覆土や出土遺物から８世紀前半と考えられる。

H－4号住居跡（Fig.14・65・92、PL.2・30・42・44）

位置　X39・40、Y71～73グリッド　**主軸方向**　N－86°－E　**形状等**　長方形と推定される。東西3.56m、南北4.44m、壁現高42.0cm。　**面積**　14.91㎡　**床面**　平坦な貼り床。　**竈**　東壁中央南寄りに位置する。**主軸方向**　N－88°－E。全長84cm、最大幅96cm、焚口部幅46cm。　構築材に粘土、袖部に凝灰岩、瓦を用いる。　**出土遺物**　土師器517点、須恵器125点、瓦37点、灰釉陶器１点、石製品２点、鉄滓4.6g。そのうち土師器坏1点・土師器甕1点、須恵器坏１点・須恵器高台椀1点、瓦1点、石製品1点を図示。　**時期**　覆土や出土遺物から９世紀中葉と考えられる。

H－5号住居跡（Fig.14・90、PL.2）

位置　X38・39、Y72～74グリッド　**主軸方向**　N－85°－E　**形状等**　長方形と推定される。東西（1.64）m、南北（5.10）m、壁現高34.0cm。　**面積**　(6.55)㎡　**床面**　平坦な床。　**竈**　東壁中央南寄りに位置する。主軸方向　N－86°－E。全長90cm、最大幅65cm、焚口部幅20cm。　構築材に粘土、袖部に凝灰岩を用いる。　**旧竈**　東壁中央に位置する。主軸方向　N－97°－E。全長82cm、最大幅104cm、焚口部幅20cm。構築材に粘土を用いる。　**重複**　H－11と重複しており、新旧関係はH－11→本遺構　**出土遺物**　土師器48点、須恵器12点、瓦11点、灰釉陶器１点、石製品１点、鉄滓3.3g。　**時期**　覆土や出土遺物から９世紀代と考えられる。

H－6号住居跡（Fig.15･66、PL. 2･30･31･41）

位置　X38～40、Y74・75グリッド　**主軸方向**　N－88°－E　**形状等**　長方形と推定される。東西（5.12）m、南北(4.88)m、壁現高67.0cm。　**面積**　(22.78)㎡　**床面**　堅緻な貼り床。　**竈**　東壁中央南寄りに位置する 。**主軸方向**　N－102°－E。全長111cm、最大幅142cm、焚口部幅62cm。　構築材に粘土、凝灰岩、袖部に瓦を用いる。　**重複**　H－11、13と重複しており、新旧関係はH－11→H－13→本遺構　**出土遺物**　土師器1024点、須恵器284点、瓦54点、縄文土器４点、石製品２点、鉄製品１点、灰釉陶器３点、鉄滓443g。そのうち土師器坏３点･土師器甕１点・須恵器蓋２点・須恵器坏２点・須恵器高台皿１点・須恵器大甕１点、瓦９点、鉄製品１点を図示。　**時期**　覆土や出土遺物から９世紀後半と考えられる。

H－7号住居跡（Fig.16･66、PL.31）

位置　X39、Y76グリッド　**主軸方向**　N－80°－E　**形状等**　長方形と推定される。東西(0.58)m、南北(2.92)m、壁現高52.0cm。　**面積**　(1.41)㎡　床面　平坦な床。　**出土遺物**　土師器213点、須恵器36点、瓦３点、土製品１点。そのうち土師器甕１点、須恵器高台椀１点、土製品１点をを図示。　**時期**　覆土や出土遺物から９世紀代と考えられる。

H－8号住居跡（Fig.16･66、PL. 3･31）

位置　X39・40、Y78～80グリッド　**主軸方向**　N－82°－E　**形状等**　長方形と推定される。東西（2.21）m、南北(6.68)m、壁現高79.0cm。　**面積**　(9.70)㎡　**床面**　平坦な床。　**竈**　東壁中央南寄りに位置する。**主軸方向**　N－87°－E。全長124cm、最大幅148cm、焚口部幅60cm。　構築材に粘土、袖部に凝灰岩を用いる。　**重複**　H－12と重複しており、新旧関係は本遺構→H－12　出土遺物　土師器1190点、須恵器181点、瓦２点。そのうち土師器坏１点、須恵器蓋１点・須恵器坏１点・須恵器高台椀２点を図示。　**時期**　覆土や出土遺物から８世紀前半と考えられる。

H－9号住居跡（Fig.17･67、PL. 3･31）

位置　X39・40、Y81・82グリッド　**主軸方向**　N－83°－E　**形状等**　長方形と推定される。東西（3.14）m、南北（3.20）m、壁現高26.0cm。　**面積**　(8.75)㎡　**床面**　平坦な貼り床。　**竈**　東壁南寄りに位置する。**主軸方向**　N－100°－E。全長73cm、最大幅84cm、焚口部幅30cm。　構築材に粘土、袖部に凝灰岩を用いる。　**出土遺物**　土師器237点、須恵器70点、瓦11点、鉄製品１点、灰釉陶器３点。そのうち須恵器高台椀２点、鉄製品１点を図示。　**時期**　覆土や出土遺物から９世紀後半と考えられる。

H－10号住居跡（Fig.17･67、PL. 3･31）

位置　X40・41、Y79・80グリッド　**主軸方向**　N－81°－E　**形状等**　長方形と推定される。東西（3.16）m、南北（4.99）m、壁現高33.0cm。　**面積**　(14.10)㎡　**床面**　平坦な貼り床。　**竈**　東壁南寄りに位置する。**主軸方向**　N－84°－E。全長72cm、最大幅125cm、焚口部幅36cm。　構築材に粘土、凝灰岩、瓦を用いる。　**出土遺物**　土師器193点、須恵器73点、瓦22点。そのうち土師器坏1点・土師器甕２点、須恵器坏１点・須恵器壺１点を図示。　**時期**　覆土や出土遺物から９世紀後半と考えられる。

H－11号住居跡（Fig.18･67、PL. 3･31）

位置　X38・39、Y73・74グリッド　**主軸方向**　N－18°－W　**形状等**　長方形と推定される。東西（4.31）m、南北（5.08）m、壁現高62.0cm。　**面積**　(16.98)㎡　**床面**　平坦な貼り床。　**竈**　北壁中央西寄りに位置する。**主

軸方向　N－2°－E。全長147cm、最大幅104cm、焚口部幅48cm。　構築材に粘土、袖部に凝灰岩を用いる。**旧竈**　北壁西寄りに位置する。**主軸方向**　N－11°－W。全長72cm、最大幅66cm、焚口部幅37cm。構築材に粘土を用いる。**重複**　H－5、6と重複しており、新旧関係は本遺構→H－5，6　**出土遺物**　土師552点、須恵器78点、瓦3点、石製品2点、灰釉陶器2点、鉄滓21.6g。そのうち土師器坏1点・土師器甕2点を図示。　**時期**　覆土や出土遺物から8世紀後半と考えられる。

H－12号住居跡（Fig.16、PL. 3）

位置　X39、Y78・79グリッド　**主軸方向**　N－81°－E　**形状等**　長方形と推定される。東西（0.55）m、南北（4.78）m、壁現高32.0cm。　**面積**　（2.86）㎡　床面　平坦な床。　**重複**　H－8と重複しており、新旧関係はH－8→本遺構　**出土遺物**　土師器6点、須恵器3点、瓦1点、土製品1点。そのうち土製品1点を図示。**時期**　覆土や重複関係から9世紀代と考えられる。

H－13号住居跡（Fig.18）

位置　X38・39、Y74・75グリッド　**主軸方向**　N－88°－E　**形状等**　長方形と推定される。東西（3.92）m、南北（4.65）m、壁現高58.0cm。　**面積**　（16.48）㎡　床面　平坦な貼り床。　**竈**　東壁南寄りに位置する。**主軸方向**　N－74°－E。全長68cm、最大幅97cm、焚口部幅38cm。　構築材に粘土を用いる。　**重複**　H－6、11と重複しており、新旧関係は本遺構→H－13→H－6　**出土遺物**　土師器1点。　**時期**　覆土や重複関係から6世紀後半と考えられる。

（2）溝跡

W－1号溝跡（Fig.19）

位置　X39・40、Y77グリッド　**主軸方向**　N－98°－E　**形状等**　逆台形。　長さ　7.0m　深さ 52.0cm　最大上幅140cm、　最大下幅30cm。　**出土遺物**　土師器99点、須恵器20点、瓦22点、縄文土器3点。そのうち瓦3点を図示。　**時期**　覆土からAs-B降下以前と考えられる。　備考　流水の痕跡無し。

（3）土坑、ピット（Fig.19）

土坑、ピットについては、Tab. 4　土坑・ピット・井戸跡・落ち込み計測表を参照のこと。

（4）グリッド等出土遺物

土師器306点、須恵器84点、瓦71点、灰釉陶器7点、緑釉陶器2点、陶器2点、石製品2点を出土。

2区

（1）竪穴住居跡

H－1号住居跡（Fig.19、PL. 4・32）

位置　X56・57、Y85・86グリッド　**主軸方向**　N－89°－E　**形状等**　長方形と推定される。東西（3.96）m、南北（2.61）m、壁現高48.0cm。　**面積**　（9.18）㎡　**床面**　平坦な貼り床。　**重複**　W－1と重複しており、新旧関係は本遺構→W－1　**出土遺物**　土師器309点、須恵器26点、瓦13点、縄文土器1点、鉄製品2点、灰釉陶器2点、

鉄滓8.9g。そのうち土師器甕1点を図示。　**時期**　覆土や出土遺物から９世紀後半から10世紀前半と考えられる。

Ｈ－２号住居跡（Fig.20･68、PL. 4･32）

位置　X55・56、Y83・84グリッド　**主軸方向**　N－83°－E　**形状等**　長方形と推定される。東西（3.64）m、南北（2.27）m、壁現高69.0cm。　**面積**　(8.97)㎡　**床面**　堅緻な貼り床。　**竈**　東壁中央南寄りに位置する。**主軸方向**　N－93°－E。全長198cm、最大幅118cm、焚口部幅58cm。構築材に粘土を用いる。　**出土遺物**　土師器506点、須恵器32点、瓦１点、縄文土器２点、石製品２点。そのうち土師器坏５点・土師器甕２点・須恵器高台椀１点を図示。　**時期**　覆土や出土遺物から８世紀中葉と考えられる。

Ｈ－３号住居跡（Fig.20、PL. 4）

位置　X54・55、Y84・85グリッド　**主軸方向**　N－91°－E　**形状等**　長方形と推定される。東西3.36m、南北4.01m、壁現高62.0cm。　**面積**　12.18㎡　**床面**　平坦な貼り床。　竈　東壁南寄りに位置する。**主軸方向**　N－92°－E。全長126cm、最大幅120cm、焚口部幅41cm。構築材に粘土、凝灰岩を用いる。　**出土遺物**　土師器40点、須恵器８点、縄文土器１点。そのうち土師器甕を１点図示。　**時期**　覆土や出土遺物から６世紀代と考えられる。

Ｈ－４号住居跡（Fig.21･69、PL. 4･32）

位置　X52・53、Y85・86グリッド　**主軸方向**　N－93°－E　**形状等**　長方形と推定される。東西（3.72）m、南北（4.68）m、壁現高60.0cm。　**面積**　15.42㎡　**床面**　堅緻な貼り床。　**竈**　東壁中央南寄りに位置する。**主軸方向**　N－95°－E。全長128cm、最大幅120cm、焚口部幅41cm。構築材に粘土を用いる。　**出土遺物**　土師器685点、須恵器45点、瓦３点、縄文土器３点、鉄製品１点、石製品２点。そのうち土師器坏１点・土師器甕３点、須恵器蓋１点・須恵器坏３点を図示。　**時期**　覆土や出土遺物から８世紀後半と考えられる。

Ｈ－５号住居跡（Fig.21、PL. 5･32）

位置　X51、Y86・87グリッド　**主軸方向**　N－67°－E　**形状等**　長方形と推定される。東西（0.32）m、南北(0.54)m、壁現高17.0cm。　**面積**　(0.32)㎡　**床面**　平坦な床。　**竈**　東壁南寄りに位置する。**主軸方向**　N－118°－E。全長80cm、最大幅66cm、焚口部幅26cm。構築材に粘土を用いる。　**重複**　D－６と重複しており、新旧関係は本遺構→D－６　**出土遺物**　土師器37点、須恵器４点、縄文土器２点、石製品１点。そのうち土師器甕１点を図示。　**時期**　覆土や出土遺物から８世紀中葉と考えられる。

Ｈ－６号住居跡（Fig.22･69、PL. 5）

位置　X52、Y87・88グリッド　**主軸方向**　N－76°－E　形状等　長方形と推定される。東西（2.76）m、南北(5.00)m、壁現高52.0cm。　**面積**　(10.56)㎡　**床面**　平坦な貼り床。　**出土遺物**　土師器112点、須恵器26点。そのうち須恵器蓋１点を図示。　**時期**　覆土や出土遺物から８世紀中葉と考えられる。

Ｈ－７号住居跡（Fig.22･69、PL.32）

位置　X50・51、Y84グリッド　**主軸方向**　N－78°－E　形状等　長方形と推定される。東西（0.55）m、南北(2.12)m、壁現高36.0cm。　**面積**　(0.64)㎡　**床面**　平坦な床。　**竈**　東壁南寄りに位置する。　**主軸方向**　N－103°－E。全長80cm、最大幅35cm、焚口部幅10cm。構築材に粘土を用いる。　**出土遺物**　土師器33点、須恵器８点、縄文土器５点。そのうち土師器甕１点を図示。　**時期**　覆土や出土遺物から８世紀中葉と考えられる。

Ｈ－８号住居跡（Fig.22･69、PL.32）

位置　X54・55、Y85・86グリッド　**主軸方向**　N－78°－E　形状等　長方形と推定される。東西（3.88）m、南北（1.73）m、壁現高85.0cm。　**面積**　（4.50）㎡　**床面**　平坦な貼り床。　**重複**　D－４と重複しており、新旧関係はD－４→本遺構　**出土遺物**　土師器304点、須恵器42点、瓦２点、縄文土器14点、鉄製品５点。そのうち土師器坏３点、須恵器蓋１点・須恵器坏１点を図示。　**時期**　覆土や出土遺物から８世紀前半と考えられる。

Ｈ－９号住居跡（Fig.23･69、PL. 5・32･33）

位置　X52・53、Y84グリッド　**主軸方向**　N－104°－E　**形状等**　長方形と推定される。東西（2.90）m、南北（1.58）m、壁現高16.0cm。　**面積**　（3.00）㎡　**床面**　堅緻な貼り床。　**竈**　東壁中央南寄りに位置する。構築材に粘土、瓦、凝灰岩を用いる。　**重複**　T－１と重複しており、新旧関係は本遺構→T－１　**出土遺物**　土師器254点、須恵器134点、瓦58点、鉄製品５点、鉄滓8.2g。そのうち須恵器坏２点・須恵器高台皿１点・須恵器羽釜２点、須恵器甑１点、瓦１点を図示。　**時期**　覆土や出土遺物から10世紀後半と考えられる。

（2）竪穴状遺構

Ｔ－１号竪穴状遺構（Fig.23、PL. 5）

位置　X51・52、Y84グリッド　**主軸方向**　N－93°－E　**形状等**　隅丸方形と推定される。東西（3.30）m、南北（3.24）m、壁現高39.0cm。　**面積**　（8.19）㎡　**床面**　平坦な床。　**重複**　H－９と重複しており、新旧関係は本遺構→H－９　**出土遺物**　土師器82点、須恵器10点、瓦27点、縄文土器２点、鉄製品１点、石製品３点、灰釉陶器５点、鉄滓15.0g。そのうち瓦４点を図示。　**時期**　覆土や出土遺物から９世紀後半と考えられる。

（3）溝跡

Ｗ－１号溝跡（Fig.24）

位置　X54～57、Y83～85グリッド　**主軸方向**　N－127°－E　**形状等**　逆台形。　長さ11.3m、深さ41.0cm、最大上幅100cm、最大下幅49cm。　**出土遺物**　土師器14点、須恵器３点、瓦１点。　**時期**　覆土からAs-B降下以前と考えられる。　**備考**　流水の痕跡無し。

Ｗ－２号溝跡（Fig.24）

位置　X52・53、Y84・85グリッド　**主軸方向**　N－136°－E　**形状等**　U字形。　長さ3.4m、深さ23.0cm、最大上幅64cm、最大下幅48cm。　**出土遺物**　土師器18点、須恵器３点、１点、石製品１点。　**時期**　覆土からAs-B降下以前と考えられる。　**備考**　流水の痕跡無し。

（4）土坑、ピット（Fig.21･23･70、PL.32･33）

土坑、ピットについては、Tab. 4　土坑、ピット計測表を参照のこと。

（5）グリッド等出土遺物（Fig.70･88・92）

土師器494点、須恵器84点、瓦71点、縄文土器６点、鉄製品７点、灰釉陶器４点、鉄滓8.0gを出土。そのうち土師器坏２点、須恵器坏１点、瓦１点、石製品１点を図示。

３区

（１）竪穴住居跡

Ｈ－１号住居跡（Fig.25･70、PL. 5･33）

位置　X46～48、Y84・85グリッド　**主軸方向**　N－73°－E　**形状等**　長方形と推定される。東西（4.30）m、南北（3.59）m、壁現高41.0cm。　**面積**　（13.26）㎡　**床面**　平坦な貼り床。　**竈**　東壁中央南寄りに位置する。**主軸方向**　N－85°－E。全長106cm、最大幅132cm、焚口部幅44cm。構築材に粘土を用いる。　**重複**　H－２と重複しており、新旧関係は本遺構→H－２　**出土遺物**　土師器478点、須恵器88点、瓦10点。そのうち土師器坏１点・土師器甕１点・須恵器蓋１点・須恵器坏１点を図示。　**時期**　覆土や出土遺物から８世紀後半と考えられる。

Ｈ－２号住居跡（Fig.25･71、PL. 5･33）

位置　X47・48、Y84・85グリッド　**主軸方向**　N－89°－E　**形状等**　方形と推定される。東西（4.22）m、南北（4.24）m、壁現高39.0cm。　面積　（16.14）㎡　**床面**　平坦な貼り床。　**竈**　東壁中央に位置する。　**主軸方向**　N－83°－E。全長82cm、最大幅88cm、焚口部幅44cm。　構築材に粘土、凝灰岩を用いる。　**重複**　H－１、15と重複しており、新旧関係はH－１、15→本遺構　出土遺物　土師器455点、須恵器91点、瓦17点。そのうち土師器坏２点・土師器甕３点、須恵器蓋１点・須恵器坏２点・須恵器高台椀１点、須恵器高盤１点を図示。　**時期**　覆土や出土遺物から９世紀前半と考えられる。

Ｈ－３号住居跡（Fig.26･72、PL. 6･34）

位置　X44～46、Y84・85グリッド　**主軸方向**　N－75°－E　**形状等**　長方形と推定される。東西（3.88）m、南北（3.16）m、壁現高54.0cm。　**面積**　（8.00）㎡　**床面**　やや堅緻な貼り床。　**竈**　東壁中央に位置する。**主軸方向**　N－104°－E。全長174cm、最大幅100cm、焚口部幅50cm。　構築材に粘土を用いる。　**出土遺物**　土師器249点、須恵器62点、瓦16点、縄文土器３点。そのうち土師器坏３点・土師器甕１点、須恵器坏１点を図示。
時期　覆土や出土遺物から８世紀後半と考えられる。

Ｈ－４号住居跡　　欠　番

Ｈ－５号住居跡（Fig.26･72、PL. 6･33･42）

位置　X29・30、Y85・96グリッド　**主軸方向**　N－88°－E　**形状等**　長方形と推定される。東西（3.42）m、南北（2.50）m、壁現高50.0cm。　**面積**　（5.69）㎡　**床面**　平坦な貼り床。　**竈**　東壁中央南寄りに位置する。**主軸方向**　N－88°－E。全長108cm、最大幅70cm、焚口部幅30cm。　構築材に粘土、凝灰岩を用いる。　**重複**　H－６と重複しており、新旧関係は本遺構→H－６　**出土遺物**　土師器281点、須恵器18点、瓦14点、縄文土器１点、石製品１点。そのうち土師器坏２点、須恵器甕１点、石製品１点を図示。　**時期**　覆土や出土遺物から８世紀後半と考えられる。

Ｈ－６号住居跡（Fig.26、PL. 6）

位置　X29、Y86・87グリッド　**主軸方向**　N－91°－E　**形状等**　長方形と推定される。東西（2.02）m、南北（2.88）m、壁現高48.0cm。　**面積**　（5.28）㎡　**床面**　平坦な貼り床。　**竈**　東壁南寄りに位置する。　**主軸方向**　N－90°－E。全長99cm、最大幅105cm、焚口部幅38cm。　構築材に粘土を用いる。　**重複**　H－５と重複しており、新旧関係はH－５→本遺構　出土遺物　土師器91点、須恵器36点、瓦６点、縄文土器４点、鉄滓38g。

時期　覆土や出土遺物から９世紀前半と考えられる。

Ｈ－７号住居跡（Fig.27･72、PL. 6・34）

位置　X26・27、Y86・87グリッド　**主軸方向**　N－94°－E　**形状等**　長方形と推定される。東西（3.42）m、南北（3.96）m、壁現高31.0cm。　**面積**　（11.75）㎡　**床面**　平坦な貼り床。　**竈**　東壁中央南寄りに位置する。**主軸方向**　N－106°－E。全長96cm、最大幅86cm、焚口部幅44cm。　構築材に粘土、凝灰岩を用いる。　**重複**　H－８と重複しており、新旧関係は本遺構→H－８　**出土遺物**　土師器183点、須恵器74点、瓦40点、縄文土器３点、石製品１点。そのうち土師器甕２点、須恵器高台椀２点を図示。　**時期**　覆土や出土遺物から９世紀後半と考えられる。

Ｈ－８号住居跡（Fig.27･72、PL. 7・34）

位置　X26・27、Y86・87グリッド　**主軸方向**　N－90°－E　**形状等**　長方形と推定される。東西（3.14）m、南北（3.50）m、壁現高37.0cm。　**面積**　（9.94）㎡　**床面**　平坦な貼り床。　**竈**　東壁南寄りに位置する。**主軸方向**　N－94°－E。全長72cm、最大幅81cm、焚口部幅55cm。　構築材に粘土を用いる。　**重複**　H－７と重複しており、新旧関係はH－７→本遺構　**出土遺物**　土師器168点、須恵器68点、瓦21点、縄文土器１点、鉄製品２点、鉄滓26.2g。そのうち土師器甕１点、須恵器坏１点・須恵器高台皿１点を図示。　**時期**　覆土や出土遺物から９世紀中葉と考えられる。

Ｈ－９号住居跡（Fig.28･72、PL. 7・34･42）

位置　X24・25、Y85・86グリッド　**主軸方向**　N－102°－E　**形状等**　長方形と推定される。東西 2.87m、南北 5.25m、壁現高36.0cm。　**面積**　（14.12）㎡　**床面**　平坦な貼り床。　**竈**　東壁南寄りに位置する。**主軸方向**　N－106°－E。全長104cm、最大幅113cm、焚口部幅63cm。　構築材に粘土、凝灰岩、袖部に瓦を用いる。　**重複**　H－10と重複しており、新旧関係はH－10→本遺構　出土遺物　土師器254点、須恵器120点、瓦56点、縄文土器１点、鉄製品２点、石製品２点、緑釉陶器１点。そのうち須恵器坏２点・須恵器高台椀２点、鉄製品２点、石製品２点を図示。　**時期**　覆土や出土遺物から９世紀後半と考えられる。

Ｈ－10号住居跡（Fig.28･72、PL. 7・34）

位置　X24・25、Y85・86グリッド　**主軸方向**　N－116°－E　**形状等**　長方形と推定される。東西 3.28m、南北 4.56m、壁現高24.0cm。　**面積**　12.00㎡　**床面**　堅緻な貼り床。　**竈**　東壁中央南寄りに位置する。**主軸方向**　N－103°－E。全長113cm、最大幅108cm、焚口部幅54cm。　構築材に粘土、凝灰岩を用いる。　**重複**　H－９と重複しており、新旧関係は本遺構→H－９　**出土遺物**　土師器186点、須恵器72点、瓦47点、縄文土器２点、鉄製品２点、石製品２点、鉄滓29.8g。そのうち土師器坏１点・土師器甕１点、須恵器坏２点・須恵器高台皿１点、瓦２点を図示。　**時期**　覆土や出土遺物から９世紀中葉と考えられる。

Ｈ－11号住居跡（Fig.27･73、PL. 7）

位置　X20・21、Y86・87グリッド　**主軸方向**　N－99°－E　**形状等**　長方形と推定される。東西3.26m、南北3.20m、壁現高45.0cm。　**面積**（7.87）㎡　**床面**　平坦な床。**竈**　東壁中央に位置する。　**主軸方向**　N－102°－E。全長84cm、最大幅94cm、焚口部幅34cm。　構築材に粘土を用いる。　**重複**　W－４と重複しており、新旧関係は本遺構→W－４　**出土遺物**　土師器114点、須恵器67点、瓦54点、縄文土器５点、鉄製品１点、鉄滓187.2g。そのうち土師器甕１点、須恵器坏１点、瓦２点を図示。　**時期**　覆土や出土遺物から９世紀中葉と考えられる。

H－12号住居跡（Fig.29･73、PL. 8）

位置　X20・21、Y86グリッド　**主軸方向**　N－89°－E　**形状等**　長方形と推定される。東西（3.28）m、南北（2.38）m、壁現高46.0cm。　**面積**　（6.54）㎡　**床面**　平坦な床。　**竈**　東壁中央南寄りに位置する。**主軸方向**　N－82°－E。全長128cm、最大幅82cm、焚口部幅42cm。　構築材に粘土を用いる。　**重複**　H－13と重複しており、新旧関係は本遺構→H－13　**出土遺物**　土師器44点、須恵器25点、瓦３点、縄文土器３点、石製品１点。そのうち須恵器坏２点を図示。　**時期**　覆土や出土遺物から９世紀代と考えられる。

H－13号住居跡（Fig.30･73、PL. 8･34）

位置　X19・20、Y86グリッド　**形状等**　不明　**竈**　東壁に位置する。　**主軸方向**　N－90°－E。全長194cm、最大幅196cm、焚口部幅108cm。　構築材に粘土・凝灰岩、袖部に瓦を用いる。　**重複**　H－12と重複しており、新旧関係はH－12→本遺構　**出土遺物**　土師器51点、須恵器14点、瓦26点、そのうち土師器甕２点、須恵器高台椀２点、瓦２点を図示。　**時期**　覆土や出土遺物から９世紀中葉～後半と考えられる。

H－14号住居跡（Fig.29･73、PL. 8･34）

位置　X45・46、Y85・86グリッド　**主軸方向**　N－82°－E　**形状等**　長方形と推定される。東西 4.86m、南北 5.67m、壁現高54.0cm。　**面積**　（20.50）㎡　**床面**　平坦な床。　**竈**　東壁中央に位置する。**主軸方向**　N－90°－E。全長122cm、最大幅110cm、焚口部幅38cm。　構築材に粘土を用いる。　**出土遺物**　土師器812点、須恵器272点、瓦39点、縄文土器３点、鉄製品２点、石製品２点、鉄滓19.8g。そのうち土師器坏１点・土師器甕２点、須恵器坏３点、鉄製品１点、石製品２点を図示。　**時期**　覆土や出土遺物から８世紀中頃～後半と考えられる。

H－15号住居跡（Fig.25･74、PL. 8）

位置　X47・48、Y85・86グリッド　**主軸方向**　N－87°－E　**形状等**　長方形と推定される。東西（3.50）m、南北（1.88）m、壁現高32.0cm。　**面積**　（6.03）㎡　**床面**　平坦な貼り床。　**重複**　H－２と重複しており、新旧関係は本遺構→H－２　**出土遺物**　土師器99点、須恵器21点、瓦17点、鉄製品１点、石製品１点。そのうち土師器坏１点、鉄製品１点を図示。　**時期**　覆土や出土遺物から８世紀中頃から後半と考えられる。

H－16号住居跡（Fig.30、PL.11・36）

位置　X14･15、Y86･87グリッド　**主軸方向**　N－86°－E　**形状等**　方形と推定される。東西3.94m、南北（3.12）m、壁現高40.5cm。　**面積**　（10.78）㎡　**床面**　平坦な床。　**竈**　東壁中央南寄りに位置する。　**主軸方向**　N－86°－E。全長96cm、最大幅93cm、焚口部幅51cm。　構築材として粘土、凝灰岩を用いる。　**出土遺物**　土師器甕、須恵器蓋、須恵器高台椀、須恵器甕、石製品など。そのうち、須恵器蓋、須恵器坏を図示。　**時期**　覆土や出土遺物から８世紀後半と考えられる。

H－17号住居跡（Fig.31、PL.11）

位置　X12、Y86・87グリッド　**主軸方向**　N－84°－E　形状等　方形と推定される。東西（0.86）m、南北3.18m、壁現高16.5cm。　**面積**　（3.37）㎡　**床面**　堅緻な貼床。　**竈**　東壁中央南寄りに位置する。**主軸方向**　N－84°－E。全長94cm、最大幅（70）cm、焚口部幅63cm。　構築材として瓦を用いる。　重複　H－18・20・23と重複しており、新旧関係はH－23→H－18→H－20→本遺構　**出土遺物**　土師器甕、須恵器坏、瓦など。特に瓦は25点もの出土があり、完形に近い形での出土も多かった。また貯蔵穴をふさぐ形で完形に近い平瓦が見つかった。そのうち、土師器甕、須恵器坏、瓦を図示。　**時期**　覆土や出土遺物から９世紀後半と考えられる。

H－18号住居跡（Fig.32、PL.12）

位置　X12・13、Y87グリッド　**主軸方向**　不明　**形状等**　方形と推定される。東西（2.54）m、南北（0.96）m、壁現高47.0cm。　**面積**　（1.25）㎡　**床面**　堅緻な貼り床。　**重複**　H－17・20・23と重複しており、新旧関係はH－23→本遺構→H－20→H－17　**出土遺物**　須恵器高台椀など。　**時期**　覆土からHr－FP降下以後からAs－B降下以前と考えられる。

H－19号住居跡（Fig.31、PL.12）

位置　X12、Y85グリッド　**主軸方向**　N－84°－E　**形状等**　方形と推定される。東西（1.50）m、南北（1.94）m、壁現高36.0cm。　**面積**　（2.30）㎡　**床面**　平坦な貼り床。　**出土遺物**　土師器甕、須恵器坏、須恵器高台椀、須恵器甕、瓦など。　**時期**　覆土からHr－FP降下以後からAs－B降下以前と考えられる。

H－20号住居跡（Fig.32、PL.12）

位置　X12・13、Y85～87グリッド　**主軸方向**　N－87°－E　**形状等**　長方形と推定される。東西（4.44）m、南北4.9m、壁現高17.5cm。　**面積**　（10.48）㎡　**床面**　堅緻な貼床。　**竈**　東壁中央南寄りに位置する。**主軸方向**　N－92°－E。全長（68）cm、最大幅88cm、焚口部幅60cm。　**重複**　H－17・18・21・23・24と重複しており、新旧関係はH－24→H－18・21・23→本遺構→H－17　**出土遺物**　土師器坏、土師器甕、須恵器坏、須恵器高台椀、瓦など。そのうち、須恵器坏を図示。**時期**　覆土や出土遺物から9世紀前半と考えられる。

H－21号住居跡（Fig.32、PL.12）

位置　X12、Y85・86グリッド　**主軸方向**　不明　**形状等**　方形と推定される。東西（18.6）m、南北（18）m、壁現高38.5cm。　**面積**　（2.49）㎡　**床面**　堅緻な貼り床。　**重複**　H－20・22と重複しており、新旧関係はH－22→本遺構→H－20　**出土遺物**　瓦など。　**時期**　覆土や重複関係から8世紀代以前と考えられる。

H－22号住居跡（Fig.32、PL.12）

位置　X12、Y85グリッド　**主軸方向**　不明　**形状等**　方形と推定される。東西（0.72）m、南北（0.38）m、壁現高36.0cm。　**面積**　（0.25）㎡　**床面**　平坦な床。　**出土遺物**　土師器、須恵器の小片が少数出土。　**重複**　H－19・20・21と重複しており、新旧関係は本遺構H－21→H－19・20　**出土遺物**　瓦など。　**時期**　覆土や重複完形から8世紀代以前と考えられる。

H－23号住居跡（Fig.32、PL.12）

位置　X12・13、Y86・87グリッド　**主軸方向**　N－90°－E　**形状等**　方形と推定される。東西（2.78）m、南北3.26m、壁現高10.0cm。　**面積**　（8.27）㎡　**床面**　堅緻な貼床。　**北竈**　東壁中央北寄りに位置する。**主軸方向**　N－84°－E。全長89cm、最大幅84cm、焚口部幅68cm。　**南竈**　東壁中央南寄りに位置する。**主軸方向**　N－93°－E。全長66cm、最大幅（54）cm、焚口部幅28cm。　**重複**　H－17・18・20・24と重複しており、新旧関係はH－24→本遺構→H－18→H－20→H－17　**出土遺物**　土師器坏、須恵器坏、須恵器甕など。そのうち、土師器坏を図示。　**時期**　覆土や出土遺物から8世紀前半と考えられる。

H－24号住居跡（Fig.32）

位置　X86・87、Y13グリッド　**主軸方向**　不明　**形状等**　不定形な床面が残るのみ。東西（1.54）m、南北（1.46）m、壁現高不明。　**面積**　（0.88）㎡　**床面**　堅緻な貼り床。**出土遺物**　土師器、須恵器の小片が少数。　**重複**

H－18・20・23と重複しており、新旧関係は本遺構→H－23→H－18→H－20　**時期**　覆土や重複関係から８世紀前半以前と考えられる。

（2）竪穴状遺構

T－１号竪穴状遺構（Fig.33･74）

位置　X47・48、Y86グリッド　**主軸方向**　N－87°－E　**形状等**　長方形と推定される。東西（2.19）m、南北（1.47）m、壁現高13.0cm。　**面積**　（2.40）㎡　**床面**　平坦な床。　**出土遺物**　土師器20点、須恵器８点、瓦６点。そのうち土師器坏１点を図示。　**時期**　覆土や出土遺物から９世紀代と考えられる。

T－２号竪穴状遺構（Fig.33･74、PL.35）

位置　X31・32、Y87グリッド　**主軸方向**　N－85°－E　形状等　長方形と推定される。東西 1.83m、南北2.33m、壁現高43.0cm。　**面積**　3.32㎡　**床面**　平坦な床。　**重複**　W－５と重複しており、新旧関係はW－５→本遺構　**出土遺物**　土師器39点、須恵器36点、瓦11点。そのうち土師器坏１点、瓦■点を図示。　**時期**　覆土や出土遺物から９世紀前半～中頃と考えられる。

T－３号竪穴状遺構（Fig.33･74、PL. 9・35）

位置　X30・31、Y86・87グリッド　**主軸方向**　N－92°－E　**形状等**　方形と推定される。東西 3.08m、南北3.04m、壁現高17.0cm。　**面積**　（8.38）㎡　**床面**　平坦な床。　**出土遺物**　土師器39点、須恵器36点、瓦38点、鉄製品２点、緑釉陶器１点。そのうち土師器坏1点、須恵器高台椀１点、瓦２点を図示。　**時期**　覆土や出土遺物から９世紀代と考えられる。

T－４号竪穴状遺構（Fig.33･75）

位置　X16・17、Y88グリッド　**主軸方向**　N－91°－E　**形状等**　方形と推定される。東西3.07m、南北（2.05）m、壁現高7.0cm。　面積　（7.72）㎡　**床面**　平坦な床。　**重複**　T－５と重複しており、新旧関係はT－５→本遺構　**出土遺物**　須恵器坏、須恵器高台皿を図示。　**時期**　覆土や出土遺物から10世紀後半と考えられる。

T－５号竪穴状遺構（Fig.33、PL.5）

位置　X16・17、Y87・88グリッド　**主軸方向**　N－102°－E　**形状等**　長方形と推定される。東西2.54m、南北2.95m、壁現高7.0cm。　**面積**　（8.73）㎡　**床面**　平坦な床。　**重複**　T－４と重複しており、新旧関係は本遺構→T－４　**時期**　覆土や重複関係から10世紀後半以前と考えられる。

（3）溝跡

W－１号溝跡（Fig.34、PL. 9）

位置　X40、Y84～87グリッド　**主軸方向**　N－5°－W　**形状等**　逆台形。　長さ10.9m　深さ30.0cm　最大上幅80cm、最大下幅50cm　**出土遺物**　土師器19点、須恵器８点、瓦２点、鉄製品１点、鉄滓17.0g。　**時期**　覆土からAs-B降下以前と考えられる。　**備考**　流水の痕跡無し。

W－２号溝跡（Fig.34、PL.9）

位置　X28・29、Y85～88グリッド　**主軸方向**　N－2°－W　**形状等**　逆台形。　長さ10.0m　深さ89.5cm　最

大上幅385cm、最大下幅158cm　**重複**　W－３と重複しており、新旧関係は本遺構→W－３　**出土遺物**　土師器11点、須恵器46点、瓦111点、縄文土器２点、石製品１点。このうち瓦1点を図示。　**時期**　覆土からAs-B降下以前と考えられる。　**備考**　流水の痕跡あり。

W－３号溝跡（Fig.34･75、PL.35･42）

位置　X21～34、Y87・88グリッド　**主軸方向**　N－90°－E　**形状等**　U字形。　長さ50.5m　深さ45.0cm　最大上幅245cm、最大下幅110cm　**重複**　W－２、O－１と重複しており、新旧関係はW－２、O－１→本遺構　**出土遺物**　土師器396点、須恵器182点、瓦127点、縄文土器６点、鉄製品１点、石製品７点、鉄滓18.6。このうち土師器坏１点、須恵器円面硯１点、陶器１点、石製品１点を図示、　**時期**　覆土からAs-B降下以前と考えられる。　**備考**　流水の痕跡無し

W－４号溝跡（Fig.35･75）

位置　X12～21、Y87・88グリッド　**主軸方向**　N－92°－E　**形状等**　逆台形。　長さ4.73m　深さ28.0cm　最大上幅54cm、最大下幅24cm　**出土遺物**　瓦１点。　**時期**　覆土からAs-B降下以前と考えられる。　**備考**　流水の痕跡無し。

W－５号溝跡（Fig.35、PL.10･42）

位置　X31、Y85～87グリッド　**主軸方向**　N－２°－W　**形状等**　逆台形。　長さ9.6m　深さ61.0cm　最大上幅146cm、最大下幅110cm　**出土遺物**　土師器18点、須恵器61点、瓦18点、鉄製品１点、石製品１点、鉄滓88.0g。そのうち石製品１点を図示。　**時期**　覆土からFP降下以降As-B降下以前と考えられる。　**備考**　流水の痕跡無し。

（４）土坑、ピット、土坑墓、井戸跡（Fig.33･35･36･75、PL. 8･10･12･13）

土坑、ピット、土坑墓、井戸跡については、Tab. 4　土坑、ピット、土坑墓、井戸跡計測表を参照のこと。

（５）落ち込み

O－１号落ち込み（Fig.37･76･77、PL.10･36）

位置　X32～36、Y86・87グリッド　**形状等**　不定形と推定される。長軸（13.80）m、短軸（7.40）m、深さ49.0cm。　**出土遺物**　土師器2682点、須恵器991点、瓦46点、縄文土器２点、鉄製品２点、石製品４点、鉄滓32.4g。そのうち土師器坏18点・土師器甕１点、須恵器蓋１点・須恵器坏２点・須恵器高台椀２点・須恵器甕５点・須恵器円面硯１点、瓦２点、鉄製品１点、石製品１点を図示。　**時期**　覆土や出土遺物から８世紀前半と考えられる。

(6) グリッド等出土遺物

土師器514点、須恵器283点、瓦188点、縄文土器12点、鉄製品５点、石製品３点、緑釉陶器４点、鉄滓141.5gを出土。

４区

（１）竪穴住居跡

H－１号住居跡（Fig.38、PL.14）

位置　X25・26、Y88・89グリッド　**主軸方向**　N－88°－E　**形状等**　竈と遺物の集中を検出するのみにとど

まり不明。平面図では遺物の集中している範囲を図示。 **竈** 東壁に位置する。 **主軸方向** N－85°－E。全長不明、最大幅88cm、焚口部幅46cm。 構築材に瓦を用いる。 **重複** D－2・3と重複しており、新旧関係は本遺構→D－2・3 **出土遺物** 土師器坏、土師器甕、須恵器坏、須恵器高台椀、瓦、砥石など多数。そのうち土師器杯、土師器甕、須恵器坏、須恵器高台椀、石製品を図示。 **時期** 覆土や出土遺物から9世紀前半と考えられる。

H－2号住居跡（Fig.38、PL.14）

位置 X26・27、Y106・107グリッド **主軸方向** N－95°－E **形状等** 長方形と推定される。東西（4.92）m、南北4.24m、壁現高63.0cm。 **面積** （18.27）㎡ **床面** 平坦な床。 **竈** 東壁中央南寄りに位置する。 **主軸方向** N－90°－E。全長90cm、最大幅100cm、焚口部幅48cm。 構築材に粘土と瓦を用いる。 **出土遺物** 土師器甕、須恵器甕、瓦など。そのうち、土師器甕を図示。 **時期** 覆土や出土遺物から9世紀前半と考えられる。

H－3号住居跡（Fig.39、PL.14）

位置 X27・26、Y105・106グリッド **主軸方向** N－100°－E **形状等** 方形と推定される。東西（2.96）m、南北3.58m、壁現高49.5cm。 面積 （8.03）cm² **床面** 平坦な床。 **重複** D－4・5・6と重複しており、新旧関係は本遺構→D－4・5・6 **出土遺物** 須恵器坏、須恵器甕、瓦など。 時期 覆土や出土遺物から9世紀後半と考えられる。

（2）土坑（Fig.38・39） 土坑については、Tab. 4 土坑計測表を参照のこと。

5区

（1）竪穴住居跡

H－1号住居跡（Fig.40、PL.14）

位置 X58・59、Y151・152グリッド **主軸方向** N－84°－E **形状等** 方形状。東西3.94m、南北4.18m、壁現高75.0cm。 **面積** 14.45㎡ 床面 堅緻な貼り床。**重複** H－5、W－1・3と重複しており、新旧関係はH－5・W－3→本遺構→W－1 **竈** 東壁中央南寄りに位置する。主軸方向 N－86°－E。全長150cm、最大幅130cm、焚口部幅46cm。 構築材に粘土を用いる。 **出土遺物** 土師器坏、土師器甕、須恵器坏、須恵器甕、須恵器高台椀、鉄製品、石製品など。そのうち土師器坏、土師器甕を図示。 **時期** 覆土や出土遺物から8世紀後半と考えられる。

H－2号住居跡（Fig.41、PL.15）

位置 X59、Y152・153グリッド **主軸方向** 不明 **形状等** 方形と推定される。東西（0.68）m、南北（0.98）m、壁現高13.0cm。 **面積** （0.16）㎡ **床面** 平坦な床。 重複 H－4、W－1と重複しており、新旧関係は本遺構→H－4→W－1 **出土遺物** 土師器、須恵器の小片が少量。 **時期** 覆土や出土遺物から7世紀後半と考えられる。

H－3号住居跡（Fig.42、PL.15）

位置 X56・57、Y152グリッド **主軸方向** N－87°－E **形状等** 方形と推定される。東西（3.98）m、南北（1.0）m、壁現高29.0cm。 面積 （2.55）㎡ 床面 平坦な床。 **重複** W－1・4、D－1と重複しており、新旧関係は本遺構→D－1→W－4→W－1 **出土遺物** 土師器甕など。 **時期** 覆土や重複関係から8世紀後半以前と考えられる。

H－4号住居跡（Fig.41、PL.15）

位置　X58・59、Y152・153グリッド　**主軸方向**　N－75°－E　形状等　方形と推定される。東西4.22m、南北（1.34）m、壁現高30.0cm。　**面積**　（3.05）㎡　**床面**　平坦な床。　**重複**　H－2、W－1・5と重複しており、新旧関係はH－2→本遺構→W－5→W－1　**出土遺物**　土師器坏など。　**時期**　覆土や出土遺物から8世紀前半と考えられる。

H－5号住居跡（Fig.41、PL.15）

位置　X58、Y151グリッド　**主軸方向**　N－70°－E　**形状等**　方形と推定される。東西2.88m、南北（1.12）m、壁現高59.0cm。　面積　（1.95）㎡　床面　平坦な貼り床。　重複　H－1と重複しており、新旧関係は本遺構→H－1　**出土遺物**　土師器坏など。土師器坏を図示。　**時期**　覆土や出土遺物から8世紀中葉と考えられる。

（3）溝跡

W－1号溝跡（Fig.42）

位置　X56～59、Y152グリッド　**主軸方向**　N－87°－E　**形状等**　逆台形。　長さ14.2m　深さ118cm　最大上幅（130）cm、最大下幅120cm　**時期**　覆土からAs-B降下以降と考えられる。　**備考**　流水の痕跡無し。元総社蒼海遺跡群(20)9区W－1号溝跡の西への延長部分となる。蒼海(20)9区W－1では多くの石が投げ込まれていたが、本遺跡では石の投げ込まれた痕跡は無かった。W－2号溝跡と重複し、新旧関係は本遺構→W－2

W－2号溝跡（Fig.42）

位置　X55・56、Y151～153グリッド　**主軸方向**　N－93°－E　**形状等**　薬研状。　長さ7.6m　深さ382cm　最大上幅（440）cm、最大下幅28cm　**時期**　覆土からAs-B降下以降と考えられる。　**備考**　流水の痕跡無し。本調査区の中では最も新しい遺構である。南に位置する6区でも同一の溝（6区W－2号溝跡）を検出している。崩落の危険性があったため、発掘調査では、西側部分を掘り残している。

W－3号溝跡（Fig.41）

位置　X56～58、Y150・151グリッド　**主軸方向**　N－74°－E　**形状等**　逆台形。　長さ7.2m　深さ25.5cm　最大上幅73cm、最大下幅50cm　覆土からAs-B降下以前と考えられる。　**備考**　流水の痕跡無し。

W－4号溝跡（Fig.42）

位置　X56、Y152グリッド　**主軸方向**　N－3°－E　**形状等**　U字形。　長さ1.1m　深さ51.5cm　最大上幅110cm、最大下幅52cm　**時期**　覆土からAs-B降下以降と考えられる。　**備考**　流水の痕跡無し。

W－5号溝跡（PL.15）

位置　X59、Y152グリッド　**主軸方向**　N－3°－E　**形状等**　逆台形。　長さ1.2m　深さ25.5cm　最大上幅52cm、最大下幅38cm　**時期**　覆土からAs-B降下以降と考えられる。　**備考**　流水の痕跡無し。

（4）土坑（Fig.42）

土坑については、Tab. 4　土坑計測表を参照のこと。

６区

（１）竪穴住居跡

Ｈ－１号住居跡（Fig.43、PL.16）

位置　X45・46、Y187・188グリッド　**主軸方向**　N－98°－E　**形状等**　長方形と推定される。東西3.28m、南北（2.34）m、壁現高51.0cm。　**面積**　（6.85）㎡　**床面**　堅緻な貼り床。　**竈**　東壁中央南寄りに位置する。**主軸方向**　N－98°－E。全長118cm、最大幅106cm、焚口部幅40cm。　構築材に粘土と凝灰岩を用いる。　**出土遺物**　土師器甕、須恵器坏、須恵器甕、石製品など。そのうち、須恵器坏、須恵器高台椀、灰釉陶器高台椀、石製品を図示。　時期　覆土や出土遺物から10世紀前半と考えられる。

Ｈ－４号住居跡（Fig.43、PL.16）

位置　X46・47、Y188グリッド　**主軸方向**　N－97°－E　**形状等**　方形と推定される。東西（3.08）m、南北（3.08）m、壁現高44.5cm。　**面積**　（8.27）㎡　**床面**　平坦な床。　**重複**　H－６、８と重複しており、新旧関係はH－８→H－６→本遺構　**出土遺物**　須恵器高台椀、須恵器羽釜、菰編石。そのうち、須恵器高台椀を図示。**時期**　覆土や出土遺物から１０世紀前半と考えられる。

（２）竪穴状遺構

Ｔ－１号竪穴状遺構（Fig.44）

位置　X47・48、Y86グリッド　**主軸方向**　N－87°－E　**形状等**　長方形と推定される。東西（2.19）m、南北（1.47）m、壁現高13.0cm。　**面積**　（2.40）㎡　**床面**　平坦な床。　**出土遺物**　土師器20点、須恵器８点、瓦６点。そのうち土師器坏１点を図示。　**時期**　覆土や出土遺物から９世紀代と考えられる。

Ｔ－２号竪穴状遺構（Fig.44）

位置　X31・32、Y87グリッド　**主軸方向**　N－85°－E　**形状等**　長方形と推定される。東西1.83m、南北2.33m、壁現高43.0cm。　**面積**　3.32㎡　**床面**　平坦な床。　**重複**　W－５と重複しており、新旧関係はW－５→本遺構　**出土遺物**　土師器39点、須恵器36点、瓦11点。そのうち土師器坏１点、瓦■点を図示。　**時期**　覆土や出土遺物から９世紀前半～中頃と考えられる。

（３）溝跡

Ｗ－２号溝跡（Fig.45、PL.17）

位置　X55・56、Y151～153グリッド　**主軸方向**　N－93°－E　**形状等**　薬研状。　長さ7.6m、深さ382cm、最大上幅（440）cm、最大下幅28cm　**時期**　覆土からAs-B降下以降と考えられる。　**備考**　流水の痕跡無し。本調査区の中では最も新しい遺構である。南に位置する６区でも同一の溝（６区W－２号溝跡）を検出している。崩落の危険性があったため、発掘調査では、西側部分を掘り残している。

（３）土坑（Fig.45）

土坑については、Tab. 4　土坑計測表を参照のこと。

７区

（１）竪穴住居跡

Ｈ－１号住居跡（Fig.46、PL.18）

位置　X45・46、Y187・188グリッド　**主軸方向**　N－98°－E　**形状等**　長方形と推定される。東西3.28m、南北（2.34）m、壁現高51.0cm。　**面積**　（6.85）㎡　**床面**　堅緻な貼り床。　**竈**　東壁中央南寄りに位置する。**主軸方向**　N－98°－E。全長118cm、最大幅106cm、焚口部幅40cm。　構築材に粘土と凝灰岩を用いる。　**出土遺物**　土師器甕、須恵器坏、須恵器甕、石製品など。そのうち、須恵器坏、須恵器高台椀、灰釉陶器高台椀、石製品を図示。　**時期**　覆土や出土遺物から10世紀前半と考えられる。

Ｈ－２号住居跡（Fig.47、PL.18）

位置　X46・47、Y188グリッド　**主軸方向**　N－97°－E　**形状等**　方形と推定される。東西（3.08）m、南北（3.08）m、壁現高44.5cm。　**面積**　（8.27）㎡　床面　平坦な床。　**重複**　Ｈ－６、８と重複しており、新旧関係はＨ－８→Ｈ－６→本遺構　**出土遺物**　須恵器高台椀、須恵器羽釜、菰編石。そのうち、須恵器高台椀を図示。**時期**　覆土や出土遺物から10世紀前半と考えられる。

Ｈ－３号住居跡（Fig.49、PL.19）

位置　X43・44、Y188・189グリッド　**主軸方向**　N－95°－E　**形状等**　方形と推定される。東西3.54m、南北（1.94）m、壁現高45.0cm。　**面積**　（6.05）㎡　**床面**　堅緻な貼り床。　**重複**　Ｈ－７・11と重複しており、新旧関係はＨ－11→Ｈ－７→本遺構　**出土遺物**　土師器甕、灰釉陶器、瓦、紡錘車、菰編石など。そのうち、土師器坏、石製品を図示。　**時期**　覆土や出土遺物から９世紀後半と考えられる。

Ｈ－４号住居跡（Fig.47、PL.19）

位置　X43・44、Y187・188グリッド　**主軸方向**　N－87°－E　形状等　方形と推定される。東西3.48m、南北（1.76）m、壁現高39.5cm。　**面積**　（6.17）㎡　**床面**　平坦な床。　**竈**　東壁に位置する。**主軸方向**　N－92°－E。全長78cm、最大幅90cm、焚口部幅78cm。　構築材に粘土、瓦を用いる。　**出土遺物**　土師器坏、土師器甕、須恵器高台皿、瓦など。土師器杯、土師器甕、須恵器高台皿、瓦を図示。　**時期**　覆土や出土遺物から９世紀後半と考えられる。

Ｈ－５号住居跡（Fig.48、PL.19）

位置　X41～43、Y187～189グリッド　**主軸方向**　N－87°－E　**形状等**　長方形と推定される。東西5.78m、南北（5.46）m、壁現高24.0cm。　**面積**　（9.33）㎡　**床面**　堅緻な貼り床。　**竈**　東壁中央南寄りに位置する。**主軸方向**　N－88°－E。全長186cm、最大幅106cm、焚口部幅60cm。　構築材に粘土、凝灰岩を用いる。　**重複**　Ｈ－10・12・13・15・16、Ｉ－１、Ｄ－３・４・５などと重複しており、新旧関係はＨ－15→本遺構→Ｈ－10→Ｈ－16→Ｈ－13→Ｈ－12→Ｄ－５→Ｄ－４→Ｄ－３→Ｉ－１　**出土遺物**　土師器坏、土師器甕、須恵器坏、須恵器高台椀、須恵器甕、鉄製品。そのうち、土師器甕、須恵器高台椀、石製品、鉄製品を図示。　**時期**　覆土や出土遺物から９世紀中葉と考えられる。

Ｈ－６号住居跡（Fig.47、PL.18）

位置　X45・46、Y188・189グリッド　**主軸方向**　N－86°－E　**形状等**　方形と推定される。東西（2.58）m、

南北（0.84）m、壁現高74.5cm。　**面積**　（1.86）㎡　**床面**　平坦な床。　重複　H－2・8と重複しており、新旧関係は本遺構→H－8→H－2　**出土遺物**　石田川式土器甕など。石田川式土器甕を図示。　**時期**　覆土や出土遺物から4世紀後半と考えられる。

H－7号住居跡（Fig.49、PL.19）

位置　X43・44、Y188・189グリッド　**主軸方向**　N－86°－E　**形状等**　方形と推定される。東西（2.80）m、南北（0.84）m、壁現高74.5cm。　**面積**　（1.86）㎡　**床面**　堅緻な貼り床。　**重複**　H－3・11と重複しており、新旧関係はH—11→本遺構→H－3　**出土遺物**　土師器坏、土師器甕、須恵器坏など。そのうち、土師器坏、須恵器坏を図示。　**時期**　覆土や出土遺物から9世紀中葉と考えられる。

H－8号住居跡（Fig.47、PL.18）

位置　X46、Y188・189グリッド　**主軸方向**　N－119°－E　**形状等**　不明。東西（0.52）m、南北（1.12）m、壁現高19.5cm。　**面積**　（0.34）㎡　**床面**　平坦な床。　**重複**　H－3・6と重複しており、新旧関係はH－6→本遺構→H－3　**出土遺物**　土師器坏など。土師器坏を図示。　**時期**　覆土や出土遺物から7世紀後半と考えられる。

H－9号住居跡（Fig.49、PL.19）

位置　X42・43、Y188・189グリッド　**主軸方向**　N－65°－E　**形状等**　方形と推定される。東西（2.48）m、南北（1.08）m、壁現高24.0cm。　**面積**　（1.39）㎡　**床面**　平坦な貼り床。　**重複**　H－11と重複しており、新旧関係は本遺構→H－11　**出土遺物**　土師器坏など。　**時期**　覆土や出土遺物から7世紀後半と考えられる。

H－10号住居跡（Fig.48、PL.19）

位置　X41・42、Y188グリッド　**主軸方向**　N－88°－E　**形状等**　長方形と推定される。東西（5.40）m、南北（3.62）m、壁現高27.0cm。　**面積**　（8.98）㎡　**床面**　堅緻な貼り床。**重複**　H－5・12・13・15・16、I－1、D－3・4・5などと重複しており、新旧関係はH－15→H－5→本遺構→H－16→H－13→H－12→D－5→D－4→D－3→I－1　**出土遺物**　須恵器坏、須恵器高台皿、鉄製品など。須恵器坏、須恵器高台皿、鉄製品を図示。　**時期**　覆土や出土遺物から9世紀後半と考えられる。

H－11号住居跡（Fig.49、PL.19）

位置　X43、Y188・189グリッド　**主軸方向**　N－79°－E　**形状等**　方形と推定される。東西（2.46）m、南北（2.14）m、壁現高74.0cm。　**面積**　（4.19）㎡　**床面**　堅緻な貼床。　**重複**　H－3・7・9と重複しており、新旧関係はH—9→本遺構→H－7→H－3　**出土遺物**　土師器甕、須恵器坏、灰釉陶器高台椀など。そのうち須恵器坏、須恵器高台椀、灰釉陶器高台椀を図示。　**時期**　覆土や出土遺物から9世紀前半と考えられる。

H－12号住居跡（Fig.48、PL.20）

位置　X41、Y187・188グリッド　**主軸方向**　N－87°－E　**形状等**　方形と推定される。東西（0.96）m、南北3.42m、壁現高47.0cm。　**面積**　（0.23）㎡　**床面**　堅緻な貼床。　**竈**　東壁中央南寄りに位置する。**主軸方向**　N－87°－E。全長126cm、最大幅90cm、焚口部幅36cm。　構築材に粘土、凝灰岩、土器、瓦を用いる。　**重複**　H－5・10・13・14・15・16、JD－1と重複しており、新旧関係はJD－1→H－15→H－5→H－10→H－16→H－13・14→本遺構　**出土遺物**　土師器甕、須恵器坏、須恵器高台椀、須恵器長頸瓶、緑釉陶器稜椀など。土師器甕、須恵器坏、須恵器高台椀、須恵器長頸瓶、緑釉陶器稜椀を図示。　**時期**　覆土や出土遺物から9世紀

後半と考えられる。

H－13号住居跡（Fig.48）

位置　X41、Y188・189グリッド　**主軸方向**　不明　**形状等**　方形と推定される。　**重複**　H－5・10・12・15・16と重複しており、新旧関係はH－15→H－5→H－10→H－16→本遺構・H－14→H－12　**出土遺物**　須恵器高台椀、須恵器甕など。　**時期**　覆土や重複関係から9世紀後半以前と考えられる。

H－14号住居跡（Fig.48）

位置　X41、Y187グリッド　**主軸方向**　不明　**形状等**　不明。東西　(0.20)m、南北　(0.68)m、壁現高26.0cm。**面積**　(0.11)㎡　**床面**　平坦な床。　**時期**　覆土や重複関係から9世紀後半以前と考えられる。

H－15号住居跡（Fig、49）

位置　X41・42、Y187～189グリッド　**主軸方向**　N－85°－E　**形状等**　方形と推定される。東西（4.06）m、南北4.82m、壁現高8.0cm。　**面積**　(17.59)㎡　**床面**　掘り方と周溝のみが残る。　**竈**　東壁中央南寄に位置する。**主軸方向**　N－88°－E。全長62cm、最大幅76cm、焚口部幅46cm。　**重複**　H－5・10・12・13・16、I－1、D－3・5などと重複しており、新旧関係は本遺構→H－5→H－10→H－16→H－13→H－12→D－5→D－3→I－1　**時期**　覆土や重複関係から9世紀中葉以前と考えられる。。

H－16号住居跡（Fig.48）

位置　X41・42、Y188・189グリッド　**主軸方向**　N－83°－E　**形状等**　方形と推定される。東西（1.78）m、南北（3.46）m、壁現高6cm。　**面積**　(0.35)㎡　**床面**　堅緻な貼床。　**竈**　調査区内には存在しないが、調査区南壁に竈の断面が僅かに確認できる。　**重複**　H－5・10・12・13・15、I－1、D－3などと重複しており、新旧関係は本遺構→H－5→H－10→H－16→H－13→H－12→D－3→I－1　**時期**　覆土や重複関係から9世紀後半以降と考えられる。

（2）溝跡

W－1号溝跡（Fig.50、PL.20）

位置　X46～48、Y187～188グリッド　**主軸方向**　N－85°－W　**形状等**　逆台形。　長さ5.3m　深さ167cm　最大上幅（430)cm、最大下幅（150)cm　**時期**　覆土からAs-B降下以降と考えられる。　**備考**　流水の痕跡無し。溝の上端へ向かう傾斜の途中に階段状の部分がある。崩落の危険性があったため、発掘調査においては、東・南部分を掘り残した。

（4）土坑、ピット、井戸跡（Fig.13）

土坑、ピット、井戸跡については、Tab. 4　土坑、ピット、井戸跡計測表を参照のこと。

8区

(1)　竪穴住居跡

H－1号住居跡　欠番

Ｈ－２号住居跡（Fig.51、PL.21）

位置　X44・45、Y211・212グリッド　**主軸方向**　N－85°－E　形状等　方形と推定される。東西3.14m、南北(1.40)m、壁現高17.5cm。　**面積**　(4.16)㎡　**床面**　堅緻な貼床。　**竈**　東壁南寄に位置する。**主軸方向**　N－95°－E。全長106cm、最大幅78cm、焚口部幅34cm。　構築材に粘土、凝灰岩を用いる。**重複**　H－3・5、P－5・6と重複しており、新旧関係はH－3・5、P－5・6→本遺構　**出土遺物**　土師器甕、須恵器坏、須恵器甕、瓦。そのうち、須恵器小型坏、石製品を図示。　**時期**　覆土や出土遺物から10世紀前半と考えられる。

Ｈ－３号住居跡（Fig.52、PL.21）

位置　X44・45、Y211・212グリッド　**主軸方向**　N－84°－E　形状等　長方形と推定される。東西2.56m、南北3.58m、壁現高14.0cm。　**面積**　(7.02)㎡　**床面**　堅緻な貼り床。　**竈**　東壁南寄に位置する。**主軸方向**　N－82°－E。全長76cm、最大幅92cm、焚口部幅48cm。　構築材に粘土、凝灰岩を用いる。　**重複**　H－2・4と重複しており、新旧関係はH－2・4→本遺構　**出土遺物**　土師器坏、土師器甕、須恵器坏、須恵器甕など。
時期　覆土や出土遺物から９世紀前半と考えられる。

Ｈ－４号住居跡（Fig.52、PL.22）

位置　X44･45、Y212グリッド　**主軸方向**　N－80°－E　**形状等**　方形と推定される。東西3.50m、南北(1.89)m、壁現高19.0cm。　**面積**　(4.66)㎡　**床面**　堅緻な貼床。　**重複**　H－3と重複しており、新旧関係はH－3→本遺構　**出土遺物**　土師器甕、須恵器高台椀、灰釉陶器高台椀、灰釉陶器高台皿、緑釉陶器など。そのうち、土師器甕、灰釉陶器高台皿を図示。　**時期**　覆土や出土遺物から９世紀後半と考えられる。

Ｈ－５号住居跡（Fig.53、PL.22）

位置　X43・44、Y211・212グリッド　**主軸方向**　N－86°－E　**形状等**　長方形と推定される。東西3.46m、南北(3.38)m、壁現高21.0cm。　**面積**　(11.03)㎡　**床面**　堅緻な貼り床。　**竈**　東壁中央南寄りに位置する。**主軸方向**　N－90°－E。全長72cm、最大幅98cm、焚口部幅68cm。　構築材に粘土、瓦を用いる。　**重複**　H－2・6・10、D－2、P－5・6と重複しており、新旧関係は本遺構→H－2・6・10→D－2、P－5・6　**出土遺物**　土師器坏、土師器甕、須恵器坏、須恵器高台椀、桃の種など。そのうち、須恵器坏、須恵器高台椀、鉄製品を図示。　**時期**　覆土や出土遺物から９世紀後半と考えられる。

Ｈ－６号住居跡（Fig.53、PL.22）

位置　X43、Y211グリッド　**主軸方向**　不明　**形状等**　方形と推定される。東西3.50m、南北(0.64)m、壁現高25.0cm。　面積　(1.98)㎡　**床面**　平坦な床。　**重複**　H－5と重複しており、新旧関係はH－5→本遺構　**出土遺物**　土師器甕、須恵器坏、須恵器甕、瓦など。　**時期**　覆土や出土遺物から８世紀後半と考えられる。

Ｈ－７号住居跡（Fig.54、PL.22）

位置　X41～43、Y211・212グリッド　**主軸方向**　N－86°－E　**形状等**　方形と推定される。東西3.90m、南北(3.84)m、壁現高55.0cm。床や壁が赤く焼け爛れている。　**面積**　(15.52)㎡　**床面**　堅緻な貼床。　**竈**　東壁中央南寄りに位置する。**主軸方向**　N－83°－E。全長256cm、最大幅182cm、焚口部幅78cm。　構築材に粘土、凝灰岩を用いる。また、地山を掘り残して袖としている。　**重複**　T－1と重複しており、新旧関係はT－1→本遺構３　**出土遺物**　土師器坏、土師器甕、須恵器坏、須恵器高台椀など。そのうち、土師器坏、土師器甕、須恵器坏を図示。　**時期**　覆土や出土遺物から９世紀中葉と考えられる。

Ｈ－８号住居跡　欠番

Ｈ－９号住居跡　欠番

Ｈ－10号住居跡（Fig.53、PL.22）

位置　Ｘ43・44、Ｙ212グリッド　**主軸方向**　不明　**形状等**　方形と推定される。東西 3.46m、南北 (1.54)ｍ、壁現高29.5cm。　**面積**　(4.51)㎡　**床面**　堅緻な貼り床。　**重複**　Ｈ－５、Ｄ－２と重複しており、新旧完形はＨ－５→本遺構→Ｄ－２　**出土遺物**　土師器甕、鉄製品など。そのうち、鉄製品を図示。　**時期**　覆土や重複関係から10世紀前半と考えられる。

（２）竪穴状遺構

Ｔ－１号竪穴状遺構（Fig.54・82）

位置　Ｘ42・43、Ｙ211・212グリッド　**主軸方向**　Ｎ－52°－Ｅ　**形状等**　方形と推定される。東西 (2.25)ｍ、南北 (2.75)ｍ、壁現高38.0cm。　**面積**　(3.30)㎡　**床面**　平坦な床。　**時期**　覆土や出土遺物から７世紀中葉と考えられる。

（３）土坑、ピット（Fig.56）

土坑、ピットについては、Tab. 4　土坑、ピット計測表を参照のこと。

（４）落ち込み状遺構

Ｏ－１号落ち込み状遺構（Fig.52、PL.22）

位置　Ｘ46、Ｙ211～212グリッド　**形状等**　不定形と推定される。長軸 (3.33)ｍ、短軸 (1.01)ｍ、深さ24.0cm。
時期　覆土からAs-B降下以前と考えられる。

（５）グリッド等出土遺物

須恵器坏を図示。

９区

（１）竪穴住居跡

Ｈ－１号住居跡（Fig.55・83、PL.23）

位置　Ｘ45・46、Ｙ187・188グリッド　**主軸方向**　Ｎ－98°－Ｅ　**形状等**　長方形と推定される。東西3.28m、南北 (2.34)ｍ、壁現高51.0cm。　**面積**　(6.85)㎡　**床面**　堅緻な貼り床。　**竈**　東壁中央南寄りに位置する。**主軸方向**　Ｎ－98°－Ｅ。全長118cm、最大幅106cm、焚口部幅40cm。　構築材に粘土と凝灰岩を用いる。　**出土遺物**　土師器甕、須恵器坏、須恵器甕、石製品など。そのうち、須恵器坏、須恵器高台椀、灰釉陶器高台椀、石製品を図示。　**時期**　覆土や出土遺物から10世紀前半と考えられる。

Ｈ－２号住居跡（Fig.55・83、PL.23）

位置　Ｘ45・46、Ｙ187・188グリッド　**主軸方向**　Ｎ－98°－Ｅ　**形状等**　長方形と推定される。東西3.28m、南

北（2.34）m、壁現高51.0cm。 **面積** （6.85）㎡ **床面** 堅緻な貼り床。 **竈** 東壁中央南寄りに位置する。**主軸方向** N－98°－E。全長118cm、最大幅106cm、焚口部幅40cm。 構築材に粘土と凝灰岩を用いる。 **出土遺物** 土師器甕、須恵器坏、須恵器甕、石製品など。そのうち、須恵器坏、須恵器高台椀、灰釉陶器高台椀、石製品を図示。 **時期** 覆土や出土遺物から10世紀前半と考えられる。

H－3号住居跡（Fig.56・83、PL.23）

位置 X46・47、Y188グリッド **主軸方向** N－97°－E **形状等** 方形と推定される。東西（3.08）m、南北（3.08）m、壁現高44.5cm。 **面積** （8.27）㎡ **床面** 平坦な床。 **重複** H－6、8と重複しており、新旧関係はH－8→H－6→本遺構 **出土遺物** 須恵器高台椀、須恵器羽釜、菰編石。そのうち、須恵器高台椀を図示。 **時期** 覆土や出土遺物から10世紀前半と考えられる。

（3）土坑、ピット（Fig.56・83）

土坑、ピットについては、Tab. 4 土坑、ピット計測表を参照のこと。

10A区 道路の名残と思われる堅緻面が残るのみであった。

10B区

（1）竪穴住居跡

H－1号住居跡（Fig.57、PL.24）

位置 X266・267、Y123・124グリッド **主軸方向** N－91°－E **形状等** 長方形と推定される。東西3.94m、南北2.14m、壁現高19.0cm。 **面積** （5.31）㎡ **床面** 平坦な床。 **竈** 東壁中央南寄りに位置する。 **主軸方向** N－92°－E。全長80cm、最大幅62cm、焚口部幅36cm。 構築材に凝灰岩を用いる。 **重複** H－4と重複しており、新旧関係はH－4→本遺構。**出土遺物** 土師器坏、土師器甕、須恵器坏、須恵器羽釜、瓦など。 **時期** 覆土や出土遺物から10世紀後半と考えられる。

H－2号住居跡（Fig.57・83、PL.24）

位置 X267・268、Y123・124グリッド **主軸方向** N－89°－E **形状等** 方形と推定される。東西（3.40）m、南北（3.94）m、壁現高20.0cm。 **面積** （8.76）㎡ **床面** 攪乱を受けて全体的に荒らされていた。 **竈** 東壁に位置する。**主軸方向** N－87°－E。全長123cm、最大幅122cm、焚口部幅42cm。 構築材に粘土、川原石、土器を用いる。 **重複** H－7・9・10、D－1、DB－1と重複しており、新旧関係はD－1→H－10→本遺構→H－9→H－7→DB－1 **出土遺物** 須恵器坏、須恵器高台椀、須恵器羽釜など。そのうち、須恵器小型坏、須恵器高台椀、須恵器羽釜を図示。 **時期** 覆土や出土遺物から11世紀前半と考えられる。

H－3号住居跡（Fig.59・83、PL.25）

位置 X268・269、Y123グリッド **主軸方向** N－95°－E **形状等** 方形と推定される。東西3.74m、南北（2.64）m、壁現高21.5cm。 **面積** （7.95）㎡ **床面** 堅緻な貼り床。 **竈** 東壁に位置する。**主軸方向** N－93°－E。全長100cm、最大幅88cm、焚口部幅30cm。 構築材に粘土、凝灰岩を用いる。 **重複** H－5、DB－1と重複しており、新旧関係はH－5→本遺構→DB－1 **出土遺物** 須恵器坏、瓦など。そのうち、須恵器坏、須恵器小型坏、捏鉢を図示。 **時期** 覆土や出土遺物から11世紀前半と考えられる。

H－4号住居跡（Fig.57・84、PL.25）

位置　X266・267、Y123グリッド　**主軸方向**　N－86°－E　**形状等**　方形と推定される。東西2.48m、南北(1.72)m、壁現高16.5cm。　**面積**　(1.15)㎡　**床面**　平坦な床。　**竈**　東壁に位置する。**主軸方向**　N－88°－E。全長36cm、最大幅（36)cm、焚口部幅（28)cm。　**重複**　H－1と重複しており、新旧関係は本遺構→H－1　**出土遺物**　土師器土釜、瓦など。土師器土釜を図示。　**時期**　覆土や出土遺物から10世紀前半と考えられる。

H－5号住居跡（Fig.59・85、PL.25）

位置　X268・269、Y123グリッド　**主軸方向**　N－92°－E　**形状等**　長方形と推定される。東西（4.10)m、南北（4.06)m、壁現高16.0cm。　**面積**　(16.12)㎡　**床面**　堅緻な貼床。　**竈**　調査区内には存在しないが、調査区南壁に攪乱によって削り取られ、残っている竈部分が見える。　**重複**　H－3・10、D－1、DB－1と重複しており、新旧関係はD－1→H－10→本遺構→H－3→DB－1　**出土遺物**　土師器甕、須恵器坏、須恵器羽釜など。そのうち、須恵器羽釜を図示。　**時期**　覆土や出土遺物から10世紀後半と考えられる。

H－6号住居跡（Fig.57・85、PL.25）

位置　X270、Y123グリッド　**主軸方向**　N－92°－E　**形状等**　方形と推定される。東西3.42m、南北（3.18)m、壁現高26.0cm。　**面積**　(9.70)㎡　**床面**　堅緻な貼床。　**重複**　H－8と重複しており、新旧関係は本遺構→H－8　**出土遺物**　土師器甕、灰釉陶器高台皿。灰釉陶器高台皿を図示。　**時期**　覆土や出土遺物、重複関係から10世紀後半と考えられる。

H－7号住居跡（Fig.58・84、PL.26）

位置　X267・268、Y123グリッド　**主軸方向**　N－79°－E　**形状等**　方形と推定される。東西（1.42)m、南北(1.42)m、壁現高　計測不能。　**面積**　(2.20)㎡　**床面**　堅緻な貼り床。　**竈**　南東隅に位置する。**主軸方向**　N－124°－E。全長98cm、最大幅78cm、焚口部幅40cm。　構築材に粘土、凝灰岩を用いる。**重複**　H－2・9と重複しており、新旧関係はH―9→H－2→本遺構　**出土遺物**　須恵器坏、須恵器高台皿など。須恵器坏、須恵器高台皿を図示。　**時期**　覆土や出土遺物から11世紀後半と考えられる。

H－8号住居跡（Fig.59・85、PL.26）

位置　X270・271、Y123グリッド　**主軸方向**　N－82°－E　**形状等**　方形と推定される。東西（2.56)m、南北(1.46)m、壁現高24.5cm。　**面積**　(2.68)㎡　**床面**　平坦な床。　**竈**　南東隅に位置する。**主軸方向**　N－120°－E。全長84cm、最大幅70cm、焚口部幅36cm。　構築材に凝灰岩、瓦を用いる。　**重複**　H－6と重複しており、新旧関係は本遺構→H－6　**出土遺物**　土師器土釜、須恵器高台椀、瓦など。土師器土釜、須恵器高台椀、瓦を図示。**時期**　覆土や出土遺物、重複関係から10世紀前半と考えられる。

H－9号住居跡（Fig.59、PL.26）

位置　X268、Y123グリッド　**主軸方向**　不明　**形状等**　方形と推定される。東西　(2.20)m、南北　(1.30)m、壁現高21.0cm。　**面積**　(2.35)㎡　**床面**　平坦な床。　**重複**　H－2・7と重複しており、新旧関係はH－2→本遺構→H－7　**出土遺物**　須恵器甕など。　**時期**　覆土や出土遺物、重複関係から11世紀中葉と考えられる。

H－10号住居跡（Fig.59・85、PL.25）

位置　X268、Y123・124グリッド　**主軸方向**　不明　**形状等**　不明。東西　(0.88)m、南北　(1.48)m、壁現高

計測不能。 **面積** (0.67)㎡ **床面** 堅緻な貼り床。**重複** H－2・5、D－1、DB－1と重複しており、新旧完形はD－1→本遺構→H－2・5→DB－1 **出土遺物** 土師器鉢形土器？。 **時期** 覆土や重複関係から11世紀前半以前と考えられる。

（4）土坑、ピット、土坑墓 (Fig.85)

土坑、ピット、土坑墓については、Tab. 4 土坑、ピット、土坑墓計測表を参照のこと。

11区

（1）竪穴住居跡

H－1号住居跡 (Fig.60・85、PL.27)

位置 X274、Y130グリッド **主軸方向** N－75°－E **形状等** 方形と推定される。東西 (0.54)m、南北2.42m、壁現高37.5cm。 **面積** (0.56)㎡ **床面** 平坦な床面。 **竈** 南東隅に位置する。**主軸方向** N－134°－E。全長 (95)cm、最大幅 (38)cm、焚口部幅 (14)cm。 構築材として粘土を用いる。 **出土遺物** 土師器、須恵器の小片が少数。 **時期** 覆土や出土遺物から１１世紀代と考えられる。

H－2号住居跡 (Fig.60・85、PL.27)

位置 X275・276、Y127・128グリッド **主軸方向** N－76°－E 形状等 長方形と推定される。東西 (4.00)m、南北3.00m、壁現高29.5cm。 **面積** (10.14)㎡ **床面** 堅緻な貼床。 **重複** H－7と重複しており、新旧関係はH－7→本遺構 **出土遺物** 須恵器坏、菰編石など。そのうち、須恵器小型坏を図示。 **時期** 覆土や出土遺物、重複関係から11世紀後半と考えられる。

H－3号住居跡 (Fig.61・85、PL.27)

位置 X274・275、Y128・129グリッド **主軸方向** N－112°－E **形状等** 方形と推定される。東西 (3.60)m、南北4.40m、壁現高49.0cm。 **面積** (11.07)㎡ **床面** 堅緻な貼床。 **竈** 南東隅に位置する。**主軸方向** N－143°－E。全長124cm、最大幅90cm、焚口部幅48cm。 構築材に粘土を用いる。 **重複** H－4・5・6、D－1と重複しており、新旧関係はH－6→H－5→H－4→本遺構→D－1 **出土遺物** 土師器甕、須恵器高台椀、鉄製品、石製品など。須恵器小型坏、石製品、鉄製品を図示。 **時期** 覆土や出土遺物、重複関係から11世紀後半と考えられる。

H－4号住居跡 (Fig.61・85、PL.27)

位置 X274・275、Y128・129グリッド 主軸方向 N－96°－E 形状等 方形と推定される。東西 (2.40)m、南北 (3.30)m、壁現高12.0cm。 **面積** (3.46)㎡ **床面** 堅緻な貼床。 **竈** 東壁中央南寄に位置する。**主軸方向** N－125°－E。全長106cm、最大幅69cm、焚口部幅60cm。 構築材に粘土、凝灰岩を用いる。 **重複** H－3・5と重複しており、新旧関係はH－5→本遺構→H－3 **出土遺物** 土師器坏、土師器甕、須恵器高台椀、須恵器羽釜など。そのうち、須恵器坏、須恵器高台椀、須恵器羽釜を図示。 **時期** 覆土や出土遺物、重複関係から11世紀前半と考えられる。

H－5号住居跡 (Fig.61・85、PL.28)

位置 X275、Y128・129グリッド **主軸方向** N－97°－E **形状等** 方形と推定される。東西 (0.90)m、南北

(0.50)m、壁現高37.0cm。 **面積** (2.34)㎡ **床面** 平坦な床。 **竈** 南東隅に位置する。**主軸方向** 計測不能。全長125cm、最大幅(36)cm、焚口部幅(15)cm。 構築材に粘土を用いる。 **重複** H－3・4と重複しており、新旧関係は本遺構→H－4→H－3 **出土遺物** 土師器甕、須恵器羽釜。そのうち、須恵器羽釜を図示。 **時期** 覆土や出土遺物、重複関係から10世紀後半と考えられる。

H－6号住居跡(Fig.85、PL.28)

位置 X274・275、Y127・128グリッド **主軸方向** N－79°－E **形状等** 方形と推定される。東西(1.72)m、南北(3.06)m、壁現高25.0cm。 **面積** (3.31)㎡ **床面** 堅緻な貼床。 **重複** H－3・7と重複しており、新旧関係はH－7→本遺構→H－3 **出土遺物** 須恵器甕など。 **時期** 覆土や出土遺物から11世紀後半と考えられる。

H－7号住居跡(Fig.60・85、PL.28)

位置 X274・275、Y127・128グリッド **主軸方向** N－94°－E **形状等** 方形と推定される。東西(2.30)m、南北(2.96)m、壁現高6.0cm。 **面積** (4.03)㎡ **床面** 堅緻な貼り床。 **竈** 南東隅に位置する。**主軸方向** N－146°－E。全長105cm、最大幅60cm、焚口部幅43cm。構築材として、両袖に瓦石、煙道に土釜、粘土を使用する。 **重複** H－2・6と重複しており、新旧関係は本遺構→H－2・6 **出土遺物** 土師器土釜、須恵器高台椀、須恵器甕、石製品、瓦など。そのうち、土師器土釜を図示。 **時期** 覆土や出土遺物から11世紀前半と考えられる。

(2) 土坑、井戸跡(Fig.85)

土坑、井戸跡については、Tab. 4 土坑、井戸跡計測表を参照のこと。

(3) グリッド等出土遺物(Fig.86、PL.41)

須恵器小型坏を図示。

12区

遺構の検出無し。土師器7点、須恵器1点、縄文土器1点を出土。

13区

(1) 竪穴住居跡

H－1号住居跡(Fig.30、PL.29)

位置 X112・113、Y141グリッド **主軸方向** N－91°－E **形状等** 長方形と推定される。東西3.51m、南北(2.83)m、壁現高27cm。 **面積** (9.95)㎡ **床面** 平坦な床面。 **竈** 東壁中央に位置する。**主軸方向** N－87°－E。全長100cm、最大幅90cm、焚口部幅46cm。 構築材として粘土を用いる。 **時期** 覆土から9世紀代と考えられる。

(2) グリッド等出土遺物

土師器48点、須恵器13点を出土。

Tab.5　縄文・弥生土器観察表

縄文土器観察表

番号	出土遺構 層位	器種名	①口径　②器高 ③底径	①胎土　②焼成 ③色調	器種の特徴・整形・調整技術	登録番号	備　考
1	7区 JD－1	深鉢	①－　②－ ③－	①中粒　②良好 ③赤褐	平口縁。内面には磨きが施される。半截竹管により矢羽状モチーフを施し、下位に横位の平行沈線を施す。		黒浜式並行
2	7区 H－5	深鉢	①－　②－ ③－	①中粒　②良好 ③暗赤褐	半截竹管により矢羽状のモチーフを施す。		黒浜式並行
3	7区 JD－1	深鉢	①－　②－ ③－	①中粒　②良好 ③暗赤褐	平口縁。内面には磨きが施される。半截竹管により矢羽状モチーフを施し、下位に横位の平行沈線を施す。		黒浜式並行
4	8区	深鉢	①－　②－ ③－	①細粒　②良好 ③褐	体部。平行沈線で格子目状の文様を施す。下位には連続爪形文が横位に巡る。		諸磯b式
5	7区 H－2	深鉢	①－　②－ ③－	①中粒　②良好 ③明黄褐	波状口縁。口唇部は平坦で胎土に繊維を含む。波張部は半截竹管の背押しによる山形状のモチーフを描出する。平行沈線で横位、斜位に施す。		黒浜式並行
6	6区	深鉢	①－　②－ ③－	①中粒　②良好 ③橙	波状口縁。口唇部はやや外反し、頸部で屈曲する。横位の集合沈線を巡らし、頸部には斜位集合沈線を施す。		諸磯b式
7	7区 H－3	深鉢	①－　②－ ③－	①中粒　②良好 ③橙	波状口縁。口唇部はやや外反し、頸部で屈曲する。横位の集合沈線を巡らし、頸部には斜位集合沈線を施す。		諸磯b式
8	5区 W－2	深鉢	①－　②－ ③－	①中粒　②良好 ③明黄褐	波状口縁か。集合沈線を王位に巡らし、沈線上にボタン状添付文を縦位に施す。棒状粘土の添付痕跡あり。		諸磯b式
9	5区 W－2	深鉢	①－　②－ ③－	①中粒　②良好 ③橙	体部。体部は半截竹管による平行沈線を円形状に配し、頸部は横位に巡らす。横位平行沈線間は竹管による刺突文が施される。		諸磯b式
10	7区	深鉢	①－　②－ ③－	①中粒　②良好 ③明赤褐	体部。半截竹管による平行沈線を斜位、横位に配す。屈曲部で矢羽状のモチーフが施される。		諸磯b式
11	6区	深鉢	①－　②－ ③－	①中粒　②良好 ③黒褐	体部破片。横位の集合沈線を巡らす。斜位の半截竹管で格子目状のモチーフを施す。		諸磯c式
12	5区 W－2	深鉢	①－　②－ ③－	①中粒　②良好 ③暗黄褐	底部から体部。体部はほぼ直立する。半截竹管による平行沈線を地文とし、ボタン状添付文を施す。		諸磯c式
13	6区	深鉢	①－　②－ ③－	①細粒　②良好 ③にぶい黄褐	体部破片。縦位の集合沈線を配し、沈線上にボタン状添付文を施す。		諸磯c式
14	7区 JD－1	深鉢	①－　②－ ③－	①中粒　②良好 ③暗赤褐	底部。縦位、斜位の集合沈線を施し、棒状粘土とボタン状添付文を配す。		諸磯c式
15	7区 JD－1	深鉢	①－　②－ ③－	①中粒　②良好 ③にぶい赤褐	平口縁。内面は肥厚する。口唇部は隆線により凹状に窪む。口縁部に棒状粘土による添付文が施され、間にボタン状添付文が施される。内面肥厚部は斜位沈線が施された後、添付文が配される。		諸磯c式
16	6区 T－2	深鉢	①－　②－ ③－	①中粒　②良好 ③明赤褐	口縁部破片。内面は肥厚する。口縁部に2対一組の大柄の突起状添付文を配し、棒状粘土による添付文を施す。それぞれの添付文は内面にまで加飾される。地文は横位の集合沈線。		諸磯c式
17	5区	深鉢	①－　②－ ③－	①中粒　②良好 ③明赤褐	体部。貝殻によるロッキングを施す。		興津式
18	5区 H－2	深鉢	①－　②－ ③－	①中粒　②良好 ③黄褐	体部。貝殻によるロッキングを施す。		興津式
19	5区	深鉢	①－　②－ ③－	①細粒　②良好 ③明赤褐	波状口縁か。口唇部は平坦。口唇部は半截竹管による3列の結節浮線文が施される。結節浮線文により曲線的なモチーフが描出される。		下島式、花鳥山式？
20	5区	深鉢	①－　②－ ③－	①中粒　②良好 ③褐	体部。地文は斜位の平行沈線。半截竹管による結節浮線文で曲線的なモチーフを描出する。		下島式、花鳥山式？
21	5区	深鉢	①－　②－ ③－	①細粒　②良好 ③にぶい黄	波状口縁か。口縁部は平坦。地文は平行沈線。半截竹管による結節浮線文で文様を描出する。		下島式、花鳥山式？
22	6区	深鉢	①－　②－ ③－	①中粒　②良好 ③褐	体部破片。地文は斜位の集合沈線。半截竹管による結節浮線文を縦位、斜位に配す。小粒のボタン状添付文を集合沈線上に施す。		下島式、花鳥山式？
23	5区 H－1	深鉢	①－　②－ ③－	①細粒　②良好 ③褐灰	体部。地文は斜位の集合沈線。半截竹管による結節浮線文で曲線的なモチーフを描出する。		下島式、花鳥山式？
24	6区	深鉢	①－　②－ ③－	①細粒　②良好 ③黄褐	体部破片。地文は斜位の集合沈線。半截竹管による3本の結節浮線文を縦位に配す。小粒のボタン状添付文を集合沈線上に施す。		下島式、花鳥山式？
25	6区 H－2	深鉢	①－　②－ ③－	①細粒　②良好 ③橙	口縁部。口唇部は折り返して肥厚する。口縁部、体部に貝殻復縁文が施される。		前期末
26	5区	深鉢	①－　②－ ③－	①細粒　②良好 ③明黄褐	体部。地文は横位の集合沈線。半截竹管による結節浮線文が斜位に施される。		下島式、花鳥山式？
27	6区	深鉢	①－　②－ ③－	①細粒　②良好 ③赤褐	口縁部破片。口唇部は若干肥厚する。半截竹管による平行沈線で菱形状のモチーフを描出する。		前期末
28	6区 JD－1	深鉢	①－　②－ ③－	①中粒　②良好 ③にぶい赤褐	体部。地文は斜位の集合沈線。棒状粘土を添付後縦位の沈線を施す。添付文から半截竹管による3本の結節浮線文が横位に派生する。		下島式、花鳥山式？
29	7区	深鉢	①－　②－ ③－	①中粒　②良好 ③にぶい褐	体部。爪形刺突を持つ平行沈線で木の葉文を描出する。		諸磯b式並行
30	7区 D－3	深鉢	①－　②－ ③－	①細粒　②良好 ③にぶい褐	体部。半截竹管による平行沈線で区画文を構成し、沈線に沿って貝殻波状文を施す。区画内は無文。		興津式
31	6区	深鉢	①－　②－ ③－	①細粒　②良好 ③浅黄橙	口縁部。口唇部は平坦な作りで内面に口唇部調整による横位の窪みが観られる。口唇部から楕円状のモチーフを施す隆帯が派生する。隆帯上には刺突が施される。地文は撚りの弱いRL縄文。		諸磯c式並行
32	5区	深鉢	①－　②－ ③－	①細粒　②良好 ③明黄褐	体部。横位沈線で体部文様を区画し、区画内は沈線による楕円文で構成される。RL縄文が充填される。		加曽利EⅡ式
33	7区 H－5	深鉢	①－　②－ ③－	①細粒　②良好 ③赤褐	波状口縁か。沈線により口縁部文様帯を区画し、区画内は交互刺突文が施される。体部は沈線により文様が描出される。地文は縄文。		加曽利EⅠ式 古段階平行

番号	出土遺構 層位	器種名	①口径 ②器高 ③底径	①胎土 ②焼成 ④色調	器種の特徴・整形・調整技術	登録 番号	備 考
34	4区 H－2	深鉢	①－ ②－ ③－	①細粒 ②良好 ③黄褐	体部。３本の沈線が垂下する。地文はRL縄文。		加曽利EⅡ式
35	6区	深鉢	①－ ②－ ③－	①細粒 ②良好 ⑤明褐	底部破片。垂下する２本の沈線により体部文様帯は区画される。沈線間は磨り消される。地文はRL縄文。		加曽利EⅡ式
36	5区 W－2	深鉢	①－ ②－ ③－	①中粒 ②良好 ③橙	口縁部。垂下する２本の沈線により口縁部文様帯を区画する。		加曽利EⅡ式
37	8区 H－8	深鉢	①－ ②－ ③－	①細粒 ②良好 ③明黄褐	体部。沈線により楕円形		加曽利B式

弥生土器観察表

番号	出土遺構 層位	器種名	①口径 ②器高 ③底径	①胎土 ②焼成 ③色調	器種の特徴・整形・調整技術	登録 番号	備 考
1	7区 X46Y188	壺	①－ ②－ ③－	①細粒 ②良好 ③灰褐	口縁部破片。櫛描波状文。口唇部は刻みが施される。		
2	10B区 H－5	壺	①－ ②－ ③－	①細粒 ②良好 ③黄褐	櫛描波状文。		

Tab. 6　古墳・奈良・平安時代出土土器観察表

1区

番号	出土遺構 層位	器種名	①口径　②器高 ③底径	①胎土　②焼成 ③色調　④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	登録 番号	備　考
1－1	H－2 床直	土師器 坏	①18.1　②4.3 ③－	①細粒　②良好 ③橙　④ほぼ完形	口縁部：外傾、内外面横撫で、交換点に稜有。底部：平底気味、内面撫で、外面篦削り。	28他	
1－2	H－2 床直	土師器 甕	①14.6　②16.0 ③5.3	①細粒　②良好 ③明赤褐　④ほぼ完形	口縁部：直立気味からやや外反、内外面横撫で。胴部中位に膨らみがあり、器最大径となる。内面撫で、外面横方向篦削り。底部：平底、内面撫で、外面篦削り。	27	内面に付着物
1－3	H－2 覆土	土師器 甕	①[21.6]　②(9.3) ③－	①細粒　②良好 ③にぶい橙　④破片	口縁部：やや直立気味から外傾、内外面横撫で。胴部上位：膨らみがあり、内面撫で、外面横方向篦削り。底部：欠損。	14	
1－4	H－2 覆土	土師器 甕	①[19.0]　②(17.3) ③－	①細粒　②良好 ③明赤褐　④1/5	口縁部：やや直立気味から外反、内外面横撫で。胴部上位：膨らみがあり口縁とほぼ同径、内面撫で、外面上位横方向篦削り。中下位斜位篦削り。底部：欠損。	3,16他	
1－5	H－2 床直	須恵器 蓋	①17.9　②4.0 ③－	①細粒　②良好 ③灰白　④完形	轆轤整形。天井部：水平から緩やかに傾斜、返り有り。外面回転篦削り、径4.9cmの環状の摘み。内面轆轤撫で、自然釉有り。燃焼時に付いたと思われる須恵器坏口縁部破片が、アスファルト状物質と共に付着。	26	内面に付着物
1－6	H－2 床直	須恵器 蓋	①16.6　②3.5 ③－	①細粒　②良好 ③灰白　④完形	轆轤整形。天井部：水平から緩やかに傾斜、返り有り。外面回転篦削り、径4.8cmの環状の摘み。内面轆轤撫で。	25	
1－7	H－2 覆土	須恵器 坏	①12.6　②3.7 ③7.6	①細粒　②良好 ③灰黄　④完形	轆轤整形。口縁・体部：外傾。内外面轆轤撫で。底部：内面轆轤撫で、外面回転篦削り調整。底部に「十」の篦削りと墨書文字「大館」有り。篦削りは墨書の跡と思われ、呪いに使用が考えられる。胎土から他地方産が考えられる。	1	酸化焔焼成墨書文字
1－8	H－2 覆土	須恵器 坏	①[13.1]　②3.6 ③8.0	①細粒　②良好 ③灰白　④3/4	轆轤整形。口縁・体部：外傾、口縁端部やや外反。口縁端部に墨跡有り灯明皿に転用が考えられる、内外面轆轤撫で。底部：内面轆轤撫で、墨跡有り、外面回転篦切り、撫で調整。底部に墨書文字「少」有り。底部の墨跡から墨溜に使用されたことが考えられる。胎土から他地方産が考えられる。		酸化焔焼成墨書文字
1－9	H－4 覆土	土師器 坏	①[12.6]　②3.8 ③[9.6]	①細粒　②良好 ③にぶい黄橙　④1/2	口縁部：外傾、内外面横撫で。底部：平底気味、内面撫で、外面上位撫で、下位篦削り。	1	
1－10	H－4 床直	土師器 甕	①[20.2]　②(25.3) ③－	①細粒　②良好 ③明赤褐　④2/5	口縁部：やや直立気味から外反、内外面横撫で。胴部上位：内面撫で、外面上位横方向篦削り。中位やや上で器最大径、中下位内面撫で、外面斜位篦削り。底部：欠損。	12他	
1－11	H－4 床直	須恵器 坏	①[13.1]　②3.4 ③[8.0]	①細粒　②良好 ③灰　④1/2	轆轤整形。口縁・体部：外傾、口縁端部やや外反。内外面轆轤撫で。底部：内面轆轤撫で、外面回転糸切り未調整。	20他	
1－12	H－4 床直	須恵器 高台椀	①[14.3]　②6.6 ③8.2	①細粒　②良好 ③灰黄　④2/3	轆轤整形。口縁・体部：外傾、口縁端部やや外反。内外面轆轤撫で。底部：内面轆轤撫で、外面回転糸切り後断面四角形の高台を取り付け。	14	酸化焔焼成
1－13	H－6 床直	土師器 坏	①[12.3]　②3.6 ③－	①細粒　②良好 ③橙　④1/2	口縁部：やや内傾、内外面横撫で。底部：丸底、内面撫で、外面篦削り。	77他	
1－14	H－6 床直	土師器 坏	①[13.3]　②3.5 ③－	①細粒　②良好 ③橙　④1/4	口縁部:短く直立気味、内外面横撫で。底部:丸底、内面撫で、外面篦削り。	101	
1－15	H－6 床直	土師器 坏	①[11.0]　②3.7 ③－	①細粒　②良好 ③橙　④2/5	口縁部：短く直立しやや内傾、内外面横撫で。底部：やや丸底、内面撫で、線刻あり、外面篦削り。		
1－16	H－6 床直	土師器 甕	①[20.0]　②(11.6) ③－	①細粒　②良好 ③橙　④破片	口縁部：やや直立から外傾、内外面横撫で。胴部上位で器最大径、内面撫で、外面上位横方向、中位斜位篦削り。底部：欠損。	9,16 カマド	
1－17	H－6 床直	須恵器 蓋	①[17.9]　②4.3 ③－	①細粒　②良好 ③灰　④1/2	轆轤整形。天井部：水平から緩やかに傾斜、返り有り。外面回転篦削り、内面轆轤撫で。摘み：宝珠摘み。	16他	
1－18	H－6 床直	須恵器 蓋	①11.0　②3.0 ③－	①細粒　②良好 ③灰白　④ほぼ完形	轆轤整形。天井部：やや丸みを持ちながら傾斜、内面撫で、外面篦撫で。端部やや外傾。内外面轆轤撫で。	33	
1－19	H－6 床直	須恵器 坏	①[13.9]　②4.2 ③7.0	①細粒　②良好 ③灰白　④ほぼ完形	轆轤整形。口縁・体部：外傾。内外面轆轤撫で。底部：内面轆轤撫で、外面回転糸切り未調整。	95	
1－20	H－6 床直	須恵器 坏	①11.6　②3.7 ③5.6	①細粒　②良好 ③灰白　④ほぼ完形	轆轤整形。口縁・体部：外傾。内外面轆轤撫で、口縁部に油煙付着。底部：内面轆轤撫で、外面回転糸切り未調整。	94	
1－21	H－6 床直	須恵器 高台皿	①13.8　②2.8 ③7.0	①細粒　②良好 ③灰白　④ほぼ完形	轆轤整形。口縁・体部：大きく外傾、内外面轆轤撫で。底部：内面轆轤撫で、外面回転糸切り後、断面四角形の高台を取り付け。	23他	
1－22	H－6 床直	須恵器 瓶	①－　②(5.5) ③[14.7]	①細粒　②良好 ③灰白　④破片	轆轤整形。口縁部：欠損。胴部：内面轆轤撫で後叩き、外面轆轤撫で後、刷毛目仕上げ。底部:回転篦削り高台を付け、篦出し調整後、刷毛目仕上げ。	109	
1－23	H－7 床直	土師器 小甕	①[14.0]　②(12.7) ③－	①細粒　②良好 ③橙　④1/4	口縁部：やや直立気味から外傾、内外面回転轆轤撫で調整後横方向に施文。胴部：やや上位に膨らみがあり器最大径、内外面回転轆轤撫で調整後横方向に施文。底部：欠損。	13, 27	
1－24	H－7 覆土	須恵器 高台椀	①14.4　②5.4 ③7.4	①細粒　②良好 ③灰　④3/4	轆轤整形。口縁・体部：外傾、口縁端部やや外反。内外面轆轤撫で。底部：内面轆轤撫で、外面回転糸切り後断面四角形の高台を取り付け。	17他	
1－25	H－8 覆土	土師器 坏	①[16.2]　②4.1 ③－	①細粒　②良好 ③橙　④1/4	口縁部：外傾からやや外反、内外面横撫で、交換点に稜有。底部：やや丸底、内面撫で、外面篦削り。		
1－26	H－8 覆土	須恵器 蓋	①[18.4]　②(1.9) ③－	①細粒　②良好 ③灰　④2/5	轆轤整形。天井部：水平から緩やかに傾斜、返り有り。内外面轆轤撫で。摘み：欠損。		
1－27	H－8 覆土	須恵器 坏	①[11.4]　②3.4 ③[8.5]	①細粒　②良好 ③灰　④1/4	轆轤整形。口縁・体部：外傾。内外面轆轤撫で。底部：内面轆轤撫で、外面回転篦削り調整。		
1－28	H－8 床直	須恵器 高台椀	①[18.0]　②4.0 ③[12.6]	①細粒　②良好 ③灰白　④1/2	轆轤整形。口縁・体部：体部にやや膨らみを持ちながら外傾。内外面轆轤撫で。底部：内面轆轤撫で、外面回転篦削り調整後、削り出し高台を施す。	2	
1－29	H－8 覆土	須恵器 高台椀	①[17.6]　②4.8 ③[12.4]	①細粒　②良好 ③黄灰　④1/3	轆轤整形。口縁・体部：体部にやや膨らみを持ちながら外傾。内面轆轤撫で、外面轆轤撫で底部付近回転篦削り調整。底部：内面轆轤撫で後篦描きを施す、外面回転篦削り調整後削り出し高台を施す。		

番号	出土遺構 層位	器種名	①口径 ②器高 ③底径	①胎土 ②焼成 ③色調 ④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	登録 番号	備　考
1－30	H－9 床直	須恵器 高台椀	①14.8 ②5.2 ③7.0	①細粒 ②良好 ③灰白 ④3/4	轆轤整形。口縁・体部：やや膨らみをもちながら外傾、口縁端部外反。内外面轆轤撫で。底部：内面轆轤撫で、外面回転糸切り後断面四角形の高台を取り付け。	12	酸化焔焼成
1－31	H－9 床直	須恵器 高台椀	①14.0 ②4.9 ③7.2	①細粒 ②良好 ③灰白 ④ほぼ完形	轆轤整形。口縁・体部：外傾、口縁端部やや外反。内外面轆轤撫で、内面に油煙付着。底部：内面轆轤撫で、外面回転糸切り後断面三角形の高台を取り付け。	14	酸化焔焼成
1－32	H－10 覆土	土師器 坏	①[17.4] ②6.0 ③[9.8]	①細粒 ②良好 ③橙 ④1/4	口縁部：外傾から短く直立、内外面横撫で。体部：内面撫で後放射状の暗文を施す。外面撫で後篦削り。底部：平底、内面撫で、外面篦削り。	15	暗文
1－33	H－10 覆土	土師器 甕	①[23.2] ②(6.9) ③－	①細粒 ②良好 ③橙 ④破片	口縁部：直立から外反、内外面横撫で。胴部上位：膨らみがあり器最大径、内面撫で、外面横方向篦削り。底部：欠損。		
1－34	H－10 覆土	須恵器 台付甕	①－ ②(4.1) ③8.6	①細粒 ②良好 ③橙 ④高台部のみ	轆轤整形。口縁・胴部欠損。底部：内面轆轤撫で。外面回転糸切り後台部取り付け。台部：外傾から外反し高い、内外面撫で。断面は四角形。		酸化焔焼成
1－35	H－10 床直	須恵器 坏	①[14.4] ②3.8 ③9.4	①細粒 ②良好 ③灰白 ④3/4	轆轤整形。口縁・体部：やや膨らみをもちながら外傾。内外面轆轤撫で。底部：内面轆轤撫で、外面回転篦切り調整。	5	
1－36	H－10 覆土	須恵器 短頸壺	①[10.0] ②14.9 ③[13.2]	①細粒 ②良好 ③灰 ④1/2	轆轤整形。口縁部：短く直立、内外面轆轤撫で。胴部：大きく膨らみ中位やや上で器最大径、内外面轆轤撫で。底部：回転糸切り後、断面四角形の高台を付ける。上野型特殊有蓋短頸壺。		上野型特殊有蓋短頸壺
1－37	H－11 床直	土師器 坏	①11.8 ②3.7 ③－	①細粒 ②良好 ③橙 ④完形	口縁部：短く直立、内外面横撫で。底部：丸底、内面撫で、油煙付着。芯の跡と思われる紐状の痕跡有り。外面篦削り。	7	内面油煙付着 芯の跡紐痕跡
1－38	H－11 床直	土師器 甕	①[23.2] ②(9.8) ③－	①細粒 ②良好 ③にぶい橙 ④1/5	口縁部：やや直立気味から大きく外反し器最大径、内外面横撫で。胴部：やや膨らみあり、内面撫で、外面横方向篦削り。底部：欠損。	16他	
1－39	H－11 床直	土師器 甕	①24.9 ②32.7 ③4.7	①細粒 ②良好 ③橙 ④3/4	口縁部：やや直立気味から大きく外反し器最大径、内外面横撫で。胴部：やや膨らみあり、内面撫で、外面上位横方向、中下位斜位篦削り。底部：欠損。	1,5他	

2区

番号	出土遺構 層位	器種名	①口径 ②器高 ③底径	①胎土 ②焼成 ③色調 ④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	登録 番号	備　考
2－1	H－1 床直	土師器 甕	①[18.6] ②(19.6) ③－	①細粒 ②良好 ③明赤褐 ④1/4	口縁部：緩やかに外傾、内外面横撫で。胴部：上位がやや膨らみ器最大径、内面撫で後刷毛目を施す、外面上位横方向に篦削り、中位斜方向篦削り。底部：欠損。	1,8他	内外面に煤、油煙付着
2－2	H－2 床直	土師器 坏	①[12.2] ②3.4 ③－	①細粒 ②良好 ③橙 ④1/2	口縁部：内外面横撫で。底部：浅い丸底。内面撫で、外面篦削り。	29	
2－3	H－2 覆土	土師器 坏	①14.4 ②3.9 ③－	①細粒 ②良好 ③橙 ④1/2	口縁部：短く直立、内外面横撫で。底部：浅い丸底、内面撫で、外面篦削り。	60,81	
2－4	H－2 覆土	土師器 坏	①13.5 ②3.1 ③－	①細粒 ②良好 ③橙 ④ほぼ完形	口縁部：短く直立、内外面横撫で。底部：平底、内面撫で、外面撫で、篦削り。	24,25	
2－5	H－2 床直	土師器 坏	①[13.2] ②3.3 ③－	①細粒 ②良好 ③橙 ④2/3	口縁部：短く直立、内外面横撫で。底部：丸底、内面撫で、外面篦削り。	15, 2022	油煙付着
2－6	H－2 竈内	土師器 坏	①[13.2] ②(3.2) ③－	①細粒 ②良好 ③橙 ④1/2	口縁部：短く内傾、内外面横撫で。底部：やや丸底、内面撫で、外面篦削り。	89	
2－7	H－2 覆土	土師器 甕	①[13.2] ②(13.1) ③[5.3]	①細粒 ②良好 ③にぶい赤褐 ④1/3	口縁部：緩やかに外傾、内外面横撫で。胴部：中位がやや膨らみ器最大径、内面撫で、外面斜方向篦削り。底部：一部欠損、内面撫で、外面篦削り。	18,21 他	
2－8	H－2 竈内	土師器 甕	①[20.0] ②(5.6) ③－	①細粒 ②良好 ③橙 ④破片	口縁部：やや直立気味から外傾、内外面横撫で。胴部上位：やや膨らみがあり、内面撫で、外面横方向篦削り。底部：欠損。	94	
2－9	H－2 覆土	須恵器 高台椀	①[15.4] ②3.9 ③[11.2]	①細粒 ②良好 ③灰白 ④1/3	轆轤整形。口縁・体部：外傾から口縁部やや外反。内外面轆轤撫で。底部：内面撫で、外面回転篦切り調整後、断面四角形の高台を取り付け。		
2－10	H－3 覆土	土師器 甕	①[15.2] ②(4.3) ③－	①細粒 ②良好 ③にぶい黄橙 ④破片	口縁部：やや直立気味から外傾、内外面横撫で。胴部上位：膨らみがあり、内面撫で、外面横方向篦削り。底部：欠損。		
2－11	H－4 床直	土師器 坏	①[13.4] ②3.2 ③－	①細粒 ②良好 ③にぶい黄橙 ④1/3	口縁部：短く直立やや外反、内外面横撫で。底部：やや平底、内面撫で、外面篦削り。	16他	
2－12	H－4 床直	土師器 甕	①[23.0] ②(5.6) ③－	①細粒 ②良好 ③にぶい橙 ④破片	口縁部：やや直立気味から少し外傾、内外面横撫で。胴部上位：膨らみがあり器最大径、内面撫で、外面縦方向篦削り。底部：欠損。	13,50 他	
2－13	H－4 床直	土師器 甕	①[23.0] ②(8.3) ③－	①細粒 ②良好 ③橙 ④破片	口縁部：直立気味からやや外反、内外面横撫で。胴部上位：膨らみがあり器最大径、内面撫で、外面横方向篦削り。底部：欠損。	1,4,5他	
2－14	H－4 床直	土師器 甕	①[23.0] ②(13.9) ③－	①細粒 ②良好 ③橙 ④破片	口縁部：やや直立気味から外傾、内外面横撫で。胴部上位：膨らみがあり器最大径、内面撫で、外面斜方向篦削り。底部：欠損。	82,84 他	
2－15	H－4 覆土	須恵器 蓋	①[14.0] ②(1.0) ③－	①細粒 ②良好 ③灰白 ④1/2	轆轤整形。天井部から口縁部：水平な天井部から緩やかに湾曲し、端部垂下、外面轆轤撫で、一部回転篦削り。摘み無し。内面轆轤撫で。	18	
2－16	H－4 床直	須恵器 坏	①[13.4] ②4.7 ③[9.2]	①細粒 ②良好 ③青灰 ④1/2	轆轤整形。口縁・体部：外傾から口縁端部やや外反。内外面轆轤撫で。底部：内面轆轤撫で、外面回転篦切り、篦削り調整。	2,89他	
2－17	H－4 床直	須恵器 坏	①13.9 ②3.9 ③9.6	①細粒 ②良好 ③灰白 ④ほぼ完形	轆轤整形。口縁・体部：外傾。内外面轆轤撫で。底部：内面轆轤撫で、外面回転篦切り、篦削り調整。	24,26	
2－18	H－4 床直	須恵器 坏	①15.0 ②3.2 ③10.9	①細粒 ②良好 ③灰白 ④ほぼ完形	轆轤整形。口縁・体部：外傾。内外面轆轤撫で。底部：内面轆轤撫で、外面回転篦削り調整。	22	
2－19	H－5 覆土	土師器 甕	①[20.5] ②(9.5) ③－	①細粒 ②良好 ③にぶい赤褐 ④破片	口縁部：やや直立気味から外反、内外面横撫で。胴部上位：やや膨らみがあり、口縁とほぼ同じ径となる。内面撫で、外面横方向篦削り。底部：欠損。	1	
2－20	H－6 床直	須恵器 蓋	①[14.0] ②2.7 ③－	①細粒 ②良好 ③灰 ④1/3	轆轤整形。天井部：水平から緩やかに傾斜し端部垂下、端部に返り無し。外面回転篦削り、回転糸切り後、小さい環状の摘みを付ける。内面轆轤撫で。	4	
2－21	H－7 覆土	土師器 甕	①[20.4] ②(8.0) ③－	①細粒 ②良好 ③にぶい黄橙 ④破片	口縁部：やや直立気味から大きく外反、内外面横撫で。胴部上位：やや膨らみがあり、器最大径となる。内面撫で、外面横方向篦削り。底部：欠損。		
2－22	H－8 床直	土師器 坏	①12.3 ②3.6 ③－	①細粒 ②良好 ③にぶい橙 ④ほぼ完形	口縁部：短く直立、内外面横撫で。底部：やや丸底、内面撫で、外面篦削り。	1,2,4	

番号	出土遺構 層位	器種名	①口径 ②器高 ③底径	①胎土 ②焼成 ③色調 ④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	登録 番号	備　考
2－23	H－8 床直	土師器 坏	①[15.0] ②3.5 ③－	①細粒 ②良好 ③橙 ④1/4	口縁部：大きく外傾、内外面横撫で。底部：浅い丸底気味、内面撫で、外面篦削り。	18	
2－24	H－8 覆土	土師器 坏	①[12.7] ②4.0 ③－	①細粒 ②良好 ③橙 ④1/2	口縁部：短く直立、内外面横撫で。底部：丸底、内面撫で、外面篦削り。		
2－25	H－8 覆土	須恵器 蓋	①[15.2] ②(1.6) ③－	①細粒 ②良好 ③灰白 ④1/3	轆轤整形。天井部：水平から緩やかに傾斜し端部やや外反、返り有り。外面回転篦削り、摘み欠損。内面轆轤撫で。		
2－26	H－8 覆土	須恵器 坏	①[11.6] ②3.6 ③[8.1]	①細粒 ②良好 ③灰白 ④1/4	轆轤整形。口縁・体部：外傾。内外面轆轤撫で。底部：内面轆轤撫で。外面手持ち篦削り調整。		
2－28	H－9 床直	須恵器 坏	①13.6 ②4.8 ③6.2	①細粒 ②良好 ③にぶい黄橙 ④完形	轆轤整形。口縁・体部：外傾。内面轆轤撫で、ベンガラ付着、外面口縁部横撫で、体部撫で、墨書有り。底部：内面轆轤撫で、外面手持ち篦削り調整。	15,64他	墨書土器酸化焔焼成
2－29	H－9 床直	須恵器 坏	①13.2 ②4.5 ③6.0	①細粒 ②良好 ③淡黄 ④1/2	轆轤整形。口縁・体部：外傾からやや外反。内面轆轤撫、外面口縁部横撫で、体部撫で、墨書有り。底部:内面轆轤撫で、外面手持ち篦削り調整。	21	墨書有り酸化焔焼成
2－27	H－9 床直	須恵器 高台皿	①[13.2] ②3.2 ③[6.6]	①細粒 ②良好 ③ ④1/2	轆轤整形。口縁・体部：大きく外傾斜、内面篦磨き、外面轆轤撫で。底部：外面回転糸切り後断面四角形の高台を取り付け。。全体に内黒処理。	30他	酸化焔焼成
2－30	H－9 覆土	須恵器 羽釜	①[20.2] ②(12.7) ③－	①細粒 ②良好 ③淺黄 ④破片	轆轤整形。口縁部：内傾、内外面轆轤撫で。鍔部：断面三角形状でほぼ水平に付く。胴部：やや膨らみ器最大径、内外面轆轤撫で。底部：欠損	62他	
2－31	H－9 覆土	須恵器 羽釜	①[18.6] ②(13.4) ③－	①細粒 ②良好 ③灰白 ④破片	轆轤整形。口縁部：大きく内傾、内外面轆轤撫で。鍔部：断面三角形状でほぼ水平に付く。胴部：やや膨らみ器最大径、内面轆轤撫で、外面上中位轆轤撫で、下位縦方向篦削り。底部：欠損	6	
2－32	H－9 床直	土師器 甑	①33.8 ②37.6 ③23.4	①細粒 ②良好 ③灰 ④ほぼ完形	轆轤整形。口縁部：ほぼ直立、内外面轆轤撫で。鍔部：断面三角形状でほぼ水平に付く。胴部：内外面轆轤撫で。胴部内面下位に4箇所、段状となる窪み有り。脚部：水平方向に大きく外反。	3,7,8他	
2－33	D－2 覆土	土師器 小甕	①[12.4] ②11.1 ③6.0	①細粒 ②良好 ③にぶい橙 ④4/5	口縁部：直立気味からやや外傾、内外面横撫で。胴部上位にやや膨らみがあり、器最大径となる。内面撫で、外面横方向篦削り。底部：平底、内面撫で、外面篦削り。	2	
2－34	D－2 覆土	土師器 甕	①[18.8] ②(21.4) ③－	①細粒 ②良好 ③にぶい赤褐 ④1/3	口縁部：外傾から緩やかに外反、内外面：横撫で。胴部：上位がやや膨らみ器最大径、内面撫で、外面上位横方向に篦削り、中位縦方向篦削り。底部：欠損。	15,20他	
2－35	D－2 床直	土師器 甕	①[21.4] ②(8.7) ③－	①細粒 ②良好 ③橙 ④破片	口縁部：やや直立気味から緩やかに外反、内外面：横撫で。胴部：上位がやや膨らみ器最大径、内面口縁部近くは撫で、上位撫で後刷毛目処理仕上げ、外面上位横方向に篦削り。底部：欠損。	22	
2－36	D－2 覆土	須恵器 羽釜	①[19.2] ②(12.8) ③－	①細粒 ②良好 ③橙 ④破片	轆轤整形。口縁部：内傾、内外面轆轤撫で。鍔部：断面三角形状で水平に付く。胴部：やや膨らみ器最大径、内外面轆轤撫で。底部：欠損	24	酸化焔焼成
2－37	X52Y87 覆土	須恵器 坏	①[13.2] ②(3.2) ③[9.7]	①細粒 ②良好 ③灰 ④1/3	轆轤整形。口縁・体部：外傾。内外面轆轤撫で。底部：内面轆轤撫で、外面回転篦切り、篦削り調整。		
2－38	表採覆 土	土師器 坏	①[10.8] ②3.9 ③－	①細粒 ②良好 ③橙 ④5/6	口縁部：短く直立からやや内傾、内外面横撫で。底部：やや丸底、内面撫で、外面篦削り。		
2－39	表採覆 土	土師器 坏	①11.2 ②3.6 ③－	①細粒 ②良好 ③橙 ④3/4	口縁部：短く直立からやや内傾、内外面横撫で。底部：丸底、内面撫で、外面篦削り。		

3区

番号	出土遺構 層位	器種名	①口径 ②器高 ③底径	①胎土 ②焼成 ③色調 ④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	登録 番号	備　考
3－1	H－1 床直	土師器 坏	①13.2 ②3.6 ③－	①細粒 ②良好 ③橙 ④完形	口縁部：直立からやや内傾、内外面横撫で。底部：やや丸底、内面撫で。外面篦削り。	75	
3－2	H－1 床直	土師器 甕	①[22.8] ②29.2 ③[6.4]	①細粒 ②良好 ③明赤褐 ④1/2	口縁部：やや直立から外傾、器径最大。内外面：横撫で。胴部：内面撫で。外面上位横方向に篦削り、中下位縦方向篦削り。底部：一部欠損。内面撫で、外面篦削り。	3,8他	
3－3	H－1 覆土	須恵器 蓋	①[15.0] ②3.7 ③－	①細粒 ②良好 ③灰 ④1/3	轆轤整形。天井部：水平から緩やかに傾斜し端部やや内傾。外面轆轤撫で、口径4.2cmの環状つまみを取り付け後回転篦削り。内面轆轤撫で。	15	
3－4	H－1 床直	須恵器 坏	①14.0 ②4.7 ③7.4	①細粒 ②良好 ③灰 ④4/5	轆轤整形。口縁・体部：外傾。内外面轆轤撫で。底部：内面轆轤撫で、外面回転篦切り、手持ち篦削り調整。	11,13	
3－5	H－2 埋甕内	土師器 坏	①13.0 ②3.4 ③－	①細粒 ②良好 ③橙 ④ほぼ完形	口縁部：直立、内外面横撫で。底部：浅い丸底、内面撫で、外面篦削り。	H－1 54	
3－6	H－2 床直	土師器 坏	①16.0 ②2.6 ③14.4	①細粒 ②良好 ③にぶい橙 ④1/3	口縁部：外傾、内外面横撫で。底部：平底、内面撫で一部指圧痕有り、外面篦削り。	40	
3－7	H－2 竈内	土師器 甕	①19.7 ②29.6 ③4.3	①細粒 ②良好 ③にぶい橙 ④2/3	口縁部：やや直立から外反。内外面：横撫で。胴部：内面撫で、外面上位横方向に篦削り、中位縦方向篦削り，粘土付着。器径ほぼ口縁と同じ。底部：内面撫で，外面篦削り。	70,80 他	
3－8	H－2 床直	土師器 甕	①[24.4] ②(19.0) ③－	①細粒 ②良好 ③にぶい橙 ④1/5	口縁部：やや直立からやや外反。内外面：横撫で。胴部：内面撫で、外面上位横方向に篦削り、中位縦方向篦削り、粘土、煤付着。器径ほぼ口縁と同じ。底部：欠損。	H－1 47他	
3－9	H－2 埋設土 器	土師器 甕	①－ ②20.7 ③－	①細粒 ②良好 ③赤褐 ④底部	口縁部：欠損。胴部：内面撫で、外面斜方向に篦削り、器最大径か。底部：中心部欠損。内面撫で、外面篦削り。	H－1 54	
3－10	H－2 床直	須恵器 蓋	①[14.0] ②2.8 ③－	①細粒 ②良好 ③灰 ④1/3	轆轤整形。天井部：水平から緩やかに傾斜し端部垂下。外面轆轤撫で、口径3.6cmの環状つまみを取り付け後回転篦削り。内面轆轤撫で。	H－1 91他	
3－11	H－2 床直	須恵器 坏	①12.2 ②4.85 ③6.5	①細粒 ②良好 ③灰 ④1/2	轆轤整形。口縁・体部：外傾。内外面轆轤撫で。底部：内面轆轤撫で、外面回転糸切り未調整。	39	
3－12	H－2 床直	須恵器 坏	①13.7 ②4.3 ③8.4	①細粒 ②良好 ③灰白 ④ほぼ完形	轆轤整形。口縁・体部：外傾し口縁部やや外反。内外面轆轤撫で。底部：内面轆轤撫で、外面回転篦切り後撫で調整。	H－1 48,50	
3－13	H－2 床直	須恵器 高台椀	①15.0 ②7.5 ③8.6	①細粒 ②良好 ③灰白 ④ほぼ完形	轆轤整形。口縁・体部：外傾。内外面轆轤撫で。底部：内面轆轤撫で、外面回転糸切り後断面四角形の高台を取り付け。	20～ 26	
3－14	H－2 床直	須恵器 高坏	①18.7 ②[12.0] ③12.4	①細粒 ②良好 ③灰 ④2/3	轆轤整形。坏部：蓋の転用と思われる。緩やかに外反。内面轆轤撫で、端部短く直立。外面端部は轆轤撫で。脚部に近い場所は篦削り。脚部：緩やかに外反。外面轆轤撫で、内面撫で、端部垂下。	133他	

番号	出土遺構 層位	器種名	①口径 ②器高 ③底径	①胎土 ②焼成 ③色調 ④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	登録番号	備 考
3－15	H－3 床直	土師器 坏	①[13.4] ②3.3 ③－	①細粒 ②良好 ③にぶい橙 ④1/3	口縁部:短く直立、内外面横撫で。底部:やや丸底、内面撫で、外面篦削り。	5他	
3－16	H－3 覆土	土師器 坏	①[12.3] ②4.5 ③[8.4]	①細粒 ②良好 ③橙 ④1/3	口縁部：外傾、内外面横撫で。底部：平底、内外面撫で。	20	
3－17	H－3 覆土	土師器 坏	①[13.0] ②3.1 ③－	①細粒 ②良好 ③橙 ④1/2	口縁部:短く直立、内外面横撫で。底部:やや丸底、内面撫で、外面篦削り。	19	
3－18	H－3 床直	土師器 甕	①[20.4] ②(18.0) ③－	①細粒 ②良好 ③橙 ④1/3	口縁部：やや直立から外反、器最大径。内外面：横撫で。胴部：内面撫で、外面上位横方向に篦削り、中位縦方向篦削り。底部：欠損。	13,34,35	
3－19	H－3 床直	須恵器 坏	①[12.0] ②3.4 ③[7.0]	①細粒 ②良好 ③黄灰 ④1/2	轆轤整形。口縁・体部：外傾し端部やや外反。内外面轆轤撫で。底部：内面轆轤撫で、外面回転糸切り未調整。	9,40	
3－20	H－3 覆土	須恵器 坏	①[13.4] ②4.0 ③[7.0]	①細粒 ②良好 ③灰 ④1/4	轆轤整形。口縁・体部：外傾。内外面轆轤撫で。底部：内面轆轤撫で、外面回転糸切り未調整。		酸化焔焼成
3－21	H－5 床直	土師器 坏	①14.1 ②4.0 ③9.4	①細粒 ②良好 ③にぶい橙 ④ほぼ完形	口縁部：外傾、内外面横撫で。底部：平底、内面撫で後暗文を施す、外面篦削り。	13,23	暗文
3－22	H－5 床直	土師器 坏	①[14.2] ②3.6 ③[9.2]	①細粒 ②良好 ③にぶい橙 ④1/3	口縁部：外傾、内外面横撫で。底部：平底、内面撫で後暗文を施す、外面篦削り。	5他	暗文
3－23	H－5 竈内	土師器 甕	①[18.2] ②(6.1) ③－	①細粒 ②良好 ③橙 ④破片	口縁部：直立からやや外傾、内外面：横撫で。胴部：内面撫で、外面上位横方向に篦削り、器最大径。底部：欠損。	28,54他	
3－24	H－7 貯蔵穴	土師器 甕	①[20.0] ②(4.7) ③－	①細粒 ②良好 ③橙 ④破片	口縁部：直立から外傾、内外面：横撫で。胴部：内面撫で、外面上位横方向に篦削り、器最大径か。底部：欠損。	58	
3－25	H－7 覆土	土師器 甕	①[18.2] ②(5.3) ③－	①細粒 ②良好 ③橙 ④破片	口縁部：直立から大きく外傾、内面横撫で、外面横撫で一部指押さえ、器最大径か。胴部：内面撫で、外面上位横方向に篦削り。底部：欠損。		
3－26	H－7 覆土	須恵器 高台椀	①[14.9] ②5.96 ③7.8	①細粒 ②良好 ③灰白 ④3/4	轆轤整形。口縁・体部：外傾。内外面轆轤撫で。底部：内面轆轤撫で。外面回転糸切り調整後、断面四角形の高台を取り付け。	20	
3－27	H－7 覆土	須恵器 高台椀	①[15.2] ②5.9 ③7.6	①細粒 ②良好 ③灰白 ④3/5	轆轤整形。口縁・体部：外傾から口縁部外反。内外面轆轤撫で。底部：内面轆轤撫で、外面回転糸切り調整後、断面四角形の高台を取り付け。	H－8 16他	
3－28	H－8 覆土	土師器 甕	①[20.2] ②(5.0) ③－	①細粒 ②良好 ③明赤褐 ④破片	口縁部：直立から大きく外傾、内外面：横撫で。胴部：内面撫で、外面上位横方向に篦削り、器最大径か。底部：欠損。	10	
3－29	H－8 覆土	須恵器 坏	①[11.0] ②3.2 ③[6.6]	①細粒 ②良好 ③灰白 ④1/4	轆轤整形。口縁・体部：外傾し口縁部やや外反。内外面轆轤撫で。底部：内面轆轤撫で、外面回転糸切り未調整。		
3－30	H－8 覆土	須恵器 高台皿	①[12.9] ②2.9 ③6.3	①細粒 ②良好 ③灰 ④4/5	轆轤整形。口縁・体部：大きく外傾、内外面轆轤撫で。底部：内面轆轤撫で、外面回転糸切り後断面四角形の高台を取り付ける	2	酸化焔焼成
3－31	H－9 床下土坑	須恵器 坏	①[12.0] ②3.2 ③5.7	①細粒 ②良好 ③灰白 ④1/4	轆轤整形。口縁・体部：外傾し口縁部やや外反。内外面轆轤撫で。底部：内面轆轤撫で、外面回転篦削り。	129	
3－32	H－9 床直	須恵器 坏	①13.3 ②3.9 ③6.8	①細粒 ②良好 ③灰白 ④ほぼ完形	轆轤整形。口縁・体部：外傾し口縁部外反、内外面轆轤撫で。底部：内面轆轤撫で、外面回転篦削り	40,82	
3－33	H－9 P1	須恵器 高台椀	①[14.4] ②6.0 ③6.6	①細粒 ②良好 ③灰白 ④3/5	轆轤整形。口縁・体部：外傾から口縁部外反。内外面轆轤撫で。底部：内面轆轤撫で、外面回転糸切り調整後、断面四角形の高台を取り付け。	19	
3－34	H－9 覆土	須恵器 高台椀	①[13.3] ②5.8 ③6.8	①細粒 ②良好 ③にぶい褐 ④3/5	轆轤整形。口縁部：外傾から大きく外反、内外面轆轤撫で体部：外傾、内面轆轤撫で、外面中位指押さえ底部付近篦削り。底部：内面轆轤撫で、外面回転糸切り調整後、断面四角形の高台を取り付け。やや雑なつくり。	16,76,80	酸化焔焼成
3－35	H－10 覆土	土師器 坏	①12.4 ②3.2 ③8.2	①細粒 ②良好 ③にぶい橙 ④ほぼ完形	口縁部:外傾短く直立、内面横撫で、外面横撫で底部付近は撫で。底部:平底、内面撫で、外面篦削り。	5,6,7,64	
3－36	H－10 覆土	須恵器 坏	①12.6 ②3.9 ③5.8	①細粒 ②良好 ③灰白 ④ほぼ完形	轆轤整形。口縁・体部：外傾し口縁部外反、内外面轆轤撫で。底部：内面轆轤撫で、外面回転糸切り。	9,10	
3－37	H－10 床直	須恵器 坏	①[13.2] ②3.6 ③[6.8]	①細粒 ②良好 ③灰白 ④1/3	轆轤整形。口縁・体部：外傾、内外面轆轤撫で。底部：内面轆轤撫で、外面回転糸切り	2,76,82	
3－38	H－10 覆土	須恵器 高台皿	①[13.0] ②2.7 ③[7.4]	①細粒 ②良好 ③灰 ④1/3	轆轤整形。口縁・体部：大きく外傾、内外面轆轤撫で。底部：内面轆轤撫で、外面回転糸切り後断面四角形の高台を取り付ける	16	
3－39	H－11 覆土	土師器 甕	①[11.5] ②(4.0) ③－	①細粒 ②良好 ③橙 ④口縁破片	口縁部：直立からやや外傾。内外面：横撫で。胴部：内面撫で、外面上位横方向に篦削り、器最大径か。底部：欠損。	46	
3－40	H－11 床直	須恵器 坏	①[13.6] ②3.8 ③[6.3]	①細粒 ②良好 ③灰白 ④1/3	轆轤整形。口縁・体部：外傾、内外面轆轤撫で、内面黒色処理。底部：内面轆轤撫で、外面回転糸切り	32	
3－41	H－12 床直	須恵器 坏	①[13.2] ②3.4 ③[8.0]	①細粒 ②良好 ③灰白 ④1/3	轆轤整形。口縁・体部：外傾、内外面轆轤撫で。底部：内面轆轤撫で、外面回転篦切り後篦撫で調整。	3	
3－42	H－12 床直	須恵器 坏	①[11.8] ②3.6 ③[7.2]	①細粒 ②良好 ③灰 ④1/4	轆轤整形。口縁・体部：外傾、内外面轆轤撫で。底部：内面轆轤撫で、外面回転篦切り調整。	15	
3－43	H－13 竈内	土師器 甕	①[19.7] ②(11.6) ③－	①細粒 ②良好 ③にぶい橙 ④破片	口縁部：直立から外傾。内外面：横撫で。胴部：内面撫で、外面上位横方向に篦削り、器最大径。底部：欠損。	5,6,8他	
3－44	H－13 竈内	土師器 甕	①[19.0] ②(14.8) ③－	①細粒 ②良好 ③にぶい橙 ④1/2	口縁部：直立から外傾。内外面：横撫で。胴部：内面撫で、外面上位横方向に篦削り、口縁とほぼ同じ器径。外面中位斜位に篦削り。底部:欠損。	30,31他	
3－45	H－13 竈内	須恵器 高台椀	①[13.7] ②5.2 ③6.6	①細粒 ②良好 ③にぶい黄橙 ④3/4	轆轤整形。口縁・体部：外傾から口縁部やや外反。内外面轆轤撫で。底部:内面轆轤撫で、外面回転糸切り調整後、断面四角形の高台を取り付け。	50	酸化焔焼成
3－46	H－13 竈内	須恵器 高台椀	①[14.1] ②(5.1) ③6.9	①細粒 ②良好 ③灰白 ④3/4	轆轤整形。口縁・体部：外傾。内外面轆轤撫で。底部：内面轆轤撫で、外面回転糸切り後、断面四角形の高台を取り付け。	20,23	
3－47	H－14 床直	土師器 坏	①[15.6] ②2.9 ③[13.6]	①細粒 ②良好 ③橙 ④1/2	口縁部：外傾から短く直立、内外面横撫で。交換点に稜有り。底部：やや平底、内面撫で、外面篦削り。	228	
3－48	H－14 床直	土師器 小甕	①[15.6] ②2.9 ③[13.6]	①細粒 ②良好 ③橙 ④1/2	口縁部：外傾から大きく外反、器径最大、内外面横撫で。胴部：内面撫で、外面上位斜方向、中下位横位篦削り。底部：内面撫で、外面篦削り。	18他	
3－49	H－14 床直	土師器 甕	①[21.8] ②(11.1) ③－	①細粒 ②良好 ③橙 ④破片	口縁部：直立から外反。内外面：横撫で。胴部：内面撫で、外面上位横方向に篦削り、器最大径。底部：欠損。	246	
3－50	H－14 床直	須恵器 坏	①[13.0] ②4.3 ③7.6	①細粒 ②良好 ③灰白 ④1/2	轆轤整形。口縁・体部：外傾、内外面轆轤撫で。底部：内面轆轤撫で、外面回転糸切り。	16	
3－51	H－14 床直	須恵器 坏	①[12.8] ②4.4 ③[7.8]	①細粒 ②良好 ③灰白 ④1/4	轆轤整形。口縁・体部：外傾、内外面轆轤撫で。底部：内面轆轤撫で、外面回転糸切り。	51	
3－52	H－14 床直	須恵器 坏	①[12.2] ②4.3 ③[7.2]	①細粒 ②良好 ③灰白 ④1/2	轆轤整形。口縁・体部：外傾、内外面轆轤撫で。底部：内面轆轤撫で、外面回転糸切り未調整。	69	
3－53	H－15 床直	土師器 甕	①－② (18.5) ③4.4	①細粒 ②良好 ③にぶい黄橙 ④底部	口縁部：欠損。胴部：内面撫で、外面上位斜方向に篦削り、器最大径か。底部内面撫で、外面篦削り後、刻書あり。	1,2,24他	

番号	出土遺構 層位	器種名	①口径　②器高 ③底径	①胎土　②焼成 ③色調　④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	登録番号	備　考
3－54	H－16 床直	須恵器 蓋	①14.1　②3.1 ③4.2(摘み)	①細粒　②良好 ③黄灰　④9/10	轆轤整形。天井部：中心は窪み、そこから膨らみ外周へ向けて緩い傾斜で下がっていく。外面回転糸切り、篦調整後、小さい環状の摘みを付ける、中心の窪み周辺を篦削り、内面撫で。端部：外面篦撫で、内面撫で。	30	
3－55	H－16 床直	須恵器 坏	①12.8　②5.3 ③6.9	①細粒　②良好 ③灰白　④完形	轆轤整形。口縁部：外傾、内外面撫で。体部：やや膨らみを持って外傾、内面撫で、外面篦撫で。底部：内面撫で、外面回転糸切り後、付け高台。	38	貯蔵穴出土
3－56	H－17 床直	土師器 甕	①19.9　②(18.5) ③－	①細粒　②良好 ③橙　④4/5	口縁部：「コの字」型、内外面横撫で。胴部：内面撫で、外面上部横位の篦削り、外面中部斜位の篦削り。底部欠損。	23, 覆土	
3－57	H－17 床直	須恵器 坏	①15.9　②5.1 ③7.7	①細粒一部粗粒 ②良好　③灰白　④3/4	轆轤整形。口縁部：外傾、内外面撫で。体部：やや膨らみを持って外傾、内面外面撫で。底部：内面撫で、外面回転糸切り後、付け高台。高台の接着が雑。胎土に混ざる小礫のため、底部に穴が開いている。	12	酸化焔
3－58	H－17 床直	須恵器 坏	①13.1　②3.6 ③6.3	①細粒一部粗粒②良好 ③灰　④口縁一部欠	轆轤整形。口縁・体部：やや膨らみを持って外傾、内外面撫で。底部：内面撫で、外面回転糸切り。胎土に粗粒があるため、表面が凸凹している。	26	
3－59	H－20 覆土	須恵器 坏	①13.5　②3.9 ③6.4	①細粒　③良好 ③灰白　④完形	轆轤整形。口縁・体部：やや膨らみを持って外傾、内外面撫で、内面上位に粘土の輪積み痕有。底部：内面撫で、外面回転糸切り、内面は下へ押し込むように撫で調整をしており、やや窪んでいる。	1	
3－60	H－20 覆土	須恵器 坏	①14.0　②3.8 ③7.3	①細粒　②良好 ③灰白　④9/10	轆轤整形。口縁部：やや外反、内外面撫で。体部：やや膨らみを持って外傾、内外面撫で。底部：内面撫で、外面回転糸切り。整形がやや雑で、少し凸凹した印象を持つ。	2,29, 覆土	
3－61	H－20 覆土	須恵器 坏	①[11.5]　②3.8 ③[5.8]	①細粒　②良好 ③灰白　④1/2	轆轤整形。口縁・体部：外傾、内外面撫で。底部：内面撫で、外面回転糸切り。	3	
3－62	H－23 床直	土師器 坏	①[14.4]　②(3.9) ③－	①細粒　②良好 ③橙　④1/3	口縁体部：短く直立、内外面横撫で。底部：丸底、外面篦削り、内面撫で。	3, 覆土	
3－63	T－1 床直	須恵器 坏	①[12.4]　②4.2 ③[7.0]	①細粒　②良好 ③灰白　④1/3	轆轤整形、外面に自然釉薬。口縁・体部：外傾し口縁端部やや外反、内外面轆轤撫で。底部：内面轆轤撫で、外面回転糸切り。	3	
3－64	T－2 床直	須恵器 高台椀	①16.8　②8.2 ③[9.2]	①細粒　②良好 ③灰白　④4/5	轆轤整形。口縁・体部：外傾。内外面轆轤撫で。底部：内面轆轤撫で、外面回転糸切り後、断面四角形の高台を取り付け。	4	
3－65	T－3 床直	土師器 台付甕	①[13.0]　②(13.7) ③－	①細粒　②良好 ③にぶい赤褐　④3/4	口縁部：やや直立から外傾。内外面：横撫で。胴部：内面撫で、外面上位横方向に篦削り、器最大径。外面中下位縦位に篦削り。台部：ほぼ欠損、内面撫で、外面篦削り。断面四角形の脚を底部整形後取り付け。	36	
3－66	T－3 床直	土師器 高台椀	①16.8　②8.2 ③[9.2]	①細粒　②良好 ③灰白　④4/5	轆轤整形。口縁・体部：外傾、口縁端部やや外反。内外面轆轤撫で。底部：内面轆轤撫で、外面回転糸切り後、断面四角形の高台を取り付け。	50	
3－67	T－4 床直	須恵器 坏	①10.1　②3.3 ③6.2	①細粒　②良好 ③浅黄橙　④口縁一部欠	轆轤整形。口縁部：外反、内外面撫で。体部：底部から膨らみを持って立ち上がり外傾、内外面撫で。底部：内面撫で、外面回転糸切り。	1	酸化焔
3－68	T－4 床直	須恵器 坏	①11.7　②3.6 ③7.0	①中粒　②良好 ③浅黄橙　④3/5	轆轤整形。口縁部：やや外反、内外面撫で。体部：底部からやや直立気味に立ち上がり、口縁部へ向かって膨らみを持って外傾、内外面撫で。底部：内面撫で、外面回転糸切り、外面に縄目が残っている。	20,21 22	酸化焔
3－69	T－4 床直	須恵器 高台皿	①[11.8]　②4.0 ③[7.6]	①細粒　②良好 ③にぶい橙　④1/2弱	轆轤整形。口縁・体部：外傾、内外面撫で。底部：回転糸切り後、2cm弱の高さの外反する高台を付ける。	17	酸化焔
3－70	W－3 覆土	土師器 坏	①20.6　②9.7 ③8.8	①細粒　②良好 ③灰白　④ほぼ完形	口縁部：外傾、内面横撫で後暗文を施す、外面横撫で。底部：平底、内面撫で、線刻らしき線有り、外面篦削り。		暗文
3－71	W－3 覆土	須恵器 円面硯	①[13.0]　②(1.2) ③－	①細粒　②良好 ③灰白　④破片	轆轤整形。内面回転篦削り、外面轆轤撫で。外縁部に断面三角形の把手を削りだして付ける。		
3－72	W－3 覆土	陶器 卸皿	①－　②0.8 ③[5.9]	①細粒　②良好 ③灰黄　④破片	轆轤整形。内面：轆轤撫で後、刻みを入れる。外面：回転糸切り未調整、釉薬付着か。		
3－73	W－4 覆土	カワラケ	①[14.4]　②[2.4] ③8.6	①細粒　②良好 ③橙　④1/4	轆轤整形。口縁・体部：外傾、内外面撫で。底部：内面撫で、外面回転糸切り後、撫で調整。	1	
3－74	D－1 覆土	須恵器 小型坏	①10.0　②2.5 ③5.4	①細粒　②良好 ③浅黄橙④ほぼ完形	轆轤整形。口縁部：外傾、口縁端部やや外反、内外面轆轤撫で。底部：平底、内面轆轤撫で、外面回転糸切り未調整。		酸化焔焼成
3－75	D－3 床直	土師器 小甕	①12.8　②13.7 ③5.0	①細粒②良好③橙④ほぼ完形	口縁部：やや直立から外反。内外面：横撫で。胴部：内面撫で、外面上位横方向に篦削り、器最大径、中下位斜位に篦削り。底部：内面撫で、外面篦削り。	1	
3－76	D－3 覆土	土師器 台付甕	①[13.2]　②[19.3] ③－	①細粒　②良好 ③橙　④3/4	口縁部：やや直立から外傾。内外面：横撫で。胴部：内面撫で、外面上位横方向に篦削り、器最大径。外面中下位縦位に篦削り。脚部：、内面撫で、外面篦削り、胴部との接点付近は横撫で。断面四角形の脚を底部整形後取り付け、設置部分やや外反。		
3－77	I－1 覆土	土師器 坏	①12.0　②3.1 ③－	①細粒　②良好 ③橙　④ほぼ完形	口縁部：外傾、内面横撫で、外面横撫で底部近く撫で。底部：やや平底、内面撫で、外面篦削り。		
3－78	I－1 覆土	土師器 坏	①11.6　②3.6 ③－	①細粒　②良好 ③橙　④ほぼ完形	口縁部：短く直立しやや内傾、内外面横撫で。底部：丸底、内面撫で、外面篦削り。		
3－79	I－1 覆土	土師器 坏	①[12.3]　②3.4 ③－	①細粒　②良好 ③明赤褐　④1/3	口縁部：外傾、内面横撫で、外面横撫で底部付近篦削り。底部：平底、内面撫で、外面篦削り。		
3－80	I－1 覆土	土師器 甕	①27.2　②(11.7) ③－	①細粒　②良好 ③橙　④1/2	口縁部：外反。内外面：横撫で、器最大径。胴部：内面撫で、外面斜位に篦削り。底部：欠損、意図的か。		
3－81	I－1 覆土	須恵器 高台椀	①[16.9]　②4.4 ③[12.8]	①細粒　②良好 ③灰　④1/3	轆轤整形。口縁・体部：外傾。内外面轆轤撫で。底部：内面轆轤撫で、外面回転篦削り調整後、削り出し高台を施す。		
3－82	I－1 覆土	須恵器 大甕	①[25.4]　②(10.8) ③－	①細粒　②良好 ③灰　④口縁破片	轆轤整形。口縁部：外反、口縁部やや外傾。内外面：横撫で。胴部：内面轆轤撫で、外面一部叩き目。底部：欠損。		
3－83	O－1 床直	土師器 坏	①13.45　②3.4 ③－	①細粒　②良好 ③橙　④ほぼ完形	口縁部：外傾、内外面横撫で。底部：やや平底、内面撫で、外面篦削り。	230 407	
3－84	O－1 床直	土師器 坏	①12.4　②3.5 ③－	①細粒　②良好 ③橙　④3/4	口縁部：直立、内外面横撫で。底部：丸底、内面撫で指圧痕有り、外面篦削り。	293他	
3－85	O－1 床直	土師器 坏	①12.8　②3.4 ③－	①細粒　②良好 ③橙　④ほぼ完形	口縁部：直立、内外面横撫で。底部：やや丸底、内面撫で、外面篦削り。	255	
3－86	O－1 床直	土師器 坏	①12.7　②3.7 ③－	①細粒　②良好 ③橙　④ほぼ完形	口縁部：直立、内外面横撫で。底部：丸底、内面撫で指圧痕有り、外面篦削り。	257 347	
3－87	O－1 床直	土師器 坏	①11.5　②3.7 ③－	①細粒　②良好 ③明赤褐　④3/4	口縁部：直立、内外面横撫で。底部：丸底、内面撫で、外面篦削り。	358 379	

番号	出土遺構 層位	器種名	①口径 ②器高 ③底径	①胎土 ②焼成 ③色調 ④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	登録 番号	備　考
3－88	O－1 床直	土師器 坏	①10.8 ②3.8 ③－	①細粒 ②良好 ③橙 ④完形	口縁部：外傾、内外面横撫で。底部：丸底、内面撫で、外面篦削り。	363 374	
3－89	O－1 床直	土師器 坏	①11.4 ②3.5 ③－	①細粒 ②良好 ③橙 ④完形	口縁部：直立、内外面横撫で。底部：丸底、内面撫で指圧痕有り、外面篦削り。	51 59	
3－90	O－1 床直	土師器 坏	①12.4 ②3.4 ③－	①細粒 ②良好 ③にぶい橙 ④完形	口縁部：外傾、内外面横撫で。底部：丸底、内面撫で指圧痕有り、外面篦削り。	362 378	
3－91	O－1 床直	土師器 坏	①11.6 ②3.4 ③－	①細粒 ②良好 ③橙 ④4/5	口縁部：外傾、内外面横撫で。底部：丸底、内面撫で、外面篦削り。	26	
3－92	O－1 床直	土師器 坏	①17.8 ②4.1 ③－	①細粒 ②良好 ③橙 ④4/5	口縁部：外傾、内外面横撫で。交換点に稜有り。底部：やや平底、内面撫で、外面篦削り。	375	
3－93	O－1 覆土	土師器 坏	①11.8 ②3.3 ③－	①細粒 ②良好 ③橙 ④1/2	口縁部：短く直立、内外面横撫で。底部：やや平底、内面篦削り後撫で、外面篦削り。	377	
3－94	O－1 覆土	土師器 坏	①[11.8] ②3.8 ③－	①細粒 ②良好 ③橙 ④1/3	口縁部：短く直立し少し内傾、内外面横撫で。底部：丸底、内面撫で、外面篦削り。	27 146	
3－95	O－1 覆土	土師器 坏	①16.4 ②4.6 ③－	①細粒 ②良好 ③灰褐 ④5/6	口縁部：外傾から大きく外反、内外面横撫で。底部：やや丸底、内面撫で、外面篦削り。	4, 49,52	
3－96	O－1 覆土	土師器 坏	①13.8 ②4.0 ③－	①細粒 ②良好 ③橙 ④3/4	口縁部：直立、内外面横撫で。底部：やや平底、内面撫で、外面篦削り。	20	
3－97	O－1 覆土	土師器 坏	①15.2 ②4.3 ③－	①細粒 ②良好 ③にぶい橙 ④ほぼ完形	口縁部：直立、内外面横撫で。底部：やや平底、内面撫で、外面篦削り。	61,68 他	
3－98	O－1 覆土	土師器 坏	①11.5 ②3.0 ③－	①細粒 ②良好 ③橙 ④3/4	口縁部：直立、内外面横撫で。底部：やや平底、内面撫で、外面篦削り。	535他	
3－99	O－1 覆土	土師器 坏	①[15.6] ②3.8 ③－	①細粒 ②良好 ③橙 ④3/4	口縁部：外傾からやや外反、内外面横撫で。底部：やや丸底、内面撫で、外面篦削り。		
3－100	O－1 覆土	土師器 坏	①11.8 ②3.7 ③－	①細粒 ②良好 ③にぶい橙 ④ほぼ完形	口縁部：直立からやや内傾、内外面横撫で。底部：やや丸底、内面撫で、外面篦削り。		
3－101	O－1 覆土	土師器 甕	①[24.6] ②(17.9) ③－	①細粒 ②良好 ③橙 ④1/3	口縁部：外反。内外面横撫で。胴部：中位器最大径。内面撫で、外面上位横位、中位斜位に篦削り。底部：欠損。		
3－102	O－1 覆土	須恵器 蓋	①18.2 ②2.6 ③－	①細粒 ②良好 ③褐灰 ④2/3	轆轤整形。天井部：水平から緩やかに傾斜し端部に返り有り。外面轆轤撫で、口径6.2cmの環状つまみを取り付け後篦削り。内面轆轤撫で。一部自然釉付着。	353	
3－103	O－1 覆土	須恵器 高坏	①[16.7] ②(4.0) ③－	①細粒 ②良好 ③灰 ④坏部破片	轆轤整形。坏部：緩やかに外傾、内面轆轤撫で、端部やや外反。外面端部は轆轤撫で。脚部に近い場所は回転篦削り。脚部：欠損。	36	
3－104	O－1 覆土	須恵器 坏	①[11.7] ②3.5 ③[7.6]	①細粒 ②良好 ③灰 ④1/3	轆轤整形。口縁・体部：外傾、内面轆轤撫で、外面中位轆轤撫で、底部付近は回転篦削り。底部：内面轆轤撫で、外面回転篦削り。	303他	
3－105	O－1 覆土	須恵器 高台椀	①15.4 ②3.8 ③11.4	①細粒 ②良好 ③灰 ④完形	轆轤整形。口縁・体部：体部にやや膨らみを持ちながら外傾。内面轆轤撫で、外面轆轤撫で底部付近回転篦削り調整。底部：内面轆轤撫で、外面回転篦削り調整後削り出し高台を施す。	276他	
3－106	O－1 覆土	須恵器 高台椀	①[9.6] ②4.2 ③6.8	①細粒 ②良好 ③灰 ④1/2	轆轤整形。口縁・体部：外傾。内外面轆轤撫で。底部：内面轆轤撫で。外面回転糸切り後、断面四角形の高台を取り付け、撫で調整。	311	
3－107	O－1 床直	須恵器 甕	①25.6 ②(8.2) ③－	①細粒 ②良好 ③灰 ④口縁破片	轆轤整形。口縁部：外反。内外面：横撫で。胴部：内面轆轤撫で、外面一部叩き目。底部：欠損。	6,56 他	
3－108	O－1 床直	須恵器 甕	①[21.0] ②(9.0) ③－	①細粒 ②良好 ③灰 ④口縁破片	轆轤整形。口縁部：外反。内外面：横撫で。胴部：内面轆轤撫で、外面一部叩き目。内外面自然釉付着。底部：欠損。	35	
3－109	O－1 覆土	須恵器 甕	①22.4 ②(8.2) ③－	①細粒 ②良好 ③灰白 ④口縁破片	轆轤整形。口縁部：外反。内外面轆轤撫で。胴部：内面轆轤撫で、外面一部叩き目有り。底部：欠損。	41	
3－110	O－1 床直	須恵器 甕	①－ ②18.7 ③－	①中粒 ②良好 ③灰 ④1/2	轆轤整形。口縁部：ほぼ欠損、内外面轆轤撫で。胴部：中位器最大径。内外面轆轤撫で、一部叩き痕有り、中位に断面四角形の摘み有り。底部：一部欠損。内面轆轤撫で、外面篦削り調整。	296,12 他	
3－111	O－1 床直	須恵器 大甕	①26.5 ②(7.5) ③－	①細粒 ②良好 ③灰 ④口縁破片	轆轤整形。口縁部：外反。内外面轆轤撫で。胴部,底部：欠損。	576,76 他	
3－112	O－1 覆土	須恵器 円面硯	①[12.8] ②(1.0) ③－	①細粒 ②良好 ③灰 ④破片	轆轤整形。内面回転篦削り、外面轆轤撫で。外縁部に断面四角形の把手を取り付け。		

4区

番号	出土遺構 層位	器種名	①口径 ②器高 ③底径	①胎土 ②焼成 ③色調 ④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	登録 番号	備　考
4－1	H－1	土師器 坏	①[12.4] ②[3.3] ③－	①細粒 ②良好 ③橙 ④1/4	口縁・体部：ほぼ直立、内外面撫で。底部：丸底、内面撫で、外面篦削り。	X25Y89 12	
4－2	H－1	土師器 甕	①[19.6] ②(10.8) ③－	①細粒 ②良好 ③橙 ④口縁・底部1/4のみ	口縁部：「コの字」型、内外面横撫で。胴部：内面横撫で、外面上部横位の篦削り。底部欠損。	23	
4－3	H－1	土師器 甕	①[20.0] ②(13.8) ③－	①細粒②良好③明赤褐 ④口縁・胴部の一部のみ	口縁部:「くの字」型、内外面横撫で。胴部:内面撫で、外面斜位の篦削り。底部欠損。	X25Y89 16	
4－4	H－1	須恵器 坏	①[12.2] ②3.5 ③6.5	①細粒 ②良好 ③黄灰 ④1/2	轆轤整形。口縁部：外反、内外面撫で。体部：膨らみを持って外傾、内外面撫で。底部：内面撫で、外面回転糸切り。	25, カマド	
4－5	H－1	須恵器 坏	①[12.9] ②3.6 ③[9.2]	①細粒 ②良好 ③灰 ④1/2弱	轆轤整形。口縁・体部：外傾、内外面撫で。底部：内面撫で、外面回転篦削り。	覆土	
4－6	H－1	須恵器 高台椀	①16.1 ②5.8 ③8.3	①細粒 ②良好 ③灰白一部にぶい橙 ④口縁一部欠	轆轤整形。口縁部：やや外反、内外面撫で。体部：膨らみを持って外傾、内外面撫で。底部：内面撫で、外面回転糸切り後、付け高台。	12	酸化焔
4－7	H－1	須恵器 高台椀	①15.2 ②6.0 ③7.5	①細粒 ②良好 ③灰白 ④1/3	轆轤整形。口縁部:やや外反、内外面撫で。体部:やや膨らみを持って外傾、内外面撫で。底部：内面撫で、外面回転糸切り後、やや外反する高台を付ける。底部内面に他の土器と重ね焼きしたと思われる粘土の付着痕有。	X25Y89 覆土	

番号	出土遺構 層位	器種名	①口径 ②器高 ③底径	①胎土 ②焼成 ③色調 ④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	登録 番号	備 考
4－8	H－2 床直	土師器 小型甕	①11.1 ②(8.7) ③－	①細粒 ②良好 ③明赤褐 ④1/3	口縁部：やや外反、内外面横撫で。胴部：丸みを帯びる、内面撫で、外面斜位の篦削り。底部欠損。	29,32	
4－9	H－2 覆土	土師器 甕	①[23.2] ②(12.7) ③－	①細粒②良好 ③橙 ④口縁・胴部の一部のみ	口縁部：「くの字」型、内外面横撫で。胴部：内面撫で、外面上部横位の篦削り・以下斜位の篦削り。底部欠損。	42,他	

5区

番号	出土遺構 層位	器種名	①口径 ②器高 ③底径	①胎土 ②焼成 ③色調 ④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	登録 番号	備 考
5－1	H－1 覆土	土師器 坏	①[14.5] ②4.4 ③9.0	①細粒 ②良好 ③にぶい橙 ④1/2	口縁部：やや外反、内外面横撫で。体部:外傾、内面撫で、外面横位の篦削り。底部：やや丸みを帯びるが平底に近い、内面撫で、外面篦削り。放射状文有。	34,35 覆土	暗文
5－2	H－1 覆土	土師器 坏	①[13.4] ②3.9 ③－	①細粒 ②良好 ③橙 ④1/2弱	口縁・体部：短く直立、内外面横撫で。底部：丸底、内面撫で、外面篦削り。放射状文有。	覆土	暗文
5－3	H－1 覆土	土師器 坏	①[12.2] ②(3.8) ③－	①細粒 ②良好 ③橙 ④1/3弱	口縁・体部:短く直立、内外面横撫で。底部:丸底、内面撫で、外面篦削り。	覆土	
5－4	H－1 覆土	土師器 坏	①－ ②－ ③－	①細粒 ②良好 ③橙 ④底部破片	底部：内面撫で、外面篦削り。内面に篦書きで「五芒星」有。	覆土	篦書き
5－5	H－1 覆土	土師器 坏	①[14.7] ②4.5 ③[9.0]	①細粒 ②良好 ③橙 ④1/2	口縁部：やや外反、内外面横撫で。体部：外傾、外面篦削り、内面撫で。底部：やや丸みを帯びた平底。体・底部外面が凸凹している。	覆土	
5－6	H－1 覆土	土師器 小型甕	①[10.4] ②(10.3) ③－	①細粒 ②良好 ③にぶい橙 ④1/3	口縁部：やや外反、内外面横撫で。胴部：膨らみを持つ、内面撫で、外面上部に縦位の篦削り、外面下部に横位の篦削り。底部欠損。	30	
5－7	H－5 覆土	土師器 坏	①13.4 ②3.5 ③－	①細粒 ②良好 ③橙 ④ほぼ完形	口縁部：やや内傾、内外面撫で。体部：やや膨らみを持って外傾、内面撫で、外面篦削り後、撫で。底部：丸底、内面撫で、外面篦削り。	1	
5－8	H－5 覆土	土師器 坏	①13.1 ②3.1 ③－	①細粒 ②良好 ③にぶい橙 ④2/3弱	口縁・体部：外傾から直立、内外面横撫で。底部：丸底、内面撫で、外面篦削り。	2	
5－9	D－1 床直	土師器 坏	①[13.5] ②(3.5) ③－	①細粒 ②良好 ③橙 ④1/4	口縁・体部:短く直立、内外面横撫で。底部:丸底、内面撫で、外面篦削り。	4	
5－10	D－1 覆土	須恵器 蓋	①[12.9] ②3.6 ③1.7(摘み)	①細粒 ②良好 ③灰白 ④1/2強	轆轤整形。天井部：中心部が高くなっており、そこから外周へ向けて緩い傾斜で下がっていく。外面回転糸切り、撫で調整後、擬宝珠状の摘みを付ける、内面撫で。端部：内外面撫で。	11	
5－11	D－1 覆土	須恵器 坏	①[13.6] ②4.0 ③7.7	①細粒 ②良好 ③灰白 ④1/2	轆轤整形。口縁部:外傾、内外面撫で。体部:外傾:内外面撫で。口縁部・体部の外面の境目に撫で残したような帯状の膨らみを持つ。底部：内面撫で、外面回転篦削り後、雑な撫で調整、外面中心に歪に粘土が残る。	6	
5－12	D－1 床直	須恵器 坏	①11.4 ②3.4 ③7.0	①細粒 ②良好 ③灰 ④完形	轆轤整形。口縁部：外傾、内外面撫で。体部：やや膨らみを持って外傾、内面撫で、外面撫で後、下部を篦削り。底部：内面撫で、外面回転糸切り後、外周を篦撫で。	13	
5－13	D－1 覆土	須恵器 高台椀	①[13.6] ②6.8 ③[8.0]	①細粒 ②良好 ③黄灰 ④1/3	轆轤整形。口縁・体部：外傾、内外面撫で。底部：回転篦削り後、付け高台。底部内面の中心が窪む。	12	
5－14	W－3 覆土	須恵器 坏	①[11.1] ②4.7 ③3.6	①細粒 ②良好 ③灰 ④1/2強	轆轤整形。口縁部：外反する、内外面撫で。体部：膨らみを持って外傾、内外面撫で。底部：内面撫で、外面回転糸切り。	1	

6区

番号	出土遺構 層位	器種名	①口径 ②器高 ③底径	①胎土 ②焼成 ③色調 ④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	登録 番号	備 考
6－1	H－5 覆土	須恵器 蓋	①(10.0) ②(4.7) ③－	①中粒 ②良好 ③灰 ④1/2	天井部回転ヘラ削り後に米の窯印。受け腰部やや張りをもつ。轆轤整形。		
6－2	X152 Y163	須恵器 高台椀	①14.4 ②5.5 ③7.1	①粗粒 ②還元焔 ③灰黄 ④口縁若干欠	短くハの字状の高台を付し、体部は内湾して開く。口唇部はやや肥大して丸くなる。轆轤整形。底部回転糸切り		

7区

番号	出土遺構 層位	器種名	①口径 ②器高 ③底径	①胎土 ②焼成 ③色調 ④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	登録 番号	備 考
7－1	H－1 覆土	須恵器 坏	①12.6 ②2.9 ③5.2	①細粒 ②良好 ③暗灰 ④完形	轆轤整形。口縁・体部：外傾、内外面撫で。底部：内面撫で、外面回転糸切り。	1	酸化焔
7－2	H－1 床直	須恵器 坏	①12.9 ②4.7 ③5.7	①細粒 ②良好 ③灰 ④はぼ完形	轆轤整形。口縁・体部：底部から丸みを帯びて立ち上がり外反、内外面撫で。底部：回転糸切り後、外周部分を撫で。	13	酸化焔
7－3	H－1 床直	須恵器 高台椀	①12.2 ②4.2 ③7.1	①細粒一部に中粒 ②良好 ③灰白 ④ほぼ完形	轆轤整形。口縁・体部：やや膨らみを持って外傾、内外面撫で。底部：内面撫で、外面回転糸切り後、付け高台。口唇部にタール状の付着物有。	12	酸化焔
7－4	H－1 床直	須恵器 高台椀	①13.6 ②4.4 ③6.5	①細粒 ②良好 ③黒褐 ④9/10	轆轤整形。口縁部：外反、内外面撫で。体部：やや膨らみを持って外傾。内外面撫で。底部：内面撫で、外面回転糸切り後、付け高台。高台の接着後の撫で調整が雑。	16	酸化焔
7－5	H－1 覆土	灰釉陶器 高台椀	①16.3 ②6.3 ③[7.4]	①細粒 ②良好 ③灰白 ④1/2	轆轤整形。口縁部：やや外反、内外面撫で。体部：丸みを帯びて外傾、内外面撫で。底部：内面撫で、外面回転篦削り後、付け高台。	25	大原窯式
7－6	H－2 床直	須恵器 高台椀	①[13.0] ②4.9 ③[6.6]	①細粒 ②良好 ③灰黄褐 ④1/2	轆轤整形。口縁部：外反、内外面撫で。体部：やや膨らみを持って外傾、内外面撫で。底部：内面撫で、外面回転糸切り後、付け高台。高台の接着後の撫で調整が雑。	2	酸化焔
7－7	H－2 覆土	須恵器 高台椀	①[14.4] ②5.7 ③[6.6]	①細粒 ②良好 ③灰白 ④2/3弱	轆轤整形。口縁部:やや外反、内外面撫で。体部:やや膨らみを持って外傾、内外面撫で。底部：回転糸切り後、断面「ハの字」状の高台を付ける。	8	酸化焔
7－8	H－3 覆土	土師器 坏	①11.9 ②3.0 ③7.9	①細粒 ②良好 ③橙 ④ほぼ完形	口縁・体部：外傾、内外面撫で、体部に指圧痕有。底部：ほぼ平底、内面撫で、外面篦削り。器全体に煤付着。	1	

番号	出土遺構 層位	器種名	①口径 ②器高 ③底径	①胎土 ②焼成 ③色調 ④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	登録 番号	備 考
7－9	H－4 床直	土師器 坏	①[12.4] ②3.0 ③8.5	①細粒 ②良好 ③にぶい赤褐 ④2/3	口縁・体部：外傾、口縁部内外面横撫で、体部外面篦削り、内面撫で。底部：ほぼ平底、内面撫で、外面篦削り。全体的に凸凹していて雑な作り。	6,23 24	
7－10	H－4 覆土	須恵器 坏	①14.4 ②4.2 ③5.5	①細粒 ②良好 ③橙 ④ほぼ完形	口縁・体部：下部は膨らみを持って外傾し、中部でややくびれを持ち、上部では直線的に外傾する、内外面撫で。底部：内面撫で、外面回転糸切り。器全体に煤が斑に付着。	3	酸化焔
7－11	H－4 床直	須恵器 高台皿	①[13.2] ②2.4 ③[8.0]	①細粒 ②良好 ③黄灰 ④1/2	轆轤整形。口縁・体部：大きく外傾、内外面撫で。底部：内面撫で、外面回転糸切り後、付け高台。	1	
7－12	H－5 床直	土師器 甕	①[22.4] ②(18.2) ③－	①細粒 ②良好 ③明赤褐 ④1/6	口縁部：「コの字」型、内外面横撫で。胴部：内面横撫で、外面上部横位の篦削り、外面中部斜位の篦削り。底部欠損。	56,57	
7－13	H－5 床直	須恵器 高台椀	①13.0 ②5.9 ③2.9	①細粒 ②良好 ③黄灰 ④4/5	轆轤整形。口縁部：外反、内外面撫で。体部：外傾、内外面撫で。底部：回転糸切り後、付け高台。	64 覆土	
7－14	H－6 覆土	土師器 甕	①15.5 ②30.7 ③10.4	①細粒 ②良好 ③浅黄橙 ④4/5	口縁部：「S字」型、内外面横撫で。胴部：イチジク型、内面撫で、外面上部は土器に向かい右上から左下への斜位の刷毛撫で、外面中・下部は土器に向かい左上から右下への斜位、あるいは真下への刷毛撫で。脚部：内面斜位の撫で、外面撫で、外面上位に土器に向かい左上から右下への斜位の刷毛撫で、脚部下端は内側へ折り返している。	8	石田川式
7－15	H－7 覆土	土師器 坏	①12.6 ②3.6 ③8.4	①細粒 ②良好 ③橙 ④口縁一部欠	口縁部：やや外反、内外面横撫で。体部：膨らみを持って外傾、内面横撫で、外面撫で。底部：内外面撫で。底部に渦巻状の筋有り。	2	
7－16	H－7 覆土	須恵器 坏	①[12.8] ②3.6 ③5.7	①中粒 ②良好 ③灰白 ④1/2強	轆轤整形。口縁・体部：やや膨らみを持って外傾、内外面撫で。底部：内面撫で、外面回転糸切り。	1	
7－17	H－8 覆土	土師器 坏	①12.0 ②4.1 ③－	①細粒 ②良好 ③橙 ④1/2	口縁・体部：外傾、内外面横撫で、底部との交換点に稜有。底部：丸底、内面撫で、外面篦削り。	1	
7－18	H－10 床直	須恵器 坏	①12.4 ②3.3 ③6.4	①細粒 ②良好 ③灰オリーブ ④2/3	轆轤整形。口縁・体部：外傾、内外面撫で。底部：内面撫で、外面回転糸切り。	87	酸化焔
7－19	H－10 床直	須恵器 高台皿	①14.0 ②3.0 ③7.3	①細粒 ②良好 ③にぶい橙 ④3/5	轆轤整形。口縁・体部：外反、内面撫で・篦磨き、外面撫で。底部：内面撫で・篦磨き、外面回転糸切り後、付け高台。	19	酸化焔 内面黒色処理
7－20	H－11 覆土	須恵器 坏	①12.4 ②3.6 ③5.4	①細粒 ②良好 ③灰白 ④2/3	轆轤整形。口縁・体部：膨らみを持って外傾、内外面撫で。底部：内面撫で、外面回転糸切り。	15	
7－21	H－11 覆土	須恵器 蓋	①13.0 ②3.4 ③6.8	①細粒 ②良好 ③灰白 ④9/10	轆轤整形。口縁部：やや外反、内外面撫で。体部：膨らみを持って外傾、内外面撫で。底部：内面撫で、外面回転糸切り。	9	
7－22	H－11 床直	須恵器 坏	①11.9 ②3.8 ③5.8	①細粒 ②良好 ③灰 ④ほぼ完形	轆轤整形。口縁部：やや外反、内外面撫で。体部：やや膨らみを持ち外傾。内外面撫で。底部：内面撫で、外面回転糸切り。	19	
7－23	H－11 床直	須恵器 坏	①[15.6] ②4.8 ③8.7	①細粒 ②良好 ③灰白 ④1/2	轆轤整形。口縁・体部：やや膨らみを持って外傾、内外面撫で。底部：内面撫で、外面回転糸切り後、高台を付けた痕跡が有るが、高台の大部分は剥がれてしまったようだ。わずかに高台の粘土が残っている。	10, 覆土	酸化焔
7－24	H－11 覆土	須恵器 高台椀	①[17.2] ②4.6 ③[8.0]	①細粒 ②良好 ③黄灰 ④1/2弱	轆轤整形。口縁・体部：底部から膨らみを持って立ち上がり外傾する、内外面撫で。底部から体部へ立ち上がる部分を篦削り。底部：内面撫で、外面回転篦削り、高さ４mmほどの短い高台を付ける。	13,20	
7－25	H－11 覆土	灰釉陶器 高台椀	①[15.8] ②[5.1] ③[7.5]	①細粒 ②良好 ③オリーブ灰 ④1/3	轆轤整形。口縁部：外反、内外面撫で。体部：丸みを帯びて外傾、内外面撫で。底部：回転篦削り後、付け高台。釉は刷毛塗り。	12	光ヶ丘窯式
7－26	H－12 竈	土師器 甕	①21.1 ②(23.6) ③－	①細粒 ②良好 ③にぶい橙 ④4/5	口縁部：「コの字」型。内面撫で、外面に指圧痕や、横撫で後、斜位の撫でを加えた痕跡が顕著に残る。胴部：内面撫で、外面上部横位の篦削り、下部は斜位の篦削り、一部縦位の篦削り。底部欠損。器の厚みが薄く、割れやすい印象。底部を破損させて、竈の煙道に転用されていた。	12	竈の煙道に使用
7－27	H－12 覆土	土師器 甕	①20.0 ②(17.8) ③－	①細粒 ②良好 ③にぶい褐 ④1/2	口縁部：「コの字」型、内面外面横撫で。胴部：内面撫で、外面上部横位の篦削り、中部以下縦位の篦削り。底部欠損。	X41Y188 No.1	煙道使用の可能性有り
7－28	H－12 覆土	須恵器 高台椀	①[13.4] ②3.6 ③6.3	①細粒 ②良好 ③灰白 ④1/3	轆轤整形。口縁・体部：外傾、内外面撫で。底部：内面撫で。外面回転糸切り後、付け高台。	4,5	酸化焔
7－29	H－12 床直	須恵器 高台椀	①[17.7] ②7.5 ③[7.7]	①細粒 ②良好 ③灰白 ④1/2	轆轤整形。口縁部：やや外反、内外面撫で。体部：やや膨らみを持って外傾、内外面撫で。底部：内面撫で、外面回転糸切り後、付け高台。	8,9	酸化焔
7－30	H－12 竈	須恵器 長頸瓶	①－ ②(16.3) ③[10.9]	①細粒 ②良好 ③灰黄 ④胴部・底部の一部のみ	轆轤整形。口縁・頸部欠。胴部：上部が器最大径、内外面撫で。底部：付け高台、大部分が欠損。	11,他	竈の煙道に使用
7－31	H－12 覆土	緑釉陶器 稜椀	①(15.4) ②(4.2) ③[8.4]	①緻密 ②良好 ③灰オリーブ ④1/2	轆轤整形。素地は灰白。口縁部欠損。体部：稜を有する。底部：内面に内面に篦書きの陰刻花文有、断面四角形の付け高台。半分ほどが焼け爛れている。	H－10 No.1	尾張黒笹９０窯式
7－32	P－4 覆土	須恵器 蓋	①[17.0] ②3.8 ③4.6(摘み)	①中粒 ②良好 ③灰白 ④2/3	轆轤整形。天井部：中心部がやや窪み、中心から半径4.5cmほどが高くなっている。そこから外周へ向けて緩い傾斜で下がっていく。外面回転糸切り、撫で調整後、環状の摘みを付ける、内面撫で。端部：内外面撫で。	1	

8区

番号	出土遺構 層位	器種名	①口径 ②器高 ③底径	①胎土 ②焼成 ③色調 ④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	登録 番号	備 考
8－1	H－2 覆土	須恵器 小型坏	①9.6 ②2.6 ③5.6	①細粒 ②良好 ③灰白 ④2/3強	轆轤整形。口縁・体部：底部から丸みを帯びて立ち上がり、やや外反、内外面撫で。底部：内面撫で、外面回転糸切り。	3	酸化焔
8－2	H－4 床直	土師器 甕	①[21.5] ②(17.1) ③－	①細粒 ②良好 ③橙 ④1/4	口縁部：「コの字」型、内外面横撫で。胴部：内面横撫で、外面横位の篦削り。底部欠損。	1	
8－3	H－4 床直	灰釉陶器 高台皿	①[16.2] ②2.7 ③8.0	①細粒 ②良好 ③灰白 ④1/2	轆轤整形。口縁・体部：大きく外反、内外面撫で。底部：内面撫で、外面下位点篦削り後、付け高台。内面に他の器と重ね焼きを行った痕跡有。釉は刷毛塗り。刷毛で器内面の外周を塗り、その後、円の中央を縦一直線に塗る。	4	光ヶ丘式古手
8－4	H－5 覆土	須恵器 坏	①11.7 ②4.1 ③6.4	①細粒 ②良好 ③灰 ④9/10	轆轤整形。口縁部：外反、内外面撫で。体部：膨らみを持って外傾、内外面撫で。底部：内面撫で、外面回転糸切り。口唇部にタール状の付着物有。	16,17	
8－5	H－5 床直	須恵器 坏	①[11.9] ②4.3 ③6.3	①中粒 ②良好 ③灰白 ④1/2	轆轤整形。口縁部：やや外反、内外面撫で。体部：やや膨らみを持って外傾、内外面撫で。底部：内面撫で、外面回転糸切り。２～３mmほどの膨らみが無数にあり、器表面が凸凹している。	36,他	
8－6	H－5 床直	須恵器 高台椀	①[15.0] ②6.0 ③[8.2]	①中粒 ②良好 ③灰 ④1/2弱	轆轤整形。口縁・体部：外傾、内外面撫で。底部：内面撫で、外面回転糸切り後、付け高台。２～３mmほどの膨らみが無数にあり、器表面が凸凹している。	28	

番号	出土遺構 層位	器種名	①口径 ②器高 ③底径	①胎土 ②焼成 ③色調 ④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	登録 番号	備 考
8－7	H－7 床直	土師器 坏	①[11.7] ②3.4 ③9.2	①細粒 ②良好 ③橙 ④1/2弱	口縁部：やや外反、内外面横撫で。底部：丸みを帯びた平底、内面撫で、外面篦削り。	6	
8－8	H－7 床直	土師器 小型甕	①[13.6] ②(13.3) ③－	①細粒 ②良好 ③にぶい赤褐 ④1/4	口縁部:「コの字」型、内外面横撫で。胴部:内面撫で、外面縦位の篦削り。底部欠損。	9	
8－9	H－7 覆土	須恵器 坏	①14.2 ②3.5 ③7.2	①細粒 ②良好 ③灰白 ④4/5	轆轤整形。口縁・体部：外傾、内外面撫で。底部：内面撫で、外面回転糸切り。	7,8,他	
8－10	T－1 床直	土師器 坏	①[12.9] ②4.5 ③－	①細粒 ②良好 ③橙 ④1/3	口縁・体部：外傾、内外面横撫で、底部との交換点に稜有。底部：丸底、内面撫で、外面篦削り。	1	
8－11	P－6 床直	須恵器 高台椀	①13.8 ②5.3 ③[7.2]	①細粒②良好 ③オリーブ黒④1/2	轆轤整形。口縁・体部：やや膨らみを持って外傾、内外面撫で。底部：内面撫で、外面回転糸切り後、付け高台。底部内面の中心が窪む。	1,7,他	
8－12	P－6 床直	須恵器 高台椀	①[13.0] ②5.3 ③[7.0]	①細粒②良好 ③オリーブ黒④2/5	轆轤整形。口縁・体部：丸みを帯びて外傾、内外面撫で。底部：内面撫で、外面回転糸切り後、付け高台。	5,7	
8－13	X45Y 211	須恵器 坏	①13.1 ②3.6 ③6.1	①細粒②良好 ③灰白④5/6	轆轤整形。口縁・体部：外傾、内外面撫で。底部：内面撫で、外面回転糸切り。	覆土	酸化焔

10B区

番号	出土遺構 層位	器種名	①口径 ②器高 ③底径	①胎土 ②焼成 ③色調 ④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	登録 番号	備 考
10B－1	H－2 覆土	須恵器 小型坏	①9.4 ②2.3 ③5.5	①細粒 ②良好 ③灰白 ④完形	轆轤整形。口縁部:やや外反、内外面撫で。体部:外傾、内外面撫で。底部:内面撫で、外面回転糸切り。糸切りが雑。	2	酸化焔
10B－2	H－2 覆土	須恵器 小型坏	①8.4 ②1.9 ③5.4	①細粒 ②良好 ③浅黄橙 ④完形	轆轤整形。口縁部：やや外反、内外面撫で。体部：やや膨らみを持って外傾、内外面撫で。底部:内面撫で、外面回転糸切り。口縁部に灯芯痕有。	8	酸化焔
10B－3	H－2 床直	須恵器 小型坏	①8.8 ②2.1 ③5.2	①細粒 ②良好 ③浅黄橙 ④完形	轆轤整形。口縁部：やや外反、内外面撫で。体部：やや膨らみを持って外傾、内外面撫で。底部：内面撫で、外面回転糸切り。糸切りが口縁と平行に入っておらず、底部が斜めになっている。	9	酸化焔
10B－4	H－2 床直	須恵器 小型坏	①8.8 ②2.0 ③5.0	①細粒 ②良好 ③浅黄橙 ④7/8	轆轤整形。口縁部：やや外反、内外面撫で。体部：やや膨らみを持って外傾、内外面撫で。底部：内面撫で、外面回転糸切り。	10	酸化焔
10B－5	H－2 床直	須恵器 小型坏	①9.9 ②3.2 ③5.6	①細粒 ②良好 ③にぶい黄橙 ④完形	轆轤整形。口縁部：外傾、内外面撫で。体部：やや膨らみを持って外傾、内外面撫で。底部：内面撫で、外面回転糸切り。口縁が歪み、真上から見るとやや楕円気味。底部の一部が歪み内面へ向けて盛り上がっている、	18	酸化焔
10B－6	H－2 覆土	須恵器 高台椀	①15.4 ②5.7 ③[7.6]	①細粒 ②良好 ③にぶい橙 ④1/2強	轆轤整形。口縁部：やや外反、内外面撫で。体部：やや膨らみを持って外傾、内外面撫で。底部：内面撫で、外面回転糸切り後、下へ向かって外反する高台を付ける。器の真上から見ると口縁部が楕円に歪んでいる。	1	酸化焔
10B－7	H－2 床直	須恵器 高台椀	①[15.6] ②6.4 ③6.6	①細粒 ②良好 ③橙 ④3/5	轆轤整形。口縁部：外反。体部：膨らみを持って外傾。底部：回転糸切り後、下へ向かって外反する高台を付ける。口縁・体・底部内面は篦磨き、口縁・体部外面は撫で。	20, 覆土	酸化焔
10B－8	H－2 床直	須恵器 高台椀	①[15.6] ②4.9 ③9.3	①中粒 ②良好 ③浅黄橙 ④1/3	轆轤整形。口縁部：やや外反、内外面撫で。体部：膨らみを持って外傾、内外面撫で。底部：内面撫で、外面回転糸切り後、下へ向かって大きく外傾する高台を付ける。	5,他	酸化焔
10B－9	H－2 廠	須恵器 羽釜	①[25.8] ②(11.4) ③－	①中粒 ②良好 ③明赤褐 ④口縁・胴部の一部のみ	口縁部：内傾、内外面撫で。胴部：やや丸みを帯びて直立、内面横位の撫で、外面縦位の篦撫で。ほぼ真横に伸びる鍔を付ける。その後、棒状の道具で鍔に縦方向の穴を開けている。底部欠損。	6	酸化焔
10B－10	H－3 覆土	須恵器 小型坏	①10.5 ②3.1 ③5.8	①中粒 ②良好 ③にぶい黄橙 ④9/10	轆轤整形。口縁部：外傾、体部に比べてやや内側から立ち上がる、内外面撫で。体部：やや膨らみを持って外傾、内外面撫で。底部：内面撫で、外面回転糸切り。底部外面の形状は不定形で雑な調整。	6	酸化焔
10B－11	H－3 覆土	須恵器 坏	①[14.2] ②3.7 ③6.2	①細粒 ②良好 ③にぶい黄橙 ④1/2	轆轤整形。口縁・体部：膨らみを持って外傾、内外面撫で。底部：内面撫で、外面回転糸切り。	7, 覆土	酸化焔
10B－12	H－3 覆土	須恵器 小型坏	①[9.9] ②1.6 ③5.1	①細粒 ②良好 ③にぶい黄橙 ④1/2	轆轤整形。口縁部：やや外反、内外面撫で。体部：やや膨らみを持って外傾、内外面撫で。底部：内面撫で、外面回転糸切り。	カマド 覆土	酸化焔
10B－13	H－3 覆土	捏鉢	①(6.1) ②(12.2) ③(1.3)	①細粒 ②良好 ③灰黄褐 ④底部から胴部の一部のみ	体部：内面立ち上がり部に研磨痕有。外面篦削り。底部：砂目底。	覆土	常滑焼 焼締土器 サイズの記載は①縦幅②横幅③厚み
10B－14	H－3 覆土	捏鉢	①(5.0) ②(8.1) ③(1.2)	①細粒 ②良好 ③灰 ④口縁部破片	口唇部を指圧して片口を造り出す。	覆土	在地産須恵質 サイズの記載は①縦幅②横幅③厚み
10B－15	H－4 床直	土師器 土釜	①[25] ②(8.2) ③－	①中粒 ②良好 ③橙 ④口縁一部のみ	口縁部：短く外傾、内外面撫で。胴部：丸みを帯びる、内外面撫で。底部欠損。全体的に土器の表面が傷んでいて、ザラザラしている。	2	
10B－16	H－5 床直	須恵器 羽釜	①[20.8] ②(12.2) ③－	①中粒 ②良好 ③橙 ④口縁・胴部の一部のみ	口縁部：長くほぼ直立、内外面撫で、外面は内面に比べて凸凹しており、粘土の輪積み痕が残る。胴部：やや膨らみを帯びて直立、調整は口縁部とほぼ同じ。やや斜め上に短く伸びる鍔を貼付。底部欠損。	4	酸化焔
10B－17	H－5 床直	須恵器 羽釜	①[20.8] ②(10.9) ③－	①細粒 ②良好 ③橙 ④口縁・胴部の一部のみ	轆轤整形。口縁部：内傾、内外面横撫で。胴部：やや膨らみを帯びて直立、内外面横撫で。短くやや斜め上へのびる鍔を貼付。底部欠損。	7	酸化焔
10B－18	H－6 覆土	灰釉陶器 高台皿	①[14.3] ②2.2 ③[7.0]	①細粒 ②良好 ③灰白 ④1/4強	轆轤整形。口縁・体部：大きく外傾、内外面撫で。底部：内面撫で、外面回転糸切り、篦撫で後、付け高台。内面中央に指圧痕有。	5	大原窯式
10B－19	H－7 床直	須恵器 坏	①－ ②(2.3) ③8.0	①細粒 ②良好 ③灰白 ④体・底部	轆轤整形。体部:丸みを帯びて底部から立ち上がる、内外面撫で。底部:内面撫で、外面回転糸切り。内面に溶けた金属が付着しており、鍛冶工房などで、使用されていた可能性がある。土器は完形では無いが、割れた断面にも金属が付着しているので、割れた状態で使用されていたことを窺わせる。		金属付着
10B－20	H－7 覆土	須恵器 高台皿	①10.1 ②3.1 ③5.6	①細粒 ②良好 ③浅黄橙 ④完形	轆轤整形。口縁・体部：外傾、内外面撫で。底部：内面撫で、外面糸切り後、付け高台、高台付けの過程で回転糸切り痕のほとんどが撫で消されている。	1	酸化焔

番号	出土遺構 層位	器種名	①口径 ②器高 ③底径	①胎土 ②焼成 ③色調 ④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	登録 番号	備　考
10B-21	H－8 床直	須恵器 高台椀	①[15.2] ②7.0 ③7.7	①細粒 ②良好 ③橙 ④4/5	轆轤整形。口縁部:外傾、内面篦磨き、外面撫で。体部:丸みを帯びて外傾、内面篦磨き、外面撫で。底部：内面篦磨き、外面回転糸切り後、付け高台、高台付けの過程で回転糸切り痕が撫で消されている。	15	酸化焔 内面黒色処理
10B-22	H－8 床直	土師器 土釜	①[21.6] ②(19.7) ③－	①中粒 ②良好 ③橙 ④1/3	口縁部：短く外傾、内外面撫で。胴部：内面指と刷毛による横撫で外面縦位の篦削り。底部欠損。	14,16	
10B-23	H－8 竈	土師器 土釜	①[23.1] ②(9.6) ③－	①中粒 ②良好 ③橙 ④口縁・胴部の一部のみ	口縁部：短く外傾、内外面撫で。胴部：内面撫で、外面縦位の篦削り。底部欠損。	4	
10B-24	H－10 床直	土師器 鉢？	①14.0 ②(9.3) ③－	①細粒 ②良好 ③にぶい黄橙 ④不明	口縁部:内傾、内外面撫で。胴部:丸みを帯びている、内面篦削りと撫で、外面篦削り。外面上位に煤と赤く焼け爛れた痕跡有。H－１０号住居跡の直上に存在するH－２号住居跡の竈構築材としても使用されていたか。	2	
10B-25	DB－1 覆土	須恵器 小型坏	①8.9 ②2.0 ③4.5	①細粒 ②良好 ③にぶい黄橙 ④ほぼ完形	轆轤整形。口縁部：やや外反、内外面撫で。体部；膨らみを持って外傾、内外面撫で。底部：内面撫で、外面回転糸切り。	3	酸化焔
10B-26	DB－1 覆土	須恵器 小型坏	①8.8 ②1.9 ③5.5	①細粒 ②良好 ③浅黄橙 ④完形	轆轤整形。口縁・体部：やや膨らみを持って外傾、内外面撫で。底部：内面撫で、外面回転糸切り。	4	酸化焔
10B-27	DB－1	須恵器 小型坏	①9.9 ②2.8 ③5.5	①細粒 ②良好 ③にぶい黄橙 ④完形	轆轤整形。口縁部：外傾、内外面撫で。体部：膨らみを持って外傾、内外面撫で。底部：内面撫で、外面回転糸切り。器全体がやや歪んで楕円状。底部の糸切りが口縁部と平行に入らず、底部が斜めになっている。	6	酸化焔
10B-28	DB－1 覆土	須恵器 坏	①[10.2] ②3.3 ③[5.0]	①細粒 ②良好 ③浅黄橙 ④1/2弱	轆轤整形。口縁・体部：膨らみを持って外傾、内外面撫で。底部：内面撫で、外面回転糸切り。	覆土	酸化焔
10B-29	DB－1 覆土	須恵器 小型坏	①7.8 ②1.7 ③4.3	①細粒 ②良好 ③にぶい橙 ④3/4	轆轤整形。口縁・体部：やや外反、内外面撫で。底部：内面撫で、外面回転糸切り。	5	酸化焔
10B-30	DB－1 覆土	須恵器 壺	①(9.8) ②(19.1) ③[9.7]	①中粒 ②良好 ③浅黄橙 ④9/10	轆轤整形。口縁部：外傾、内外面撫で。胴部：上位に器最大径、内外面撫で。底部：内外面撫で、付け高台。器の下部が焼けただれ、煤が付着している。器の表面が剥離して割れている。	1	酸化焔
10B-31	全体覆土	須恵器 小型坏	①[9.4] ②2.0 ③5.2	①細粒 ②良好 ③橙 ④2/3	轆轤整形。口縁・体部：外傾、内外面撫で。底部：内面撫で、外面回転糸切り。	覆土	酸化焔

11区

番号	出土遺構 層位	器種名	①口径 ②器高 ③底径	①胎土 ②焼成 ③色調 ④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	登録 番号	備　考
11－1	H－2 床直	須恵器 小型坏	①9.5 ②3.0 ③4.9	①中粒 ②良好 ③浅黄橙 ④ほぼ完形	轆轤整形。口縁・体部：底部からやや外反して立ち上がり、膨らみを持って外傾、内外面撫で。底部：内面撫で、外面回転糸切り。	1	酸化焔
11－2	H－3 覆土	須恵器 小型坏	①9.2 ②1.7 ③6.5	①細粒 ②良好 ③にぶい橙 ④4/5	轆轤整形。口縁・体部：外傾、内外面撫で。底部：内面撫で、外面回転糸切り。	15	酸化焔
11－3	H－3 覆土	須恵器 小型坏	①9.5 ②1.9 ③5.5	①中粒 ②良好 ③浅黄 ④1/2	轆轤整形。口縁部:やや外反、内外面撫で。体部:外傾、内外面撫で。底部:内面撫で、外面回転糸切り。	覆土	酸化焔
11－4	H－3 覆土	須恵器 小型坏	①8.7 ②2.0 ③5.0	①細粒 ②良好 ③橙 ④完形	轆轤整形。口縁部：やや外反、内外面撫で。体部：やや膨らみを持って外傾、内外面撫で。底部：内面撫で、外面回転糸切り。	X275 Y128 覆土	酸化焔
11－5	H－3 覆土	須恵器 小型坏	①8.8 ②2.1 ③5.9	①細粒 ②良好 ③浅黄橙 ④完形	轆轤整形。口縁部：外傾、内外面撫で。体部：やや膨らみを持って外傾、内撫で、外面上部撫で、外面下部篦削り。底部:内面撫で、外面回転糸切り。	X275 Y128 覆土	酸化焔
11－6	H－4 覆土	須恵器 坏	①[10.4] ②3.1 ③[6.1]	①細粒 ②良好 ③浅黄橙 ④2/5	轆轤整形。口縁部：やや外反、内外面撫で。体部：外傾、内外面撫で。内面にタール状の付着物有。	5	灯明皿
11－7	H－4 覆土	須恵器 高台椀	①[11.6] ②5.1 ③[6.0]	①細粒 ②良好 ③黄灰 ④1/3	轆轤整形。口縁部：外反、内外面撫で。体部：底部から外反して立ち上がり、膨らみを持って口縁部へ至る、内外面撫で。底部：内面撫で、外面糸切り後付け高台、撫で調整。	1	
11－8	H－4 床直	須恵器 羽釜	①[18.4] ②(21.7) ③－	①細粒 ②良好 ③にぶい黄橙 ④1/4	轆轤整形。口縁部：内傾、内外面撫で。体部：内外面撫で。やや斜め上へ伸びる鍔を貼付。底部欠損。	7,8,他	酸化焔
11－9	H－5 覆土	須恵器 羽釜	①[20.9] ②(14.1) ③－	①細粒 ②良好 ③にぶい黄橙 ④口縁・体部の一部のみ	轆轤整形。口縁部：やや内傾、内外面撫で。胴部：内外面撫で、内外両面に粘土の輪積み痕が残る。やや斜め上にのびる鍔を貼付。底部欠損。	4	酸化焔
11－10	H－7 覆土	土師器 土釜	①[26.0] ②(18.3) ③－	①中粒 ②良好 ③にぶい赤褐 ④1/4	口縁部：外反、内外面撫で。胴部：内面撫で、外面縦位の篦削り。底部欠損	1,3,他	竈の煙道に使用
11－11	H－7 床直	土師器 土釜	①[29.6] ②(15.6) ③－	①中粒 ②良好 ③明赤褐 ④1/6	口縁部：短く外反、内外面撫で。胴部：内面撫で、外面縦位の篦削り。底部欠損。	11,14, 他	
11－12	D－1 覆土	須恵器 坏	①[15.3] ②4.1 ③[7.0]	①細粒 ②良好 ③橙 ④1/2	轆轤整形。口縁部：外反、内外面撫で。体部：膨らみを持って外傾、内外面撫で。底部：内面撫で、外面回転糸切り。	覆土	酸化焔
11－13	X275 Y127	須恵器 小型坏	①9.3 ②3.4 ③5.1	①細粒 ②良好 ③にぶい橙 ④完形	轆轤整形。口縁部：やや外反、内面篦磨き、外面撫で。体部：膨らみを持って外傾、内面篦磨き、外面撫で。底部:内面篦磨き、外面回転糸切り後、付け高台。高台を付ける過程で糸切り痕の大部分が撫で消されている。	1	酸化焔 内面黒色処理

中世

番号	器種名	出土 層位	①口径 ②器高 ③底径	①胎土 ②焼成 ③色調 ④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	登録 番号	備　考
6－1	磁器 茶碗	覆土	①－ ②(2.1) ③3.5	①蜜 ②硬 ③灰白 ④底部片	削出し高台で、畳付部を面取りし、底部は皿状に窪む。		天目茶碗
6－2	カワラケ 皿	覆土	①(11.9) ②2.9 ③7.0	①細粒 ②酸化焔 ③黄灰 ④口縁一部欠	内外面に剥がれ。口唇部に灯芯痕。底部回転糸切り未調整。		
6－3	焼締磁器 大甕	覆土	①－ ②－ ③－	①細粒 ②硬 ③灰 ④－	肩部片で簾状の叩目を施し、内面に輪積み痕。		常滑焼
6－4	焼締磁器 大甕	覆土	①－ ②－ ③－	①粗粒 ②硬 ③褐 ④－	肩部片で葉脈状の叩目を施し、内面に輪積み痕。		常滑焼
6－5	焼締磁器 こね鉢	覆土	①－ ②－ ③11.9	①粗粒 ②硬 ③にぶい橙 ④－	底部に石英を含む砂付着。内面に研磨痕。		常滑焼
6－6	軟質陶器 擂鉢	覆土	①－ ②[9.8] ③－	①粗粒 ②酸化焔 ③黄灰 ④－	内面に６条？１組の擂り目と磨滅痕。外面立上り部はヘラ削り、下半部横撫でと指頭圧痕。		

Tab.7　　石器・石製品　観察表

1区

番号	出土遺構/層位	器種名	最大長	最大幅	最大厚	重さ	石材	遺存度	登録番号	備　考
1－石1	H－4　床直	砥石	16.8	10.3	8.8	1840		破片	52	

2区

番号	出土遺構/層位	器種名	最大長	最大幅	最大厚	重さ	石材	遺存度	登録番号	備　考
2－石1	X57 Y84　覆土	磨製石斧	16.2	5.5	3.5	500	安山岩	完形		

3区

番号	出土遺構/層位	器種名	最大長	最大幅	最大厚	重さ	石材	遺存度	登録番号	備　考
3－石1	H－5　床直	紡錘車	4.4	4.5	2.1	62	滑石	完形	68	
3－石2	H－9　覆土	砥石	(4.5)	4	3.2	98	凝灰岩	破片	覆土	
3－石3	H－9　床直	磨石	9.6	10.5	3	480	頁岩	完形	145	
3－石4	H－14　覆土	打製石斧	12.9	5	2.1	140	安山岩	ほぼ完形	99	
3－石5	H－14　床直	砥石	10.6	3.2	3.9	280	凝灰岩	完形	273	
3－石6	H－16	窪石	17.2	15	7.9	910	角閃石安山岩	完形	35	
3－石7	T－4	打斧	9.0	4.0	1.2	50.5	黒色頁岩	完形	15	
3－石8	W－3　覆土	砥石	7	3.8	2.1	66	凝灰岩	ほぼ完形		
3－石9	W－5　覆土	打製石斧	8.8	5	1.3	54	黒色頁岩	完形		
3－石10	O－1　覆土	凹石	18	19	10.5	4000	輝石安山岩	完形		

4区

番号	出土遺構/層位	器種名	最大長	最大幅	最大厚	重さ	石材	遺存度	登録番号	備　考
4－石1	H－1	砥石	13.0	6.1	6.5	435	安山岩	完形	19	
4－石2	X25 Y90	管玉	2.9	0.6	0.6	1.9	蛇紋岩	完形	覆土	
4－石3	X25 Y90	打斧	6.5	4.5	1.3	59.5	安山岩	破片	覆土	
4－石4	X25 Y90	石鏃	3.2	1.7	0.5	1.5	鉄石英	完形	覆土	

5区

番号	出土遺構/層位	器種名	最大長	最大幅	最大厚	重さ	石材	遺存度	登録番号	備　考
5－石1	H－5	打斧	7.0	4.8	1.6	54.5	黒色頁岩	破片	覆土	

7区

番号	出土遺構/層位	器種名	最大長	最大幅	最大厚	重さ	石材	遺存度	登録番号	備　考
7－石1	H－1	臼玉	1.0	1.0	0.5	0.5	滑石	完形	覆土	
7－石2	H－3	紡錘車	4.6	4.6	1.6	56.5	蛇紋岩	完形	2	
7－石3	H－3	石鏃	2.3	1.4	0.5	1.0	黒曜石	ほぼ完形	覆土	
7－石4	H－5	砥石	9.0	4.9	4.3	230	凝灰岩	破片	63	
7－石5	D－3	打斧	4.8	4.3	1.2	29.4	黒色頁岩	破片	覆土	
7－石6	X45 Y188	打斧	11.5	5.3	1.5	97.5	黒色頁岩	完形	覆土	
7－石7	X45 Y188	打斧	9.5	6.3	2.4	16.4	砂岩	破片	覆土	
7－石8	全体覆土	打斧	9.6	4.4	1.8	88.0	珪質頁岩	ほぼ完形	覆土	

8区

番号	出土遺構/層位	器種名	最大長	最大幅	最大厚	重さ	石材	遺存度	登録番号	備　考
8－石1	H－2	砥石	6.0	4.1	3.9	104.0	凝灰岩	完形	17	
8－石2	H－5	石鏃	2.6	1.7	0.5	2.1	チャート	ほぼ完形	覆土	
8－石3	P－6	砥石	7.3	4.4	4.9	250.0	凝灰岩	破片	6	

Tab. 8　鉄器・鉄製品　観察表

1区

番号	出土遺構/層位	器種名	最大長	最大幅	最大厚	重さ	遺存度	登録番号	備　考
1－鉄1	H－6　覆土	刀子	(8.4)	1.2	0.6	39	破片	37	
1－鉄2	H－9　床直	刀子	(11.5)	1.7	0.65	12	1/2	35	

2区

番号	出土遺構/層位	器種名	最大長	最大幅	最大厚	重さ	遺存度	登録番号	備　考
2－鉄1	H－4　覆土	帯金具？	2.5	2.2	－	4	ほぼ完形		
2－鉄2	H－8　床直	釘？	12.7	0.8	0.5	37	2/3		
2－鉄3	H－8　床直	刀子	(18.6)	4	0.5	102	1/3		
2－鉄4	X52 Y88　覆土	釘？	21.5	0.8	0.5	33	ほぼ完形		

3区

番号	出土遺構/層位	器種名	最大長	最大幅	最大厚	重さ	遺存度	登録番号	備　考
3－鉄1	H－9　床直	釘？	5.8	0.5	0.5	4.7	ほぼ完形	10	
3－鉄2	H－9　覆土	釘？	(11.2)	1.1	1	27.8	2/3		
3－鉄3	H－14　覆土	釘？	(6.2)	1.3	1.2	32.4	2/3	141	
3－鉄4	H－15　覆土	刀子？	(12.1)	2.5	0.5	41.8	破片	22	
3－鉄5	O－1　覆土	刀子？	(5.1)	2.8	0.4	11.8	破片	227	

7区

番号	出土遺構/層位	器種名	最大長	最大幅	最大厚	重さ	遺存度	登録番号	備　考
7－鉄1	H－2	刀子	14.8	1.3	0.3	17.2	完形	覆土	
7－鉄2	H－5	刀子	11.6	0.5	0.3	13.2	完形	55	
7－鉄3	H－5	刀子	18.3	1.3	0.5	310.0	完形	82	
7－鉄4	H－5	鉈尾	2.0	3.1	0.5	2.1	破片	覆土	
7－鉄5	H－10	釘	8.8	0.5	0.3	11.2	ほぼ完形	H-5 No.7	
7－鉄6	H－10	刀子	17.1	1.4	0.3	23.0	完形	H-5 No.16	

8区

番号	出土遺構/層位	器種名	最大長	最大幅	最大厚	重さ	遺存度	登録番号	備　考
8－鉄1	H－5	鉄鏃	11.4	3.7	0.4	25.8	ほぼ完形		登録番号がわからない
8－鉄2	H－10	紡錘車	16.6	5.2	0.2	50.5	完形	1	

9区

番号	出土遺構/層位	器種名	最大長	最大幅	最大厚	重さ	遺存度	登録番号	備　考
9－鉄1	H－1	紡錘車	4.4	4.4	0.1	10.6	完形	3	車輪部分のみ

10B区

番号	出土遺構/層位	器種名	最大長	最大幅	最大厚	重さ	遺存度	登録番号	備　考
10B－鉄1	DB－1	鉄鏃	12.0	1.8	0.8	20.8	ほぼ完形	2	

11区

番号	出土遺構/層位	器種名	最大長	最大幅	最大厚	重さ	遺存度	登録番号	備　考
11－鉄1	H－3	鉄鏃	9.8	1.6	0.8	9.8	破片	12	
11－鉄2	H－3	鉄鏃	12.8	3.3	0.9	26.4	2/3	19	

10B区

番号	出土遺構/層位	器種名	最大長	最大幅	最大厚	重さ	石材	遺存度	登録番号	備　考
10B－石1	H－2	石皿	19.5	16.3	5.3	3080.0	－	完形	21	
10B－石2	H－6	石鏃	3.9	1.8	0.5	3.7	黒色頁岩	完形	覆土	

11区

番号	出土遺構/層位	器種名	最大長	最大幅	最大厚	重さ	石材	遺存度	登録番号	備　考
11－石1	H－3	砥石	6.1	4.7	4.1	170	凝灰岩	完形	覆土	
11－石2	H－7	打斧	17.1	8.4	2.0	445	黒色安山岩	ほぼ完形	6	未成品
11－石3	H－7	磨石	13.7	10.7	5.3	960	安山岩	完形	16	

Tab.9　土製品　観察表

1区

番号	出土遺構/層位	器種名	最大長	最大幅	最大厚	遺存度	登録番号	備　考
1－土1	H－7　覆土	土錘	3.9	0.9	0.8	完形	22	
1－土2	H－12　覆土	土錘	3.5	0.8	0.8	完形	7	
3－土1	H－17　覆土	土錘	4.6	1.6	1.6	完形		

Tab10　銅銭　観察表

3区

番号	出土遺構/層位	器種名	名称	登録番号
3－銭1	W－4　覆土	古銭	永楽通寶	
3－銭2	W－4　覆土	古銭	天聖元寶	
3－銭3	DB－2　覆土	古銭	永楽通寶	

番号	出土遺構/層位	器種名	名称	登録番号
3－銭4	DB－2　覆土	古銭	至道元寶	
3－銭5	DB－2　覆土	古銭	開元通寶	
3－銭6	DB－2　覆土	古銭	皇宋通寶	

Tab.11　瓦　観察表

1区

番号	出土遺構層位	器種名	①長さ　②厚さ	①胎土　②焼成 ③色調　④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	登録番号	備考
1－瓦1	H－2 覆土	平瓦	①(27.5)　②1.3	①粗粒　②良好 ③灰オリーブ　④1/2	一枚作り。凹面：布目有り。凸面：撫で、斜格子目叩き有り。側面：面取り２回。	39,40	
1－瓦2	H－4 竈内	丸瓦	①35.9　②1.5	①粗粒　②良好 ③褐灰　④7/8	玉縁式。凸面：撫で。凹面：模骨痕有り、端部撫で。側面：面取２回。	28他	
1－瓦3	H－5 覆土	平瓦	①(8.4)　②1.9	①粗粒　②良好 ③褐灰　④破片	凹面：布目擦り消し。凸面：撫で、篦書き文字の一部有り、判読不明。		
1－瓦4	H－6 床直	丸瓦	①39.6　②2.1	①粗粒　②良好 ③黄灰　④完形	玉縁式。凸面：縄叩き後撫で消し、篦痕一部有り。凹面：布目、糸切り痕有り、端部撫で。側面：面取り１回。	79	
1－瓦5	H－6 床直	丸瓦	①38.9　②1.5	①粗粒　②良好 ③青灰　④完形	玉縁式。凸面：縄叩き後撫で消し。凹面：布目有り、一部撫で消し。側面：面取り２回。	50他	
1－瓦6	H－6 床直	丸瓦	①(32.9)　②1.7	①粗粒　②良好 ③にぶい橙　④5/6	行基式。凸面：撫で。凹面：布目有り、模骨痕有り。側面：面取り２回。	92	
1－瓦7	H－6 床直	平瓦	①39.8　②1.9	①粗粒　②良好 ③灰　④7/8	凹面：布目擦り消し、模骨痕有り、両端撫で。凸面：縄叩き後撫で消し。側面：面取り２回。	82	
1－瓦8	H－6 床直	平瓦	①(31.1)　②1.9	①粗粒　②良好 ③明赤褐　④2/3	一枚作り。凹面：布目有り。凸面：撫で、縄目状叩き痕有り。側面：面取り１回。	85	
1－瓦9	H－6 床直	平瓦	①41.5　②3.3	①粗粒　②良好 ③灰　④完形	一枚作り。凹面：布目有り、両端撫で。凸面：撫で。縦三本の短い篦書き有り。側面：面取り３回。	91	
1－瓦10	H－6 覆土	軒瓦	①(6.0)　②3.0	①細粒　②良好 ③灰白　④破片	鳥足状蓮弁文と思われる。弁間に珠文が１つずつ付く。幅１cm前後の無文周縁。瓦当裏剥離。	63	
1－瓦11	W－1 覆土	軒瓦	①(4.6)　②(1.7)	①細粒　②良好 ③灰　④破片	鳥足状蓮弁文と思われる。弁間に珠文が１つずつ付く。幅１cm前後の無文周縁。蓮弁は棒状のもの３本１組で構成と思われる。		
1－瓦12	W－1 覆土	軒丸瓦	①(7.0)　②3.3	①中粒　②良好 ③灰　④破片	二重弁の小破片。素紋の外縁。裏面：篦削り。僧寺B104か。		
1－瓦13	W－1 覆土	軒平瓦	①(8.5)　②3.1	①粗粒　②良好 ③灰　④破片	三重弧紋軒平瓦の破片と思われる。凹面撫で、凸面篦削り。山王廃寺Ⅱ式か。		

2区

番号	出土遺構層位	器種名	①長さ　②厚さ	①胎土　②焼成 ③色調　④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	登録番号	備考
2－瓦1	H－9 覆土	平瓦	①(29.7)　②2.5	①中粒　②良好 ③褐灰　④1/2	凹面：布目撫で消し。凸面：撫で一部篦削り、格子状の叩き有り。側面：面取２回。	2	
2－瓦2	T－1 覆土	平瓦	①(13.0)　②1.5	①粗粒　②良好 ③灰黄褐　④破片	凹面：布目有り、方形枠の中に「當」が入る。當印と考えていいのでは。凸面：撫で。側面：不明。藤岡・吉井産。	25	文字
2－瓦3	T－1 覆土	平瓦	①(29.3)　②1.9	①粗粒　②良好 ③黄灰　④2/3	一枚作り。凹面：布目有り。凸面：撫で、篦書きによる文字「平」有り。側面：面取２回。藤岡・吉井産	31	文字
2－瓦4	T－1 覆土	平瓦	①(18.7)　②2.1	①粗粒　②良好 ③黄灰　④1/3	一枚作り。凹面：布目有り、端部撫で。凸面：撫で、篦書きによる文字「廿」？有り。側面：面取り２回。	34	
2－瓦5	T－1 覆土	平瓦	①(17.8)　②2.0	①粗粒　②良好 ③褐灰　④破片	凹面：布目有り、篦書きが有るが、判読不可。凸面：撫で。側面：面取り２回。藤岡・吉井産。	37	
2－瓦6	D－2 床直	丸瓦	①(25.8)　②0.8	①中粒　②良好 ③橙　④2/3	玉縁式。凸面：撫で。凹面：布目有り。側面：面取り２回。	10	
2－瓦7	D－3 覆土	丸瓦	①(18.1)　②2.0	①粗粒　②良好 ③灰　④1/2	玉縁式。凸面:撫で,玉縁部に整形時の工具痕有り。凹面:布目有り。側面:面取り３回。	1	
2－瓦8	D－3 覆土	平瓦	①(34.0)　②1.6	①中粒　②良好 ③灰　④7/8	一枚作り。凹面：布目有り一部刷り消し。凸面：撫で、一部篦削り、格子状の叩き目有り。側面：面取２回。	2,3	
2－瓦9	X52Y84 覆土	軒平瓦	①(11.7)　②4.3	①中粒　②良好 ③灰　④破片	三重弧紋軒平瓦の破片と思われる。凹面布目擦り消し、凸面篦削り。		

3区

番号	出土遺構層位	器種名	①長さ　②厚さ	①胎土　②焼成 ③色調　④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	登録番号	備考
3－瓦1	H－10 竈内	平瓦	①(17.8)　②2.1	①細粒　②良好 ③灰　④破片	一枚作り。凹面：布目有り。凸面：撫で、篦書きの記号らしきもの有り。「廿」の可能性もある。側面：面取り３回。藤岡・吉井産か。	91	文字
3－瓦2	H－10 床直	平瓦	①(32.9)　②1.8	①粗粒　②良好 ③灰　④2/5	凹面：布目有り、端部撫で。凸面：撫で。側面：面取り１回。	13	
3－瓦3	H－11 床直	丸瓦	①(19.3)　②2.2	①細粒　②良好 ③灰　④1/3	行基式。凸面：撫で、篦書きによる文字「里人」有り。僧寺出土の「八里人」と同様になるか。凹面：布目有り、両端部撫で。側面：面取り３回。藤岡・吉井産	22	文字
3－瓦4	H－11 床直	軒平瓦	①(9.5)　②4.1	①細粒　②良好 ③灰白　④破片	一枚作り。外区は素紋の外内縁。内区は篦書きによる斜沈線を組み合わせるが規則性はない。綾杉紋の一種か。僧寺S002。僧寺創建期か。凹面：瓦当面直上まで布目有り。凸面：縄目が縦方向に残る。	9	
3－瓦5	H－13 竈内	丸瓦	①37.9　②2.0	①粗粒　②良好 ③褐灰　④ほぼ完形	行基式。凸面：篦撫で。凹面：布目有り、両端部撫で。側面：面取り１回。	10, 45,48	
3－瓦6	H－13 竈内	平瓦	①(24.2)　②2.4	①粗粒　②良好 ③灰白　④2/5	一枚作り。凹面：布目有り縄目叩き後擦り消し、端部撫で。凸面：擦り消し仕上げ、篦書きによる文字「羊子」有り、２文字でなく１文字と考えた方が良いが、類似例がない。側面：面取り２回。藤岡・吉井産。	1	文字
3－瓦7	H－17	丸瓦	①37.0　②1.4	①粗粒　②良好 ③灰白　④完形	行基式。凸面：撫で。凹面：布目有り。側面：面取り1回。	H－17 －1	

番号	出土遺構層位	器種名	①長さ ②厚さ	①胎土 ②焼成 ③色調 ④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	登録番号	備考
3－瓦8	H－17	丸瓦	①35.7 ②1.7	①粗粒 ②良好 ③灰白 ④完形	行基式。凸面：撫で。凹面：布目有り、模骨痕らしき跡有り。側面：面取り２回、叩き跡一部有り。	H－17－2	
3－瓦10	H－17	丸瓦	①(34.0) ②1.4	①中粒 ②良好 ③にぶい橙 ④完形	行基式。凸面：撫で。凹面：布目有り、端部撫で。側面：面取り３回。	H－17－4	
3－瓦9	H－17	平瓦	①(34.0) ②1.4	①中粒 ②良好 ③にぶい橙 ④完形	一枚作り。凹面：布目有り。凸面：縄叩き。両面共に制作時付着した粘土が一部有り。側面：面取り１回。	H－17－3	
3－瓦11	H－17	平瓦	①37.6 ②2.0	①粗粒 ②良好 ③黄灰 ④ほぼ完形	一枚作り。凹面：布目有り、制作時付着した粘土が一部有り。凸面：縄叩き。側面：面取り１回、片面に縄叩き有り。	H－17－5	
3－瓦12	T－3 床直	丸瓦	①(31.8) ②2.2	①粗粒 ②良好 ③橙 ④2/3	行基式。凸面：撫で、轆轤回転時の工具痕が横に５本平行に入る。凹面：布目有り。側面：面取り３回。	25	
3－瓦13	T－3 床直	平瓦	①(24.5) ②2.3	①中粒 ②良好 ③褐灰 ④1/2	凹面：布目有り、端部撫で。凸面：撫で、箆書きによる文字「辛争麻呂」有り。側面：面取り２回。「辛争麻呂」の辛は多湖郡辛科郷を表す。藤岡・吉井産	18	文字
3－瓦14	W－2 床直	軒平瓦	①(7.0) ②3.5	①細粒 ②良好 ③灰白 ④破片	鳥足状蓮弁文と思われる。弁間に珠文が１つずつ付く。幅１cm前後の無文周縁。蓮弁は捧状のもの３本１組で構成。	9	
3－瓦15	O－1 覆土	軒瓦	①(15.8) ②4.5	①粗粒 ②良好 ③オリーブ灰 ④破片	二重弁の少破片。素紋の外縁。裏面：箆削り。		
3－瓦16	O－1 覆土	軒平瓦	①(6.3) ②2.0	①細粒 ②良好 ③にぶい橙 ④破片	単弁八弁蓮華紋。界線と素紋帯の間は無紋。瓦当面では連弁の中央が一番高い。胎土には石英粒が混ざる。瓦当裏箆削り。僧寺E103。国分僧寺創建期と考えられる。藤岡・吉井産。	30	
3－瓦17	I－1 覆土	丸瓦	①(31.0) ②4.0	①中粒 ②良好 ③灰白 ④4/5	玉縁式。凸面：縄叩き後撫で消し。凹面：布目有り、模骨痕有り。側面：面取り３回。		

4区

番号	出土遺構層位	器種名	①口径 ②器高 ③底径	①胎土 ②焼成 ③色調 ④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	登録番号	備考
4－瓦1	覆土	軒平瓦	①(7.5) ②4.0	①中粒 ②良好 ③暗青灰 ④瓦当のみ	重廓紋軒平瓦。一枚作り平瓦の凸面木口部に粘土紐を加え薄い頸をつくり瓦笵を用いて重廓紋を押捺。紋様は四重弧線があるが素紋の脇区があるのが特徴。	X26 Y96	
4－瓦2	覆土	丸瓦	①35 ②1.8	①細粒 ②良好 ③灰褐 ④ほぼ完形	有段式丸瓦。型木は一本であるが玉縁の部分で括れ、とっくり状となる。凸面は縄叩きの後、ナデ仕上げ。	X27 Y107	

5区

番号	出土遺構層位	器種名	①口径 ②器高 ③底径	①胎土 ②焼成 ③色調 ④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	登録番号	備考
5－瓦1	全体 覆土	平瓦	①20.5 ②1.9	①細粒 ②良好 ③明赤褐 ④破片	平瓦凸面の文字瓦。上野国分寺で出土している「勢作」(押印)と思われる。同報告書によれば、破片に残る部分は左字で「勢」の一部。勢多郡の産品を示すものとされるが、笠懸窯産と思われる。	覆土	

6区

番号	出土遺構層位	器種名	①口径 ②器高 ③底径	①胎土 ②焼成 ③色調 ④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	登録番号	備考
6－瓦1	H－3 カマド	軒丸瓦	①(14.4) ②2.4	①中粒 ②良好 ③暗青灰 ④瓦当の	単弁八弁蓮華紋。瓦当面では連弁の中央が一番高い。瓦当笵に詰め込んだ粘土により別作りされた丸瓦を接合。僧寺E103。	H-3 カマド	

7区

番号	出土遺構層位	器種名	①口径 ②器高 ③底径	①胎土 ②焼成 ③色調 ④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	登録番号	備考
7－瓦1	H－4 床直	丸瓦	①40.5 ②2.3	①細粒 ②良好 ③暗青灰 ④ほぼ完形	無段式丸瓦。10B瓦２と同様のもの。やや厚手である。凸面はナデ仕上げ、凹には狭端木口を上にS型の粘土の合わせ目がある。同時に布筒痕、糸切り痕が残る。	H-4 40	
7－瓦2	H－4 床直	文字瓦	①(8.0) ②1.6	①細粒 ②良好 ③暗青灰 ④破片	丸瓦凹面の文字瓦。押印文字瓦であろう。上野国分寺では箆書文字を伴う例が報告されている。また、山王廃寺でも報告されている。金型笵によるとみられ、藤岡窯群で作られている。	H-4	

9区

番号	出土遺構層位	器種名	①口径 ②器高 ③底径	①胎土 ②焼成 ③色調 ④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	登録番号	備考
9－瓦1	H－2	軒平瓦	①(14.5) ②3.5	①中粒 ②良好 ③赤褐 ④瓦当	一枚作りの偏行唐草紋軒平瓦。上野国分寺の報告ではP008に近いか。	H-2	
9－瓦2	H－2	軒平瓦	①(10.5) ②3.0	①中粒 ②良好 ③青灰 ④狭端及び左側面	一枚作りの三重弧紋軒平瓦。山王廃寺ではⅢ類(註)といわれる丸平瓦に伴う。	H-2	

10B区

番号	出土遺構層位	器種名	①口径 ②器高 ③底径	①胎土 ②焼成 ③色調 ④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	登録番号	備考
10B－瓦1	H－3 No.3	小型平瓦	①32.8 ②1.6	①中粒 ②良好 ③赤褐 ④狭端及び右側面欠	小型の平瓦。笠懸窯方面での産か。平成18年度山王廃寺報告書で同様の瓦の出土が知られる。	H-3 3	
10B－瓦2	H－8 No.1	丸瓦	①38.5 ②1.8	①細粒 ②良好 ③灰褐 ④ほぼ完形	一木状の型木に粘土板を巻き、出来上がった円筒を２分にしたもの。無段式丸瓦。凸面は回転台上での横ナデ痕、凹面は布筒痕が残る。狭端寄りにとり縄痕かと思われる太い糸が観える。	H-8 1	
10B－瓦3	H－8 No.3, 8, 11, 12	平瓦	①41.5 ②2.0	①細粒 ②良好 ③灰褐 ④狭端及び右側面欠	山王廃寺ではⅢ類とされる一枚作りの平瓦。三方に壁を持つ凸型製作台で作られる。凸面は縦方向に縄叩きを行った後、狭端寄のみ横方向に叩く。「放光寺」銘、「天長八」銘瓦と同様の手法。秋間窯産。	3,8, 11,12	

Ⅵ まとめ

1．墨書土器について

（1）本遺跡で出土した墨書土器について

本遺跡で出土した墨書土器には、１区Ｈ－２号住居跡から出土した須恵器２点(整理番号１－７，８)と２区Ｈ－９号住居跡から出土した須恵器２点(整理番号２－27，28)がある。１－７は坏底部外面に墨書「大館」が記され、十字の刻書もある。１－８は坏底部外面に墨書「少」が記され、底部が糸切り後篦刷りされている。底部内面には墨溜としての使用痕跡が残る。２－27，28は体部外面に墨書(判読不可)が記され、２－27の内面にはベンガラが付着した跡がある。全体的に雑なつくりで、轆轤成形後、体部は撫で調整、底部は篦削り調整している。

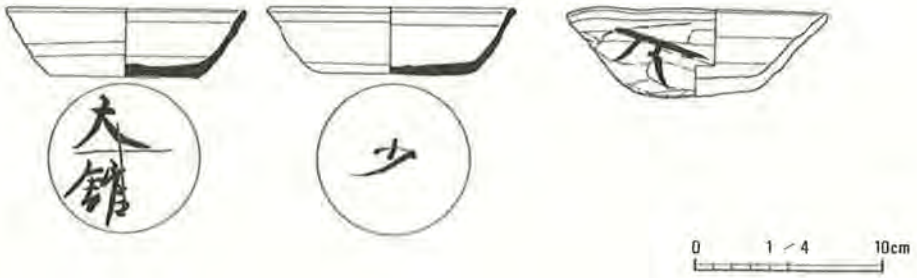


Fig. 1　元総社蒼海遺跡群(26) 出土墨書土器

１－７と同様に「大館」と書かれた墨書土器の例として、武蔵国府関連遺跡830次調査２号竪穴住居跡出土の須恵器坏がある。出土地区は現在の府中本町駅西方の低地で、大型の掘立柱建物跡が密集している。また隣接する調査区では９世紀前半の緑釉陶器が出土している。北東側隣接地の調査では、これらの建物を取り囲むような大溝も見つかっている。この周辺は武蔵国府遺跡では国衙南面の官衙ブロックに位置し、この墨書土器に書かれた「大館」は国司の館の存在を示す資料と考えられている。

本遺跡１区で出土した１－７・８は、書かれている文字から出土した周辺に国府の館などの存在を想像させる遺物となっている。しかし本遺跡では前述の武蔵国府関連遺跡とは異なり、周辺から掘立柱建物跡は検出されていない。ただし本遺跡１区は国分尼寺のすぐ西側、２区は南西隅にそれぞれ位置している。そのため国府の館と共に国分尼寺や遺跡東側にある国分僧寺と墨書土器の関係も無視することはできない。またこの墨書土器が国司など国府に関連する者が使用したものか、または国司の館などで使用後この住居跡周辺で再利用されたものかなど、今後の調査も含めて検討すべきことは多い。このようなことから、墨書土器が国府解明の手がかりの一つとなるのは確かである。

（2）元総社蒼海遺跡群で出土した墨書土器について

元総社蒼海遺跡群の南東に位置する元総社寺田遺跡では、「國厨」「曹司」「邑厨」等と書かれた墨書土器が出土している。これらは国府について考えるうえで貴重な資料となっている。元総社蒼海地区では土地区画整理事業の伴う調査がここ10年ほど継続的に行われており、新たな知見が蓄積つつある。そこで過年度調査報告書に掲載されている墨書土器を用いて、土器の種類、墨書の特徴、出土遺構の時期、出土した場所に着目して、現段階における元総社蒼海遺跡群で出土した墨書土器について考察してみたい。

今回、対象としたのは、上野国分尼寺寺域確認調査Ⅰ・Ⅱ(2000年)、元総社宅地遺跡(2000年)、総社閑泉明神北Ⅰ～Ⅲ・Ⅴ遺跡（1999, 2001, 2002, 2004年)、小見Ⅰ～Ⅶ遺跡(2000, 2002～2004年)、総社甲稲荷塚大道西Ⅰ～

Ⅳ(2001～2003年)、小見内Ⅲ・Ⅳ・Ⅵ～Ⅹ遺跡(2001～2004年)、草作Ⅴ遺跡(2002年)、蒼海(1)～(25)(2005～2009年)の計51遺跡である。(括弧内は報告書刊行年)調査は主として、国分尼寺南側で推定国府域の北西部と推定国府域の北側で行われてきた。いずれも当調査団が主体となり調査を行ったものである。

報告書に掲載されている墨書土器は51遺跡中17遺跡で59点出土していた。まず、種類別・記銘部位・時期についてまとめると以下のようになる。なお、時期区分は元総社蒼海遺跡群で従来用いられている時期区分、Ⅰ期(～7世紀前半:律令期以前)、Ⅱ期(7世紀～10世紀初頭:律令期)、Ⅲ期(10世紀前半～:律令期以後)に従いたい。ただしⅡ期は集中する時期のため前半(7,8世紀)、後半(9世紀、10世紀初頭)と今回は分けた。

①土器の種類

墨書を伴う土器は須恵器・土師器が主であることは当時の生活との関連で当然といえる。ただ、群馬県内全体の調査では、ほぼ拮抗している土師器と須恵器の割合(1)が、元総社蒼海遺跡群周辺での調査では、表1のように、須恵器が高い比率で占めているのが特徴といえる。この地域の特性かは今後の調査を含めた検討を要するといえよう。

表1　土器の種類別一覧表

種　類	点数	比率(%)
土師器	10	17%
須恵器	47	80%
灰釉陶器	2	3%

②器種別の比率

器種別でみると、坏と高台椀が圧倒的に占めることがわかる。これまでの元総社蒼海遺跡群の調査では甕や蓋の墨書土器は出土していない。群馬県内でも甕や蓋の墨書土器の出土例は少ないので、同様の傾向といえよう。坏や高台椀の墨書土器がどのように使用されたか、またどのような意味をもつかを探っていくことが、今後の一つの視点になっていくと思われる。

表2　器種別一覧表

器　種	点数	比率(%)
坏	25	42%
小型坏	4	7%
高台椀	26	44%
高台皿	4	7%

③墨書の部位

各器種のどの部位に墨書が書かれているかをまとめたのが表3である。部位名称は報告書中の表現に可能な限り合わせてある。体部60%に対して底部40%、外面64%に対して内面36%の比率となった。やはり外面が多いことは、容器としての性格から墨書の場合は好都合であったためであろう。なお4点は底部の内外面に、3点は体部の内外面共に書かれている。どのような意味合いがあるのか興味深い。

表3　墨書の記銘部位一覧

記銘部位	点数	比率(%)
体部外面	25	40%
体部内面	13	20%
底部外面	15	24%
底部内面	10	16%

④出土遺構の時期

表4のとおり、Ⅱ期後半の9世紀代の住居跡を中心とした遺構からの出土が半分以上の63%となった。元総社蒼海遺跡群では国府周辺の居住規制も関係してか、住居の推定年代が8世紀末で減少し、9世紀中葉から大幅に増加する例が多い。そのことが墨書土器の出土遺構の時期に関係していることも考えられる。

表4　出土遺構の時期区分別一覧

時　期	点数	比率(%)
Ⅰ　期	0	0%
Ⅱ期前半	5	8%
Ⅱ期後半	37	63%
Ⅲ　期	17	21%

今後の調査の進捗により、墨書土器の類例は増加の一途を辿ると思われる。現在国府中枢部の調査には及んでいないため、今後のその部分の調査、皿には国衙施設の検出も期待される。それらを踏まえた分析が今後期待される。

注(1)群馬県出土の墨書・刻書土器集成(1)(群馬県教育委員会　1989より)

⑤墨書土器出土場所について

● 墨書土器出土場所

推定国府域は
「木津博明1989」による

Fig. 2　元総社蒼海遺跡群における墨書土器出土場所

出土地点を見ると、推定国府域の北西で国分尼寺南西側に集中していることがわかる。ここでは８世紀後半から10世紀後半の住居跡を中心に23点出土している。判読できる文字には「大」「墓」「谷」「丈」「十」「蓮」「生」などがある。この場所は現在関越高速道となっている「上野国分僧寺･尼寺中間地域Ａ･Ｚ区」の東側に位置する。Ａ区からは「原」など書かれた墨書土器が７点、Ｚ区からは「冨」と書かれた墨書土器１点出土している。またＺ区南側のＹ区からは「如」「天夕」など書かれた墨書土器が３点、Ａ区北側のＢ区では「法花寺」と書かれた墨書土器が出土している。また、その場所の西側僧寺東辺築垣想定線より東側では、「東院」と書かれた墨書土器も出土し､この付近に東院が存在したと推定されている。国分尼寺南西及び国分僧寺南東部にあるこの場所は、元総社蒼海遺跡群を含めて比較的墨書土器が多く出土している場所といえる。

また図の左下推定国府西側では、10世紀代の住居跡などから「本」「代」等書かれた墨書土器など７点が出土している。この場所の北西には、緑釉陶器片が13点出土した落ちこみを検出した元総社蒼海遺跡群(８)がある。また南西には炉が20以上並ぶ工房跡を検出した鳥羽遺跡がある。この遺跡では墨書土器の出土は１点だけでとなっている。部分的な調査なので断定はできないが、墨書土器の出土と合わせて緑釉陶器片の出土や工房跡を検出している国府西側にはは、国府に関係する施設等が存在したことを思わせる場所といえよう。

（3）まとめ

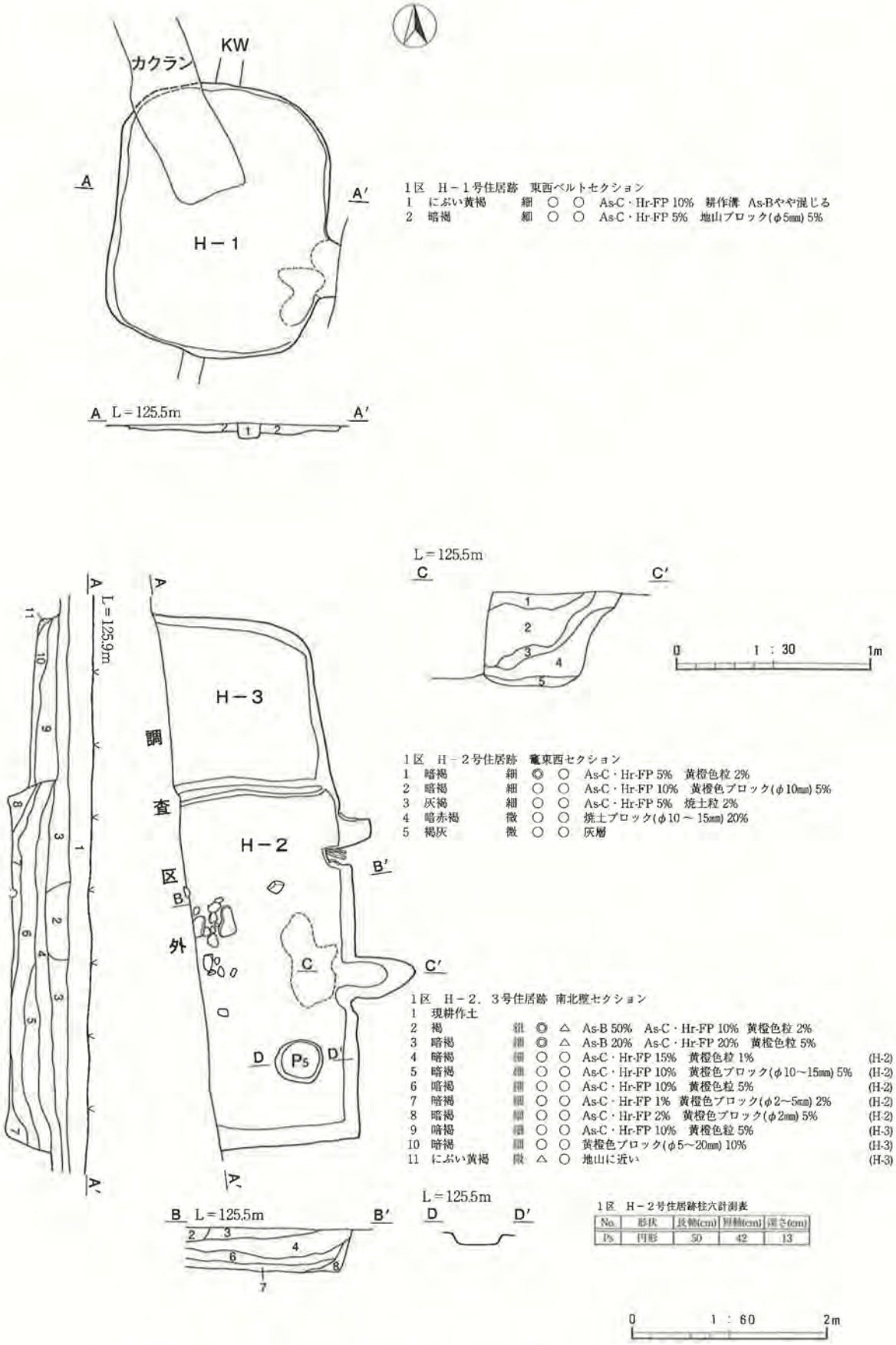
現段階での元総社蒼海遺跡群や国府について墨書土器の視点から考察すると二点ほど考えられることがある。第一点は、墨書土器の出土位置から、推定国府北西部に国司の館や国分二寺に関係する施設が存在したと考えられることである。国司の館は、国衙からやや離れた場所に館を設置し、出挙や職分田経営など経済活動の拠点としての役割を果たしていたことも考えられている。元総社蒼海遺跡群では国府周辺に位置することからその可能性は十分あるといえよう。しかし遺構や遺物から国司の館と確定できる事例は全国でもまだ少ない。そのため他の建物などと比較検討し、国司の館としての特徴を検証するなど、まだ多くの調査研究課題があるのが実情である。全国の事例の検証と合わせて、元総社蒼海遺跡群での事例も検出の蓄積が必要である。

第二点は、集落跡で出土した墨書土器が大半を占めていることから、祭祀の際に仏教関係者によって記載された土器であることが考えられる。墨書の文字に「冨」「吉」等があること、本来の字体から変形した字形が使われていることが多いことや、特に器外面に書かれた墨書土器が64％占めることからも、神仏の容器であることを示しているといえる。一般の集落で土器に文字を記入するということは、日常使用する食器には考えにくい。祭祀に用いる土器を日常の食器と区別した表れといえる。ただし全ての墨書土器が当てはまるとはいえない。なぜなら今回出土した「大館」と書かれた墨書土器のように、国司の館と関係があると考えられるものが住居跡から出土している事例がある。それは国司の館などで祭祀に使われた墨書土器が、住居で再利用されたことが示す事例ともいえよう。ただ本遺跡の「大館」と書かれた墨書土器は、９世紀中頃と思われる住居跡の覆土から出土しているため、この住居跡で使用されたかは断定できない。しかしなぜこの住居跡の覆土になっていたか、墨書土器の利用も含めて、今後検出事例の蓄積により解明されていくことを期待したい。

墨書土器についてはまだまだ十分に検討を重ねていく必要があるものである。今後の元総社蒼海遺跡群の調査は、国府中枢部に及ぶことになる。調査に進捗で国府の発見と合わせて、さらに墨書土器についても解明されることがあると思われる。今後の調査の成果に期待したい。

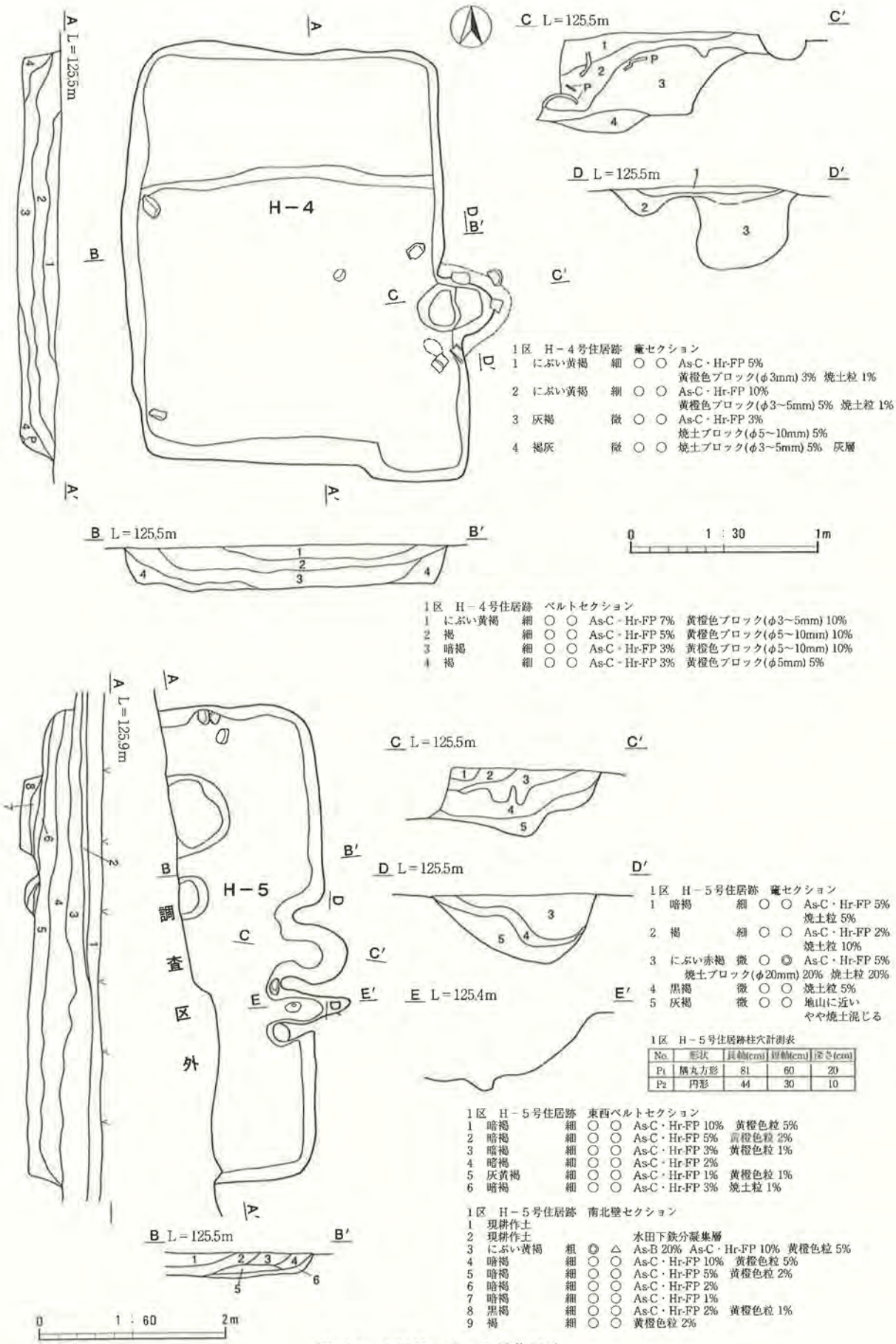
＜参考文献＞

『上野国分寺周辺地域発掘調査報告-僧寺尼寺中間地域の考古学的検討』 群馬県教育委員会　1971年
『上野国分寺隣接地域発掘調査報告』 群馬県教育委員会　1979年
鬼頭清明『国司の館について』国立歴史民族博物館研究報告第10集より　国立歴史民族博物館　1986年
㈶群馬県埋蔵文化財調査事業団編 『上野国分僧寺・尼寺中間地域(3)～(7)』 1988 ～ 1993年
群馬県教育委員会事務局部長室県史編さん室編 『群馬県出土の墨書・刻書土器集成(1)』 1989年
鈴木雅浩・高橋一彦編 『元総社宅地遺跡・上野国分尼寺寺域確認調査Ⅱ』
前橋市埋蔵文化財発掘調査団2001年
㈶群馬県埋蔵文化財調査事業団編 『群馬の遺跡６　古代』 2004年
㈶府中文化振興財団編『府中市郷土の森博物館ブックレット６　古代武蔵国府』 2005年
奈良文化財研究所編『古代の官衙遺跡　Ⅱ遺物・遺跡編』 2004年



No.	形状	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)
P5	円形	50	42	13

Fig.13　1区H－1～3号住居跡



1区　H－4号住居跡　竈セクション

1	にぶい黄褐	細	○	○	As-C・Hr-FP 5% 黄橙色ブロック(φ3mm) 3%　焼土粒 1%
2	にぶい黄褐	細	○	○	As-C・Hr-FP 10% 黄橙色ブロック(φ3～5mm) 5%　焼土粒 1%
3	灰褐	微	○	○	As-C・Hr-FP 3% 焼土ブロック(φ5～10mm) 5%
4	褐灰	微	○	○	焼土ブロック(φ3～5mm) 5%　灰層

1区　H－4号住居跡　ベルトセクション

1	にぶい黄褐	細	○	○	As-C・Hr-FP 7%　黄橙色ブロック(φ3～5mm) 10%
2	褐	細	○	○	As-C・Hr-FP 5%　黄橙色ブロック(φ5～10mm) 10%
3	暗褐	細	○	○	As-C・Hr-FP 3%　黄橙色ブロック(φ5～10mm) 10%
4	褐	細	○	○	As-C・Hr-FP 3%　黄橙色ブロック(φ5mm) 5%

1区　H－5号住居跡　竈セクション

1	暗褐	細	○	○	As-C・Hr-FP 5% 焼土粒 5%
2	褐	細	○	○	As-C・Hr-FP 2% 焼土粒 10%
3	にぶい赤褐	微	○	◎	As-C・Hr-FP 5% 焼土ブロック(φ20mm) 20%　焼土粒 20%
4	黒褐	微	○	○	焼土粒 5%
5	灰褐	微	○	○	地山に近い やや焼土混じる

1区　H－5号住居跡柱穴計測表

No.	形状	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)
P1	隅丸方形	81	60	20
P2	円形	44	30	10

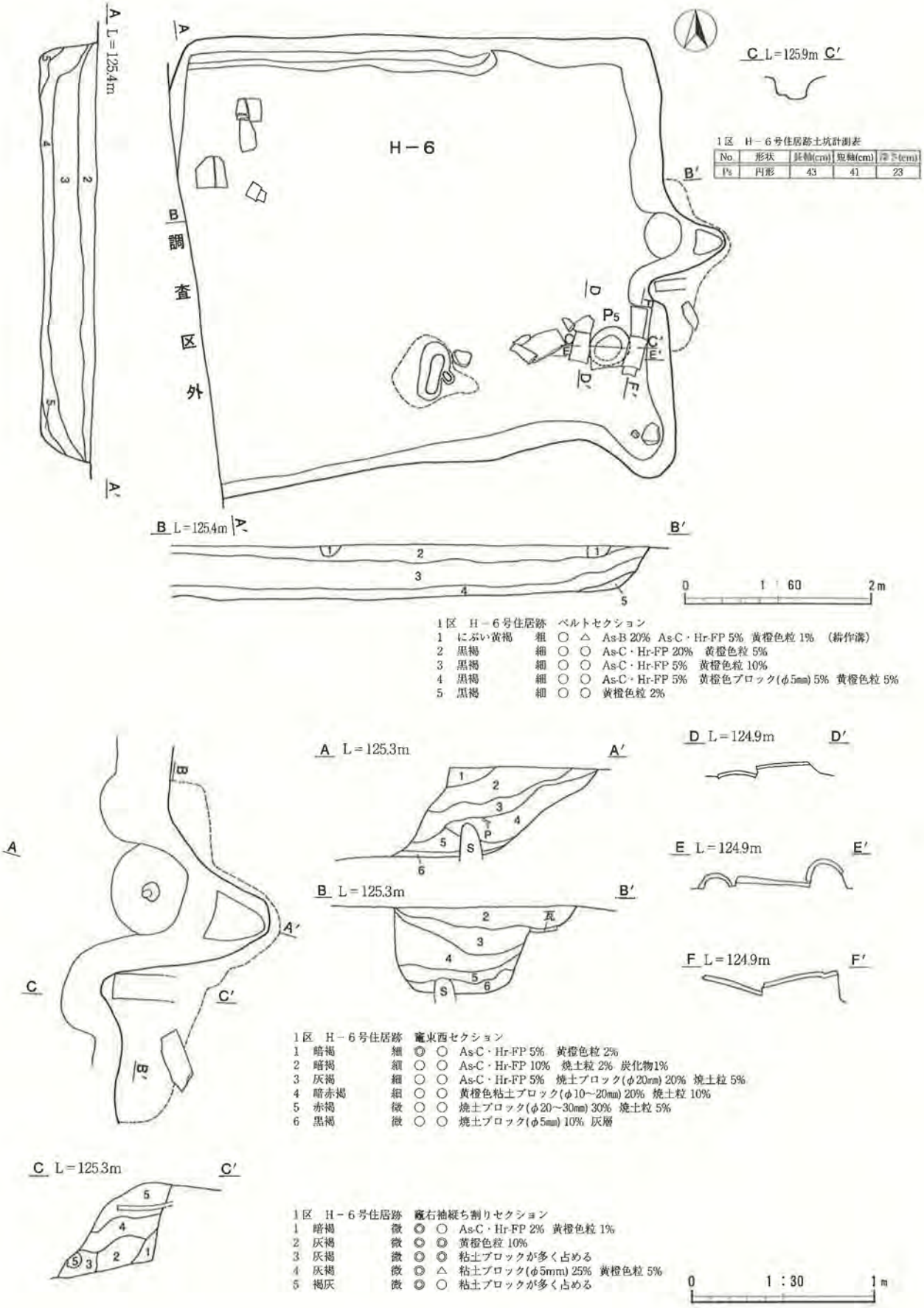
1区　H－5号住居跡　東西ベルトセクション

1	暗褐	細	○	○	As-C・Hr-FP 10%　黄橙色粒 5%
2	暗褐	細	○	○	As-C・Hr-FP 5%　黄橙色粒 2%
3	暗褐	細	○	○	As-C・Hr-FP 3%　黄橙色粒 1%
4	暗褐	細	○	○	As-C・Hr-FP 2%
5	灰黄褐	細	○	○	As-C・Hr-FP 1%　黄橙色粒 1%
6	暗褐	細	○	○	As-C・Hr-FP 3%　焼土粒 1%

1区　H－5号住居跡　南北壁セクション

1	現耕作土				
2	現耕作土				水田下鉄分凝集層
3	にぶい黄褐	粗	◎	△	As-B 20%　As-C・Hr-FP 10%　黄橙色粒 5%
4	暗褐	細	○	○	As-C・Hr-FP 10%　黄橙色粒 5%
5	暗褐	細	○	○	As-C・Hr-FP 5%　黄橙色粒 2%
6	暗褐	細	○	○	As-C・Hr-FP 2%
7	暗褐	細	○	○	As-C・Hr-FP 1%
8	黒褐	細	○	○	As-C・Hr-FP 2%　黄橙色粒 1%
9	褐	細	○	○	黄橙色粒 2%

Fig.14　1区H－4・5号住居跡



1区　H－6号住居跡土坑計測表

No.	形状	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)
P5	円形	43	41	23

1区　H－6号住居跡　ベルトセクション

1	にぶい黄褐	粗	○	△	As-B 20%　As-C・Hr-FP 5%　黄橙色粒 1%　（耕作溝）
2	黒褐	細	○	○	As-C・Hr-FP 20%　黄橙色粒 5%
3	黒褐	細	○	○	As-C・Hr-FP 5%　黄橙色粒 10%
4	黒褐	細	○	○	As-C・Hr-FP 5%　黄橙色ブロック(φ5mm) 5%　黄橙色粒 5%
5	黒褐	細	○	○	黄橙色粒 2%

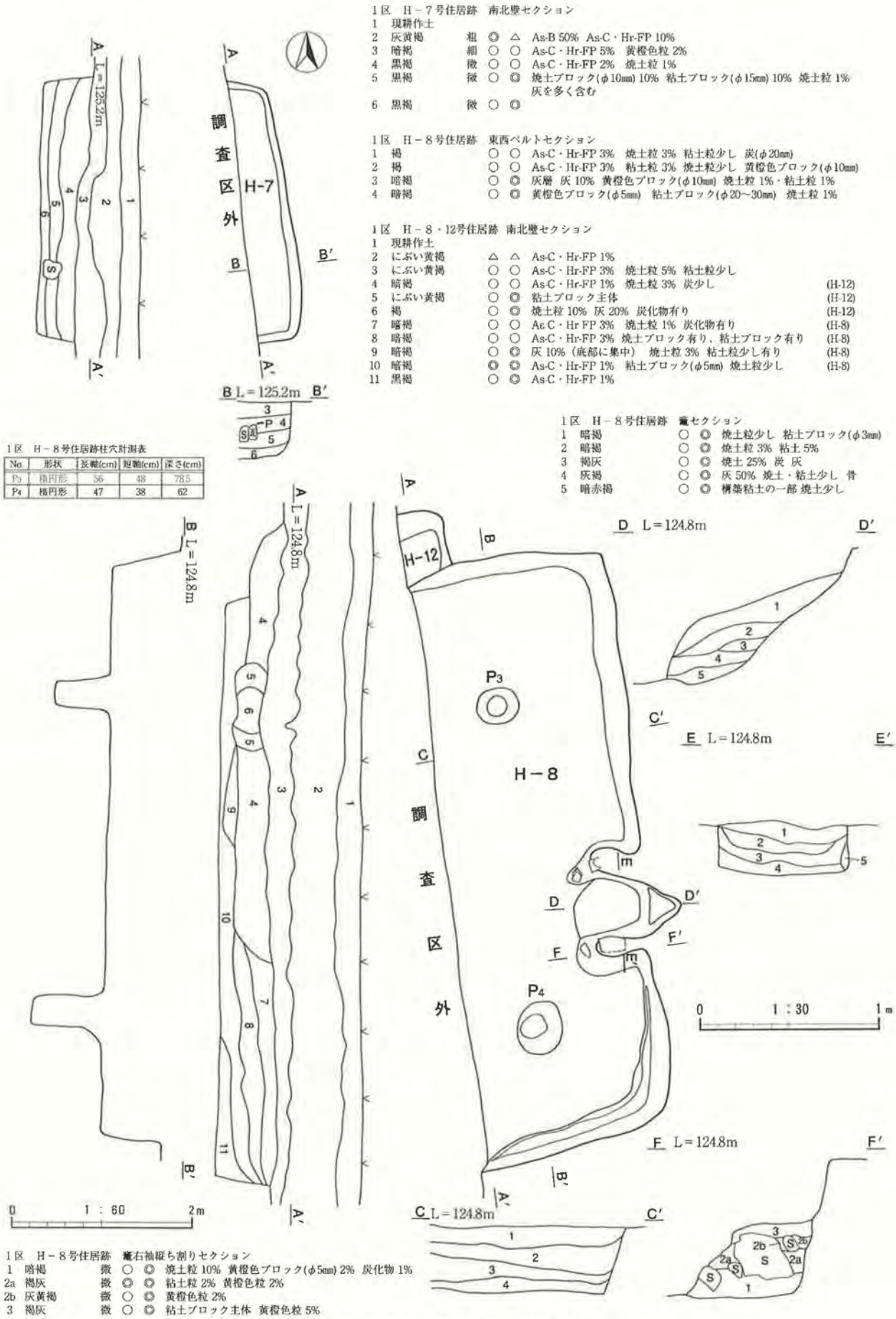
1区　H－6号住居跡　竈東西セクション

1	暗褐	細	◎	○	As-C・Hr-FP 5%　黄橙色粒 2%
2	暗褐	細	○	○	As-C・Hr-FP 10%　焼土粒 2%　炭化物1%
3	灰褐	細	○	○	As-C・Hr-FP 5%　焼土ブロック(φ20mm) 20%　焼土粒 5%
4	暗赤褐	細	○	○	黄橙色粘土ブロック(φ10～20mm) 20%　焼土粒 10%
5	赤褐	微	○	○	焼土ブロック(φ20～30mm) 30%　焼土粒 5%
6	黒褐	微	○	○	焼土ブロック(φ5mm) 10%　灰層

1区　H－6号住居跡　竈右袖縦ち割りセクション

1	暗褐	微	◎	○	As-C・Hr-FP 2%　黄橙色粒 1%
2	灰褐	微	◎	◎	黄橙色粒 10%
3	灰褐	微	◎	◎	粘土ブロックが多く占める
4	灰褐	微	◎	△	粘土ブロック(φ5mm) 25%　黄橙色粒 5%
5	褐灰	微	◎	○	粘土ブロックが多く占める

Fig.15　1区H－6号住居跡



1区 H－7号住居跡 南北壁セクション

1	現耕作土				
2	灰黄褐	粗	◎	△	As-B 50% As-C・Hr-FP 10%
3	暗褐	細	○	○	As-C・Hr-FP 5% 黄橙色粒 2%
4	黒褐	微	○	○	As-C・Hr-FP 2% 焼土粒 1%
5	黒褐	微	○	◎	焼土ブロック(φ10mm) 10% 粘土ブロック(φ15mm) 10% 焼土粒 1% 灰を多く含む
6	黒褐	微	○	◎	

1区 H－8号住居跡 東西ベルトセクション

1	褐	○	○	As-C・Hr-FP 3% 焼土粒 3% 粘土粒少し 炭(φ20mm)
2	褐	○	○	As-C・Hr-FP 3% 粘土粒 3% 焼土粒少し 黄橙色ブロック(φ10mm)
3	暗褐	○	◎	灰層 灰 10% 黄橙色ブロック(φ10mm) 焼土粒 1%・粘土粒 1%
4	暗褐	○	◎	黄橙色ブロック(φ5mm) 粘土ブロック(φ20～30mm) 焼土粒 1%

1区 H－8・12号住居跡 南北壁セクション

1	現耕作土				
2	にぶい黄褐	△	△	As-C・Hr-FP 1%	
3	にぶい黄褐	○	○	As-C・Hr-FP 3% 焼土粒 5% 粘土粒少し	
4	暗褐	○	○	As-C・Hr-FP 1% 焼土粒 3% 炭少し	(H-12)
5	にぶい黄褐	○	◎	粘土ブロック主体	(H-12)
6	褐	○	◎	焼土粒 10% 灰 20% 炭化物有り	(H-12)
7	暗褐	○	○	AεC・Hr FP 3% 焼土粒 1% 炭化物有り	(H-8)
8	暗褐	○	○	As-C・Hr-FP 3% 焼土ブロック有り、粘土ブロック有り	(H-8)
9	暗褐	○	◎	灰 10%（底部に集中） 焼土粒 3% 粘土粒少し有り	(H-8)
10	暗褐	◎	◎	As-C・Hr-FP 1% 粘土ブロック(φ5mm) 焼土粒少し	(H-8)
11	黒褐	○	◎	As-C・Hr-FP 1%	

1区 H－8号住居跡 竈セクション

1	暗褐	○	◎	焼土粒少し 粘土ブロック(φ3mm)
2	暗褐	○	◎	焼土粒 3% 粘土 5%
3	褐灰	○	◎	焼土 25% 炭 灰
4	灰褐	○	◎	灰 50% 焼土・粘土少し 骨
5	暗赤褐	○	◎	構築粘土の一部 焼土少し

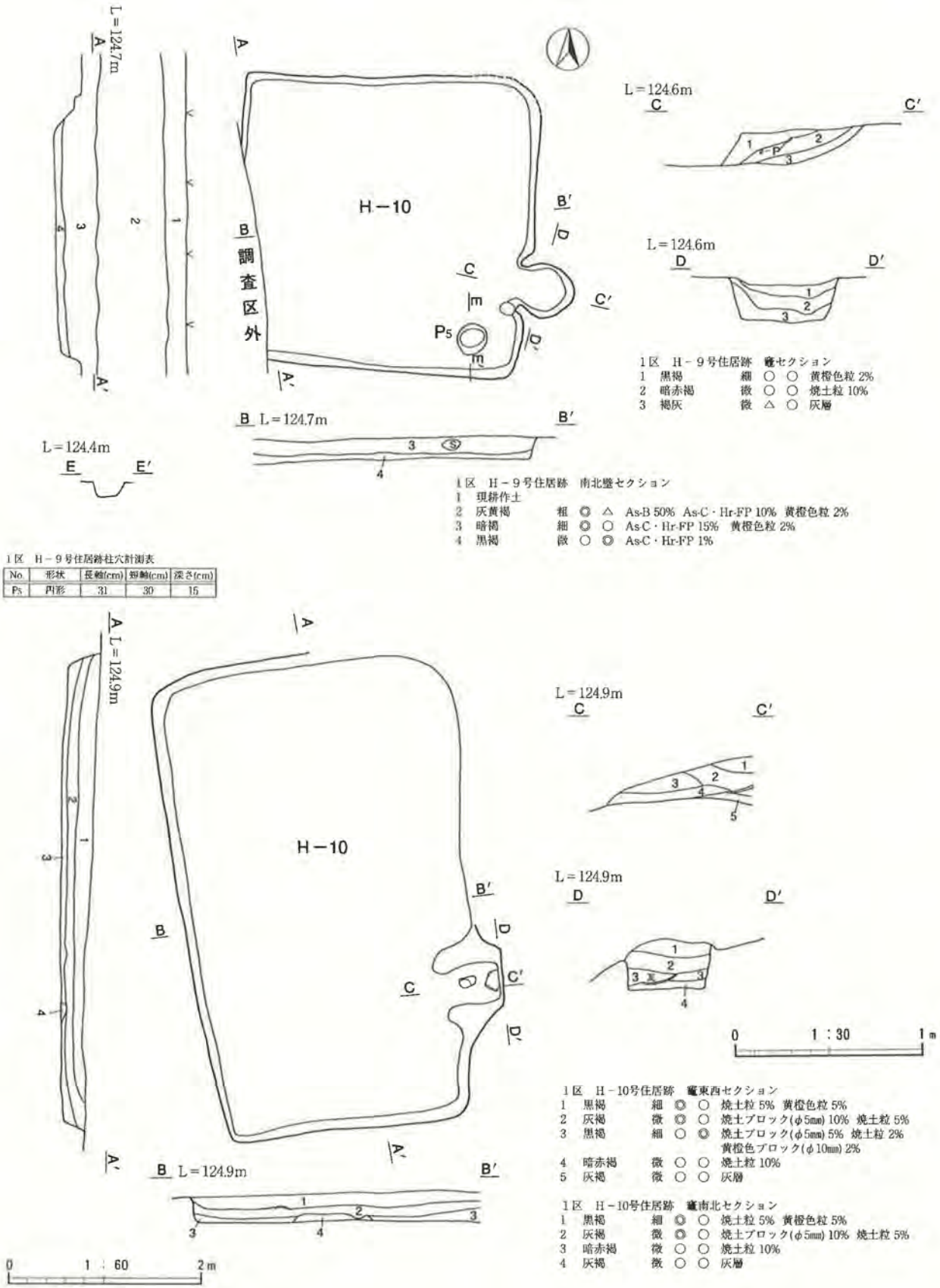
1区 H－8号住居跡柱穴計測表

No.	形状	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)
P3	楕円形	56	48	78.5
P4	楕円形	47	38	62

1区 H－8号住居跡 竈右袖縦ち割りセクション

1	暗褐	微	○	◎ 焼土粒 10% 黄橙色ブロック(φ5mm) 2% 炭化物 1%
2a	褐灰	微	◎	◎ 粘土粒 2% 黄橙色粒 2%
2b	灰黄褐	微	○	◎ 黄橙色粒 2%
3	褐灰	微	○	◎ 粘土ブロック主体 黄橙色粒 5%

Fig.16 1区H－7・8・12号住居跡



1区　H－9号住居跡　竈セクション
1　黒褐　細　○　○　黄橙色粒 2%
2　暗赤褐　微　○　○　焼土粒 10%
3　褐灰　微　△　○　灰層

1区　H－9号住居跡　南北壁セクション
1　現耕作土
2　灰黄褐　粗　◎　△　As-B 50%　As-C・Hr-FP 10%　黄橙色粒 2%
3　暗褐　細　◎　○　As-C・Hr-FP 15%　黄橙色粒 2%
4　黒褐　微　○　◎　As-C・Hr-FP 1%

1区　H－9号住居跡柱穴計測表

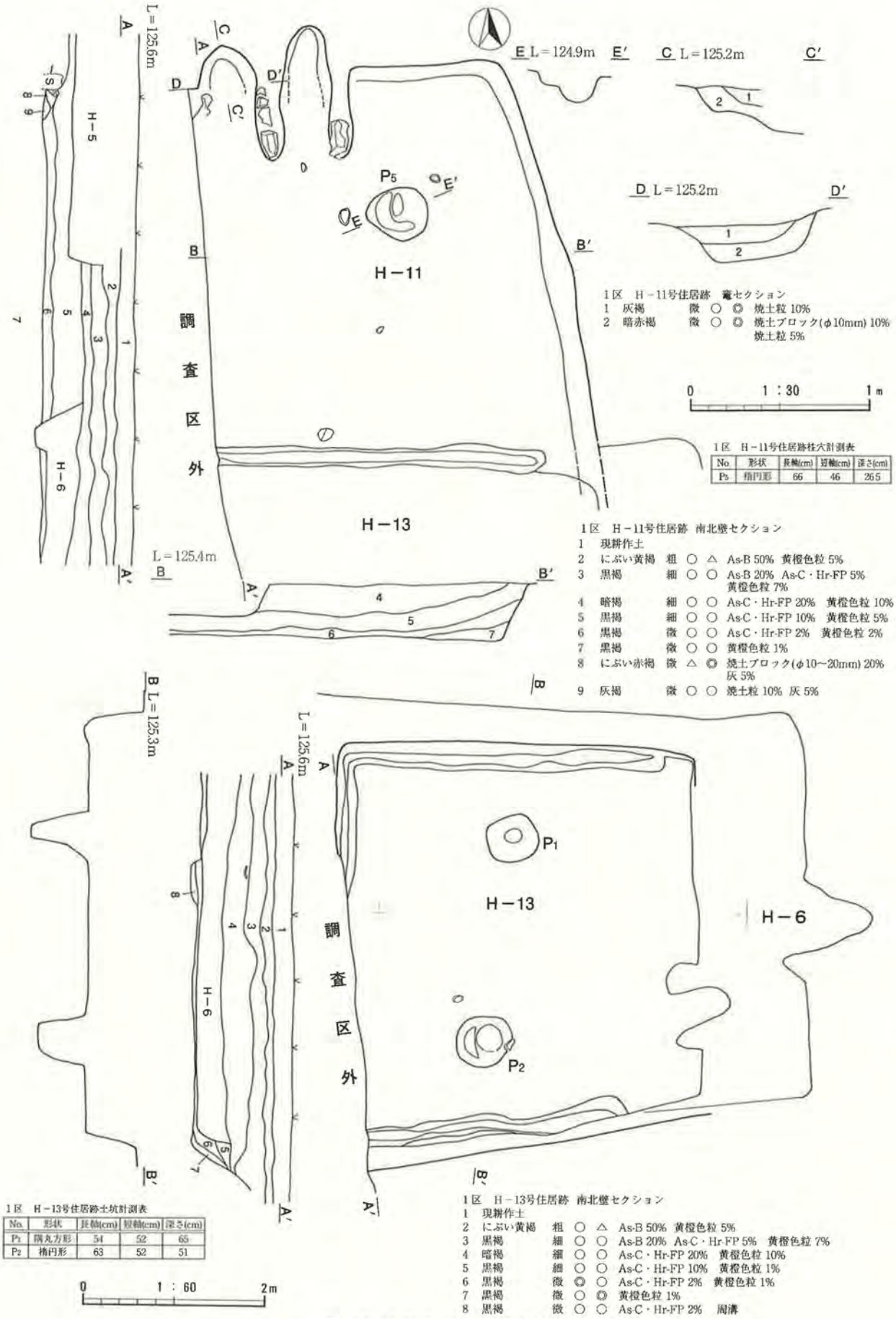
No.	形状	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)
P5	円形	31	30	15

1区　H－10号住居跡　竈東西セクション
1　黒褐　細　◎　○　焼土粒 5%　黄橙色粒 5%
2　灰褐　微　◎　○　焼土ブロック(φ5mm) 10%　焼土粒 5%
3　黒褐　細　○　◎　焼土ブロック(φ5mm) 5%　焼土粒 2%
黄橙色ブロック(φ10mm) 2%
4　暗赤褐　微　○　○　焼土粒 10%
5　灰褐　微　○　○　灰層

1区　H－10号住居跡　竈南北セクション
1　黒褐　細　◎　○　焼土粒 5%　黄橙色粒 5%
2　灰褐　微　◎　○　焼土ブロック(φ5mm) 10%　焼土粒 5%
3　暗赤褐　微　○　○　焼土粒 10%
4　灰褐　微　○　○　灰層

1区　H－10号住居跡　ベルトセクション
1　黒褐　細　○　○　As-C・Hr-FP 15%　黄橙色粒 5%
2　黒褐　細　◎　◎　As-C・Hr-FP 10%　黄橙色粒 2%
3　黒褐　微　○　◎　As-C・Hr-FP 5%
4　暗褐　微　○　◎　粘土ブロック主体

Fig.17　1区H－9・10号住居跡



1区 H－11号住居跡 竈セクション
1 灰褐 微 ○ ◎ 焼土粒 10%
2 暗赤褐 微 ○ ◎ 焼土ブロック(φ10mm) 10% 焼土粒 5%

1区 H－11号住居跡柱穴計測表

No.	形状	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)
P5	楕円形	66	46	265

1区 H－11号住居跡 南北壁セクション
1 現耕作土
2 にぶい黄褐 粗 ○ △ As-B 50% 黄橙色粒 5%
3 黒褐 細 ○ ○ As-B 20% As-C・Hr-FP 5% 黄橙色粒 7%
4 暗褐 細 ○ ○ As-C・Hr-FP 20% 黄橙色粒 10%
5 黒褐 細 ○ ○ As-C・Hr-FP 10% 黄橙色粒 5%
6 黒褐 微 ○ ○ As-C・Hr-FP 2% 黄橙色粒 2%
7 黒褐 微 ○ ○ 黄橙色粒 1%
8 にぶい赤褐 微 △ ◎ 焼土ブロック(φ10～20mm) 20% 灰 5%
9 灰褐 微 ○ ○ 焼土粒 10% 灰 5%

1区 H－13号住居跡土坑計測表

No.	形状	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)
P1	隅丸方形	54	52	65
P2	楕円形	63	52	51

1区 H－13号住居跡 南北壁セクション
1 現耕作土
2 にぶい黄褐 粗 ○ △ As-B 50% 黄橙色粒 5%
3 黒褐 細 ○ ○ As-B 20% As-C・Hr-FP 5% 黄橙色粒 7%
4 暗褐 細 ○ ○ As-C・Hr-FP 20% 黄橙色粒 10%
5 黒褐 細 ○ ○ As-C・Hr-FP 10% 黄橙色粒 1%
6 黒褐 微 ◎ ○ As-C・Hr-FP 2% 黄橙色粒 1%
7 黒褐 微 ○ ◎ 黄橙色粒 1%
8 黒褐 微 ○ ○ As-C・Hr-FP 2% 周溝

Fig.18 1区H－11・13号住居跡

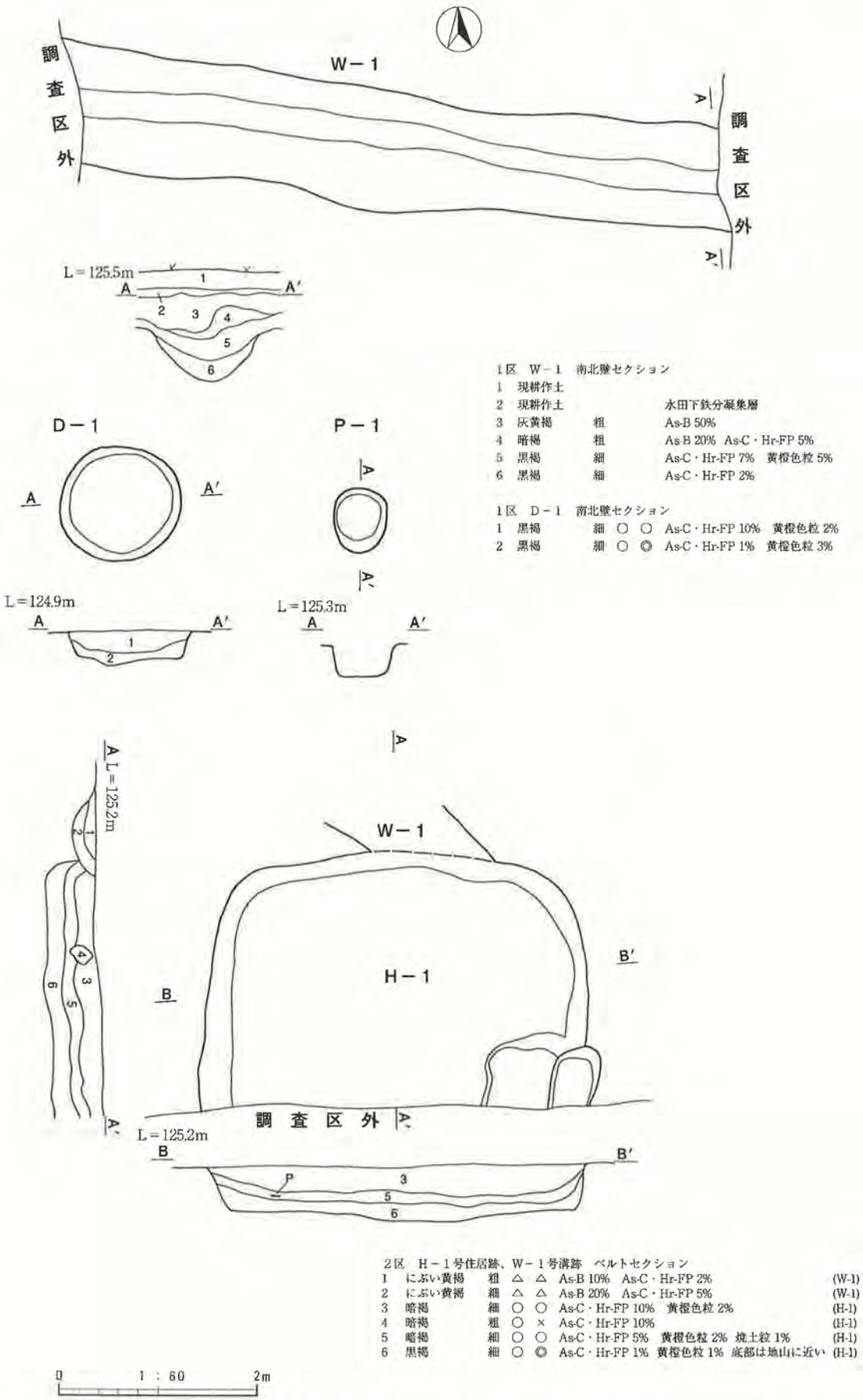
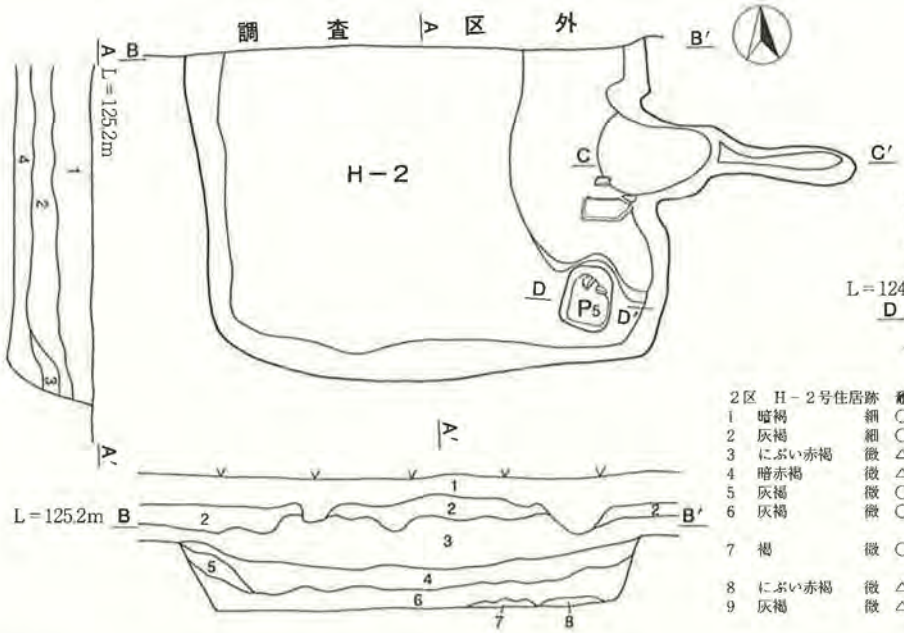


Fig.19　1区W－1号溝跡、D－1号土坑、P－1号ピット、2区H－1号住居跡



2区　H－2号住居跡柱穴計測表

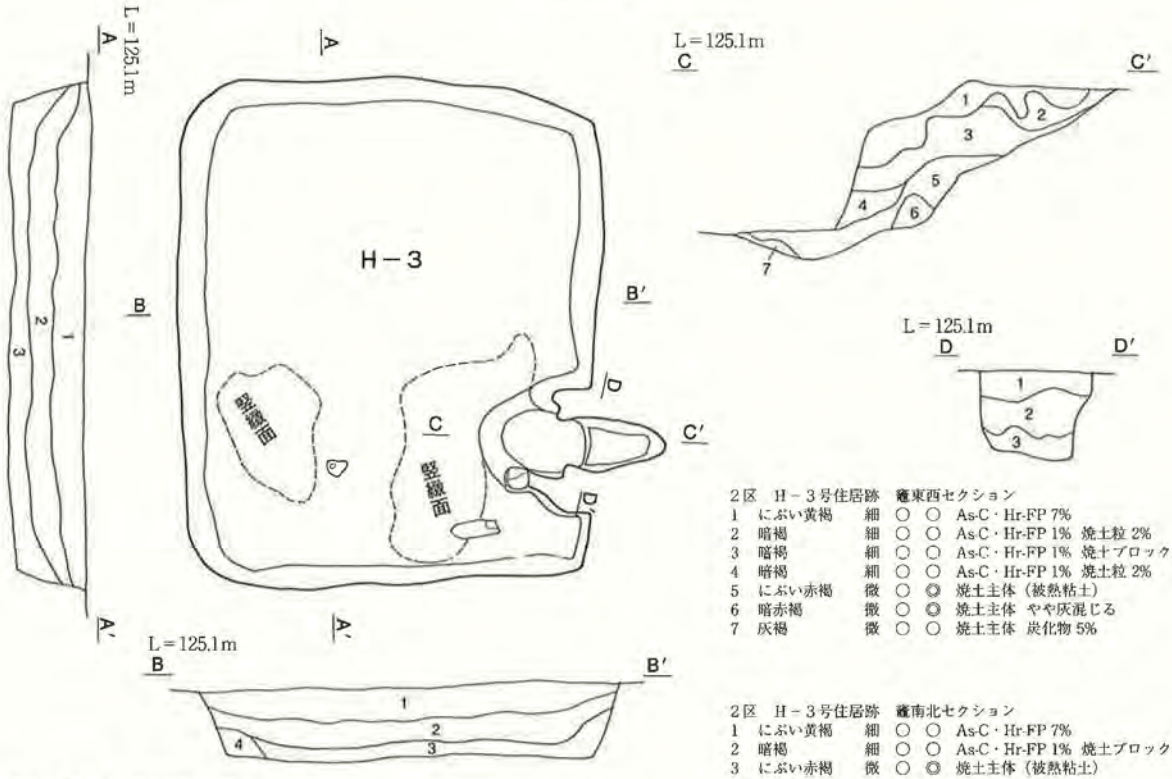
No.	形状	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)
P5	隅丸方形	50	40	8

2区　H－2号住居跡　竈セクション

1	暗褐	細	○	○	As-C・Hr-FP 10%　黄橙色粒 2%
2	灰褐	細	○	◎	As-C・Hr-FP 2%　粘土がやや混じる
3	にぶい赤褐	微	△	○	焼土ブロック(φ20mm) 20%
4	暗赤褐	微	△	○	焼土主体（被熱粘土）
5	灰褐	微	○	○	焼土ブロック(φ5～10mm) 10%
6	灰褐	微	○	○	As-C・Hr-FP 2%　炭化物 2%　焼土粒 2%
7	褐	微	○	○	焼土ブロック(φ5mm) 5%　焼土粒 1%　炭化物 1%
8	にぶい赤褐	微	△	○	焼土主体（被熱粘土）
9	灰褐	微	△	◎	灰層

2区　H－2号住居跡　ベルトセクション

1	現耕作土				
2	にぶい黄褐	粗	○	△	As-B 20%
3	暗褐	細	○	○	As-C・Hr-FP 15%　黄橙色粒 2%
4	暗褐	細	○	○	As-C・Hr-FP 20%　黄橙色粒 1%
5	暗褐	細	○	○	As-C・Hr-FP 5%
6	暗褐	微	○	○	As-C・Hr-FP 20%　炭化物 10%　黄橙色粒 2%
7	褐	微	○	○	
8	褐	微	○	○	地山に近い



2区　H－3号住居跡　竈東西セクション

1	にぶい黄褐	細	○	○	As-C・Hr-FP 7%
2	暗褐	細	○	○	As-C・Hr-FP 1%　焼土粒 2%
3	暗褐	細	○	○	As-C・Hr-FP 1%　焼土ブロック有
4	暗褐	細	○	○	As-C・Hr-FP 1%　焼土粒 2%
5	にぶい赤褐	微	○	◎	焼土主体（被熱粘土）
6	暗赤褐	微	○	◎	焼土主体　やや灰混じる
7	灰褐	微	○	○	焼土主体　炭化物 5%

2区　H－3号住居跡　竈南北セクション

1	にぶい黄褐	細	○	○	As-C・Hr-FP 7%
2	暗褐	細	○	○	As-C・Hr-FP 1%　焼土ブロック有
3	にぶい赤褐	微	○	◎	焼土主体（被熱粘土）

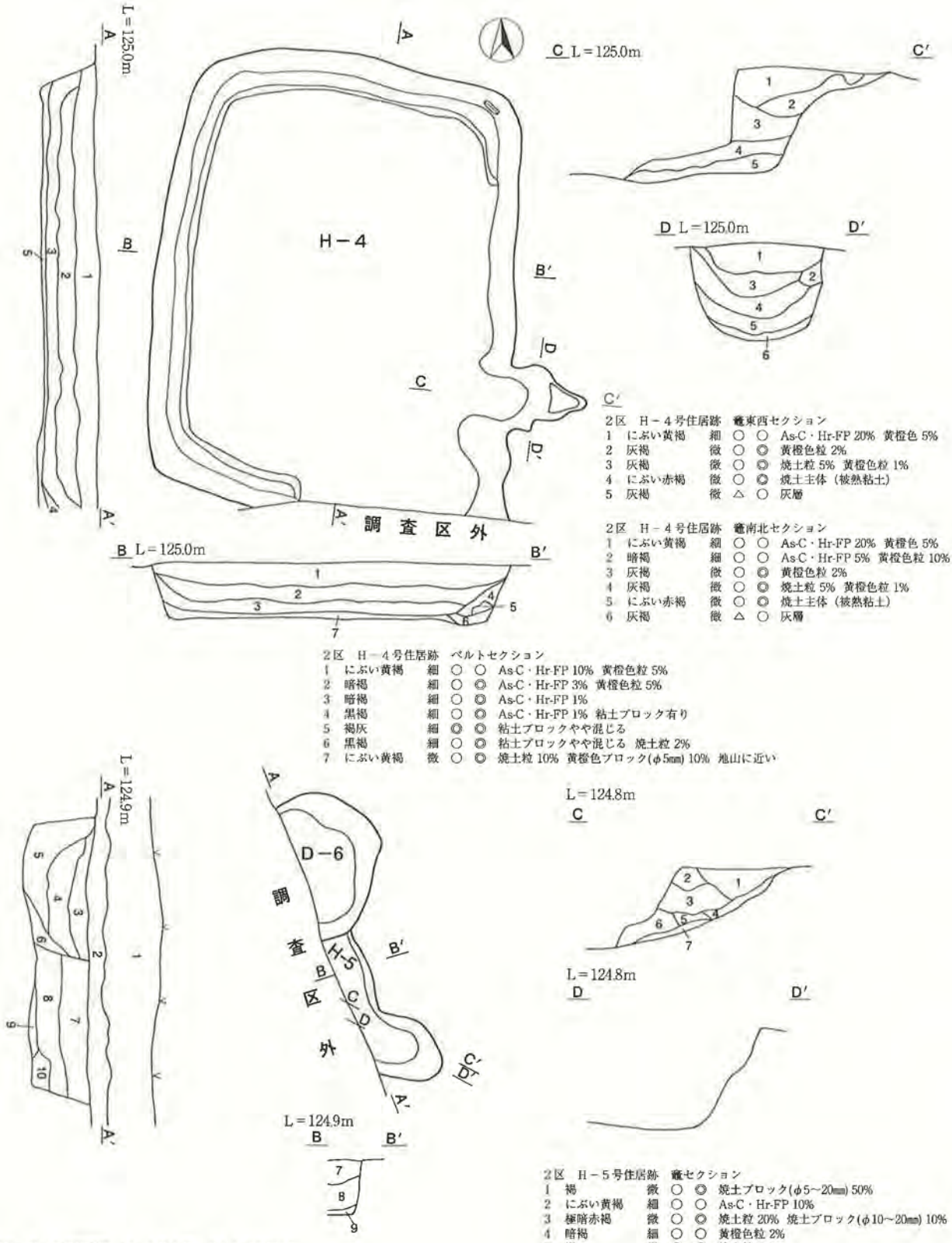
2区　H－3号住居跡　ベルトセクション

1	にぶい黄褐	細	○	○	As-C・Hr-FP 5%　黄橙色粒 1%
2	暗褐	細	○	◎	As-C・Hr-FP 3%　黄橙色ブロック(φ2mm) 2%
3	暗褐	微	○	○	As-C・Hr-FP 1%　黄橙色ブロック(φ2mm) 5%
4	暗褐	細	○	◎	黄橙色粒 5%　黄橙色ブロック(φ2mm) 1%

0　1：30　1m

0　1：60　2m

Fig.20　2区H－2・3号住居跡



C′

2区　H－4号住居跡　竈東西セクション

1	にぶい黄褐	細	○	○	As-C・Hr-FP 20%　黄橙色 5%
2	灰褐	微	○	◎	黄橙色粒 2%
3	灰褐	微	○	◎	焼土粒 5%　黄橙色粒 1%
4	にぶい赤褐	微	○	◎	焼土主体（被熱粘土）
5	灰褐	微	△	○	灰層

2区　H－4号住居跡　竈南北セクション

1	にぶい黄褐	細	○	○	As-C・Hr-FP 20%　黄橙色 5%
2	暗褐	細	○	○	As-C・Hr-FP 5%　黄橙色粒 10%
3	灰褐	微	○	◎	黄橙色粒 2%
4	灰褐	微	○	◎	焼土粒 5%　黄橙色粒 1%
5	にぶい赤褐	微	○	◎	焼土主体（被熱粘土）
6	灰褐	微	△	○	灰層

2区　H－4号住居跡　ベルトセクション

1	にぶい黄褐	細	○	○	As-C・Hr-FP 10%　黄橙色粒 5%
2	暗褐	細	○	◎	As-C・Hr-FP 3%　黄橙色粒 5%
3	暗褐	細	○	◎	As-C・Hr-FP 1%
4	黒褐	細	○	◎	As-C・Hr-FP 1%　粘土ブロック有り
5	褐灰	細	◎	◎	粘土ブロックやや混じる
6	黒褐	細	○	◎	粘土ブロックやや混じる　焼土粒 2%
7	にぶい黄褐	微	○	◎	焼土粒 10%　黄橙色ブロック(φ5mm) 10%　地山に近い

2区　H－5号住居跡　竈セクション

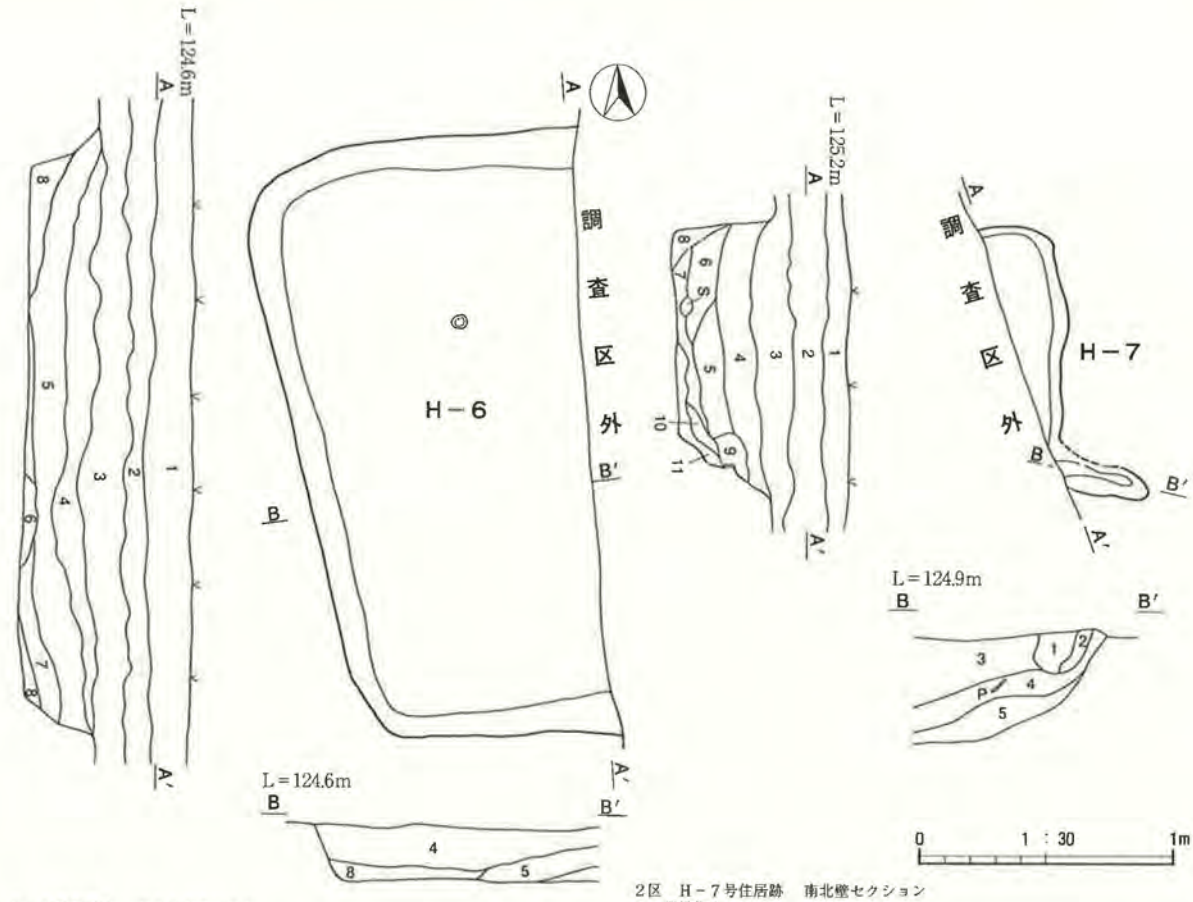
1	褐	微	○	◎	焼土ブロック(φ5～20mm) 50%
2	にぶい黄褐	細	○	○	As-C・Hr-FP 10%
3	極暗赤褐	微	○	◎	焼土粒 20%　焼土ブロック(φ10～20mm) 10%
4	暗褐	細	○	○	黄橙色粒 2%
5	褐	微	○	◎	焼土粒 5%
6	灰褐	微	△	◎	灰多く混じる
7	にぶい赤褐	微	△	○	灰層

2区　H－5号住居跡，D－6号土坑　ベルトセクション

1	現耕作土					
2	にぶい黄褐	細	◎	○	As-C・Hr-FP 5%	
3	暗褐	細	○	○	As-C・Hr-FP 10%　黄橙色粒 2%	(D－6)
4	暗褐	細	○	○	As-C・Hr-FP 15%	(D－6)
5	暗褐	細	○	○	黄橙色ブロック(φ5mm) 5%	(D－6)
6	暗褐	細	○	○	As-C・Hr-FP 1%	(D－6)
7	暗褐	細	○	○	As-C・Hr-FP 15%　黄橙色粒 2%	(H－5)
8	暗褐	細	○	○	As-C・Hr-FP 10%	(H－5)
9	黒褐	微	○	◎	やや灰混じる	(H－5)
10	黒褐	微	○	○	焼土粒 5%	(H－5)

0　1：60　2m　　0　1：30　1m

Fig.21　2区H－4・5号住居跡、D－6号土坑

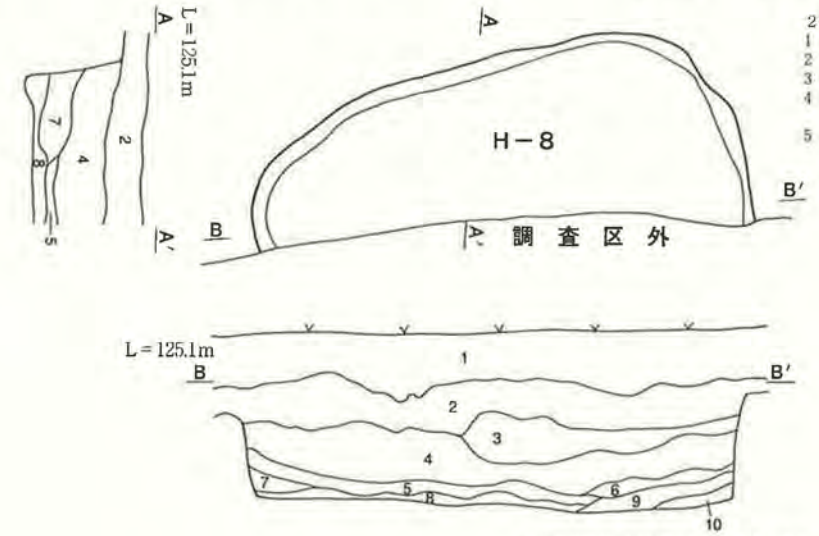


2区　H－6号住居跡　ベルトセクション

1	現耕作土			
2	灰黄褐	粗	◎	△	As-B 50%以上
3	暗褐	細	◎	○	As-C・Hr-FP 10%　黄橙色粒 5%
4	暗褐	細	○	○	As-C・Hr-FP 15%　黄橙色粒 10%
5	黒褐	微	◎	○	As-C・Hr-FP 10%
6	黒褐	微	○	◎	As-C・Hr-FP 1%　黄橙色ブロック(φ5mm) 5%
7	黒褐	微	○	○	As-C・Hr-FP 5%
8	にぶい黄褐	微	○	○	As-C・Hr-FP 5%　焼土粒 5% 黄橙色ブロック(φ5～10mm) 10%

2区　H－7号住居跡　南北壁セクション

1	現耕作土			
2	灰黄褐	粗	◎	△	As-B 50%以上
3	暗褐	細	○	○	As-C・Hr-FP 10%　黄橙色粒 2%
4	暗褐	細	○	○	As-C・Hr-FP 10%　黄橙色粒 5%
5	黒褐	微	○	○	As-C・Hr-FP 2%
6	黒褐	微	○	◎	As-C・Hr-FP 7%　黄橙色ブロック(φ5～20mm) 5%
7	黒褐	微	○	◎	黄橙色ブロック(φ5mm) 6%
8	褐	微	○	◎	黄橙色粒 2%
9	灰黄褐	微	○	◎	黄橙色粒 1%　炭化物 1%
10	褐	微	△	◎	焼土ブロック(φ2から5mm) 6%
11	灰褐	微	△	◎	粘土ブロック(φ20mm) 有　炭化物 10%　焼土粒 5%



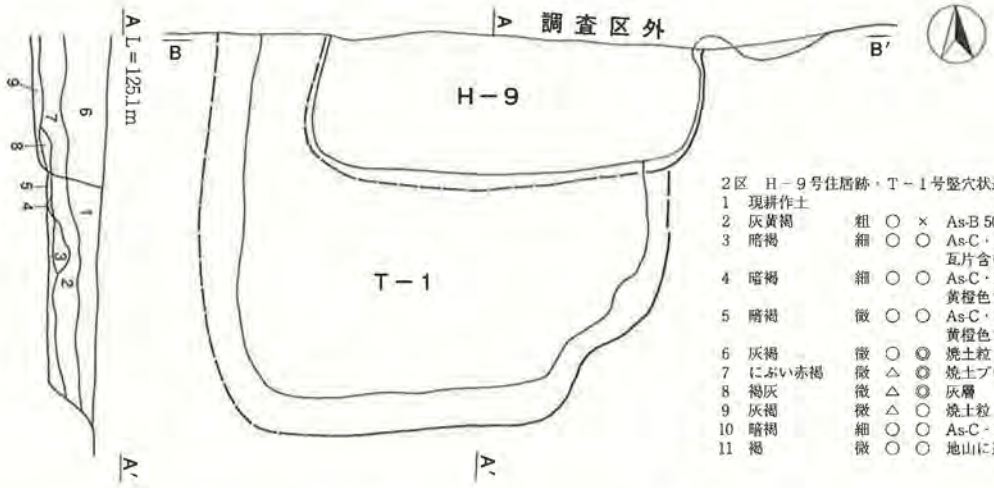
2区　H－7号住居跡　竈セクション

1	褐	微	○	◎	焼土粒 10%
2	黒褐	微	○	○	黄橙色粒 2%
3	褐	微	○	○	焼土粒 5%　黄橙色粒 2%
4	灰褐	微	△	◎	焼土ブロック(φ5mm) 10% 焼土粒 5%
5	灰褐	微	△	○	灰層

2区　H－8号住居跡　東西壁セクション

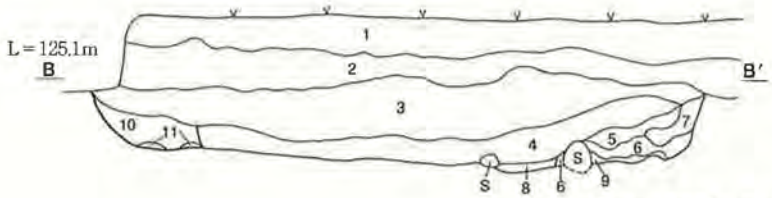
1	現耕作土			
2	暗褐	細	◎	○	As-C・Hr-FP 20%　黄橙色粒 5%
3	黒褐	細	○	○	As-C・Hr-FP 15%　黄橙色ブロック(φ5mm) 10%
4	黒褐	細	○	○	As-C・Hr-FP 25%　黄橙色ブロック(φ5～10mm) 5%
5	黒褐	微	○	○	As-C・Hr-FP 5%　黄橙色粒 2%
6	暗褐	微	◎	○	As-C・Hr-FP 2%　黄橙色ブロック(φ2mm) 5%
7	黒褐	微	○	◎	As-C・Hr-FP 1%
8	黒褐	微	○	◎	黄橙色粒 2%　黄橙色ブロック(φ5～10mm) 10%　地山にやや近い
9	暗褐	細	○	○	As-C・Hr-FP 2%
10	黒褐	微	○	◎	黄橙色ブロック(φ5mm) 5%

Fig.22　2区H－6～8号住居跡



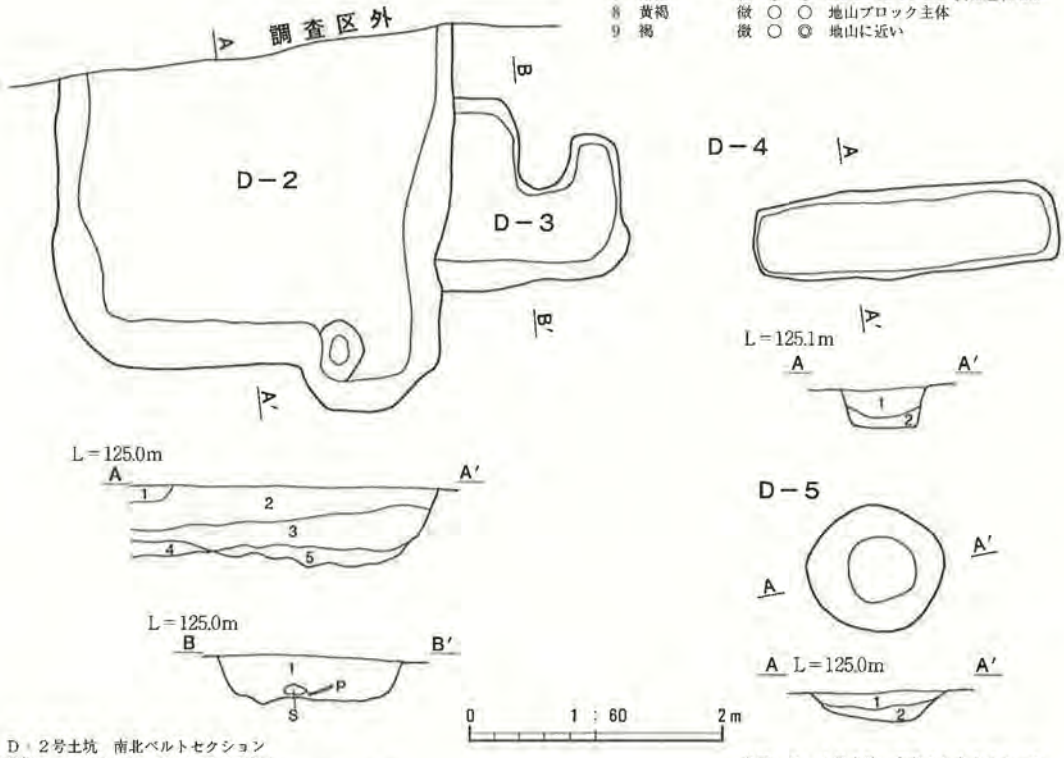
2区　H－9号住居跡・T－1号竪穴状遺構東西壁セクション

1	現耕作土				
2	灰黄褐	粗	○	×	As-B 50%　As-C・Hr-FP 1%
3	暗褐	細	○	○	As-C・Hr-FP 20%　黄橙色粒 5%　瓦片含む　(H－9)
4	暗褐	細	○	○	As-C・Hr-FP 5%　黄橙色粒 5%　黄橙色ブロック(φ5mm) 2%　(H－9)
5	暗褐	微	○	○	As-C・Hr-FP 2%　黄橙色粒 2%　黄橙色ブロック(φ5mm) 1%　(H－9)
6	灰褐	微	○	◎	焼土粒 5%　(H－9)
7	にぶい赤褐	微	△	◎	焼土ブロック主体　瓦多く含む　(H－9)
8	褐灰	微	△	◎	灰層　(H－9)
9	灰褐	微	△	○	焼土粒 1%　やや灰混じる　(H－9)
10	暗褐	細	○	○	As-C・Hr-FP 1%　黄橙色粒 2%　(T－1)
11	褐	微	○	○	地山に近い　(T－1)



2区　H－9号住居跡・T－1号竪穴状遺構　南北ベルトセクション

1	褐	細	○	○	As-C・Hr-FP 20%　黄橙色粒 2%　(T－1)
2	暗褐	細	○	○	As-C・Hr-FP 10%　黄橙色粒 5%　黄橙色ブロック(φ5～10mm) 10%　(T－1)
3	黒褐	微	○	◎	As-C・Hr-FP 2%　黄橙色粒 2%　(T－1)
4	灰黄褐	微	○	◎	粘土ブロック主体　(T－1)
5	暗褐	微	○	○	As-C・Hr-FP 2%　黄橙色ブロック(φ5mm) 5%　(T－1)
6	暗褐	細	○	○	As-C・Hr-FP 20%　黄橙色粒 5%　(H－9)
7	暗褐	細	○	○	As-C・Hr-FP 5%　黄橙色粒 2%　(H－9)
8	黄褐	微	○	○	地山ブロック主体　(H－9)
9	褐	微	○	◎	地山に近い　(H－9)



2区　D－2号土坑　南北ベルトセクション

1	灰黄褐	粗	○	△	As-B 50%以上
2	暗褐	細	○	○	As-C・Hr-FP 20%　黄橙色粒 5%
3	暗褐	細	○	○	As-C・Hr-FP 10%　黄橙色粒 2%　黄橙色ブロック(φ5～20mm) 5%
4	黒褐	微	○	◎	黄橙色粒 2%
5	暗褐	微	◎	◎	As-C・Hr-FP 5%　黄橙色粒 5%

2区　D－3号土坑　南北ベルトセクション

1	暗褐	細	○	○	As-C・Hr-FP 20%　黄橙色粒 5%

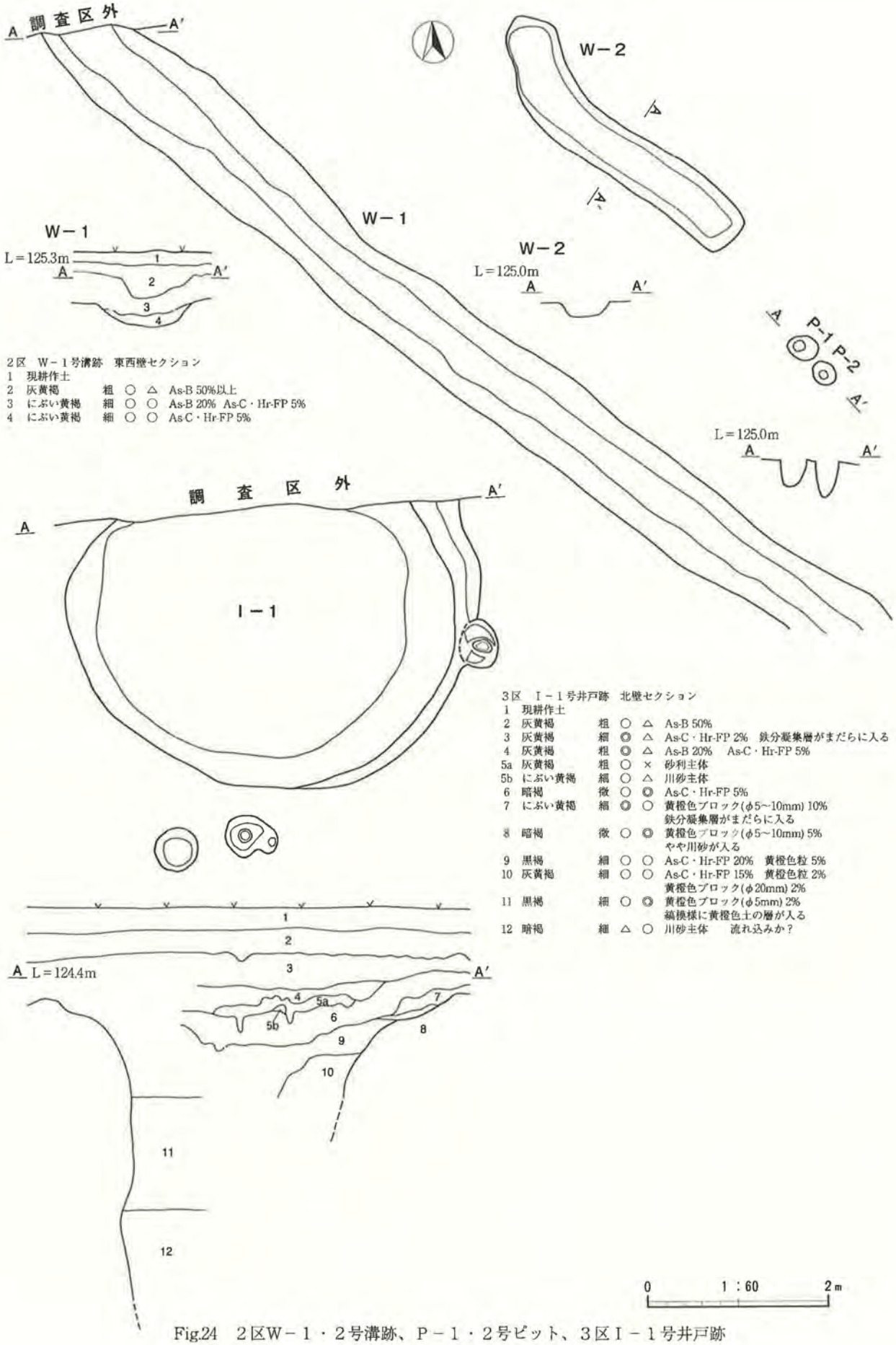
2区　D－4号土坑　南北ベルトセクション

1	暗褐	細	○	△	As-B 20%　As-C・Hr-FP 5%
2	暗褐	細	○	○	As-B 10%　As-C・Hr-FP 1%

2区　D－5号土坑　南北ベルトセクション

1	暗褐	細	○	○	As-B 20%　As-C・Hr-FP 5%
2	黒褐	微	○	◎	As-C・Hr-FP 1%

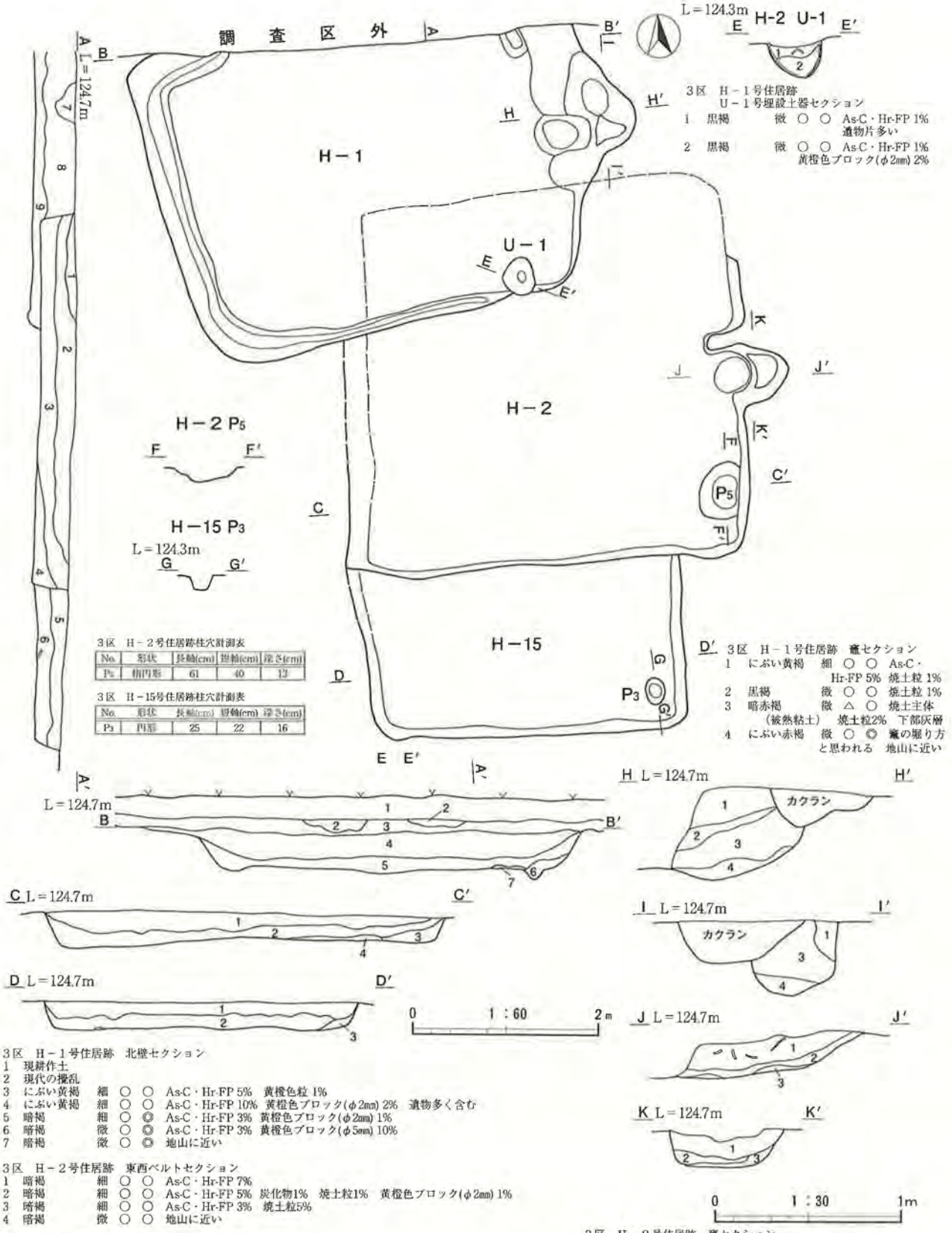
Fig.23　2区H－9号住居跡、T－1号竪穴状遺構、D－2～5号土坑



2区　W－1号溝跡　東西壁セクション
1　現耕作土
2　灰黄褐　粗　○　△　As-B 50%以上
3　にぶい黄褐　細　○　○　As-B 20%　As-C・Hr-FP 5%
4　にぶい黄褐　細　○　○　As-C・Hr-FP 5%

3区　I－1号井戸跡　北壁セクション
1　現耕作土
2　灰黄褐　粗　○　△　As-B 50%
3　灰黄褐　細　◎　△　As-C・Hr-FP 2%　鉄分凝集層がまだらに入る
4　灰黄褐　粗　◎　△　As-B 20%　As-C・Hr-FP 5%
5a　灰黄褐　粗　○　×　砂利主体
5b　にぶい黄褐　細　○　△　川砂主体
6　暗褐　微　○　◎　As-C・Hr-FP 5%
7　にぶい黄褐　細　◎　○　黄橙色ブロック(φ5～10mm) 10%
鉄分凝集層がまだらに入る
8　暗褐　微　○　◎　黄橙色ブロック(φ5～10mm) 5%
やや川砂が入る
9　黒褐　細　○　○　As-C・Hr-FP 20%　黄橙色粒 5%
10　灰黄褐　細　○　○　As-C・Hr-FP 15%　黄橙色粒 2%
黄橙色ブロック(φ20mm) 2%
11　黒褐　細　○　◎　黄橙色ブロック(φ5mm) 2%
縞模様に黄橙色土の層が入る
12　暗褐　細　△　○　川砂主体　流れ込みか？

Fig.24　2区W－1・2号溝跡、P－1・2号ピット、3区I－1号井戸跡



3区 H－1号住居跡
U－1号埋設土器セクション

1	黒褐	微	○ ○	As-C・Hr-FP 1% 遺物片多い
2	黒褐	微	○ ○	As-C・Hr-FP 1% 黄橙色ブロック(φ2mm) 2%

3区 H－2号住居跡柱穴計測表

No.	形状	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)
P5	楕円形	61	40	12

3区 H－15号住居跡柱穴計測表

No.	形状	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)
P3	円形	25	22	16

D′ 3区 H－1号住居跡 竈セクション

1	にぶい黄褐	細	○ ○	As-C・Hr-FP 5% 焼土粒 1%
2	黒褐	微	○ ○	焼土粒 1%
3	暗赤褐	微	△ ○	焼土主体
	(被熱粘土)			焼土粒2% 下部灰層
4	にぶい赤褐	微	○ ◎	竈の堀り方と思われる 地山に近い

3区 H－1号住居跡 北壁セクション

1	現耕作土			
2	現代の攪乱			
3	にぶい黄褐	細	○ ○	As-C・Hr-FP 5% 黄橙色粒 1%
4	にぶい黄褐	細	○ ○	As-C・Hr-FP 10% 黄橙色ブロック(φ2mm) 2% 遺物多く含む
5	暗褐	細	○ ◎	As-C・Hr-FP 3% 黄橙色ブロック(φ2mm) 1%
6	暗褐	微	○ ◎	As-C・Hr-FP 3% 黄橙色ブロック(φ5mm) 10%
7	暗褐	微	○ ◎	地山に近い

3区 H－2号住居跡 東西ベルトセクション

1	暗褐	細	○ ○	As-C・Hr-FP 7%
2	暗褐	細	○ ○	As-C・Hr-FP 5% 炭化物1% 焼土粒1% 黄橙色ブロック(φ2mm) 1%
3	暗褐	細	○ ○	As-C・Hr-FP 3% 焼土粒5%
4	暗褐	微	○ ○	地山に近い

3区 H－1、2、15号住居跡 南北ベルトセクション

1	現代の攪乱				
2	にぶい黄褐	細	○ ○	As-C・Hr-FP 5% 黄橙色粒 1%	(H-2)
3	暗褐	細	○ ○	As-C・Hr-FP 7%	(H-2)
4	暗褐	細	○ ○	As-C・Hr-FP 5% 炭化物1% 焼土粒1% 黄橙色ブロック(φ2mm) 1%	(H-2)
5	暗褐	細	○ ○	As-C・Hr-FP 5% 黄橙色ブロック(φ2mm) 5%	(H-2)
6	暗褐	細	○ ○	As-C・Hr-FP 1% 焼土粒2%	(H-15)
7	暗褐	細	○ ○	As-C・Hr-FP 5% 黄橙色ブロック(φ2mm) 5%	(H-15)
8	にぶい黄褐	細	○ ○	As-C・Hr-FP 10% 黄橙色ブロック(φ2mm) 2% 遺物多く含む	(H-1)
9	暗褐	細	○ ◎	As-C・Hr-FP 3% 黄橙色ブロック(φ2mm) 1%	(H-1)

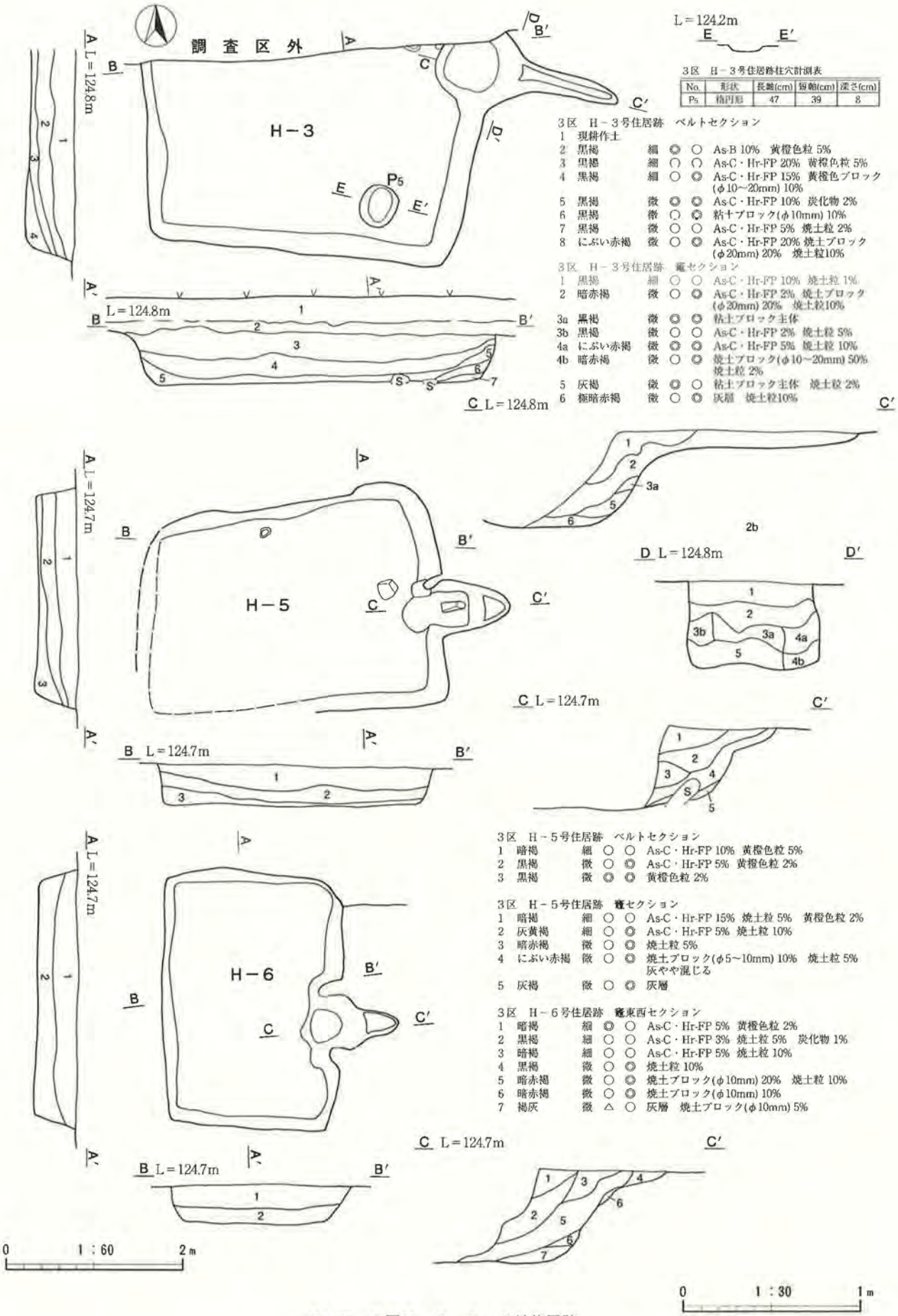
3区 H－2号住居跡 竈セクション

1	黒褐	細	○ ○	As-C・Hr-FP 1% 焼土粒 5%
2	にぶい赤褐	微	○ ○	焼土粒 2% 炭化物2% 灰混じる
3	灰褐	微	○ ○	灰層 焼土粒 5%

3区 H－15号住居跡 東西ベルトセクション

1	暗褐	細	○ ○	As-C・Hr-FP 1% 焼土粒2%
2	暗褐	細	○ ○	As-C・Hr-FP 5% 黄橙色ブロック(φ2mm) 5%
3	暗褐	細	○ ○	黄橙色ブロック(φ2mm) 5%

Fig.25 3区H－1・2・15号住居跡



3区 H－3号住居跡柱穴計測表

No.	形状	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)
P5	楕円形	47	39	8

3区 H－3号住居跡 ベルトセクション

1 現耕作土
2 黒褐 細 ◎ ○ As-B 10% 黄橙色粒 5%
3 黒褐 細 ○ ○ As-C・Hr-FP 20% 黄橙色粒 5%
4 黒褐 細 ○ ◎ As-C・Hr-FP 15% 黄橙色ブロック(φ10～20mm) 10%
5 黒褐 微 ◎ ◎ As-C・Hr-FP 10% 炭化物 2%
6 黒褐 微 ○ ◎ 粘土ブロック(φ10mm) 10%
7 黒褐 微 ○ ○ As-C・Hr-FP 5% 焼土粒 2%
8 にぶい赤褐 微 ○ ◎ As-C・Hr-FP 20% 焼土ブロック(φ20mm) 20% 焼土粒10%

3区 H－3号住居跡 竈セクション

1 黒褐 細 ○ ○ As-C・Hr-FP 10% 焼土粒 1%
2 暗赤褐 微 ○ ◎ As-C・Hr-FP 2% 焼土ブロック(φ20mm) 20% 焼土粒10%
3a 黒褐 微 ◎ ◎ 粘土ブロック主体
3b 黒褐 微 ○ ○ As-C・Hr-FP 2% 焼土粒 5%
4a にぶい赤褐 微 ◎ ◎ As-C・Hr-FP 5% 焼土粒 10%
4b 暗赤褐 微 ○ ◎ 焼土ブロック(φ10～20mm) 50% 焼土粒 2%
5 灰褐 微 ◎ ○ 粘土ブロック主体 焼土粒 2%
6 極暗赤褐 微 ○ ◎ 灰層 焼土粒10%

3区 H－5号住居跡 ベルトセクション

1 暗褐 細 ○ ○ As-C・Hr-FP 10% 黄橙色粒 5%
2 黒褐 微 ○ ◎ As-C・Hr-FP 5% 黄橙色粒 2%
3 黒褐 微 ◎ ◎ 黄橙色粒 2%

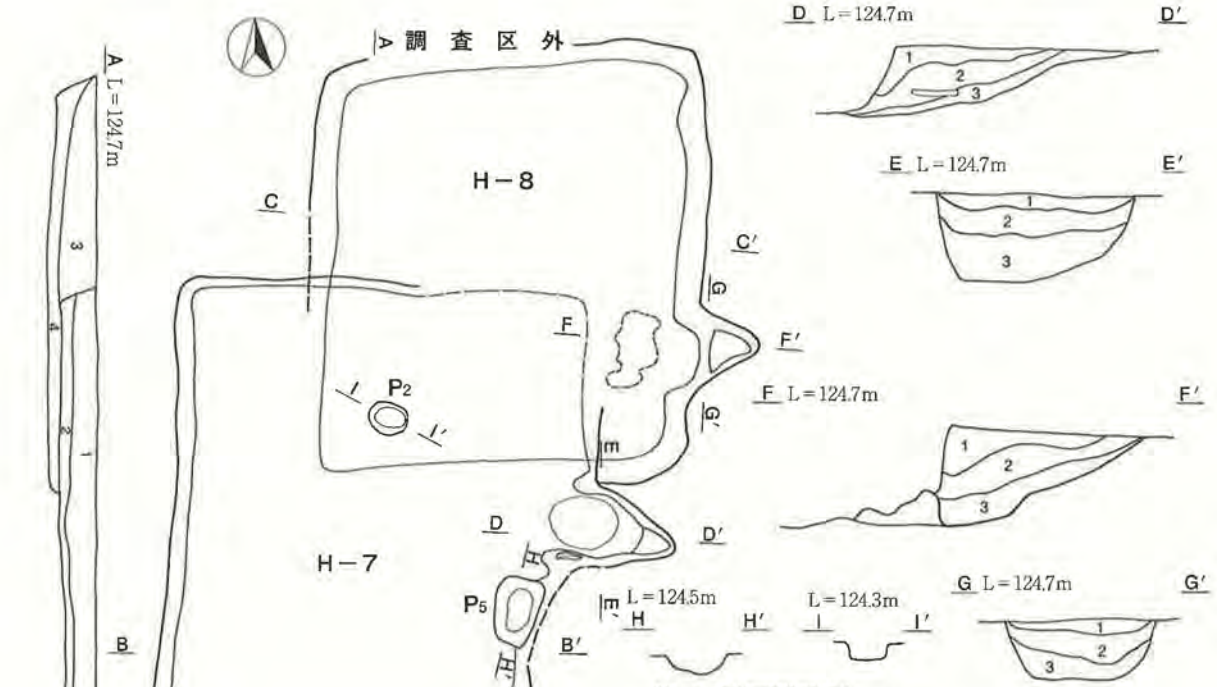
3区 H－5号住居跡 竈セクション

1 暗褐 細 ○ ○ As-C・Hr-FP 15% 焼土粒 5% 黄橙色粒 2%
2 灰黄褐 細 ○ ◎ As-C・Hr-FP 5% 焼土粒 10%
3 暗赤褐 微 ○ ◎ 焼土粒 5%
4 にぶい赤褐 微 ○ ◎ 焼土ブロック(φ5～10mm) 10% 焼土粒 5% 灰やや混じる
5 灰褐 微 ○ ◎ 灰層

3区 H－6号住居跡 竈東西セクション

1 暗褐 細 ◎ ○ As-C・Hr-FP 5% 黄橙色粒 2%
2 黒褐 細 ○ ○ As-C・Hr-FP 3% 焼土粒 5% 炭化物 1%
3 暗褐 細 ○ ○ As-C・Hr-FP 5% 焼土粒 10%
4 黒褐 微 ○ ◎ 焼土粒 10%
5 暗赤褐 微 ○ ◎ 焼土ブロック(φ10mm) 20% 焼土粒 10%
6 暗赤褐 微 ○ ◎ 焼土ブロック(φ10mm) 10%
7 褐灰 微 △ ○ 灰層 焼土ブロック(φ10mm) 5%

Fig.26 3区H－3・5・6号住居跡



3区　H－7号住居跡柱穴計測表

No.	形状	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)
P5	楕円形	51	33	13

3区　H－8号住居跡柱穴計測表

No.	形状	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)
P2	楕円形	30	25	12

3区　H－7，8号住居跡　南北ベルトセクション

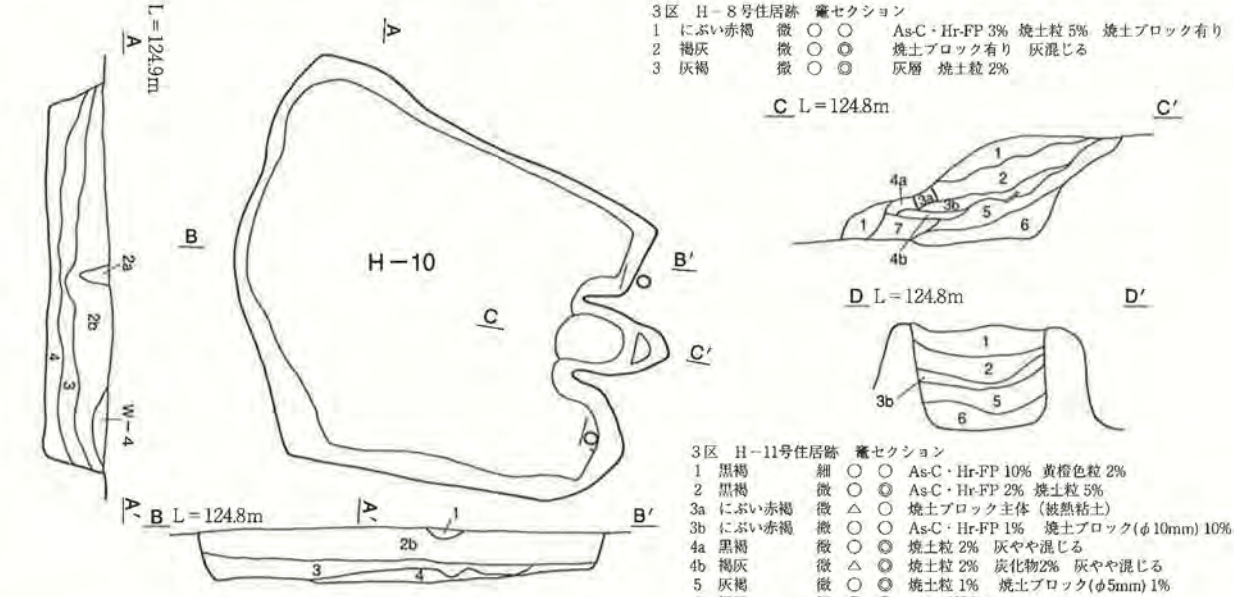
1	暗褐	細	○	◎	As-C・Hr-FP 3%	(H-7)
2	にぶい黄褐	細	○	○	As-C・Hr-FP 1%	(H-7)
3	黒褐	細	○	◎	As-C・Hr-FP 5%	(H-8)
4	黒褐	細	○	◎	As-C・Hr-FP 3%　炭化物 1%	(H-8)
5	黒褐	細	◎	◎	炭化物 3%　灰やや混じる	(H-8)

3区　H－7号住居跡　竈セクション

1	暗褐	細	○	○	As-C・Hr-FP 5%　焼土粒 1%	
2	暗褐	細	○	○	As-C・Hr-FP 2%　焼土粒 5%　炭化物 1%	
3	灰褐	微	△	◎	灰層　焼土ブロック有り	

3区　H－8号住居跡　竈セクション

1	にぶい赤褐	微	○	○	As-C・Hr-FP 3%　焼土粒 5%　焼土ブロック有り	
2	褐灰	微	○	◎	焼土ブロック有り　灰混じる	
3	灰褐	微	○	◎	灰層　焼土粒 2%	



3区　H－11号住居跡　竈セクション

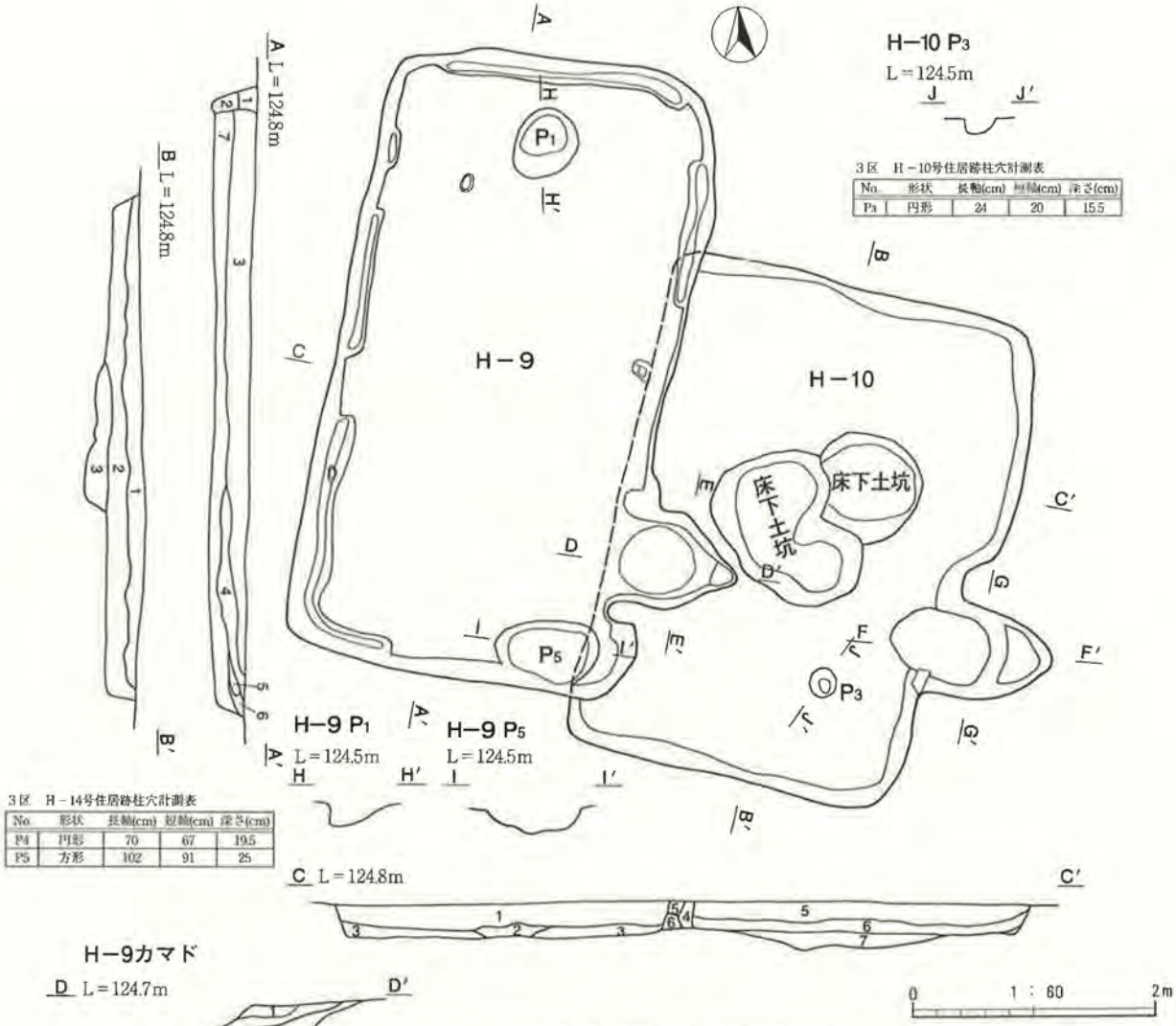
1	黒褐	細	○	○	As-C・Hr-FP 10%　黄橙色粒 2%	
2	黒褐	微	○	◎	As-C・Hr-FP 2%　焼土粒 5%	
3a	にぶい赤褐	微	△	○	焼土ブロック主体（被熱粘土）	
3b	にぶい赤褐	微	○	○	As-C・Hr-FP 1%　焼土ブロック(φ10mm) 10%	
4a	黒褐	微	○	◎	焼土粒 2%　灰やや混じる	
4b	褐灰	微	△	◎	焼土粒 2%　炭化物2%　灰やや混じる	
5	灰褐	微	○	◎	焼土粒 1%　焼土ブロック(φ5mm) 1%	
6	褐灰	微	○	○	やや灰混じる	
7	褐灰	微	◎	◎	As-C・Hr-FP 5%　焼土粒 1%	

3区　H－11号住居跡　ベルトセクション

1	暗褐	粗	◎	△	As-B 20%　As-C・Hr-FP 20%　黄橙色粒 2%	
2a	黒褐	細	○	○	As-C・Hr-FP 10%	
2b	黒褐	細	○	○	As-C・Hr-FP 20%　黄橙色粒 1%	
3	暗褐	細	○	◎	As-C・Hr-FP 5%　黄橙色粒 2%　炭化物 1%	
4	黒褐	微	○	◎	黄橙色粒 2%　焼土粒 5%　壁際ほど粘性が強い	

0　1：60　2m　　0　1：30　1m

Fig.27　3区H－7・8・11号住居跡

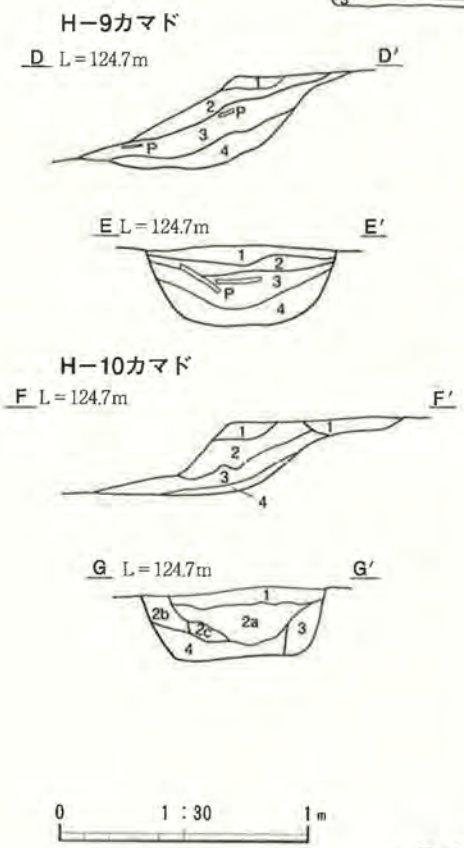


3区　H－14号住居跡柱穴計測表

No.	形状	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)
P4	円形	70	67	19.5
P5	方形	102	91	25

3区　H－10号住居跡柱穴計測表

No.	形状	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)
P3	円形	24	20	15.5



3区　H－9・10号住居跡　東西ベルトセクション

1	黒褐	細	◎	○	As-C・Hr-FP 50% (H-9)
2	暗褐	微	○	◎	As-C・Hr-FP 5%　黄橙色粒 2%　粘土ブロック(φ5mm) 5% (H-9)
3	黒褐	微	○	◎	As-C・Hr-FP 2%　粘土ブロック(φ10～20mm) 20% (H-9)
4	黒褐	微	◎	◎	粘土ブロック主体 (H-10)
5	黒褐	細	◎	○	As-C・Hr-FP 20%　黄橙色粒 2% (H-10)
6	黒褐	微	○	○	As-C・Hr-FP 5% (H-10)
7	黒褐	微	○	◎	床下土坑 (H-10)

3区　H－9号住居跡　南北ベルトセクション

1	黒褐	細	◎	○	As-C・Hr-FP 50%
2	黒褐	微	◎	◎	地山に近い
3	黒褐	細	○	○	As-C・Hr-FP 20%　黄橙色粒 1%
4	暗褐	微	○	◎	As-C・Hr-FP 5%　黄橙色粒 2%　粘土ブロック(φ5mm) 5%
5	暗褐	細	○	○	As-C・Hr-FP 2%　黄橙色粒 1%
6	黒褐	細	○	○	As-C・Hr-FP 15%
7	黒褐	微	○	◎	As-C・Hr-FP 2%　粘土ブロック(φ10～20mm) 20%

3区　H－10号住居跡　南北ベルトセクション

1	黒褐	細	◎	○	As-C・Hr-FP 20%　黄橙色粒 2%
2	黒褐	微	○	○	As-C・Hr-FP 5%
3	黒褐	微	○	◎	床下土坑

3区　H－9号住居跡　竈セクション

1	黒褐	細	◎	○	As-C・Hr-FP 20%　黄橙色粒 1%
2	にぶい赤褐	微	◎	○	粘土ブロック(φ10mm) 50%　焼土粒 2%
3	褐灰	微	○	◎	焼土ブロック(φ10mm) 20%　炭化物 10%
4	灰褐	微	△	◎	下部に灰層　焼土粒 10%

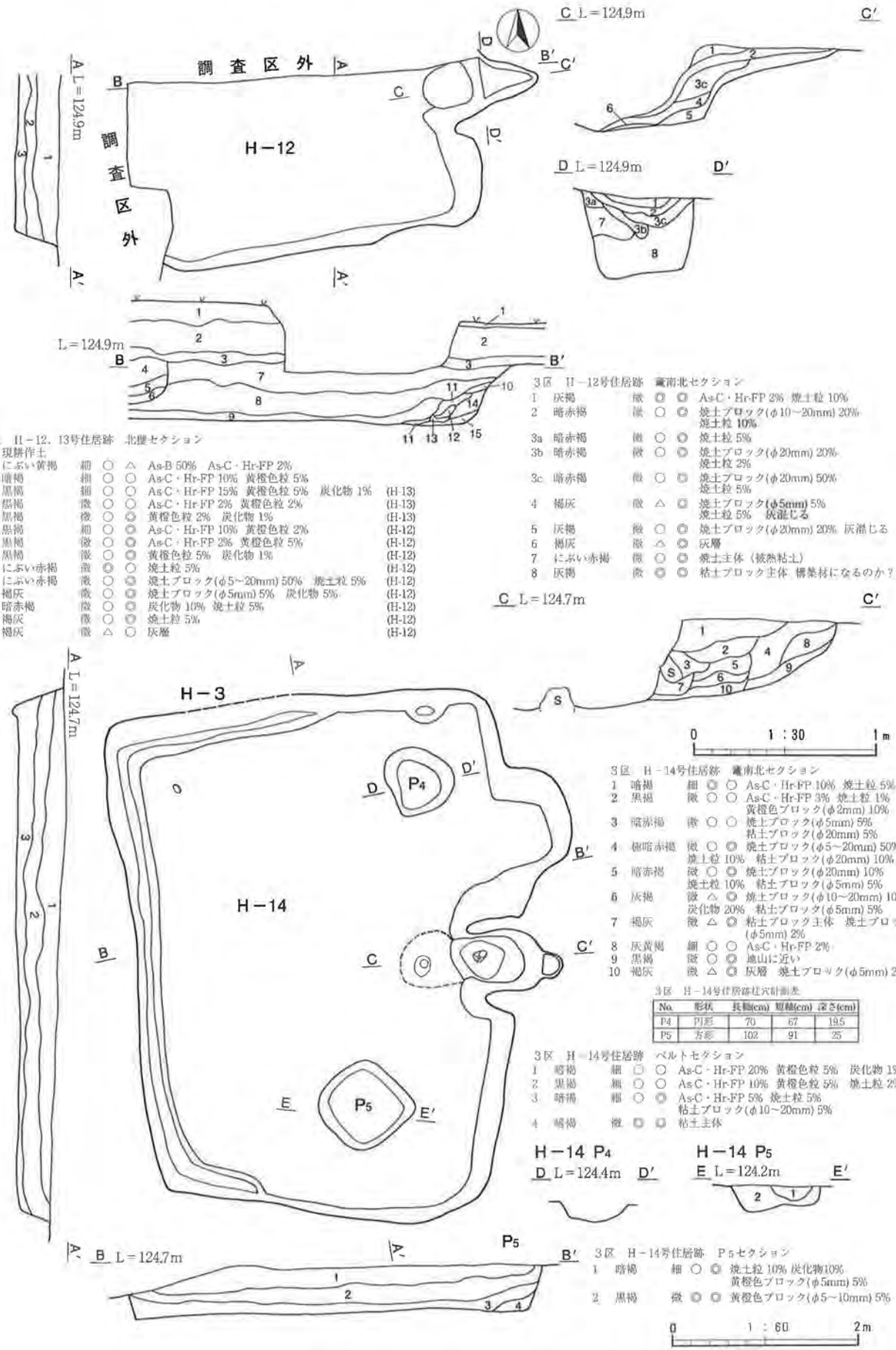
3区　H－10号住居跡　竈東西セクション

1	黒褐	細	◎	○	As-C・Hr-FP 10%　焼土粒 2%
2	暗赤褐	微	○	○	As-C・Hr-FP 1%　焼土粒 20%
3	灰褐	微	△	◎	灰層
4	灰褐	微	△	◎	灰層　焼土ブロック(φ10mm) 10%

3区　H－10号住居跡　竈東西セクション

1	黒褐	細	◎	○	As-C・Hr-FP 10%　焼土粒 2%
2a	暗赤褐	微	○	○	焼土ブロック(φ10mm) 50%
2b	にぶい赤褐	微	○	○	灰層
2c	灰褐	微	△	◎	灰層
3	暗赤褐	微	○	○	焼土ブロック(φ10mm) 20%
4	灰褐	微	△	◎	灰層　焼土ブロック(φ10mm) 10%

Fig.28　3区H－9・10号住居跡



3区　H－12・13号住居跡　北壁セクション

1	現耕作土				
2	にぶい黄褐	細	○	△	As-B 50%　As-C・Hr-FP 2%
3	暗褐	細	○	○	As-C・Hr-FP 10%　黄橙色粒 5%
4	黒褐	細	○	○	As-C・Hr-FP 15%　黄橙色粒 5%　炭化物 1%　(H-13)
5	黒褐	微	○	○	As-C・Hr-FP 2%　黄橙色粒 2%　(H-13)
6	黒褐	微	○	◎	黄橙色粒 2%　炭化物 1%　(H-13)
7	黒褐	細	○	◎	As-C・Hr-FP 10%　黄橙色粒 2%　(H-12)
8	黒褐	微	○	◎	As-C・Hr-FP 2%　黄橙色粒 5%　(H-12)
9	黒褐	微	○	◎	黄橙色粒 5%　炭化物 1%　(H-12)
10	にぶい赤褐	微	◎	○	焼土粒 5%　(H-12)
11	にぶい赤褐	微	○	◎	焼土ブロック(φ5～20mm) 50%　焼土粒 5%　(H-12)
12	褐灰	微	○	◎	焼土ブロック(φ5mm) 5%　炭化物 5%　(H-12)
13	暗赤褐	微	○	◎	炭化物 10%　焼土粒 5%　(H-12)
14	褐灰	微	○	◎	焼土粒 5%　(H-12)
15	褐灰	微	△	○	灰層　(H-12)

3区　H－12号住居跡　竈南北セクション

1	灰褐	微	◎	◎	As-C・Hr-FP 2%　焼土粒 10%
2	暗赤褐	微	○	◎	焼土ブロック(φ10～20mm) 20%　焼土粒 10%
3a	暗赤褐	微	○	◎	焼土粒 5%
3b	暗赤褐	微	○	◎	焼土ブロック(φ20mm) 20%　焼土粒 2%
3c	暗赤褐	微	○	◎	焼土ブロック(φ20mm) 50%　焼土粒 5%
4	褐灰	微	△	◎	焼土ブロック(φ5mm) 5%　焼土粒 5%　灰混じる
5	灰褐	微	○	◎	焼土ブロック(φ20mm) 20%　灰混じる
6	褐灰	微	△	◎	灰層
7	にぶい赤褐	微	○	◎	焼土主体（被熱粘土）
8	灰褐	微	◎	◎	粘土ブロック主体　構築材になるのか？

3区　H－14号住居跡　竈南北セクション

1	暗褐	細	◎	○	As-C・Hr-FP 10%　焼土粒 5%
2	黒褐	微	○	○	As-C・Hr-FP 3%　焼土粒 1%　黄橙色ブロック(φ2mm) 10%
3	暗赤褐	微	○	○	焼土ブロック(φ5mm) 5%　粘土ブロック(φ20mm) 5%
4	極暗赤褐	微	○	◎	焼土ブロック(φ5～20mm) 50%　焼土粒 10%　粘土ブロック(φ20mm) 10%
5	暗赤褐	微	○	◎	焼土ブロック(φ20mm) 10%　焼土粒 10%　粘土ブロック(φ5mm) 5%
6	灰褐	微	△	◎	焼土ブロック(φ10～20mm) 10%　炭化物 20%　粘土ブロック(φ5mm) 5%
7	褐灰	微	△	◎	粘土ブロック主体　焼土ブロック(φ5mm) 2%
8	灰黄褐	細	○	○	As-C・Hr-FP 2%
9	黒褐	微	○	◎	地山に近い
10	褐灰	微	△	◎	灰層　焼土ブロック(φ5mm) 2%

3区　H－14号住居跡柱穴計測表

No.	形状	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)
P4	円形	70	67	19.5
P5	方形	102	91	25

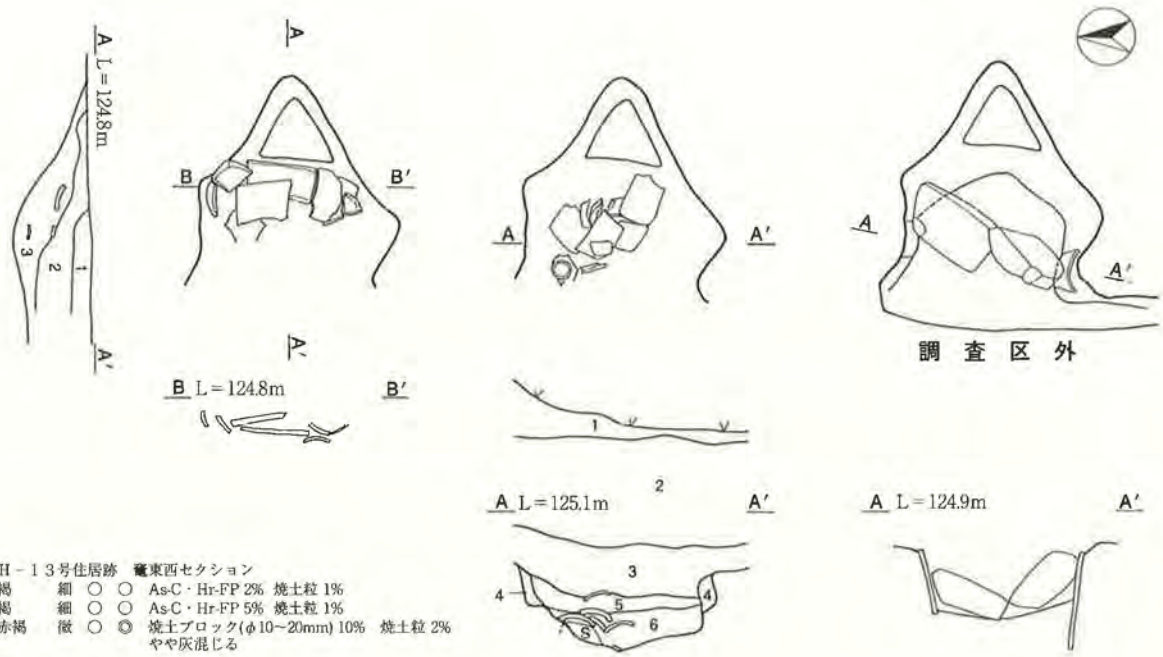
3区　H－14号住居跡　ベルトセクション

1	暗褐	細	○	○	As-C・Hr-FP 20%　黄橙色粒 5%　炭化物 1%
2	黒褐	細	○	○	As-C・Hr-FP 10%　黄橙色粒 5%　焼土粒 2%
3	暗褐	細	○	◎	As-C・Hr-FP 5%　焼土粒 5%　粘土ブロック(φ10～20mm) 5%
4	暗褐	微	◎	◎	粘土主体

3区　H－14号住居跡　P5セクション

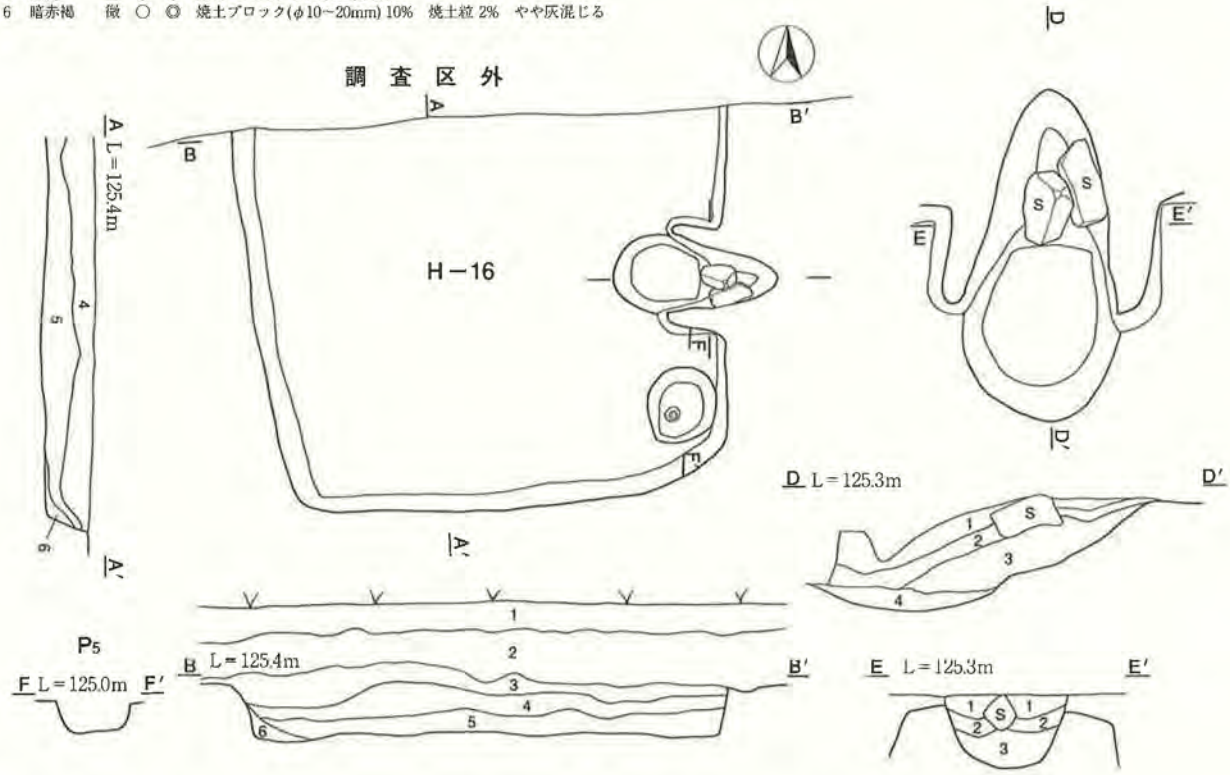
1	暗褐	細	○	◎	焼土粒 10%　炭化物10%　黄橙色ブロック(φ5mm) 5%
2	黒褐	微	◎	◎	黄橙色ブロック(φ5～10mm) 5%

Fig.29　3区H－12・14号住居跡



3区　H－13号住居跡　竈東西セクション
1　暗褐　　細　○　○　As-C・Hr-FP 2%　焼土粒 1%
2　黒褐　　細　○　○　As-C・Hr-FP 5%　焼土粒 1%
3　暗赤褐　微　○　◎　焼土ブロック(φ10～20mm) 10%　焼土粒 2%
　　やや灰混じる

3区　H－13号住居跡　竈南北セクション
1　現耕作土
2　灰黄褐　粗　○　△　As-B 50%
3　暗褐　　細　○　○　As-C・Hr-FP 20%　黄橙色粒 1%
4　暗赤褐　微　○　◎　焼土ブロック主体（被熱粘土）
5　黒褐　　細　○　○　As-C・Hr-FP 5%　焼土粒 1%
6　暗赤褐　微　○　◎　焼土ブロック(φ10～20mm) 10%　焼土粒 2%　やや灰混じる

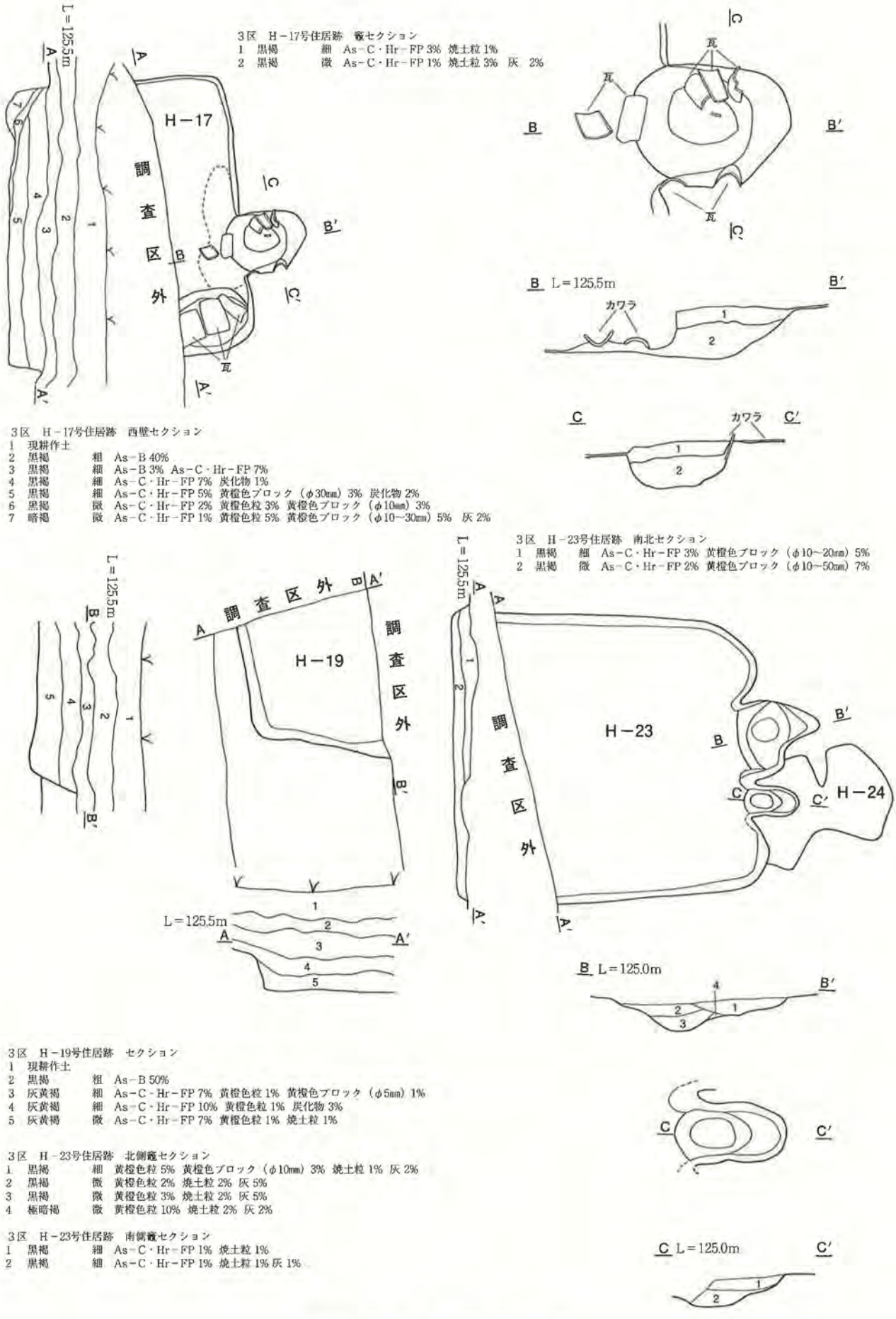


3区　H－16号住居跡　セクション
1　現耕作土
2　黒褐　　粗　As－B 40%
3　黒褐　　細　As－C・Hr－FP 7%
4　黒褐　　細　As－C・Hr－FP 10%　炭化物 1%　赤褐色砂粒 3%
5　黒褐　　微　As－C・Hr－FP 7%　炭化物 1%　赤褐色砂粒 5%
6　黒　　微　As－C・Hr－FP 1%　粘りが強い

3区　H－16号住居跡　竈セクション
1　黒褐　　細　As－C・Hr－FP 7%　焼土粒 2%
2　黒褐　　細　As－C・Hr－FP 5%　焼土粒 3%
3　黒褐　　細　As－C・Hr－FP 2%　焼土粒 15%　灰 3%
4　灰褐　　微　灰層　焼土粒 3%　にぶい黄橙色粘土粒 3%

0　1：60　2m　　0　1：30　1m

Fig.30　3区H－13・16号住居跡



3区　H－17号住居跡　竈セクション
1　黒褐　　細　As－C・Hr－FP 3%　焼土粒 1%
2　黒褐　　微　As－C・Hr－FP 1%　焼土粒 3%　灰　2%

3区　H－17号住居跡　西壁セクション
1　現耕作土
2　黒褐　　粗　As－B 40%
3　黒褐　　細　As－B 3%　As－C・Hr－FP 7%
4　黒褐　　細　As－C・Hr－FP 7%　炭化物 1%
5　黒褐　　細　As－C・Hr－FP 5%　黄橙色ブロック（φ30mm）3%　炭化物 2%
6　黒褐　　微　As－C・Hr－FP 2%　黄橙色粒 3%　黄橙色ブロック（φ10mm）3%
7　暗褐　　微　As－C・Hr－FP 1%　黄橙色粒 5%　黄橙色ブロック（φ10～30mm）5%　灰 2%

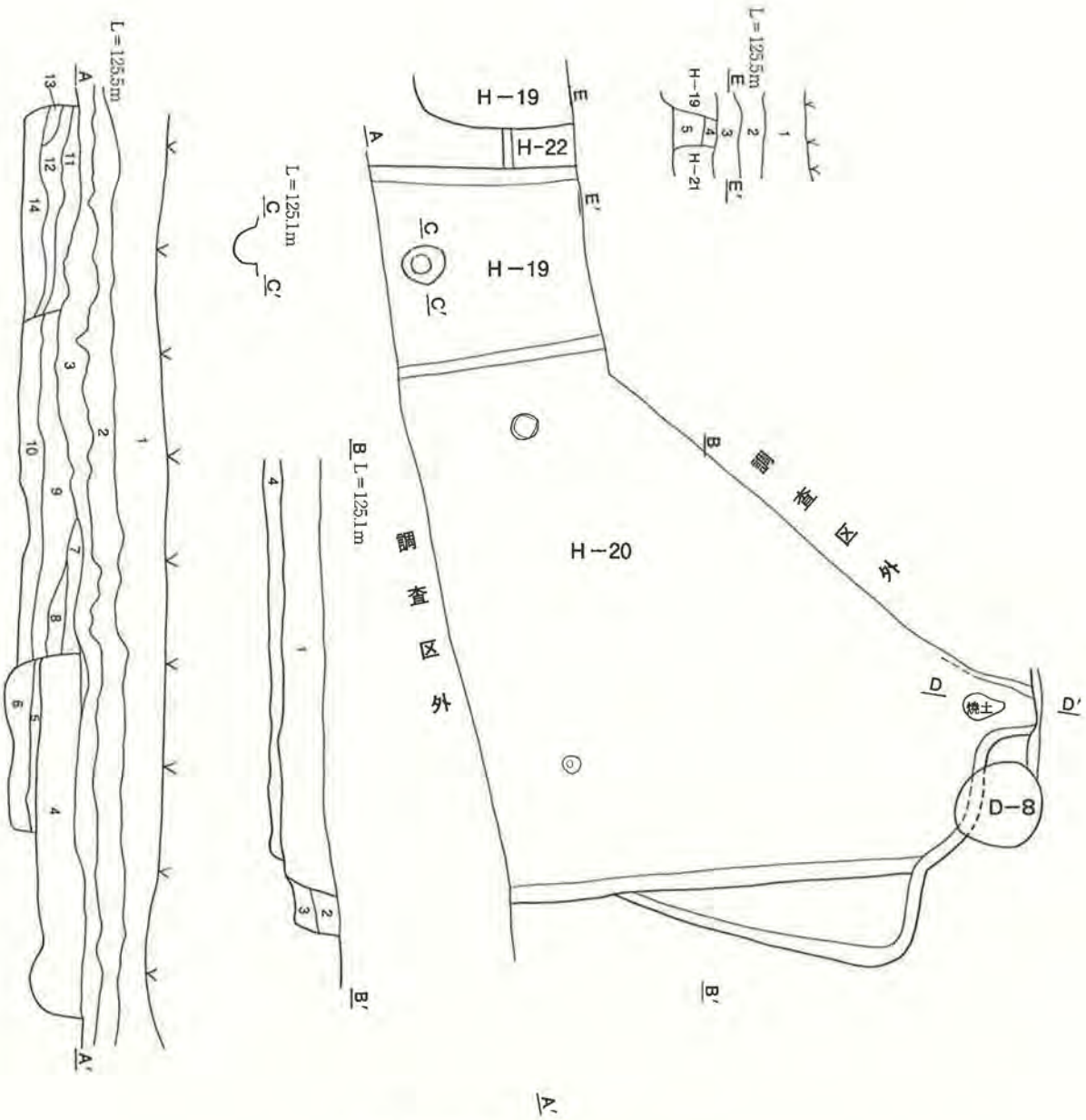
3区　H－23号住居跡　南北セクション
1　黒褐　　細　As－C・Hr－FP 3%　黄橙色ブロック（φ10～20mm）5%
2　黒褐　　微　As－C・Hr－FP 2%　黄橙色ブロック（φ10～50mm）7%

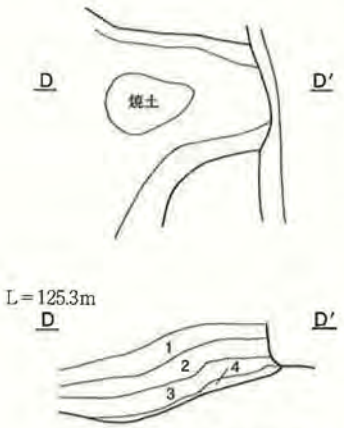
3区　H－19号住居跡　セクション
1　現耕作土
2　黒褐　　粗　As－B 50%
3　灰黄褐　　細　As－C・Hr－FP 7%　黄橙色粒 1%　黄橙色ブロック（φ5mm）1%
4　灰黄褐　　細　As－C・Hr－FP 10%　黄橙色粒 1%　炭化物 3%
5　灰黄褐　　微　As－C・Hr－FP 7%　黄橙色粒 1%　焼土粒 1%

3区　H－23号住居跡　北側竈セクション
1　黒褐　　細　黄橙色粒 5%　黄橙色ブロック（φ10mm）3%　焼土粒 1%　灰 2%
2　黒褐　　微　黄橙色粒 2%　焼土粒 2%　灰 5%
3　黒褐　　微　黄橙色粒 3%　焼土粒 2%　灰 5%
4　極暗褐　　微　黄橙色粒 10%　焼土粒 2%　灰 2%

3区　H－23号住居跡　南側竈セクション
1　黒褐　　細　As－C・Hr－FP 1%　焼土粒 1%
2　黒褐　　細　As－C・Hr－FP 1%　焼土粒 1%　灰 1%

Fig.31　3区H－17・19・23号住居跡





3区　H－18号住居跡
1　H－20号住居跡
2　黒褐　細　As－C・Hr－FP 5%　黄橙色粒 3%
3　黒褐　微　As－C・Hr－FP 2%　黄橙色粒 5%
4　暗褐　微　As－C・Hr－FP 3%　黄橙色粒 7%　黄橙色ブロック（φ10～20mm）5%
締りが強い　H－２０号住居跡貼床面

3区　H－20・21・23号住居跡　西壁セクション
1　現耕作土
2　黒褐　粗　As－B 40%
3　黒褐　細　As－B 3%　As－C・Hr－FP 7%
4　H－17号住居跡
5　黒褐　細　As－C・Hr－FP 2%　黄橙色ブロック（φ10mm）5%　(H-17床下)
締りが強い　H－１７号住居跡の貼床層　(H-17床下)
6　黒褐　細　As－C・Hr－FP 3%　黄橙色粒 2%　黄橙色ブロック（φ10～20mm）7%
人為的に埋められているようだ
7　黒褐　細　As－C・Hr－FP 5%　焼土粒 1%　(H-20)
8　黒褐　細　As－C・Hr－FP 7%　(H-20)
9　黒褐　細　As－C・Hr－FP 7%　焼土粒 1%　炭化物 1%　(H-20)
10　黒褐　細　As－C・Hr－FP 5%　焼土ブロック（φ10mm）3%　(H-20)
11　黒褐　細　As－C・Hr－FP 5%　(H-21)
12　黒褐　細　As－C・Hr－FP 3%　(H-21)
13　黒褐　細　As－C・Hr－FP 5%　黄橙色粒 2%　(H-21)
14　黒褐　微　As－C・Hr－FP 2%　黄橙色粒 2%　(H-21)

3区　H－20号住居跡　竈セクション
1　黒褐　細　As－C・Hr－FP 2%　黄橙色粒 1%　焼土粒 1%
2　暗褐　微　As－C・Hr－FP 2%　黄橙色粒 1%　焼土粒 1%　灰 1%
3　黒褐　微　As－C・Hr－FP 1%　黄橙色粒 3%　焼土粒 1%　灰 1%
4　黒褐　微　黄橙色粒 3%　焼土粒 1%　灰 2%

Fig.32　３区Ｈ－18・20～23号住居跡

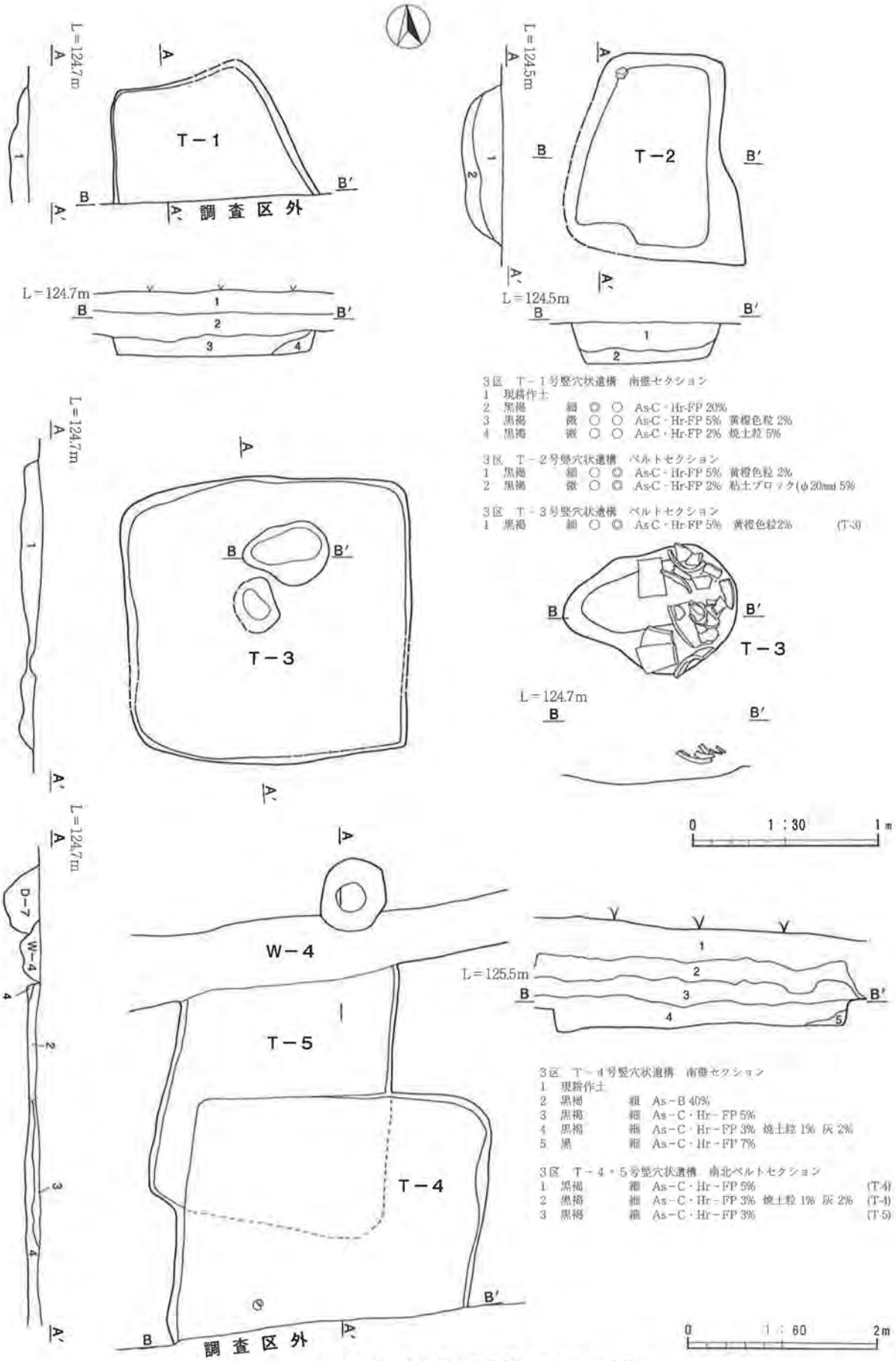
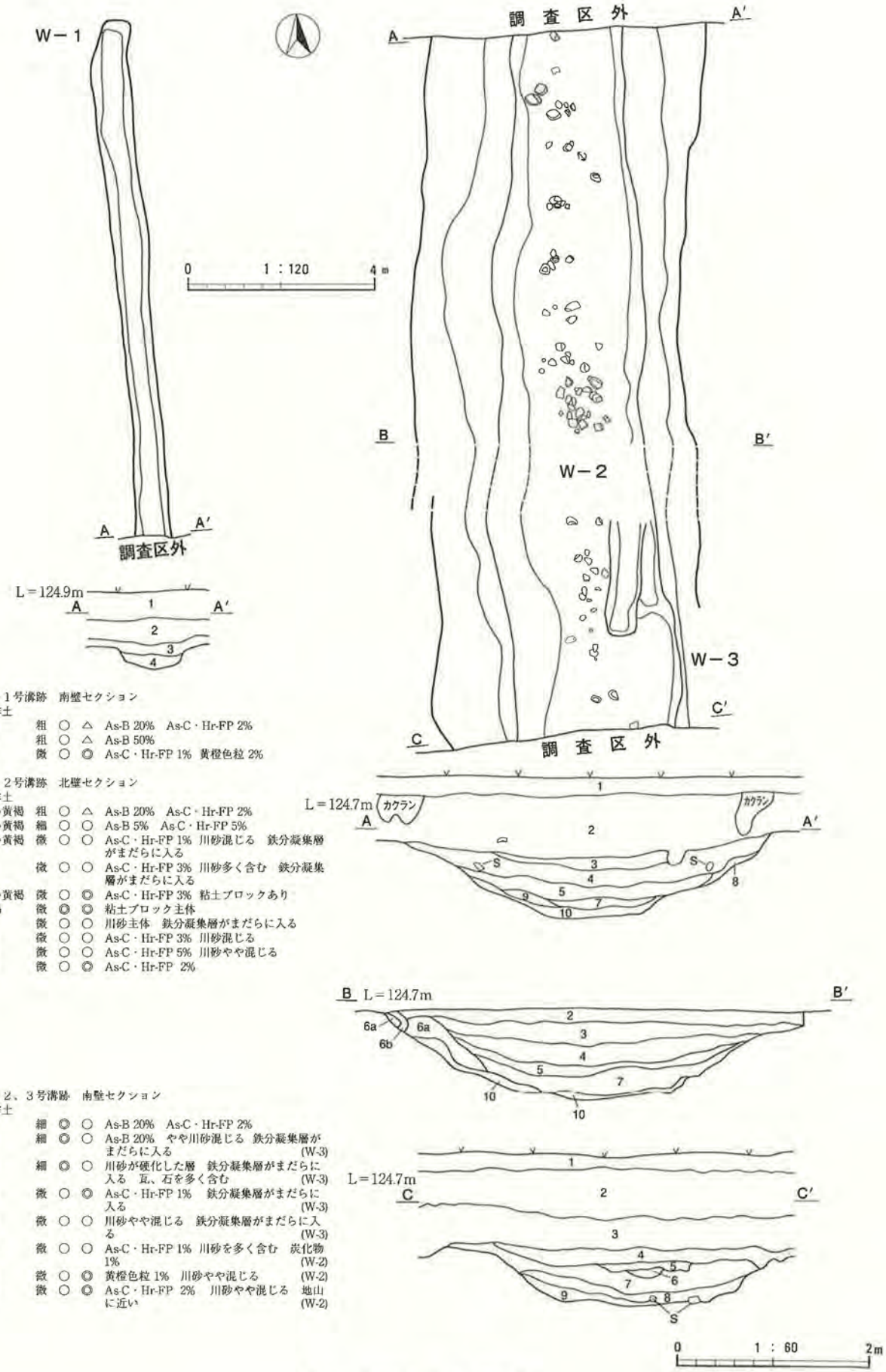


Fig.33　3区T－1～5号竪穴状遺構、D－7号土坑



3区　W－1号溝跡　南壁セクション

1	現耕作土				
2	暗褐	粗	○	△	As-B 20%　As-C・Hr-FP 2%
3	暗褐	粗	○	△	As-B 50%
4	暗褐	微	○	◎	As-C・Hr-FP 1%　黄橙色粒 2%

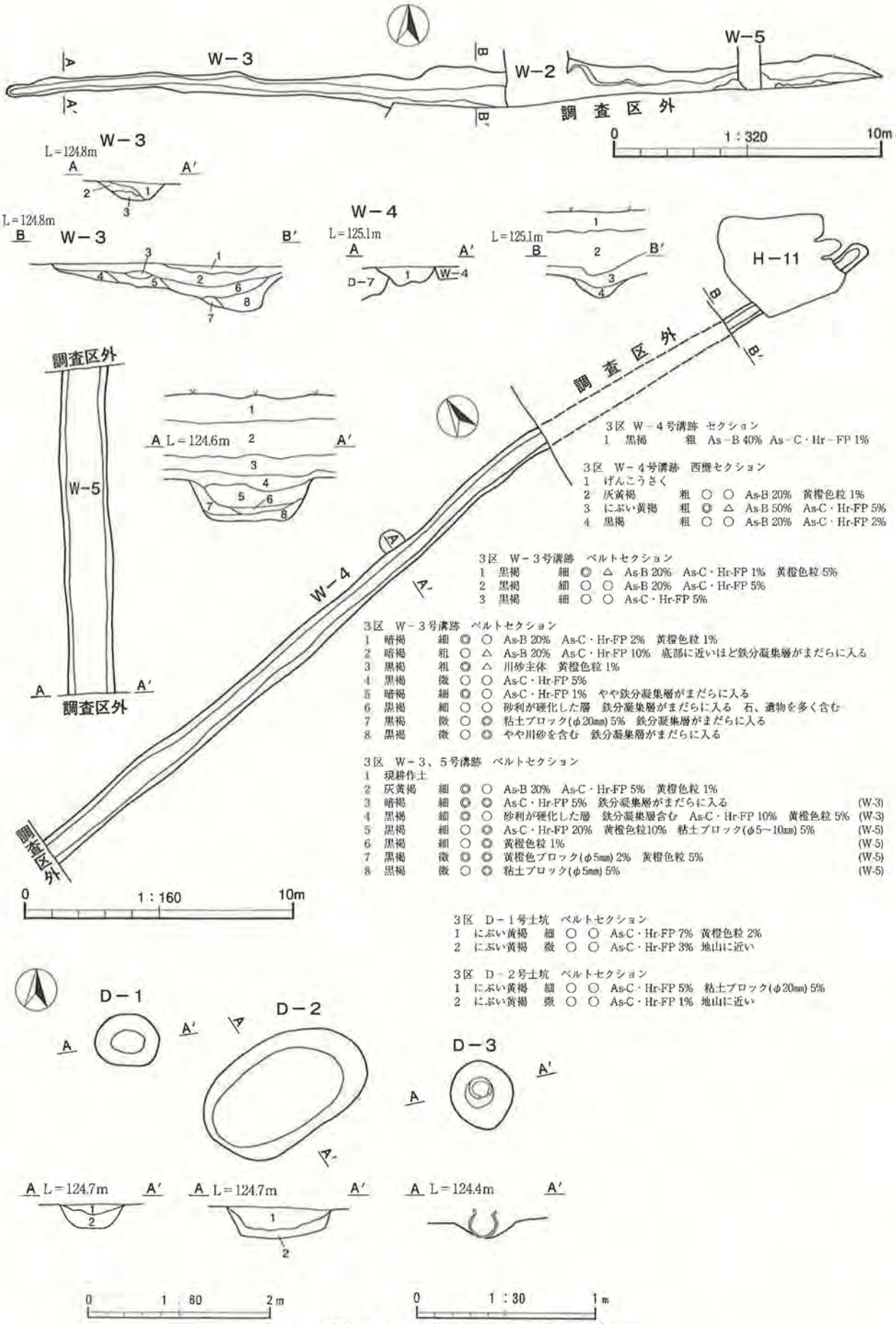
3区　W－2号溝跡　北壁セクション

1	現耕作土				
2	にぶい黄褐	粗	○	△	As-B 20%　As-C・Hr-FP 2%
3	にぶい黄褐	細	○	○	As-B 5%　As-C・Hr-FP 5%
4	にぶい黄褐	微	○	○	As-C・Hr-FP 1%　川砂混じる　鉄分凝集層がまだらに入る
5	暗褐	微	○	○	As-C・Hr-FP 3%　川砂多く含む　鉄分凝集層がまだらに入る
6a	にぶい黄褐	微	○	◎	As-C・Hr-FP 3%　粘土ブロックあり
6b	灰黄褐	微	◎	◎	粘土ブロック主体
7	暗褐	微	○	○	川砂主体　鉄分凝集層がまだらに入る
8	暗褐	微	○	○	As-C・Hr-FP 3%　川砂混じる
9	暗褐	微	○	○	As-C・Hr-FP 5%　川砂やや混じる
10	黒褐	微	○	◎	As-C・Hr-FP 2%

3区　W－2、3号溝跡　南壁セクション

1	現耕作土				
2	暗褐	細	◎	○	As-B 20%　As-C・Hr-FP 2%
3	暗褐	細	◎	○	As-B 20%　やや川砂混じる　鉄分凝集層がまだらに入る　(W-3)
4	黒褐	細	◎	○	川砂が硬化した層　鉄分凝集層がまだらに入る　瓦、石を多く含む　(W-3)
5	黒褐	微	○	◎	As-C・Hr-FP 1%　鉄分凝集層がまだらに入る　(W-3)
6	黒褐	微	○	○	川砂やや混じる　鉄分凝集層がまだらに入る　(W-3)
7	黒褐	微	○	○	As-C・Hr-FP 1%　川砂を多く含む　炭化物 1%　(W-2)
8	黒褐	微	○	◎	黄橙色粒 1%　川砂やや混じる　(W-2)
9	黒褐	微	○	◎	As-C・Hr-FP 2%　川砂やや混じる　地山に近い　(W-2)

Fig.34　3区W－1～3号溝跡



3区 W－4号溝跡 セクション
1 黒褐 粗 As－B 40% As－C・Hr－FP 1%

3区 W－4号溝跡 西壁セクション
1 げんこうさく
2 灰黄褐 粗 ○ ○ As-B 20% 黄橙色粒 1%
3 にぶい黄褐 粗 ◎ △ As-B 50% As-C・Hr-FP 5%
4 黒褐 粗 ○ ○ As-B 20% As-C・Hr-FP 2%

3区 W－3号溝跡 ベルトセクション
1 黒褐 細 ◎ △ As-B 20% As-C・Hr-FP 1% 黄橙色粒 5%
2 黒褐 細 ○ ○ As-B 20% As-C・Hr-FP 5%
3 黒褐 細 ○ ○ As-C・Hr-FP 5%

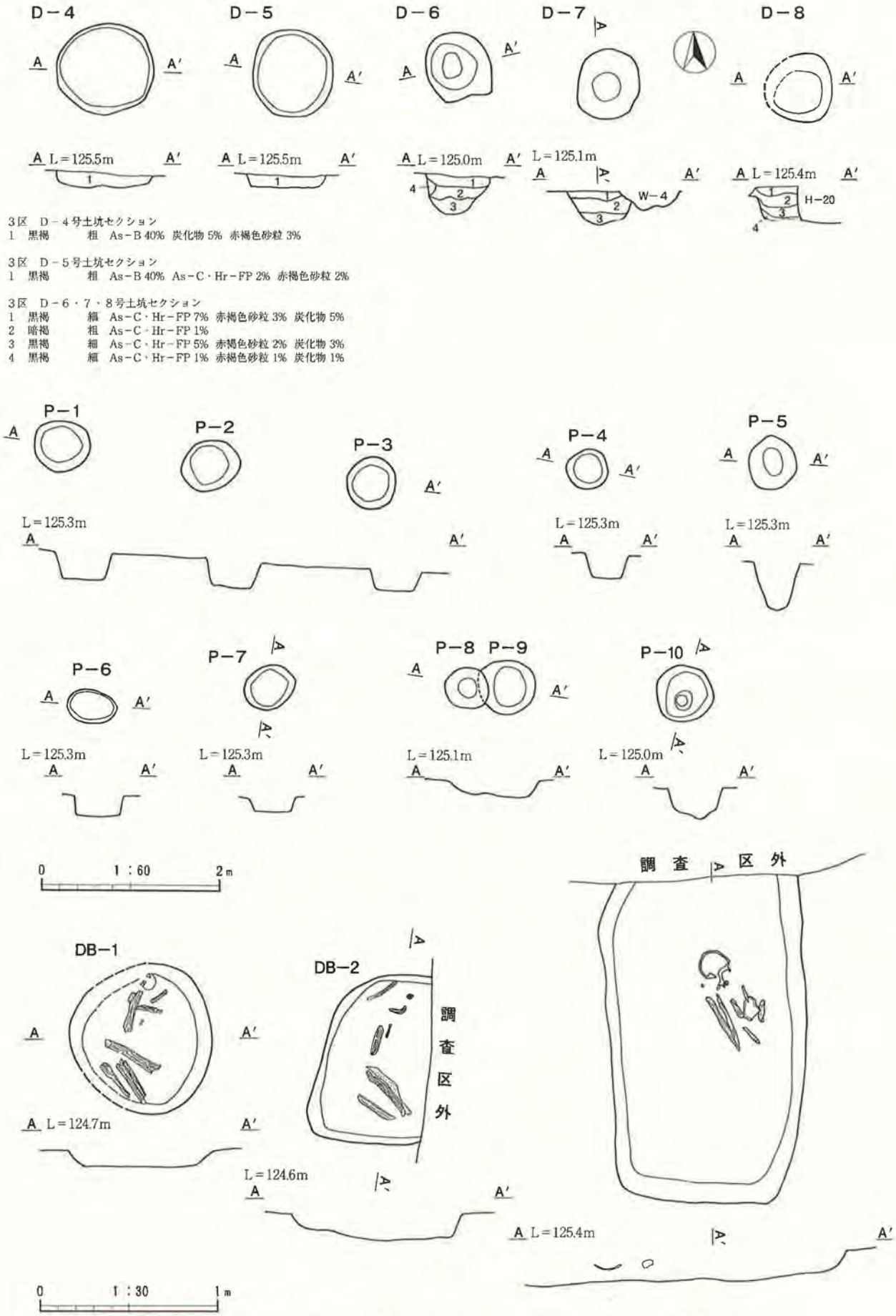
3区 W－3号溝跡 ベルトセクション
1 暗褐 細 ◎ ○ As-B 20% As-C・Hr-FP 2% 黄橙色粒 1%
2 暗褐 粗 ○ △ As-B 20% As-C・Hr-FP 10% 底部に近いほど鉄分凝集層がまだらに入る
3 黒褐 粗 ◎ △ 川砂主体 黄橙色粒 1%
4 黒褐 微 ○ ○ As-C・Hr-FP 5%
5 暗褐 細 ◎ ○ As-C・Hr-FP 1% やや鉄分凝集層がまだらに入る
6 黒褐 細 ○ ○ 砂利が硬化した層 鉄分凝集層がまだらに入る 石、遺物を多く含む
7 黒褐 微 ○ ◎ 粘土ブロック(φ20mm) 5% 鉄分凝集層がまだらに入る
8 黒褐 微 ○ ◎ やや川砂を含む 鉄分凝集層がまだらに入る

3区 W－3、5号溝跡 ベルトセクション
1 現耕作土
2 灰黄褐 細 ◎ ○ As-B 20% As-C・Hr-FP 5% 黄橙色粒 1%
3 暗褐 細 ◎ ◎ As-C・Hr-FP 5% 鉄分凝集層がまだらに入る (W-3)
4 黒褐 細 ◎ ○ 砂利が硬化した層 鉄分凝集層含む As-C・Hr-FP 10% 黄橙色粒 5% (W-3)
5 黒褐 細 ○ ◎ As-C・Hr-FP 20% 黄橙色粒10% 粘土ブロック(φ5～10mm) 5% (W-5)
6 黒褐 細 ○ ◎ 黄橙色粒 1% (W-5)
7 黒褐 微 ◎ ◎ 黄橙色ブロック(φ5mm) 2% 黄橙色粒 5% (W-5)
8 黒褐 微 ○ ◎ 粘土ブロック(φ5mm) 5% (W-5)

3区 D－1号土坑 ベルトセクション
1 にぶい黄褐 細 ○ ○ As-C・Hr-FP 7% 黄橙色粒 2%
2 にぶい黄褐 微 ○ ○ As-C・Hr-FP 3% 地山に近い

3区 D－2号土坑 ベルトセクション
1 にぶい黄褐 細 ○ ○ As-C・Hr-FP 5% 粘土ブロック(φ20mm) 5%
2 にぶい黄褐 微 ○ ○ As-C・Hr-FP 1% 地山に近い

Fig.35 3区W－3～5号溝跡、D－1～3号土坑

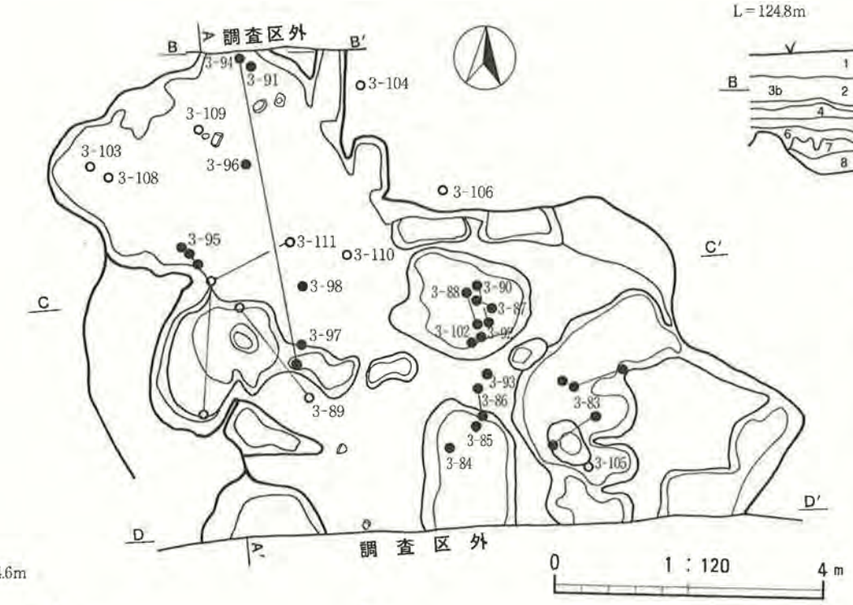


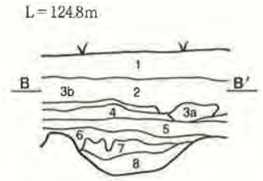
3区　D－4号土坑セクション
1　黒褐　　粗　As－B 40%　炭化物 5%　赤褐色砂粒 3%

3区　D－5号土坑セクション
1　黒褐　　粗　As－B 40%　As－C・Hr－FP 2%　赤褐色砂粒 2%

3区　D－6・7・8号土坑セクション
1　黒褐　　細　As－C・Hr－FP 7%　赤褐色砂粒 3%　炭化物 5%
2　暗褐　　粗　As－C・Hr－FP 1%
3　黒褐　　細　As－C・Hr－FP 5%　赤褐色砂粒 2%　炭化物 3%
4　黒褐　　細　As－C・Hr－FP 1%　赤褐色砂粒 1%　炭化物 1%

Fig.36　3区D－4～8号土坑、P－1～10号ピット、DB－1号土坑墓



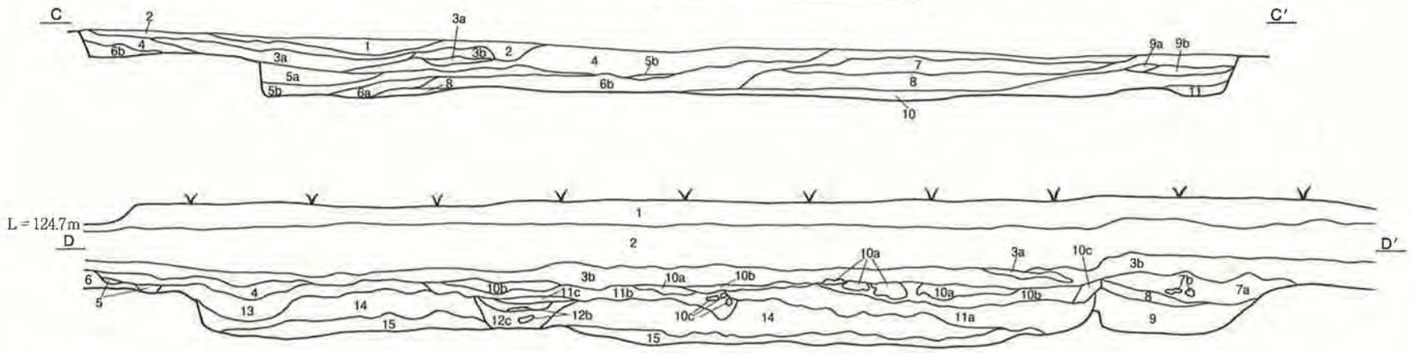


3区　O－1号落ち込み　北壁セクション

1	現耕作土				
2	灰黄褐	粗	◎	△	As-B 50%　黄橙色粒 2%
3a	にぶい黄褐	細	○	△	川砂やや混じる　底部に砂利　黄橙色粒 2%
3b	灰黄褐	細	○	△	鉄分凝集層主体　少し川砂が混じる
4	灰黄褐	細	◎	△	As-C・Hr-FP 2%　鉄分凝集層がまだらに入る
5	灰黄褐	細	◎	△	As-C・Hr-FP 1%　黄橙色粒 2%
6	にぶい黄褐	細	◎	△	川砂主体　As-C・Hr-FP 2%
7	灰黄褐	細	◎	○	As-C・Hr-FP 5%　黄橙色粒 1%
8	灰黄褐	細	○	○	As-C・Hr-FP 2%　地山に近い

3区　O－1号落ち込み　南北ベルトセクション

1	にぶい黄褐	細	◎	○	As-C・Hr-FP 5%　黄橙色粒 1%　鉄分凝集層がまだらに入る
2a	にぶい黄褐	細	◎	○	砂利を多く含む　川砂が混じる
2b	にぶい黄褐	細	◎	△	川砂を多く含む
3	暗褐	細	◎	△	As-C・Hr-FP 5%　黄橙色粒 1%　鉄分凝集層がまだらに入る
4a	暗褐	細	◎	△	南側ほど川砂主体　黄橙色粒 1%
4b	暗褐	微	◎	○	As-C・Hr-FP 20%　黄橙色粒 5%
4c	灰黄褐	細	◎	○	黄橙色粒 1%
5	黒褐	微	○	◎	As-C・Hr-FP 5%　黄橙色ブロック(φ5mm) 5%
6	黒褐	微	○	◎	As-C・Hr-FP 10%　黄橙色粒 2%　黄橙色ブロック(φ5～10mm) 5%
7	黒褐	微	○	◎	
8	黒褐	微	○	○	As-C・Hr-FP 10%



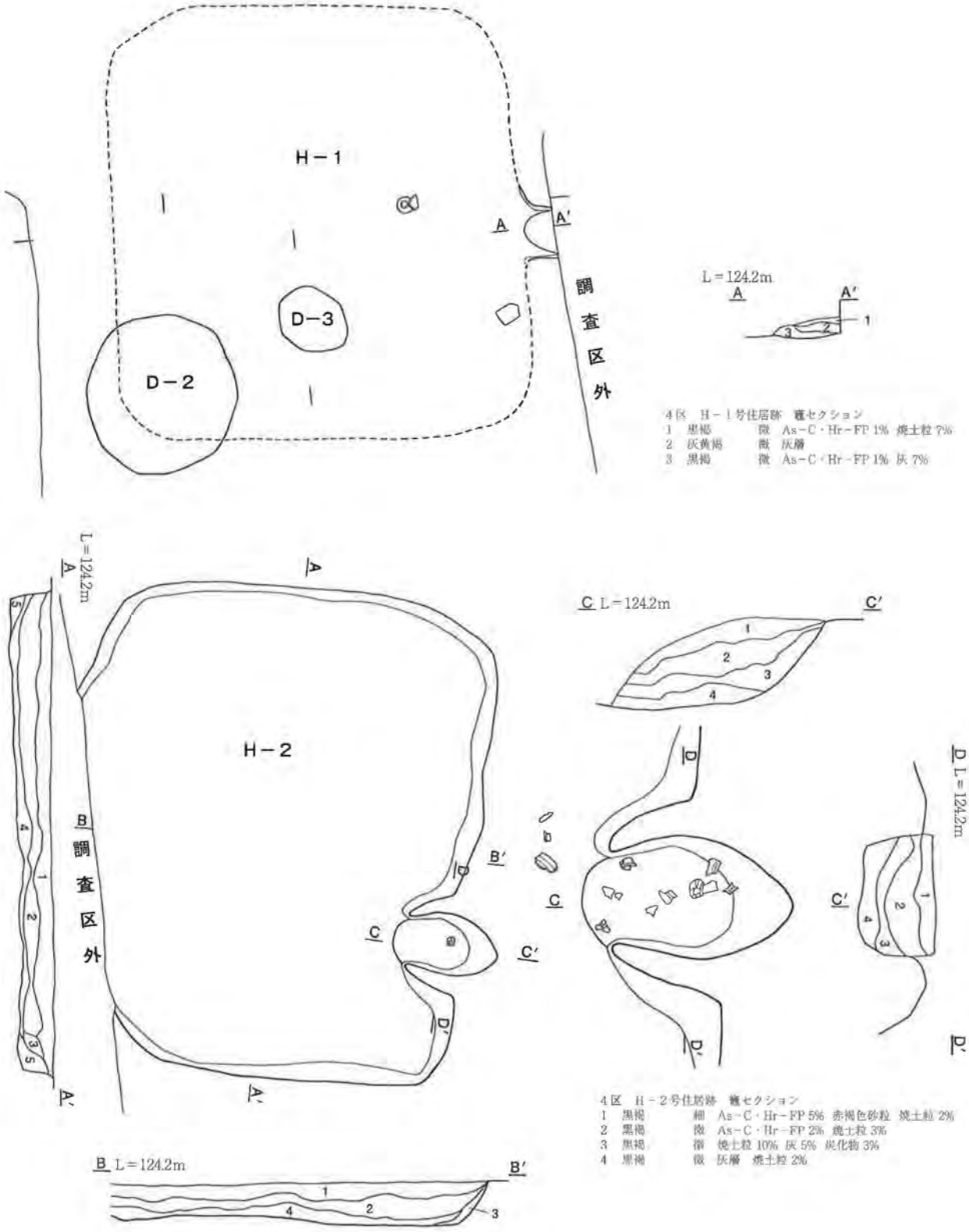
3区　O－1号落ち込み　東西ベルトセクション

1	にぶい黄褐	細	◎	○	As-C・Hr-FP 5%　黄橙色粒 1%　鉄分凝集層がまだらに入る
2	暗褐	細	◎	△	As-C・Hr-FP 5%　黄橙色粒 1%　鉄分凝集層がまだらに入る
3a	暗褐	微	◎	○	As-C・Hr-FP 20%　黄橙色粒 5%
3b	黒褐	細	○	◎	川砂を多く含む
4	黒褐	細	○	◎	As-C・Hr-FP 2%　黄橙色粒 2%
5a	黒褐	微	○	◎	As-C・Hr-FP 5%　黄橙色ブロック(φ5mm) 5%
5b	黒褐	微	○	◎	As-C・Hr-FP 10%　黄橙色粒2%　黄橙色ブロック(φ5～10mm) 5%
6a	黒褐	微	○	◎	
6b	暗褐	細	◎	○	As-C・Hr-FP 5%　少し鉄分凝集層がまだらに入る
7	暗褐	細	○	○	As-C・Hr-FP 10%
8	黒褐	微	○	◎	黄橙色粒 2%
9a	灰黄褐	細	○	○	As-C・Hr-FP 2%　黄橙色粒 2%　川砂がやや混じる
9b	黒褐	微	○	○	As-C・Hr-FP 5%
10	黒褐	微	○	○	As-C・Hr-FP 10%　黄橙色粒 1%
11	灰黄褐	微	△	○	川砂主体　流れ込みか？

3区　W－3号溝跡、O－1号落ち込み　南壁セクション

1	現耕作土					
2	灰黄褐	細	◎	○	As-B 20%　As-C・Hr-FP 5%	
3a	黒褐	微	○	○	As-C・Hr-FP 20%　黄橙色粒 5%	
3b	暗褐	細	○	○	As-C・Hr-FP 2%	
4	黒褐	細	◎	○	砂利が硬化した層　鉄分凝集層がまだらに入る	(W-3)
5	黒褐	粗	◎	×	川砂主体	(W-3)
6	黒褐	微	○	◎	鉄分凝集層がまだらに入る　やや川砂が混じる	(W-3)
7a	暗褐	細	○	○	As-C・Hr-FP 10%　黄橙色粒 5%	(O-1)
7b	暗褐	細	◎	○	As-C・Hr-FP 20%　川砂主体	(O-1)
8	黒褐	細	○	○	As-C・Hr-FP 20%	(O-1)
9	黒褐	微	○	◎	As-C・Hr-FP 5%　黄橙色ブロック(φ5mm) 2%	(O-1)
10a	褐灰	粗	◎	×	砂利主体	(O-1)
10b	黒褐	細	○	○	As-C・Hr-FP 15%　黄橙色粒 2%　炭化物 1%	(O-1)
10c	黒褐	微	○	◎	As-C・Hr-FP 2%　黄橙色粒 1%　黄橙色ブロック(φ2～5mm) 2%	(O-1)
11a	暗褐	微	◎	○	As-C・Hr-FP 20%	(O-1)
11b	黒褐	微	○	◎	As-C・Hr-FP 2%	(O-1)
11c	にぶい黄褐	微	○	○	As-C・Hr-FP 1%	(O-1)
12a	黒褐	微	○	◎	As-C・Hr-FP 1%	(O-1)
12b	黒褐	細	○	◎	As-C・Hr-FP 2%　黄橙色粒 1%	(O-1)
12c	黒褐	細	○	◎	地山に近い	(O-1)
13	黒褐	微	◎	◎	As-C・Hr-FP 20%	(O-1)
14	黒褐	微	○	◎	As-C・Hr-FP 15%　黄橙色ブロック(φ10mm) 5%	(O-1)
15	黒褐	微	○	◎	As-C・Hr-FP 10%　黄橙色粒 5%　黄橙色ブロック(φ5～20mm) 15%	(O-1)

Fig.37　3区O－1号落ち込み

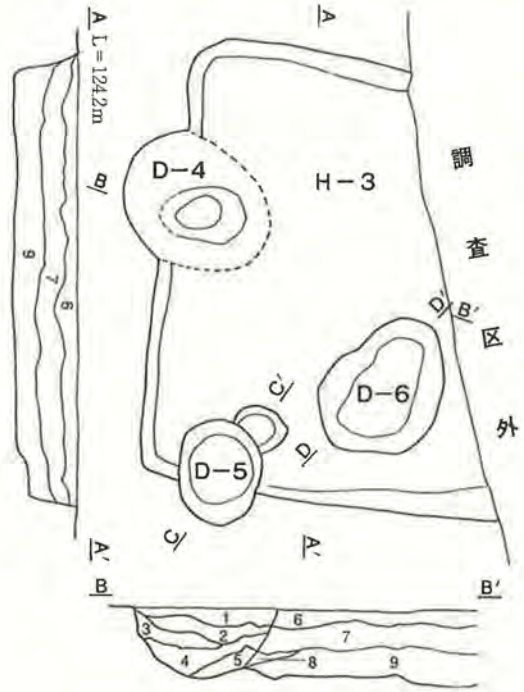


4区　H－1号住居跡　竈セクション
1　黒褐　　微　As－C・Hr－FP 1%　焼土粒 7%
2　灰黄褐　　微　灰層
3　黒褐　　微　As－C・Hr－FP 1%　灰 7%

4区　H－2号住居跡　竈セクション
1　黒褐　　細　As－C・Hr－FP 5%　赤褐色砂粒　焼土粒 2%
2　黒褐　　微　As－C・Hr－FP 2%　焼土粒 3%
3　黒褐　　微　焼土粒 10%　灰 5%　炭化物 3%
4　黒褐　　微　灰層　焼土粒 2%

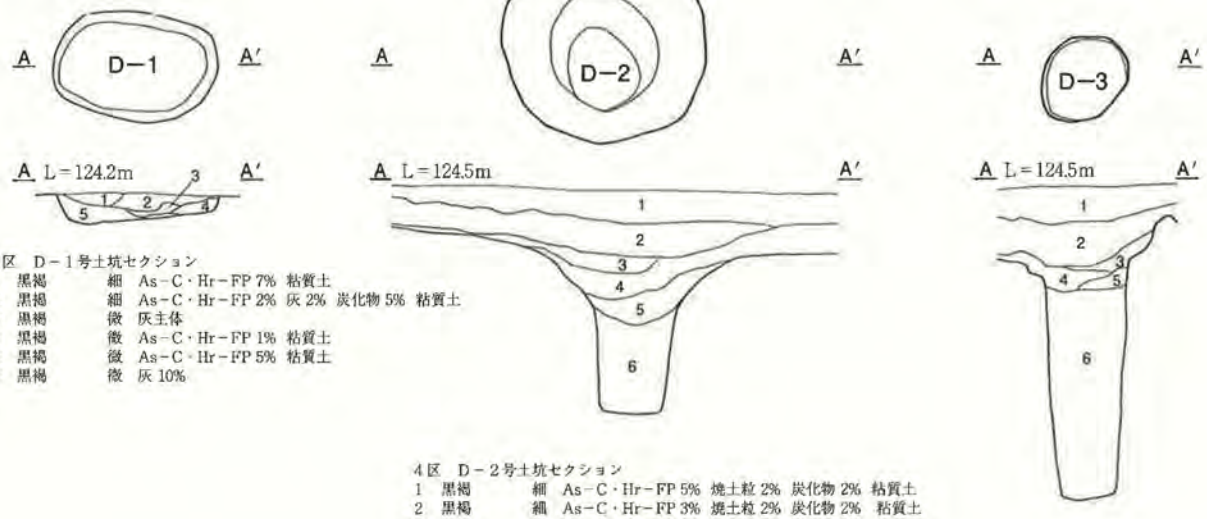
4区　H－2号住居跡　ベルトセクション
1　黒褐　　細　As－C・Hr－FP 7%　赤褐色砂粒 1%
2　黒褐　　細　As－C・Hr－FP 5%　赤褐色砂粒 1%　焼土粒 3%
3　黒褐　　微　As－C・Hr－FP 1%　粘質土
4　黒褐　　微　As－C・Hr－FP 2%　焼土ブロック（φ10～30mm）3%　粘質土
5　黒褐　　微　As－C・Hr－FP 1%　粘質土
6　黒褐　　微　As－C・Hr－FP 1%　赤褐色砂粒 2%　粘質土

Fig.38　4区H－1・2号住居跡、D－2・3号土坑



4区　H－3号住居跡、D－4号土坑ベルトセクション

1	黒褐	細	As－C・Hr－FP 5%　黄橙色粒 1%　粘質土	(D-4)
2	黒褐	細	As－C・Hr－FP 3%　粘質土	(D-4)
3	黒褐	微	As－C・Hr－FP 2% 赤褐色砂粒 3%　粘質土	(D-4)
4	黒褐	微	As－C・Hr－FP 1%　赤褐色砂粒 2%　粘質土	(D-4)
5	黒褐	微	As－C・Hr－FP 1%　赤褐色砂粒 5%　粘質土	(D-4)
6	黒褐	細	As－C・Hr－FP 7%　赤褐色砂粒 2%　粘質土	(H-3)
7	黒褐	微	As－C・Hr－FP 5%　赤褐色砂粒 3%　炭化物 1%　粘質土	(H-3)
8	黒褐	微	As－C・Hr－FP 2%　赤褐色砂粒 5%　粘質土	(H-3)
9	黒褐	微	As－C・Hr－FP 1%　赤褐色砂粒 5%　粘質土　特に粘りが強い	(H-3)



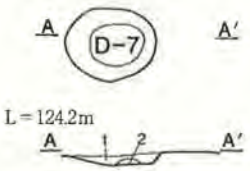
4区　D－1号土坑セクション

1	黒褐	細	As－C・Hr－FP 7%　粘質土
2	黒褐	細	As－C・Hr－FP 2%　灰 2%　炭化物 5%　粘質土
3	黒褐	微	灰主体
4	黒褐	微	As－C・Hr－FP 1%　粘質土
5	黒褐	微	As－C・Hr－FP 5%　粘質土
6	黒褐	微	灰 10%

4区　D－2号土坑セクション

1	黒褐	細	As－C・Hr－FP 5%　焼土粒 2%　炭化物 2%　粘質土
2	黒褐	細	As－C・Hr－FP 3%　焼土粒 2%　炭化物 2%　粘質土
3	黒褐	微	As－C・Hr－FP 2%　焼土粒 2%　炭化物 2%　粘質土
4	黒	微	As－C・Hr－FP 1%　焼土粒 2%　炭化物 2%　粘質土
5	黒	微	赤褐色砂粒 2%　焼土粒 2%　炭化物 3%　粘質土
6	黒	微	赤褐色砂粒 5%　灰白色砂粒 2%　炭化物 3%　粘質土

深い層へ向けて粘性が強くなっていく。



4区　D－7号土坑セクション

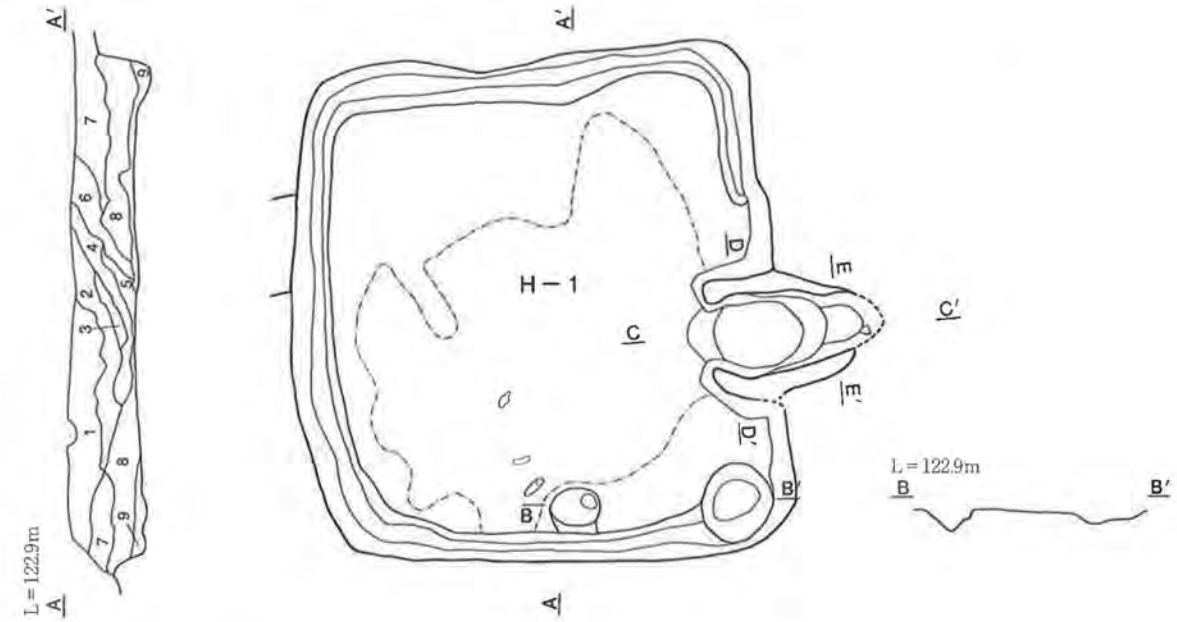
1	暗褐	微	As－C・Hr－FP 7%　焼土ブロック（φ5～10㎜）5%
2	にぶい黄褐	微	にぶい黄褐色粘土主体

4区　D－3号土坑セクション

1	黒褐	細	As－C・Hr－FP 10%　赤褐色砂粒 3%　粘質土
2	黒褐	微	As－C・Hr－FP 7%　赤褐色砂粒 5%　粘質土
3	黒褐	微	As－C・Hr－FP 2%　赤褐色砂粒 1%　粘質土
4	黒褐	微	As－C・Hr－FP 2%　赤褐色砂粒 5%　灰白色砂粒 7%　粘質土
5	黒	微	As－C・Hr－FP 1%　灰白色砂粒 1%　粘質土
6	黒	微	As－C・Hr－FP 1%　粘質土

深い層へ向けて粘性が強くなっていく。

Fig.39　4区H－3号住居跡、D－1・4～7号土坑



5区　H－1号住居跡　南北ベルトセクション

1	暗褐	細	As-C・Hr-FP 7%
2	黒褐	細	As－C・Hr－FP 2%　黄橙色粒 1%
3	にぶい黄褐	細	黄橙色粒 1%
4	黒褐	細	As－C・Hr－FP 2%
5	暗褐	細	炭化物 2%
6	暗褐	細	As－C・Hr－FP 3%
7	暗褐	細	黄橙色粒 3%
8	黒褐	細	As－C・Hr－FP 2%
9	黒褐	微	As－C・Hr－FP 1%

5区　H－1号住居跡　竈セクション

1	暗褐	細	As－C・Hr－FP 7%　焼土ブロック（φ5～10mm）3%　灰褐色粘土粒 5%
2	にぶい赤褐	細	As－C・Hr－FP 3%　焼土ブロック主体　灰 2%　灰褐色粘土粒 2%
3	極暗褐	微	As－C・Hr－FP 5%　焼土ブロック（φ10～20mm）5%　灰 5%　灰褐色粘土粒 3%
4	暗褐	微	As－C・Hr－FP 3%　灰 7%　灰褐色粘土粒 5%
5	暗褐	微	灰 10%　灰褐色粘土粒 7%
6	黒褐	微	灰層

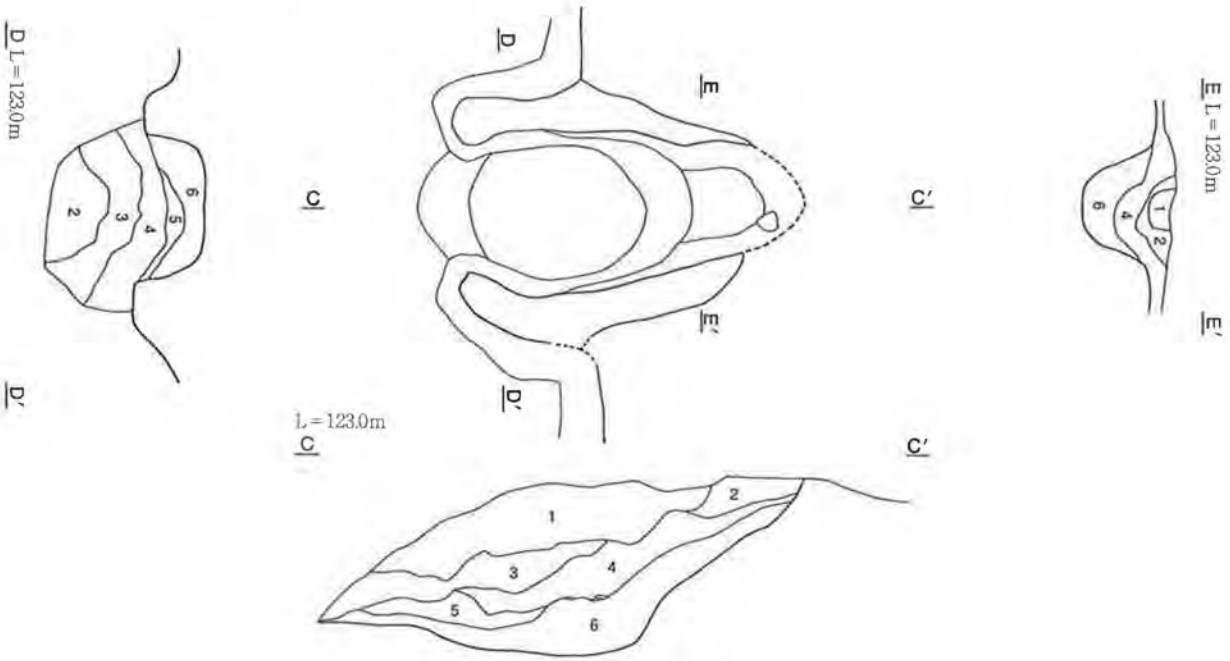
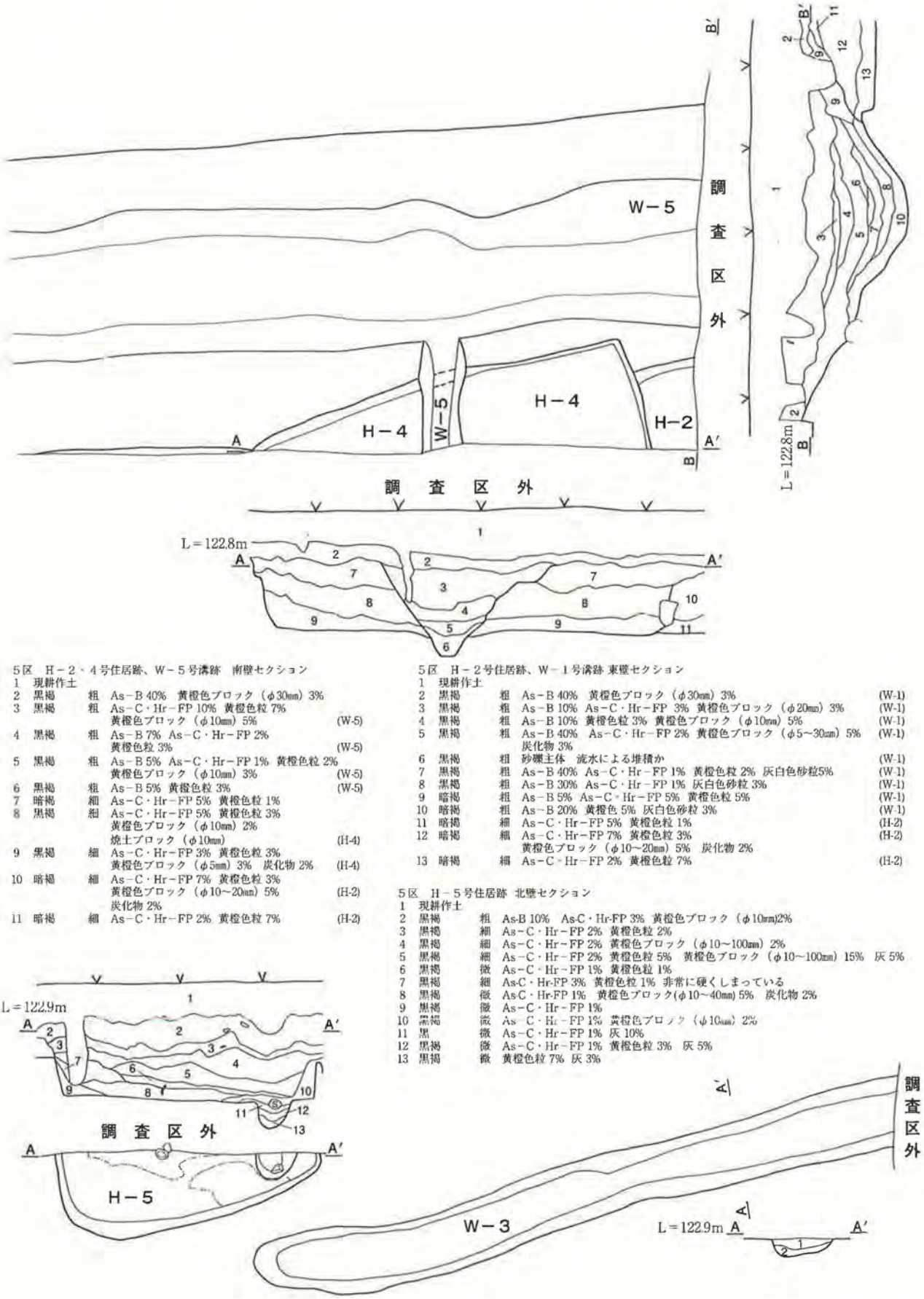


Fig.40　5区H－1号住居跡



5区　H－2・4号住居跡、W－5号溝跡　南壁セクション

1　現耕作土
2　黒褐　粗　As－B 40%　黄橙色ブロック（φ30mm）3%
3　黒褐　粗　As－C・Hr－FP 10%　黄橙色粒 7%
　　黄橙色ブロック（φ10mm）5%　(W-5)
4　黒褐　粗　As－B 7%　As－C・Hr－FP 2%
　　黄橙色粒 3%　(W-5)
5　黒褐　粗　As－B 5%　As－C・Hr－FP 1%　黄橙色粒 2%
　　黄橙色ブロック（φ10mm）3%　(W-5)
6　黒褐　粗　As－B 5%　黄橙色粒 3%　(W-5)
7　暗褐　細　As－C・Hr－FP 5%　黄橙色粒 1%
8　黒褐　細　As－C・Hr－FP 5%　黄橙色粒 3%
　　黄橙色ブロック（φ10mm）2%
　　焼土ブロック（φ10mm）　(H-4)
9　黒褐　細　As－C・Hr－FP 3%　黄橙色粒 3%
　　黄橙色ブロック（φ5mm）3%　炭化物 2%　(H-4)
10　暗褐　細　As－C・Hr－FP 7%　黄橙色粒 3%
　　黄橙色ブロック（φ10～20mm）5%　(H-2)
　　炭化物 2%
11　暗褐　細　As－C・Hr－FP 2%　黄橙色粒 7%　(H-2)

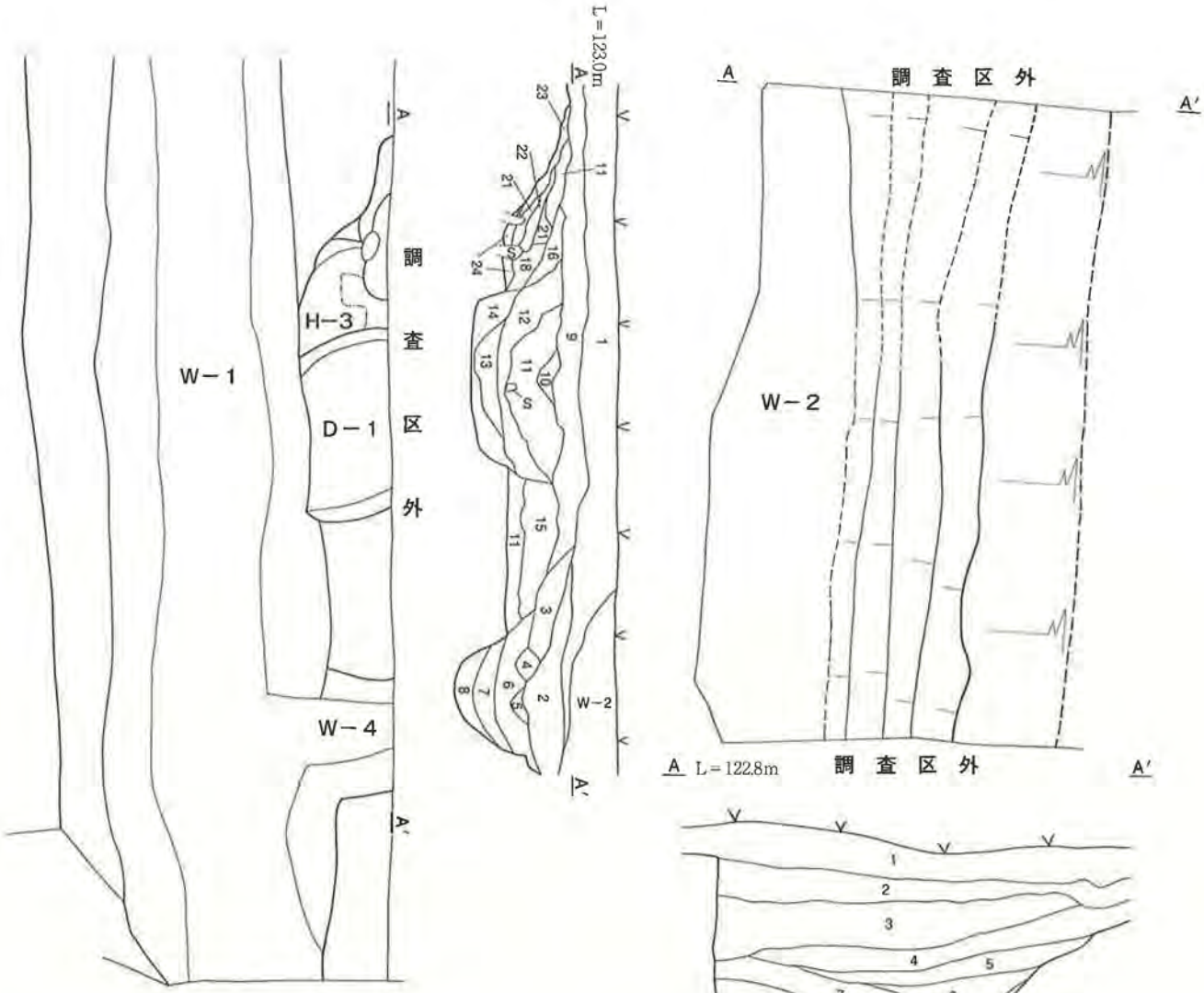
5区　H－2号住居跡、W－1号溝跡 東壁セクション

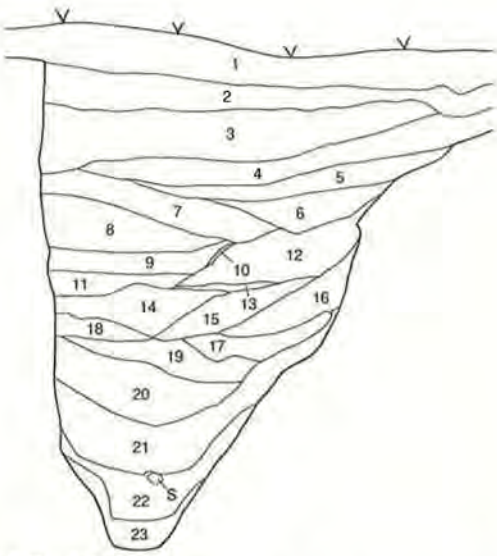
1　現耕作土
2　黒褐　粗　As－B 40%　黄橙色ブロック（φ30mm）3%　(W-1)
3　黒褐　粗　As－B 10%　As－C・Hr－FP 3%　黄橙色ブロック（φ20mm）3%　(W-1)
4　黒褐　粗　As－B 10%　黄橙色粒 3%　黄橙色ブロック（φ10mm）5%　(W-1)
5　黒褐　粗　As－B 40%　As－C・Hr－FP 2%　黄橙色ブロック（φ5～30mm）5%　(W-1)
　　炭化物 3%
6　黒褐　粗　砂礫主体　流水による堆積か　(W-1)
7　黒褐　粗　As－B 40%　As－C・Hr－FP 1%　黄橙色粒 2%　灰白色砂粒5%　(W-1)
8　黒褐　粗　As－B 30%　As－C・Hr－FP 1%　灰白色砂粒 3%　(W-1)
9　暗褐　粗　As－B 5%　As－C・Hr－FP 5%　黄橙色粒 5%　(W-1)
10　暗褐　粗　As－B 20%　黄橙色 5%　灰白色砂粒 3%　(W-1)
11　暗褐　細　As－C・Hr－FP 5%　黄橙色粒 1%　(H-2)
12　暗褐　細　As－C・Hr－FP 7%　黄橙色粒 3%　(H-2)
　　黄橙色ブロック（φ10～20mm）5%　炭化物 2%
13　暗褐　細　As－C・Hr－FP 2%　黄橙色粒 7%　(H-2)

5区　H－5号住居跡 北壁セクション

1　現耕作土
2　黒褐　粗　As-B 10%　As-C・Hr-FP 3%　黄橙色ブロック（φ10mm)2%
3　黒褐　細　As－C・Hr－FP 2%　黄橙色粒 2%
4　黒褐　細　As－C・Hr－FP 2%　黄橙色ブロック（φ10～100mm）2%
5　黒褐　細　As－C・Hr－FP 2%　黄橙色粒 5%　黄橙色ブロック（φ10～100mm）15%　灰 5%
6　黒褐　微　As－C・Hr－FP 1%　黄橙色粒 1%
7　黒褐　細　As-C・Hr-FP 3%　黄橙色粒 1%　非常に硬くしまっている
8　黒褐　微　As-C・Hr-FP 1%　黄橙色ブロック(φ10～40mm) 5%　炭化物 2%
9　黒褐　微　As－C・Hr－FP 1%
10　黒褐　微　As－C・Hr－FP 1%　黄橙色ブロック（φ10mm）2%
11　黒　微　As－C・Hr－FP 1%　灰 10%
12　黒褐　微　As－C・Hr－FP 1%　黄橙色粒 3%　灰 5%
13　黒褐　微　黄橙色粒 7%　灰 3%

Fig.41　5区H－2・4・5号住居跡、W－3号溝跡





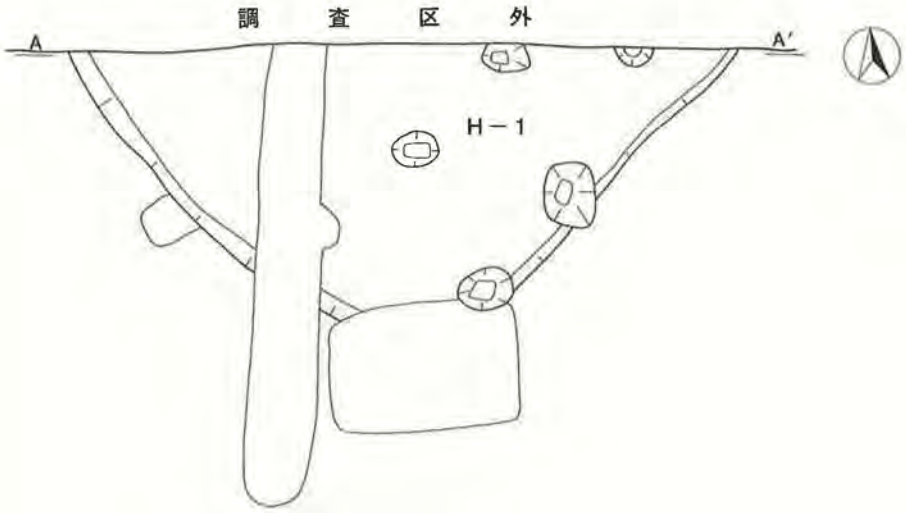
5区　H－3号住居跡　D－1号土坑、W－4号溝跡　南壁セクション

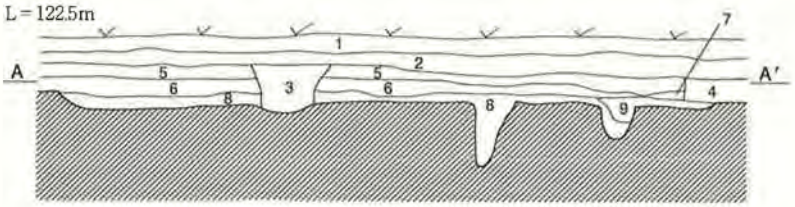
1	現耕作土			
2	暗褐	粗	As－B 10% As－C・Hr－FP 2% 黄橙色粒 3% 黄橙色ブロック（φ10mm）3% 灰白色砂粒 5%	
3	黒褐	粗	As－B 10% As－C・Hr－FP 2% 黄橙色粒 5% 黄橙色ブロック（φ10～30mm）5%	
4	黒褐	粗	As－B 7% 灰白色砂粒 10% しまりが弱い	
5	黒褐	細	As－B 5% 灰白色砂粒 2%	
6	黒褐	粗	As－B 40% 黄橙色粒 2% As－C・Hr－FP 1%	(W-4)
7	黒褐	粗	As－B 30% 黄橙色粒 3% As－C・Hr－FP 1% 黄橙色粒 3%	(W-4)
8	黒褐	粗	As－B 25% 黄橙色粒 7% 黄橙色ブロック（φ10～30mm）3%	(W-4)
9	黒褐	粗	As－B 40% 黄橙色ブロック（φ30mm）3%	
10	黒褐	粗	As－B 5% As－C・Hr－FP 5% 焼土粒 1%	
11	黒褐	細	As－C・Hr－FP 7% 黄橙色粒 1% 炭化物 3% 褐色粘土粒 5%	(D-1)
12	黒褐	細	As－C・Hr－FP 3% 黄橙色粒 2% 褐色粘土粒 3%	(D-1)
13	黒褐	細	As－C・Hr－FP 3% 黄橙色粒 2% 褐色粘土粒 3%	(D-1)
14	黒褐	細	As－C・Hr－FP 1% 黄橙色粒 1% 焼土粒 1%	(D-1)
15	黒褐	細	As－C・Hr－FP 7% 黄橙色粒 1% 焼土粒 1%	(H-3)
16	黒褐	細	As－C・Hr－FP 5% 焼土粒 1%	(H-3)
17	黒褐	微	As－C・Hr－FP 3% 黄橙色粒 5%	(H-3)
18	黒褐	微	As－C・Hr－FP 3% 焼土粒 2% 竈部分	(H-3)
19	暗褐	微	As－C・Hr－FP 5% 焼土粒 3% 竈部分	(H-3)
20	黒褐	微	As－C・Hr－FP 2% 焼土粒 1% 褐色粘土粒 15% 竈部分	(H-3)
21	極暗褐	微	As－C・Hr－FP 1% 焼土粒 5% 灰 1% 褐色粘土粒 5% 竈部分	(H-3)
22	黒褐	微	As－C・Hr－FP 1% 焼土ブロック（φ10～40mm）7% 褐色粘土粒 3% 竈部分	(H-3)
23	黒褐	微	As－C・Hr－FP 2% 焼土ブロック（φ10～100mm）10% 褐色粘土粒 2% 竈部分	(H-3)
24	黒褐	微	As－C・Hr－FP 1% 焼土粒 2% 灰 2% 竈部分	(H-3)

5区W－2号溝跡　北壁セクション

1	現耕作土		
2	黒褐	粗	As－B 30% As－C・Hr－FP 2% 黄橙色ブロック（φ5～30mm）10% 灰白色砂粒 30%
3	暗褐	粗	As－B 25% As－C・Hr－FP 1% 黄橙色ブロック（φ5～20mm）5% 灰白色砂粒 40%
4	黒褐	粗	As－B 40% 黄橙色ブロック（φ10mm） 3%
5	黒褐	粗	As－B 40% 黄橙色粒 2% 黄橙色ブロック（φ10～20mm）3%
6	黒褐	粗	As－B 30% 黄橙色粒 5% 灰白色砂粒 3%
7	黒褐	粗	As－B 40% 黄橙色粒 1% 灰白色砂粒 1%
8	黒褐	粗	As－B 40% 黄橙色粒 2% 灰白色砂粒 1%
9	黒褐	粗	As－B 30% 黄橙色粒 2% 灰白色砂粒 2%
10	黒褐	粗	As－B 50% 黄橙色粒 3% 灰白色砂粒 1%
11	灰黄褐	粗	As－B 50% 黄橙色粒 1% 灰白色砂粒 2%
12	黒褐	粗	As－B 50% 黄橙色粒 10% 灰白色砂粒 2%
13	黒褐	粗	As－B 50% 黄橙色粒 2% 灰白色砂粒 1%
14	黒褐	粗	As－B 40% 黄橙色粒 3% 灰白色砂粒 3%
15	暗褐	粗	As－B 30% 黄橙色粒10% 灰白色ブロック（φ20～40mm）10%
16	黒褐	粗	As－B 30% 黄橙色粒15% 灰白色粒 10%
17	黒褐	粗	As－B 30% 黄橙色粒30% 灰白色砂粒 5%
18	黒褐	粗	As－B 20% 黄橙色粒 3% 黄橙色ブロック（φ10～40mm）7% 灰白色砂粒 2%
19	灰白	細	灰白色粒主体
20	黒褐	粗	As－B 30％ 黄橙色粒 25% 灰白色砂粒 10%
21	黒褐	粗	As－B 25% 黄橙色粒 5% 灰白色粒 30%
22	黒褐	細	As－B 5% 灰白色 40%
23	暗灰黄	細	灰白色粒 50%

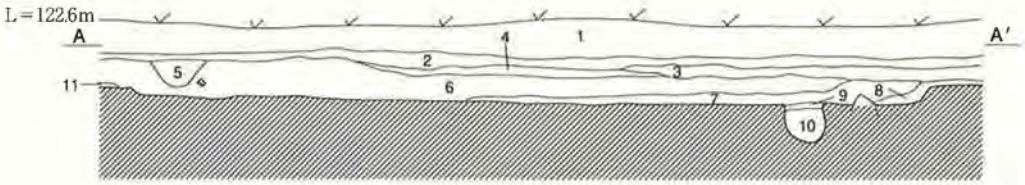
Fig.42　5区H－3号住居跡、D－1号土坑、W－2・4号溝跡





6区　1号住居跡セクション

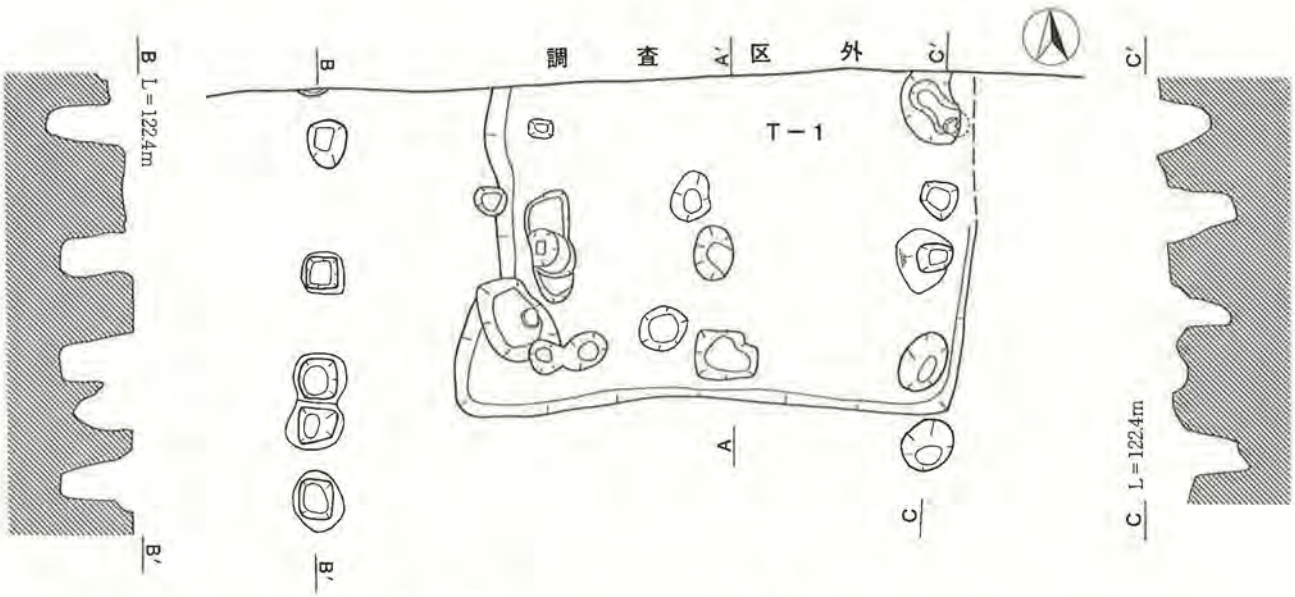
1	現耕作土	
2	鉄分凝集層	
3	灰褐色土	As－Cを微量に含む。粗い土質。
4	褐色土	As－Cを含む。締まりなく柔らかい。5、6層よりも赤味をもつ。
5	褐色土	As－Cを微量に含む。締まりなく柔らかい。
6	褐色土	As－Cを多く含む。ローム粒を微量に含む。
7	黄褐色土	ロームブロック主体層。
8	にぶい黄褐色土	As－C、ローム粒を多く含む。
9	褐色土	As－Cを多く含む。ローム粒を微量に含む。



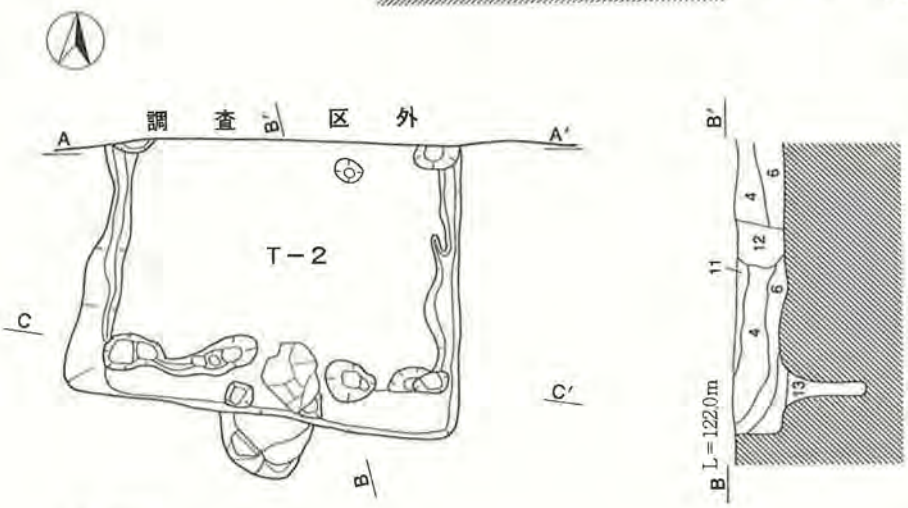
6区　4号住居跡セクション

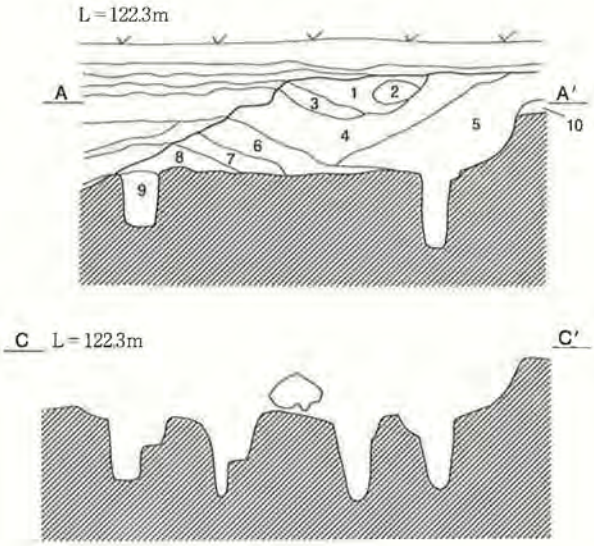
1	現耕作土	
2	鉄分凝集層	
3	灰褐色土	粗い土質で硬く締まる。
4	褐色土	As－C、Hr－Fpを微量に含む。5層より明るい。
5	灰褐色土	締まり無く、柔らかい。
6	褐色土	As－C、Hr－Fp、ローム粒を多く含む。粗い土質で非常に柔らかい。
7	灰褐色土	As－C、Hr－Fp、ローム粒を少量含む。
8	褐色土	Hr－Fpを含む。
9	にぶい黄褐色土	H－4号床面。黒褐色土が筋状に入る。
10	灰白色土	砂質層。
11	褐色土	硬く締まる。

Fig.43　6区H－1・4号住居跡



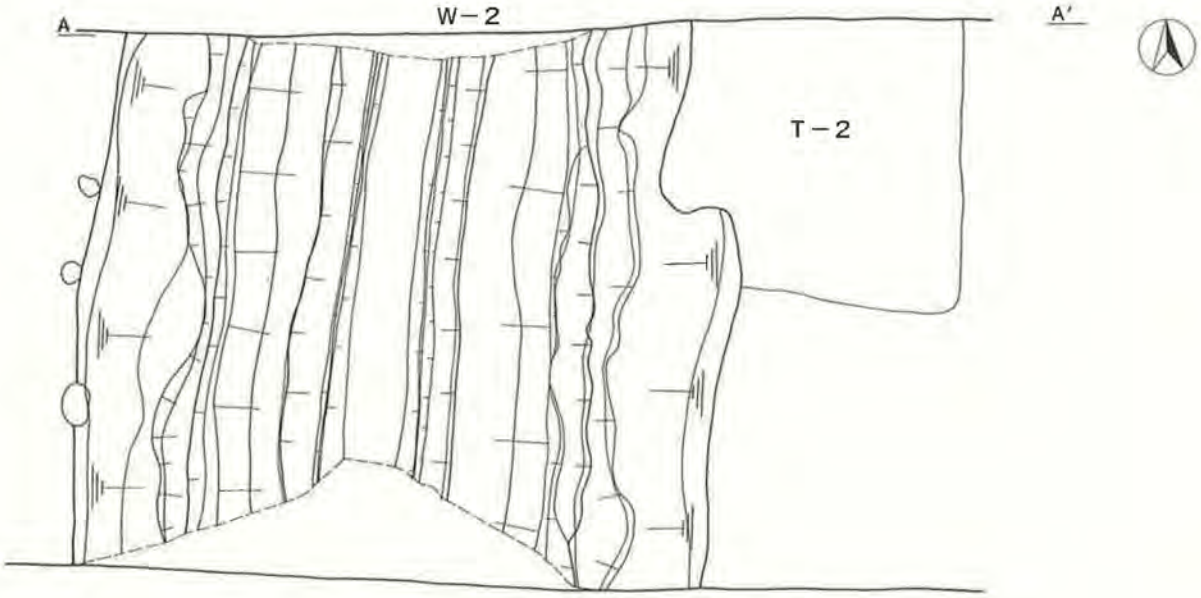
6区　2号竪穴状遺構
1　灰褐色土　As－Cを若干、炭化材を多く含む粗い土質。
2　褐色土　As－Cを微量に含む。2cm前後のロームブロックを含む。

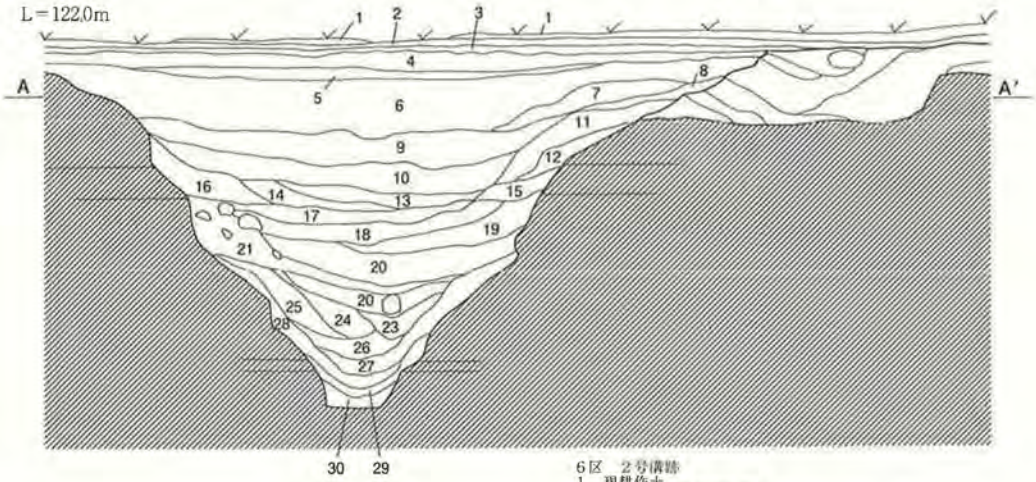




6区　2号竪穴状遺構
1　褐色土　1cm前後のローム粒を若干、Hr－Fpを微量に含む粗い土質。
2　灰褐色土　ローム粒を極まれに、Hr－Fpを微量に含む非常に粗い土質。
3　灰褐色土　ローム粒を極まれに、Hr－Fpを微量に含む粗い土質。2層より暗い。
4　褐色土　直径2cm前後のロームブロック、黒色ブロックを多く含む。人為的な埋め戻しによる層か。
5　灰褐色土　ローム粒を極まれに、Hr－Fpを微量に含む細かい土質。
6　褐色土　直径1cm前後のロームブロックと炭化材を含む。
7　褐色土　直径2cm前後のロームブロック、黒色ブロックを多く含む。人為的な埋め戻しによる層か。
8　灰褐色土　ローム粒を極まれに、Hr－Fpを微量に含む細かい土質。
9　褐色土　直径2cm前後のロームブロック、黒色ブロックを多く含む。
10　褐色土　Hr－Fp、直径2cm前後のロームブロック、黒色ブロックを多く含む。
11　暗褐色土　As－C、ローム粒を微量に含む粗い土質。
12　暗褐色土　As－C、ロームブロックを微量に含む。
13　褐色土　細かい土質。

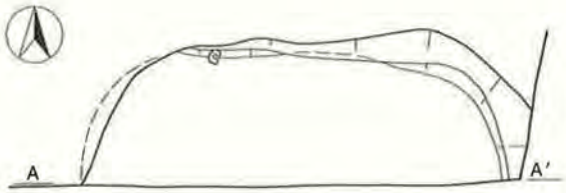
Fig.44　6区T－1・2号竪穴状遺構

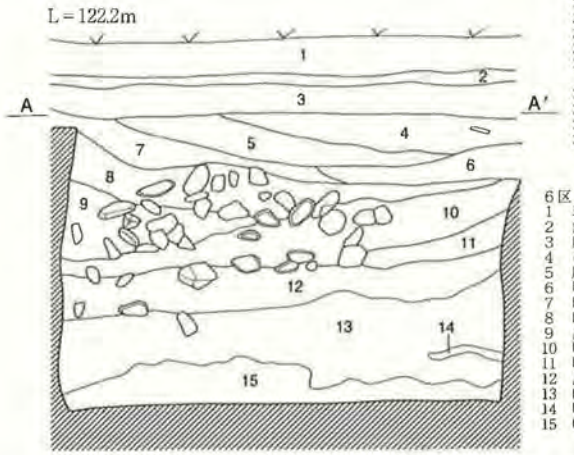




6区　2号溝跡

1　現耕作土
2　現耕作土（鉄分凝集層）
3　暗褐色土　まれにロームブロックを含む。
4　暗褐色土　3層より細かい砂質土。
5　暗褐色土　4層より粒子が細かい砂質土。
6　灰褐色土
7　灰褐色土　Hr－Fpをまれに含む砂質土。中央部は川砂が堆積する。
8　灰褐色土　乳白色軽石と直径2mm前後のローム粒を微量に含む。7層より明るい。
9　灰褐色土　直径1cm前後のローム粒と炭化材を微量に含む。7より明るく、8より暗い。
10　灰褐色土　直径1cm前後のローム粒を含む（9層より多い）粗い土質。
11　暗褐色土　直径2cm前後のローム粒と乳白色軽石を微量に含む粗い土質。
12　暗褐色土　壁面の崩落と思われるロームブロックを含む。11層より暗い。
13　灰褐色土　直径6cm前後のローム粒を含む。10層よりも粗い土質。
14　灰褐色土　粒子が粗く、締まりがない。
15　暗褐色土　粒子が大きく極めて粗い土質。橙色の粒子を若干含む。12層より暗い。
16　灰褐色土　粒子が粗い。直径1cm前後の白色ブロックを含む。
17　灰褐色土　13層より明るく、細かい土質。
18　褐色土　粒子の細かい土質。15層付近で、にぶい黄褐色土を含む。
19　にぶい黄褐色土　粒子が粗くローム粒を多く含む。壁面崩落による層。
20　灰褐色土　ローム粒を若干含む。19層より粒子は細かい。
21　黒褐色土　炭化材とローム粒を若干含む非常に細かい土質。大ぶりの硬質砂によるブロックを含む。
22　黒褐色土　1cm前後のローム粒、2cm前後のロームブロックを多く含む。
23　灰褐色土　細かい土質。下部では砂礫層となる。
24　灰白色土　砂礫主体層。礫は直径1cm前後で、Hr－Fpも若干含まれる。
25　褐色土　粗い土質。24層より小さい砂礫が混じる。
26　灰褐色土　壁面崩落による軽石砂層のブロックを含む粗い土質。上と下では砂層が入る。20層より明るい。
27　灰褐色土　24層に近い砂礫層。中央付近では砂層と砂礫層の互層となる。
28　灰褐色土　上部に若干の礫を含む粗い土質。
29　灰褐色土　軽石砂層のブロックを含む粒子の大きい砂層。
30　灰白色土　軽石砂層のブロックを多く含む砂層。微細な土質。

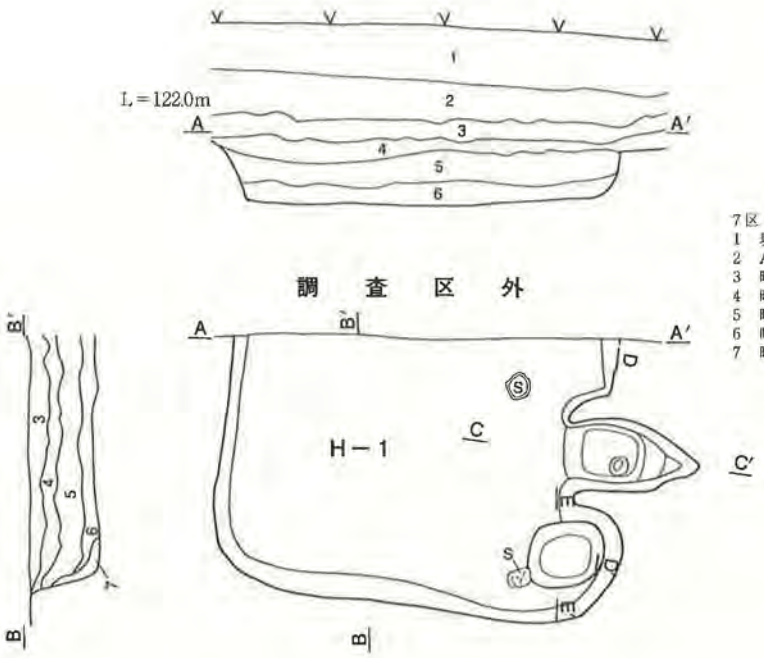




6区　地下式土坑

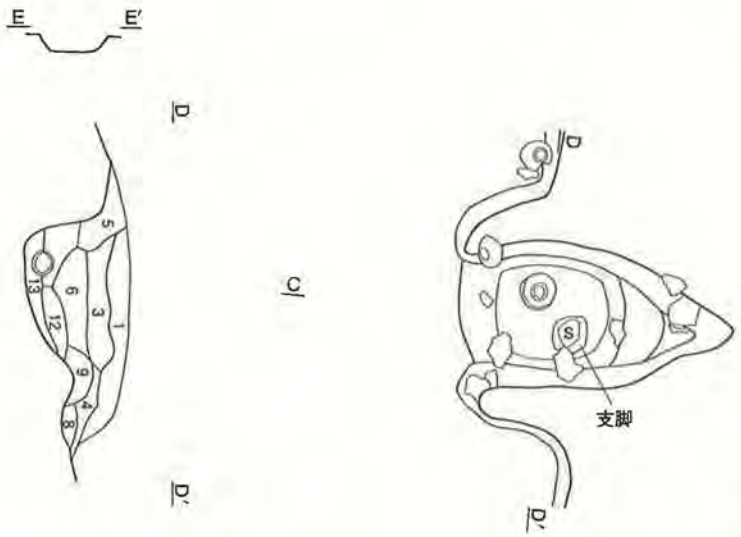
1　現耕作土
2　鉄分凝集層
3　灰白色土　シルトに近い砂質土。やや硬く締まる。
4　にぶい褐色土　硬く締まり、やや粗い土質。
5　灰褐色土　Hr－Fp軽石を微量に含む粗い土質。
6　明褐色土　直径1cm前後のロームブロックが含まれる。
7　暗褐色土　直径2mm前後の粘性粒子が若干含まれる粗い土質。
8　暗褐色土　ローム粒が微量に含まれる。7層より明るい。
9　黒褐色土　As－C、Hr－Fpが極めて微量に入る。細かい土質。締まり無く粘性有り。
10　明褐色土　直径2cm前後のローム粒とHr－Fpを極微量含む。細かい土質。締まり無く粘性有り。
11　明黄褐色土　天井もしくは壁面の崩落が混在する。14層、15層よりもロームブロックは柔らかい。
12　黒褐色土　東壁よりでローム粒が多く含まれる。非常に粗い粒子が主体となる。
13　暗褐色土　直径2mm前後の粘性粒子、As－Cが若干含まれる粗い土質。
14　明黄褐色土　天井の崩落と思われる非常に硬いロームブロック。
15　明黄褐色土　天井の崩落と思われる非常に硬いロームブロック。ロームブロックの間には13層が入り込み互層となる。

Fig.45　6区W－2号溝跡、地下式土坑



7区　H－1号住居跡　セクション

1　現耕作土
2　As－B 40%　As－C・Hr－FP 3%　黄橙色ブロック（φ5～10mm）1%
3　暗褐　　細　As－C・Hr－FP 7%　黄橙色粒 1%
4　暗褐　　細　As－C・Hr－FP 5%　黄橙色粒 2%
5　暗褐　　細　As－C・Hr－FP 3%　黄橙色粒 1%
6　暗褐　　微　As－C・Hr－FP 2%　黄橙色粒 3%
7　暗褐　　微　As－C・Hr－FP 1%　炭化物 1%　粘性が強い



7区　H－1号住居跡　竈セクション

1　黒褐　　細　As－C・Hr－FP 3%　黄橙色粒 2%　炭化物 1%
2　極暗褐　　微　As－C・Hr－FP 1%　焼土粒 3%　灰 2%　にぶい黄橙色粘土粒 3%
3　暗褐　　微　As－C・Hr－FP 2%　黄橙色ブロック（φ10～30mm）3%　焼土粒 3%　灰 1%　にぶい黄橙色粘土粒 3%
4　黒褐　　微　As－C・Hr－FP 1%　焼土粒 1%　にぶい黄橙色粘土粒 5%
5　黒褐　　微　As－C・Hr－FP 2%　黄橙色粒 2%　焼土粒 2%　にぶい黄橙色粘土粒 3%
6　黒褐　　微　As－C・Hr－FP 1%　焼土粒 5%　焼土ブロック（φ10～50mm）7%　灰 2%　にぶい黄橙色粘土粒 3%
7　黒褐　　微　焼土粒 2%　灰 7%　にぶい黄橙色粘土粒 3%
8　黒褐　　微　As－C・Hr－FP 1%　炭化物 1%　にぶい黄橙色粘土粒 2%
9　黒褐　　微　As－C・Hr－FP 1%　焼土粒 2%　にぶい黄橙色粘土粒 30%
10　暗褐　　微　As－C・Hr－FP 1%　焼土粒 1%　にぶい黄橙色粘土粒 30%
11　暗赤褐　　微　焼土粒 3%　灰 7%　にぶい黄橙色粘土粒 10%
12　黒褐　　微　灰層　As－C・Hr－FP 1%　焼土粒 2%　にぶい黄橙色粘土粒 2%
13　黒褐　　微　灰 10%　にぶい黄橙色粘土粒 10%

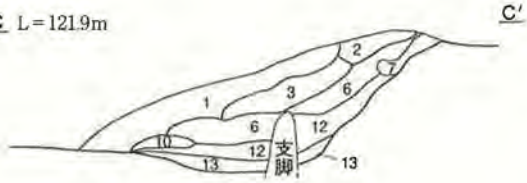
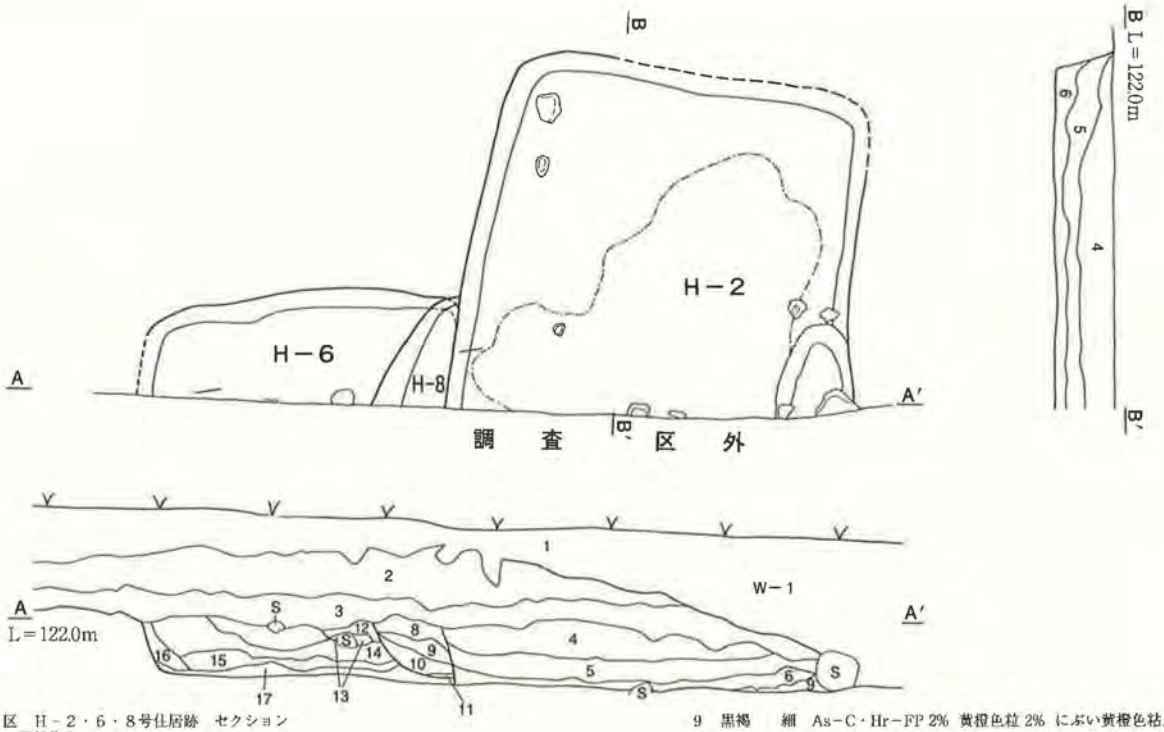
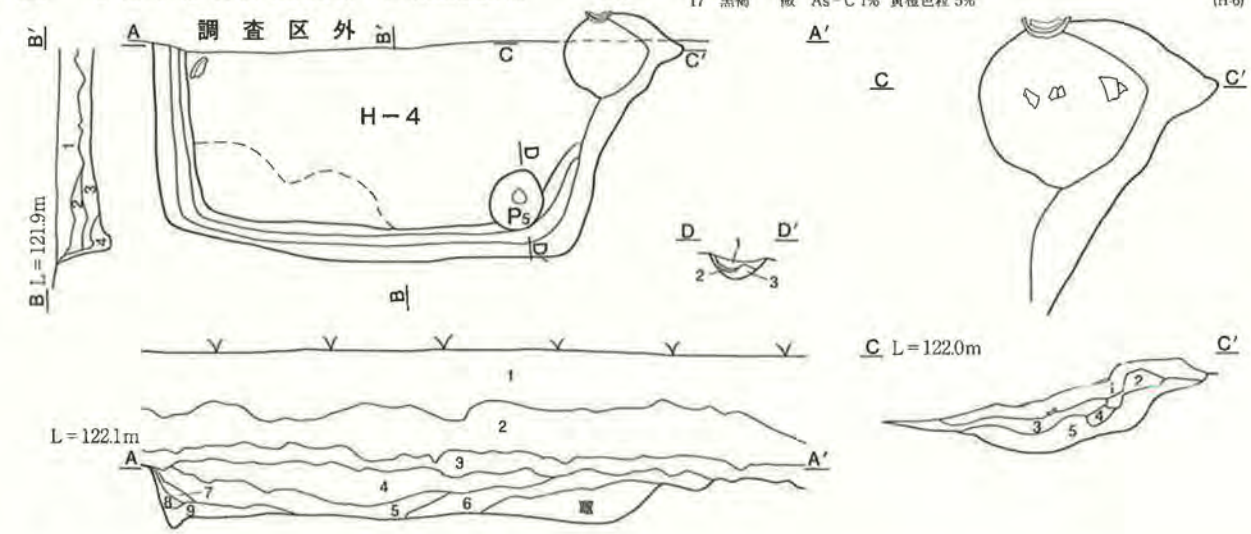


Fig.46　7区H－1号住居跡



7区　H－2・6・8号住居跡　セクション

1　現耕作土
2　暗褐　粗　As－B 40%　As－C・Hr－FP 2%
3　黒褐　粗　As－B 3%　As－C・Hr－FP 5%　黄橙色粒 1%
4　暗褐　細　As－C・Hr－FP 7%　黄橙色ブロック（φ3～7mm）3%　灰白色砂粒 1%　(H-2)
5　暗褐　細　As－C・Hr－FP 7%　灰白色砂粒 3%　(H-2)
6　暗褐　細　As－C・Hr－FP 5%　灰白色砂粒 3%　焼土粒 2%　(H-2)
7　黒褐　微　As－C・Hr－FP 1%　粘土ブロック（φ40mm）5%　にぶい黄橙色粘土粒 2%　(H-2)
　　粘性が強い
8　黒褐　細　As－C・Hr－FP 3%　黄橙色粒 1%　にぶい黄橙色粘土粒 2%　(H-8)
9　黒褐　細　As－C・Hr－FP 2%　黄橙色粒 2%　にぶい黄橙色粘土粒 3%　(H-8)
10　黒褐　細　As－C・Hr－FP 1%　黄橙色粒 2%　黄橙色ブロック（φ10mm）3%　(H-8)
11　黒　粗　As－C 3%　黄橙色粒 2%　黄橙色ブロック（φ10mm）2%　(H-8)
12　黒褐　細　As－C 3%　灰白色砂粒 2%　(H-6)
13　黒　粗　As－C 5%　黄橙色粒 1%　(H-6)
14　黒褐　細　As－C 3%　黄橙色粒 2%　(H-6)
15　黒褐　粗　As－C 2%　黄橙色粒 2%　(H-6)
16　黒褐　細　As－C 5%　黄橙色粒 2%　(H-6)
17　黒褐　微　As－C 1%　黄橙色粒 5%　(H-6)



7区　H－4号住居跡　南北ベルトセクション

1　暗褐　細　As－C・Hr－FP 3%　黄橙色粒 1%　灰白色砂粒 1%
2　暗褐　細　As－C・Hr－FP 2%　黄橙色粒 1%
3　暗褐　細　As－C・Hr－FP 1%　黄橙色粒 2%　灰白色砂粒 5%
4　暗褐　微　As－C・Hr－FP 1%

7区　H－4号住居跡　竈セクション

1　暗褐　細　As－C・Hr－FP 1%　焼土粒 3%　焼土ブロック（φ30～50mm）7%
　　灰 3%　炭化物 2%
2　暗褐　細　As－C・Hr－FP 1%　焼土粒 3%　灰 2%　にぶい黄橙色粘土粒 5%
3　極暗褐　微　As－C・Hr－FP 1%　焼土粒 2%　灰 7%
4　暗褐　微　焼土粒 2%　灰 7%　にぶい黄橙色粘土粒 3%
5　黒褐　微　灰層　黄橙色粒 2%　黄橙色ブロック（φ10～20mm）3%
　　焼土ブロック（φ10mm）2%　にぶい黄橙色粘土粒 3%

Fig.47　7区H－2・4・6・8号住居跡

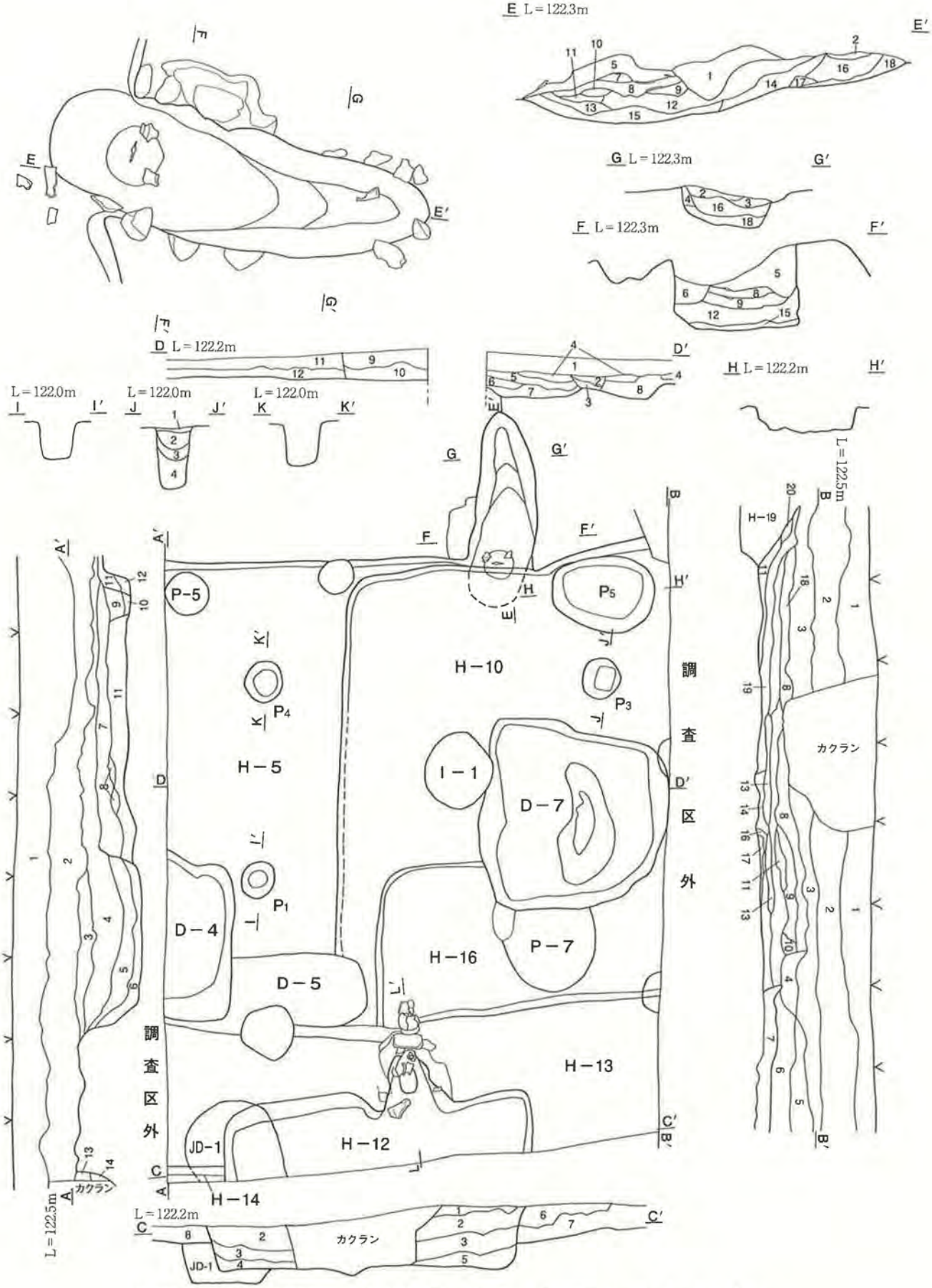


Fig.48　7区H－5・10・12～14・16号住居跡、D－3・4号土坑、P－1・3～5号ピット

7区 H－5・10号住居跡、D－3号土坑 南北ベルトセクション

1 暗褐 細 As－C・Hr－FP 3% 黄橙色粒 1% 炭化物 2% (D-3)
2 暗褐 細 As－C・Hr－FP 1% 黄橙色粒 3% (D-3)
3 暗褐 微 As－C・Hr－FP 1% 黄橙色粒 2% (D-3)
4 黒褐 微 As－C・Hr－FP 1% 黄橙色粒 2% 黄橙色ブロック（φ30mm）5%
炭化物 2% (D-3)
5 暗褐 微 As－C・Hr－FP 2% 黄橙色ブロック（φ10mm）5% (D-3)
6 暗褐 細 As－C・Hr－FP 1% 炭化物 1% (D-3)
7 暗褐 微 As－C・Hr－FP 1% 黄橙色粒 10%
黄橙色ブロック（φ10～30mm）5% (D-3)
8 黒褐 微 As－C・Hr－FP 1% 黄橙色粒 2% 焼土粒 2% 灰 3% (D-3)
9 にぶい黄褐 細 As－C・Hr－FP 3% 黄橙色粒 2% 炭化物 1% (H-10)
10 暗褐 細 As－C・Hr－FP 2% 黄橙色粒 1% 炭化物 1% (H-10)
11 にぶい黄褐 細 As－C・Hr－FP 5% 焼土粒 1% 炭化物 1% (H-5)
12 暗褐 細 As－C・Hr－FP 2% 黄橙色粒 2% 焼土粒 1% 炭化物 1% (H-5)

7区 H－5号住居跡 竈セクション

1 にぶい黄褐 細 現代の耕作などによる攪乱
2 にぶい褐 細 As－C・Hr－FP 1% 灰 2%
3 褐 細 As－C・Hr－FP 1% 焼土粒 2% 灰 2%
4 にぶい褐 細 As－C・Hr－FP 1% 黄橙色粒 5%
5 灰褐 細 As－C・Hr－FP 1% 黄橙色粒 1% 焼土粒 1%
6 灰褐 細 As－C・Hr－FP 2% 黄橙色粒 2% 焼土粒 2%
7 灰褐 微 焼土粒 2%
8 にぶい黄褐 微 焼土粒 2%
9 にぶい黄橙 微 焼土粒 2%
10 灰褐 微 As－C・Hr－FP 1% 焼土粒 1%
11 灰褐 微 As－C・Hr－FP 1% 焼土粒 2%
12 灰褐 細 焼土粒 5%
13 褐 微 As－C・Hr－FP 1% 焼土粒 1%
14 褐 細 As－C・Hr－FP 1% 焼土粒 1%
15 にぶい黄褐 微 As－C・Hr－FP 1% 焼土粒 1% 黄橙色粒 2%
16 にぶい褐 微 焼土粒 2% 黄橙色粒 1%
17 にぶい黄褐 微 As－C・Hr－FP 1% 黄橙色粒 7%
18 褐 微 As－C・Hr－FP 1% 黄橙色粒 5%

7区 H－5号住居跡 P_3セクション

1 黒褐 細 As－C・Hr－FP 1% 焼土粒 1% にぶい黄橙色粘土粒 5% 炭化物 1%
締りが非常に強い H－10号住居跡の貼床層
2 黒褐 微 As－C・Hr－FP 2% 黄橙色ブロック（φ2～10mm）1% 焼土粒 1%
3 暗褐 微 As－C・Hr－FP 1% 黄橙色ブロック（φ2～10mm）1% 焼土粒 1%
4 褐 微 As－C・Hr－FP 1% 黄橙色ブロック（φ2～5mm）1% 焼土粒 1% 炭化物 1%

7区 H－5・14号住居跡、D－4号土坑、P－5号ピット 北壁セクション

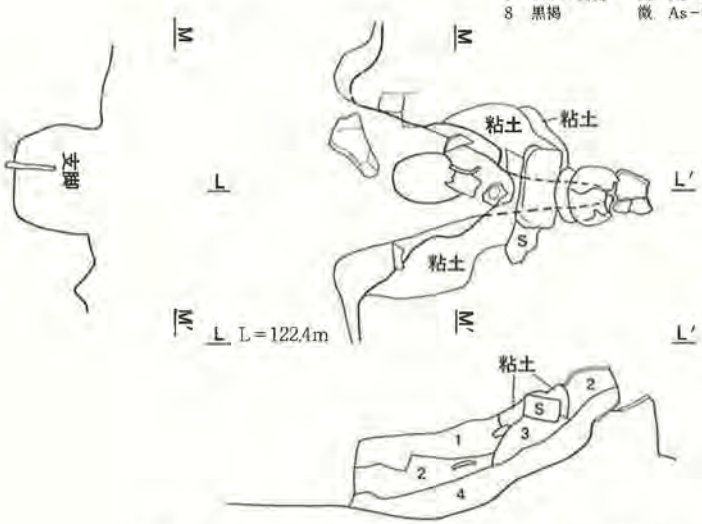
1 現耕作土
2 暗褐 粗 As－B 40% As－C・Hr－FP 2%
3 黒褐 細 As－C・Hr－FP 3% 黄橙色粒 2% (D-4)
4 黒褐 細 As－C・Hr－FP 2% 黄橙色ブロック（φ10～20mm）3% (D-4)
凝灰岩（φ50mm）5%
5 黒褐 細 As－C・Hr－FP 1% 黄橙色粒 7%
黄橙色ブロック（φ10mm）3% (D-4)
6 黒褐 細 As－C・Hr－FP 1% 黄橙色粒 10% (D-4)
7 にぶい黄褐 細 As－C・Hr－FP 5% 焼土粒 1% 炭化物 1% (H-5)
8 黒褐 細 As－C・Hr－FP 2% 黄橙色粒 1% 締りが強い (H-5)
9 黒褐 微 As－C・Hr－FP 2% 黄橙色粒 2% (P-5)
10 暗褐 微 As－C・Hr－FP 1% 黄橙色粒 3% (P-5)
11 暗褐 細 As－C・Hr－FP 2% 黄橙色粒 2% 焼土粒 1%
炭化物 1% (H-5)
12 暗褐 微 As－C・Hr－FP 1% 黄橙色粒 10% (H-5)
13 暗褐 細 As－C・Hr－FP 3% 黄橙色粒 3% (H-14)
14 黒褐 微 As－C・Hr－FP 1% 黄橙色粒 3% (H-14)

7区 H－10・13・16号住居跡 D－3号土坑 南壁セクション

1 現耕作土
2 暗褐 粗 As－B 40% As－C・Hr－FP 2%
3 にぶい黄褐 細 As－C・Hr－FP 2% 黄橙色粒 3%
4 黒褐 粗 As－B 30% 灰白色砂粒 3%
5 暗褐 細 As－C・Hr－FP 5% 炭化物 1% (H-13)
6 にぶい黄褐 微 As－C・Hr－FP 3% 炭化物 3% にぶい黄橙色粘土粒 7%
(H-13)
7 黒褐 細 As－C・Hr－FP 2% 焼土粒 1% 炭化物 1%
にぶい黄橙色粘土粒 2% 貼床層 (H-13)
8 黒褐 細 As－C・Hr－FP 3% 焼土粒 1% (H-13)
9 黒褐 細 As－C・Hr－FP 2% 黄橙色粒 1% 焼土粒 1% 炭化物 1%
10 黒褐 微 As－C・Hr－FP 2% 黄橙色 5% 炭化物 1%
11 黒褐 細 As－C・Hr－FP 2% 黄橙色ブロック（φ10mm）2% 焼土粒 1%
12 黒褐 細 As－C・Hr－FP 1% 黄橙色粒 1% 焼土粒 1%
13 黒褐 微 As－C・Hr－FP 1% 黄橙色粒 2% 黄橙色ブロック（φ30mm）5%
14 黒褐 微 As－C・Hr－FP 1% 黄橙色粒 2% 焼土粒 2% 灰 3% (D-3)
15 黒褐 微 As－C・Hr－FP 2% 黄橙色粒 2% 焼土粒 1% 炭化物 2% (H-16)
16 赤褐 微 焼土主体 竈部分 (H-16)
17 にぶい黄褐 微 灰主体 竈部分 (H-16)
18 黒褐 細 As－C・Hr－FP 1% 黄橙色粒 2% 焼土粒 1% (H-10)
19 黒褐 微 As－C・Hr－FP 2% 黄橙色粒 3% 焼土粒 2% 灰 2% 炭化物 3%
竈部分 (H-10)
20 暗褐 微 As－C・Hr－FP 1% 焼土粒 7% 竈部分 (H-10)
21 黒褐 微 灰層 焼土粒 3% 炭化物 2% にぶい黄橙色粘土粒 5%
竈部分 (H-10)

7区 H－12・13・14号住居跡 セクション

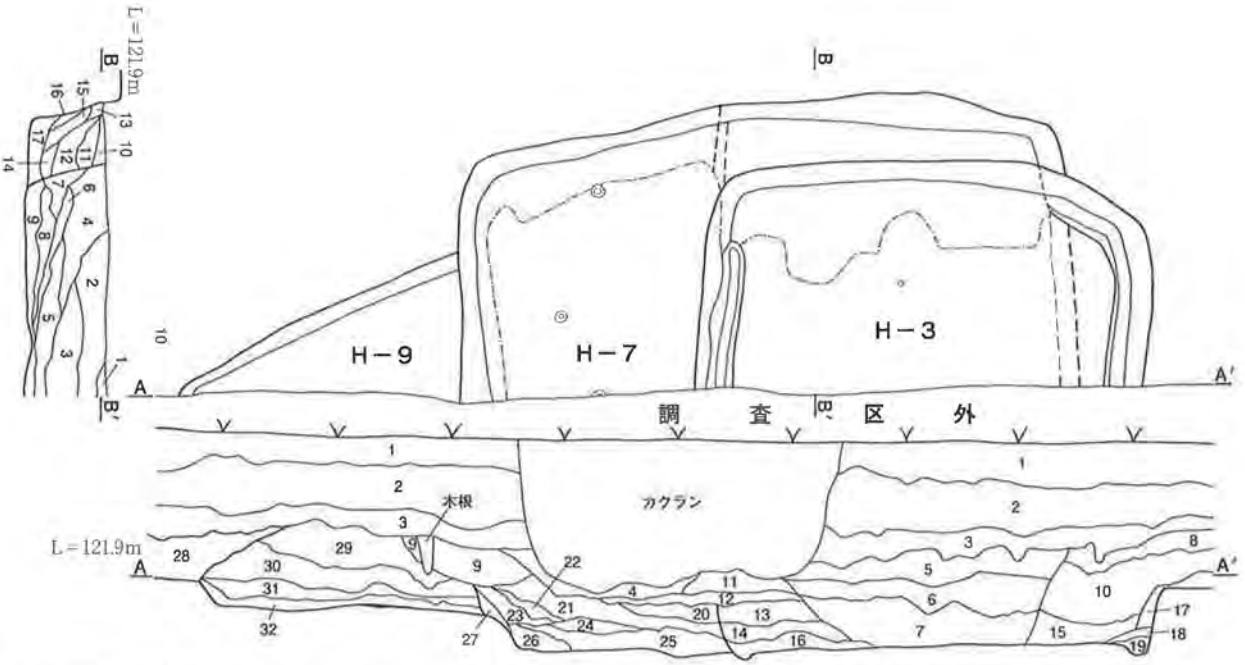
1 暗褐 粗 As－B 20% 黄橙色粒 3%
2 暗褐 細 As－C・Hr－FP 5% 黄橙色ブロック（φ10～40mm）5% 炭化物 1% (H-12)
3 黒褐 細 As－C・Hr－FP 3% 黄橙色ブロック（φ10～50mm）7% 焼土粒 1% (H-12)
炭化物 1%
4 黒褐 微 As－C・Hr－FP 1% 黄橙色ブロック（φ20mm）3% (H-12)
5 黒褐 微 As－C・Hr－FP 1% 黄橙色ブロック（φ20～40mm）3% 灰 30% (H-12)
6 暗褐 細 As－C・Hr－FP 5% 炭化物 1% (H-13)
7 にぶい黄褐 微 As－C・Hr－FP 3% 炭化物 3% にぶい黄橙色粘土粒 7% (H-13)
8 黒褐 微 As－C・Hr－FP 1% 黄橙色粒 3% (H-14)



7区 H－12号住居跡 竈セクション

1 暗褐 細 As－C・Hr－FP 3%
2 黒褐 細 As－C・Hr－FP 2% 焼土粒 1%
3 暗褐 微 As－C・Hr－FP 1% 黄橙色ブロック（φ10mm）3%
4 黒褐 微 灰層 As－C・Hr－FP 1% 焼土粒 2%

Fig.48 7区H－5・10・12～14・16号住居跡、D－3・4号土坑、P－1・3～5号ピット

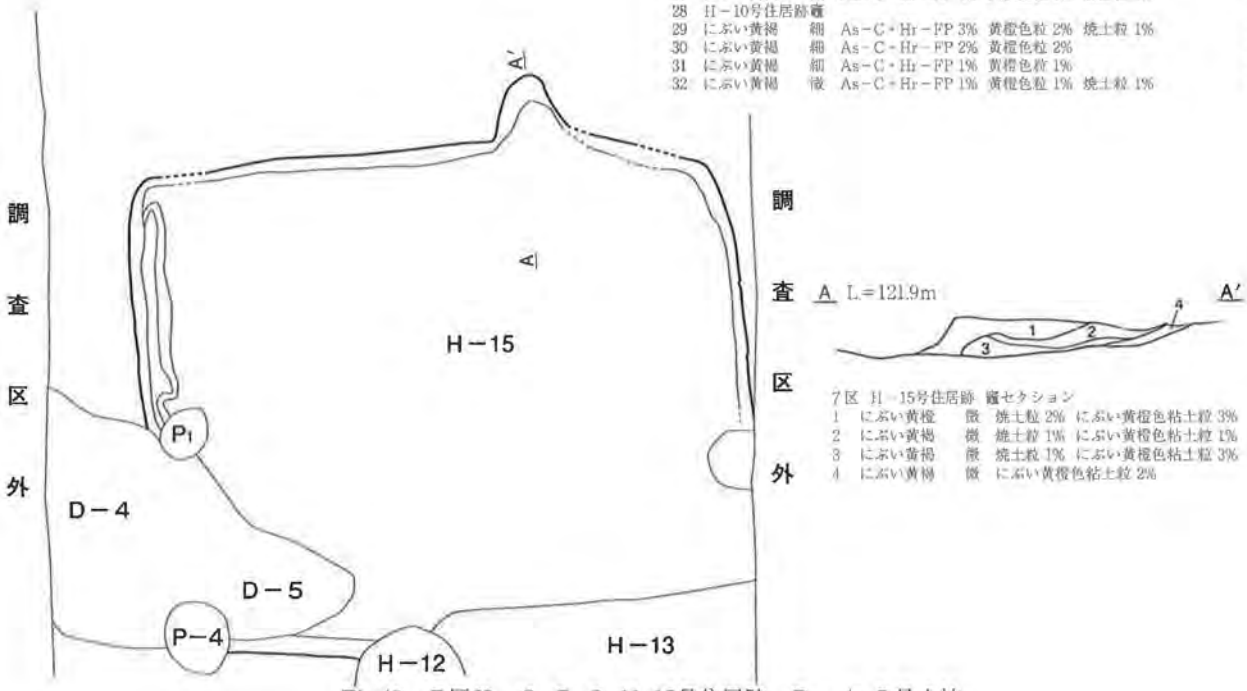


7区 H－3・7号住居跡 南北ベルトセクション

1	黒褐	細	As－C・Hr－FP 3%	黄橙色粒 1%	炭化物 1%	
2	暗褐	細	As－C・Hr－FP 5%	黄橙色ブロック(φ10mm) 2%	炭化物 3%	
3	黒褐	細	As－C・Hr－FP 3%	黄橙色ブロック(φ10mm) 2%	炭化物 5%	
4	暗褐	細	As－C・Hr－FP 5%	黄橙色ブロック(φ10～30mm)5%	炭化物 5%	(H-3)
5	黒褐	細	As－C・Hr－FP 2%	黄橙色粒 2%	黄橙色ブロック(φ10mm) 3% 炭化物 1%	(H-3)
6	暗褐	細	As－C・Hr－FP 2%	黄橙色粒 5%	黄橙色ブロック(φ10mm) 3% 焼土粒 1%	(H-3)
7	黒褐	微	As－C・Hr－FP 2%	黄橙色粒 2%(H-3)		
8	暗褐	微	As－C・Hr－FP 1%	黄橙色粒 7%	黄橙色ブロック(φ10mm) 3%	(H-3)
9	黒褐	微	As－C・Hr－FP 1%	黄橙色粒 3%	黄橙色ブロック(φ10mm) 3% 焼土粒 1%	(H-3)
10	黒褐	細	As－C・Hr－FP 2%	黄橙色粒 1%		(H-7)
11	暗褐	微	As－C・Hr－FP 7%	黄橙色粒 3%		(H-7)
12	黒褐	細	As－C・Hr－FP 5%	黄橙色粒 2%		(H-7)
13	暗褐	微	As－C・Hr－FP 1%	黄橙色粒 3%		(H-7)
14	黒褐	微	As－C・Hr－FP 5%	黄橙色粒 1%		(H-7)
15	黒褐	微	As－C・Hr－FP 1%	黄橙色粒 1%		(H-7)
16	暗褐	微	As－C・Hr－FP 1%	黄橙色粒 3%		(H-7)
17	暗褐	微	As－C・Hr－FP 1%	黄橙色粒 5%	黄橙色ブロック(φ10～60mm)7%	(H-7)

7区 H－3・7・9・11号住居跡 南壁セクション

1	現耕作土					
2	暗褐	粗	As－B 40%	As－C・Hr－FP 2%		
3	にぶい黄褐	細	As－C・Hr－FP 2%	黄橙色粒 3%		
4	暗褐	細	As－C・Hr－FP 1%	黄橙色粒 2%		
5	黒褐	細	As－C・Hr－FP 3%	黄橙色粒 1%	炭化物 1%	
6	暗褐	細	As－C・Hr－FP 5%	黄橙色ブロック(φ10mm) 2%	炭化物 3%	
7	黒褐	細	As－C・Hr－FP 3%	黄橙色ブロック(φ10mm) 2%	炭化物 5%	
8	黒褐	細	As－C・Hr－FP 5%	黄橙色粒 1%		
9	にぶい黄褐	細	As－C・Hr－FP 3%	黄橙色粒 3%	焼土粒 1%	
10	黒褐	細	As－C・Hr－FP 3%	黄橙色粒 5%	焼土粒 2%	(H-3)
11	暗褐	細	As－C・Hr－FP 2%	黄橙色粒 2%		(H-3)
12	暗褐	細	As－C・Hr－FP 1%	黄橙色粒 1%		(H-3)
13	にぶい黄褐	細	As－C・Hr－FP 2%	黄橙色粒 3%	炭化物 1%	(H-3)
14	黒褐	細	As－C・Hr－FP 2%	黄橙色粒 2%	黄橙色ブロック(φ10mm)3%	(H-3)
15	暗褐	細	As－C・Hr－FP 1%	黄橙色粒 1%		(H-3)
16	黒褐	微	As－C・Hr－FP 1%	黄橙色粒 3%	黄橙色ブロック(φ10mm)3%	(H-3)
17	暗褐	細	As－C・Hr－FP 1%	黄橙色粒 1%		(H-3)
18	黒褐	微	As－C・Hr－FP 1%	黄橙色粒 1%		(H-3)
19	にぶい黄褐	微	As－C・Hr－FP 1%	黄橙色粒 10%		(H-3)
20	にぶい黄褐	細	As－C・Hr－FP 1%	黄橙色粒 2%	焼土粒 1%	(H-11)
21	にぶい黄褐	細	As－C・Hr－FP 2%	黄橙色粒 1%	炭化物 1%	(H-11)
22	灰黄褐	微	As－C・Hr－FP 1%	炭化物 1% 灰 1%		(H-11)
23	灰黄褐	細	As－C・Hr－FP 1%	黄橙色粒 1%	焼土粒 1% 炭化物 1%	(H-11)
24	にぶい黄褐	細	As－C・Hr－FP 2%	黄橙色粒 1%	焼土粒 1%	(H-11)
25	にぶい黄褐	細	As－C・Hr－FP 1%	黄橙色粒 5%	炭化物 1%	(H-11)
26	暗褐	細	As－C・Hr－FP 1%	黄橙色粒 7%	焼土粒 1%	(H-11)
27	にぶい黄褐	微	As－C・Hr－FP 1%	黄橙色粒 2%	焼土粒 1%	(H-11)
28	H－10号住居跡覆					
29	にぶい黄褐	細	As－C・Hr－FP 3%	黄橙色粒 2%	焼土粒 1%	(H-9)
30	にぶい黄褐	細	As－C・Hr－FP 2%	黄橙色粒 2%		(H-9)
31	にぶい黄褐	細	As－C・Hr－FP 1%	黄橙色粒 1%		(H-9)
32	にぶい黄褐	微	As－C・Hr－FP 1%	黄橙色粒 1%	焼土粒 1%	(H-9)



7区 H－15号住居跡 覆セクション

1	にぶい黄橙	微	焼土粒 2%	にぶい黄橙色粘土粒 3%
2	にぶい黄褐	微	焼土粒 1%	にぶい黄橙色粘土粒 1%
3	にぶい黄褐	微	焼土粒 1%	にぶい黄橙色粘土粒 3%
4	にぶい黄褐	微	にぶい黄橙色粘土粒 2%	

Fig.49　7区H－3・7・9・11・15号住居跡、D－4・5号土坑

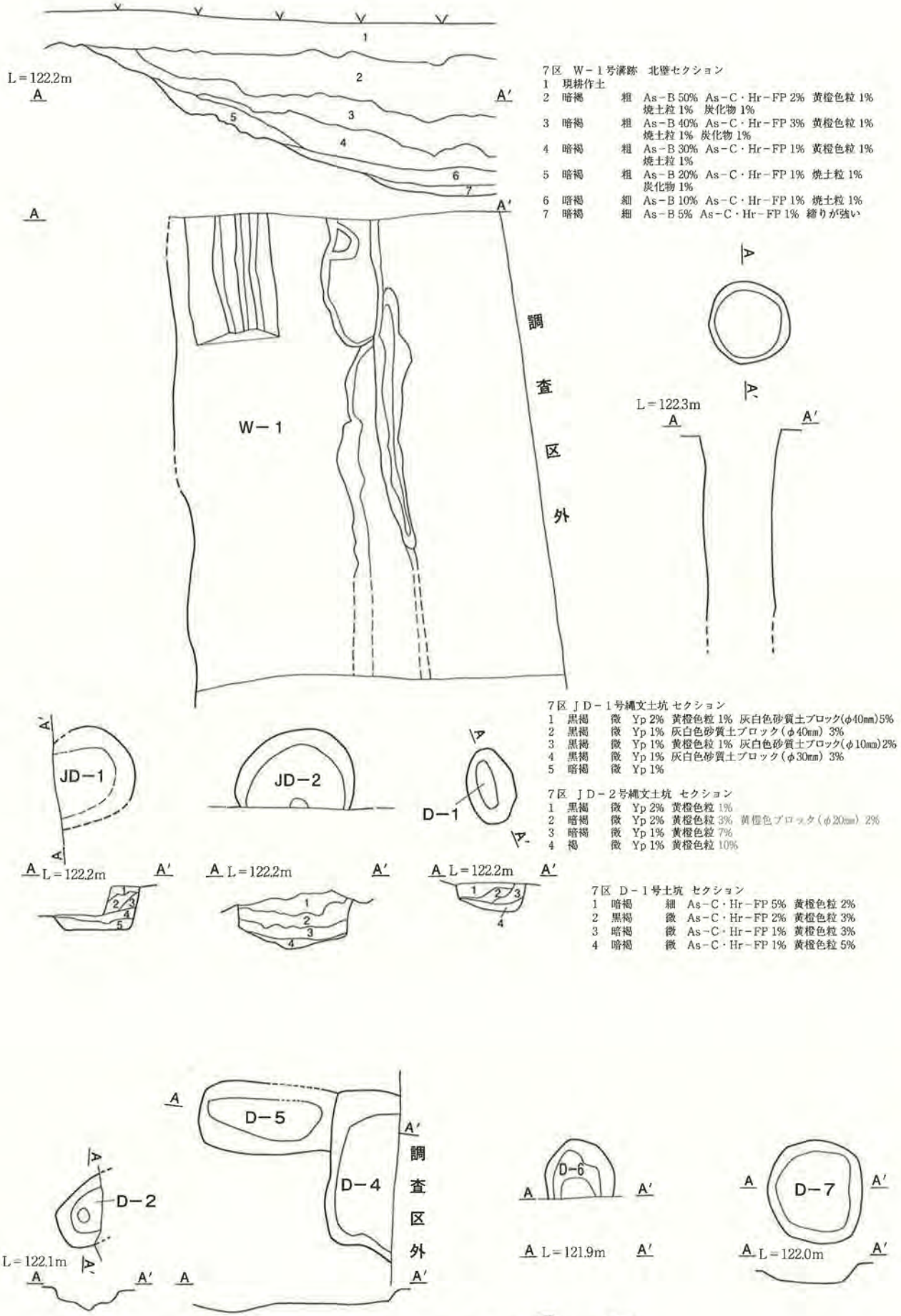
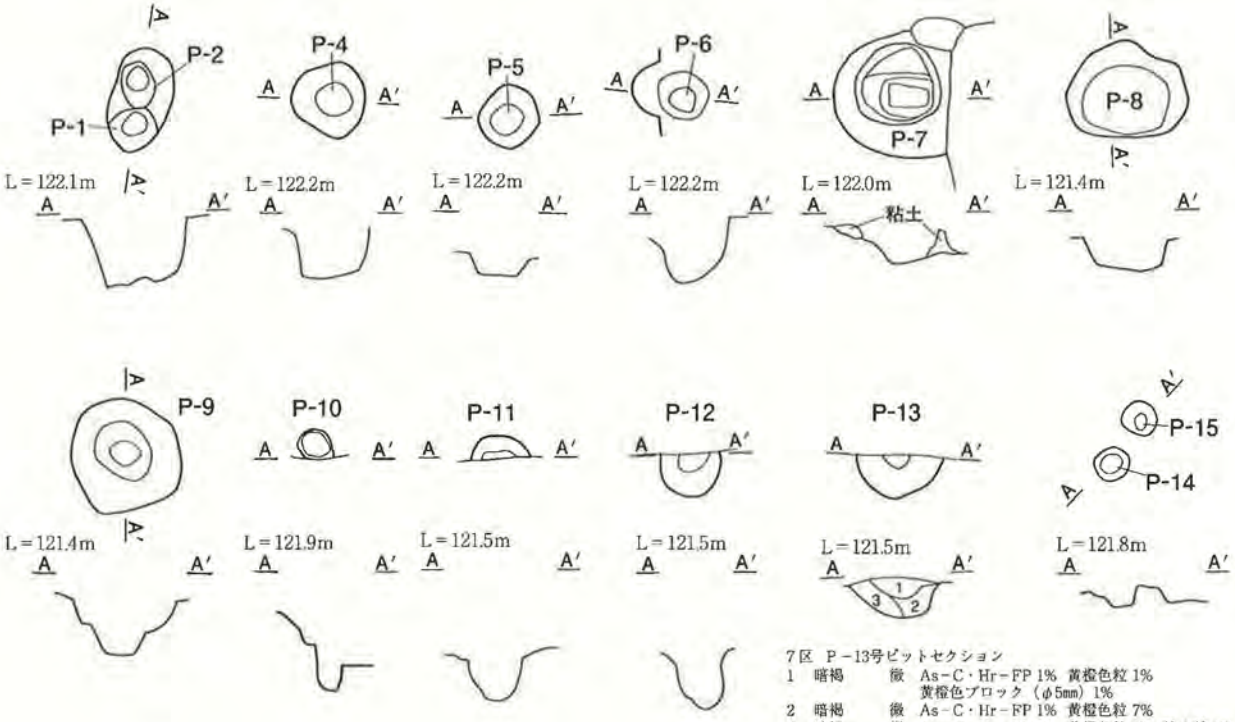
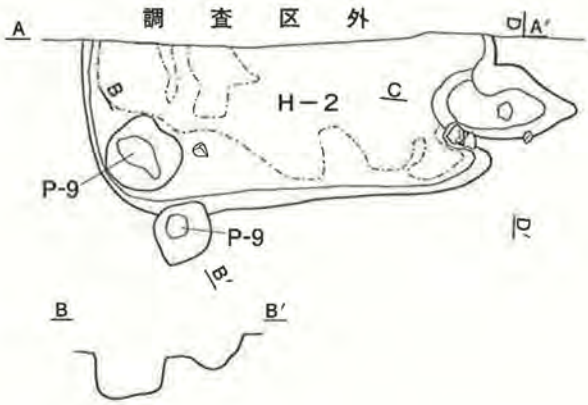


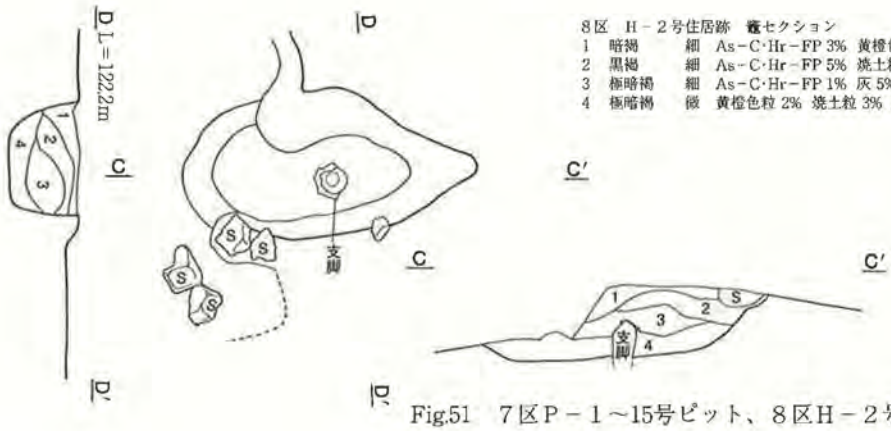
Fig.50　７区Ｗ－１号溝跡、ＪＤ－１・２号土坑、Ｄ－１～７号土坑



7区 P－13号ピットセクション
1 暗褐 微 As－C・Hr－FP 1% 黄橙色粒 1%
黄橙色ブロック（φ5mm）1%
2 暗褐 微 As－C・Hr－FP 1% 黄橙色粒 7%
3 暗褐 微 As－C・Hr－FP 1% 黄橙色粒 1% 焼土粒 1%

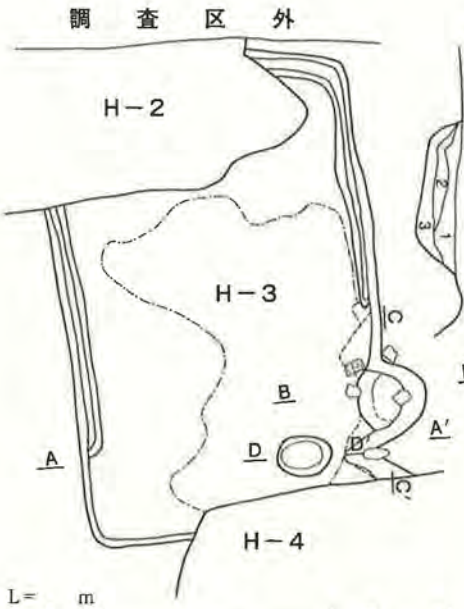
8区 H－2号住居跡 北壁セクション
1 現耕作土
2 黒褐 粗 As－B 5% As－C・Hr－FP 5%
3 黒褐 微 As－C・Hr－FP 1% 黄橙色粒 2% 黄橙色ブロック(φ10～20mm) 5%



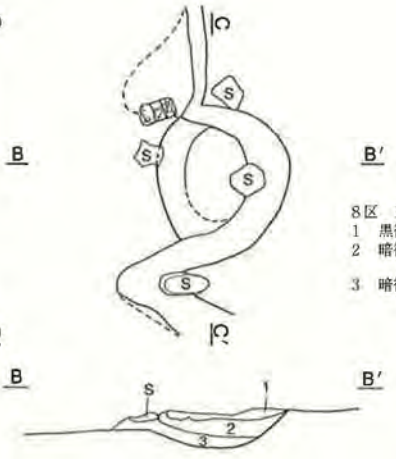


8区 H－2号住居跡 竈セクション
1 暗褐 細 As－C・Hr－FP 3% 黄橙色粒 1% 焼土粒 5%
2 黒褐 細 As－C・Hr－FP 5% 焼土粒 7% 灰 3%
3 極暗褐 細 As－C・Hr－FP 1% 灰 5% 炭化物 1%
4 極暗褐 微 黄橙色粒 2% 焼土粒 3% 灰 7% 炭化物 2%

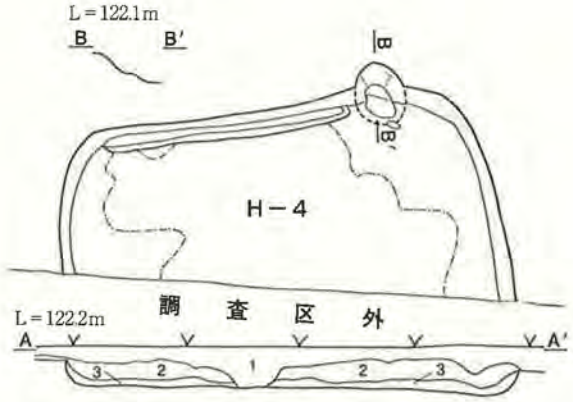
Fig.51 7区P－1～15号ピット、8区H－2号住居跡、P－5・6号ピット



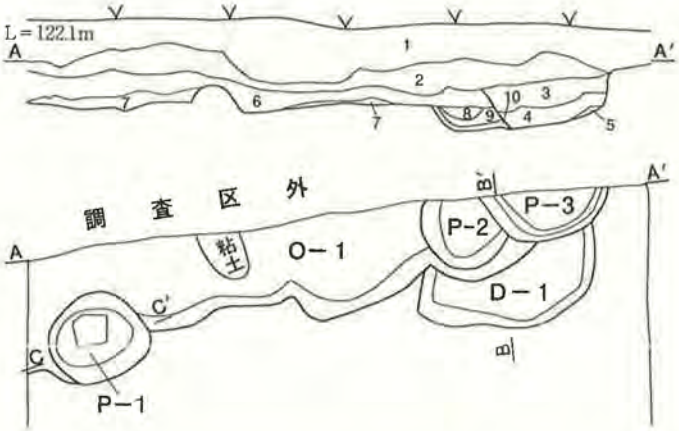
8区　H－3号住居跡　東西ベルトセクション
1　黒褐　　細　As－C・Hr－FP 3%　炭化物 1%
2　黒褐　　細　As－C・Hr－FP 1%　黄橙色粒 1%
3　暗褐　　微　黄橙色粒 10%　As－C・Hr－FP 2%
4　黒褐　　微　黄橙色粒 7%　灰 3%

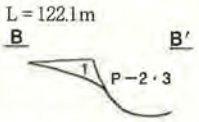


8区　H－3号住居跡　竈セクション
1　黒褐　　粗　As－C・Hr－FP 2%　黄橙色粒 1%
2　暗褐　　細　As－C・Hr－FP 1%　黄橙色粒 2%
　　焼土ブロック(φ10～20㎜)7%
3　暗褐　　微　灰 5%　炭化物 3%

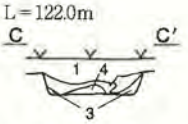


8区　H－4号住居跡　南壁セクション
1　現耕作土
2　暗褐　　細　As－C・Hr－FP 5%　黄橙色粒 1%　焼土ブロック(φ5㎜)
3　暗褐　　細　As－C・Hr－FP 1%　黄橙色粒 2%





8区　D－1号土坑 東西ベルトセクション
1　黒褐　　細　黄橙色粒 10%



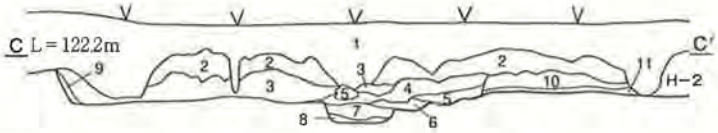
8区　O－1号落ち込み、P－2・3号ピット　東壁セクション
1　現耕作土
2　黒褐　　粗　As－B 10%　As－C・Hr－FP 1%　黄橙色粒 2%
3　黒褐　　細　As－C・Hr－FP 1%　灰 2%　(P-3)
4　黒褐　　粗　As－C・Hr－FP 1%　黄橙色粒 2%　灰 1%　(P-3)
5　暗褐　　粗　黄橙色粒 15%　(P-3)
6　黒褐　　細　As－C・Hr－FP 2%　黄橙色粒 1%
7　暗褐　　粗　黄橙色粒 15%
8　黒　　微　黄橙色粒 3%　橙色の粒子 3%　6層との間に黄橙色粒が入る　(P-2)
9　黒褐　　微　黄橙色粒 5%　橙色の粒子 2%　(P-2)
10　黒褐　　粗　黄橙色粒 10%　橙色の粒子 1%　(P-2)

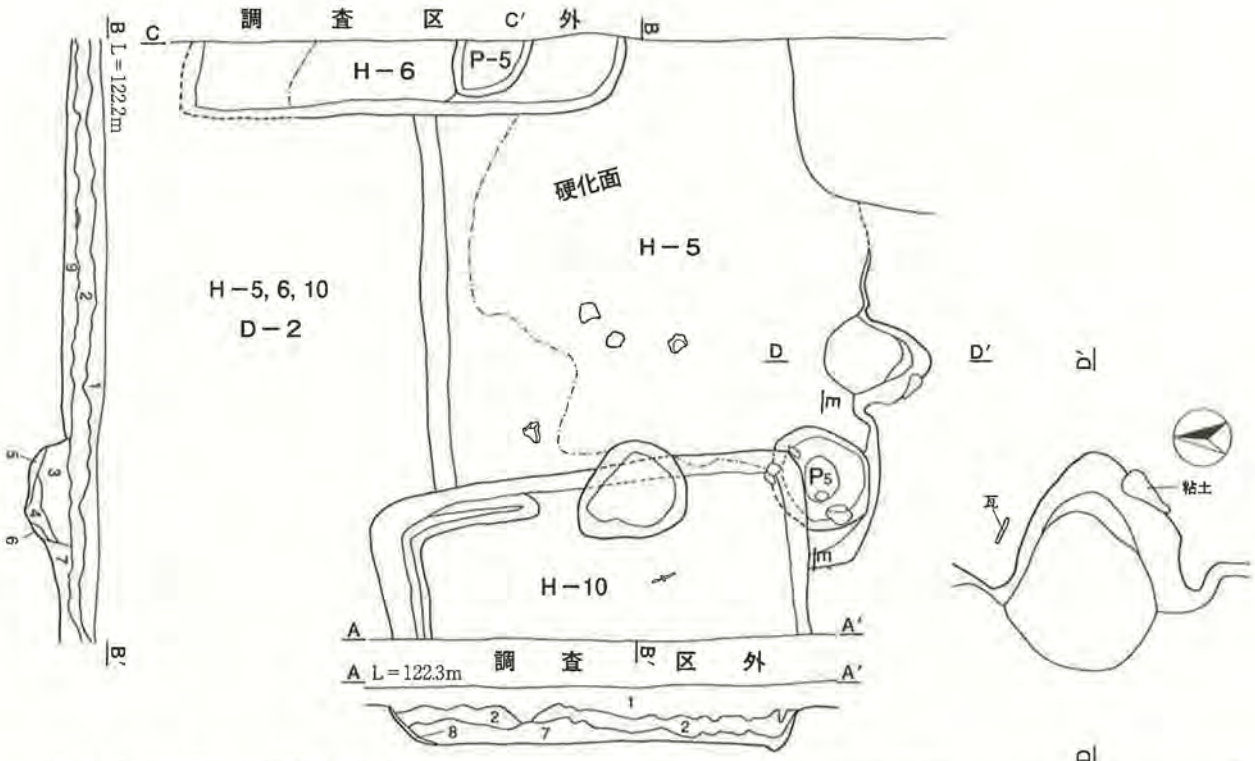
8区　P－1号ピットセクション
1　黒褐　　粗　As－C・Hr－FP 5%　黄橙色粒 2%　炭化物 1%
2　暗褐　　細　As－C・Hr－FP 3%　黄橙色粒 3%
3　褐　　粗　黄橙色粒 15%
4　暗褐　　微　粘質土

Fig.52　8区H－3・4号住居跡、D－1号土坑、O－1号落ちこみ、P－1～3号ピット

8区　H－5・6号住居跡　北壁セクション

1	現耕作土			
2	黒褐	粗	As－B 5%　As－C·Hr－FP 5%	
3	黒褐	細	As－C·Hr－FP 5%　黄橙色粒 3%　黄橙色ブロック(φ10㎜) 3%	(H-6)
4	黒褐	細	As－C·Hr－FP 3%　黄橙色粒 2%　焼土粒 5%　灰 5%	(H-6)
5	黒褐	細	As－C·Hr－FP 2%　黄橙色粒 1%　やや粘り気を持つ	(H-6)
6	黒褐	細	As－C·Hr－FP 1%　黄橙色粒 3%　焼土粒 1%　灰 3%	(H-6)
7	暗褐	微	As－C·Hr－FP 1%　黄橙色粒 3%	(H-6)
8	暗褐	微	黄橙色粒 7%	(H-6)
9	暗褐	微	As－C·Hr－FP 1%　黄橙色粒 7%	(H-6)
10	黒褐	粗	As－B 3%　As－C·Hr－FP 5%　黄橙色粒 2%	(H-5)
11	黒褐	微	As－C·Hr－FP 1%　黄橙色粒 2%　炭化物 1%　にぶい褐色粘土 30%	(H-5)





8区　H－5・10号住居跡　D－2号土坑　セクション

1	黒褐	粗	As－B 5%　As－C·Hr－FP 5%	
2	黒褐	粗	As－B 3%　As－C·Hr－FP 5%　黄橙色粒 2%	
3	黒褐	細	As－C·Hr－FP 3%　凝灰岩 3%　黄橙色粒 2%	(D-2)
4	黒褐	細	As－C·Hr－FP 1%　黄橙色ブロック(φ10～20㎜) 5%　炭化物 2%	(D-2)
5	暗褐	微	As－C·Hr－FP 1%　黄橙色粒 20%	(D-2)
6	暗褐	微	As－C·Hr－FP 1%　黄橙色粒 30%	(D-2)
7	黒褐	細	As－C·Hr－FP 3%　黄橙色粒 5%	(H-10)
8	黒褐	細	As－C·Hr－FP 1%　黄橙色粒 5%	(H-10)
9	黒褐	微	As－C·Hr－FP 1%　黄橙色粒 2%　炭化物 1%　にぶい褐色粘土 30%	(H-5)

8区　H－5号住居跡　竈セクション

1	暗褐	細	As－C·Hr－FP 3%　黄橙色粒 1%　焼土粒 3%
2	暗褐	細	As－C·Hr－FP 1%　黄橙色粒 1%　焼土粒 3%
3	極暗褐	微	黄橙色粒 1%　焼土粒 3%　灰 2%
4	黒褐	微	焼土粒 5%　灰 5%

8区　H－5号住居跡 P_5号貯蔵穴　セクション

1	黒	微	灰主体　焼土ブロック（φ5～10㎜）3%
2	黒褐	細	As－C・Hr－FP 1%　黄橙色粒 7%　炭化物 1%　凝灰岩 2%

Fig.53　8区H－5・6・10号住居跡、D－2号土坑

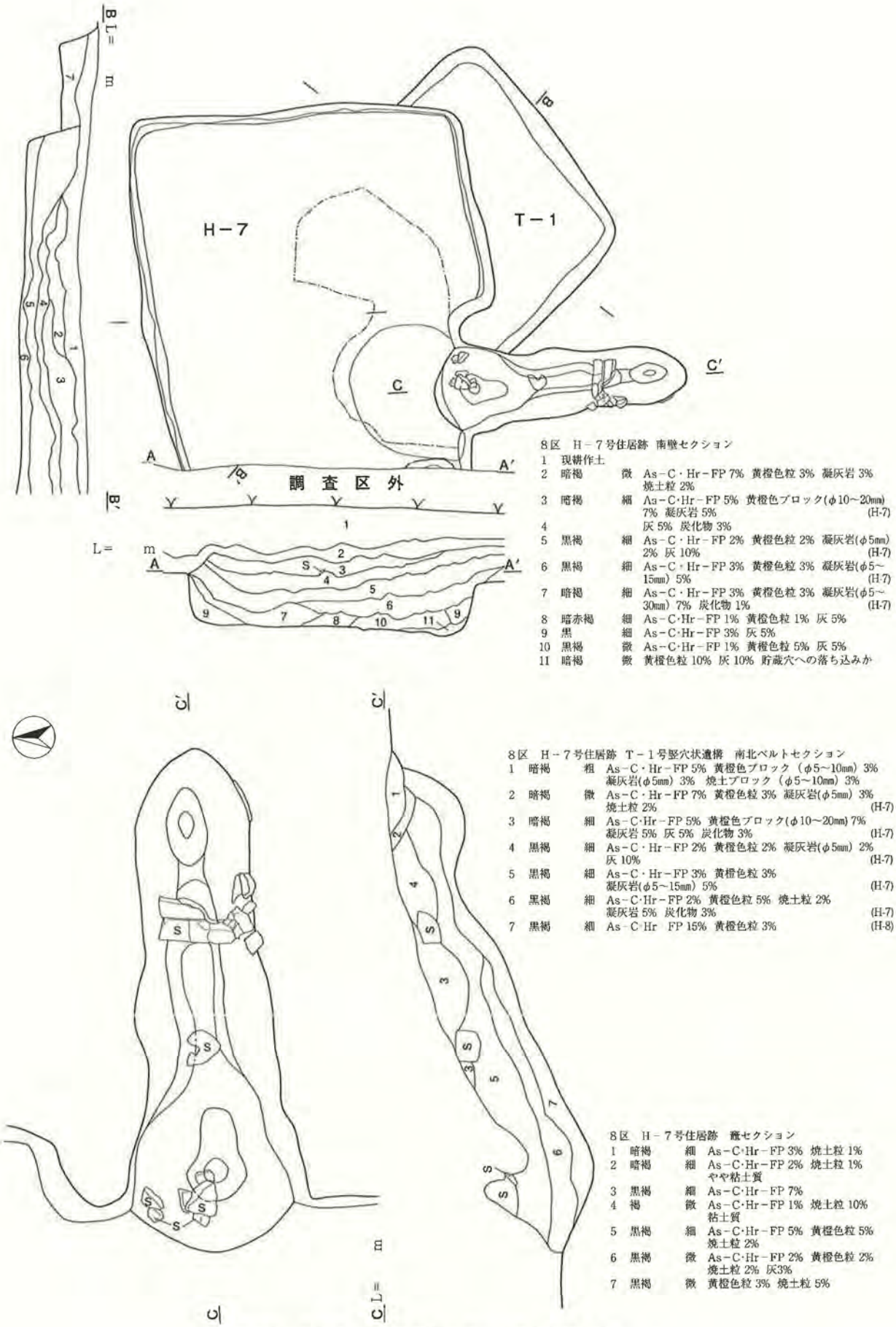
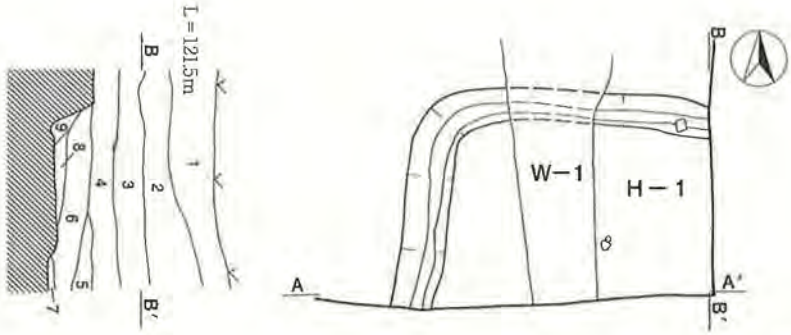
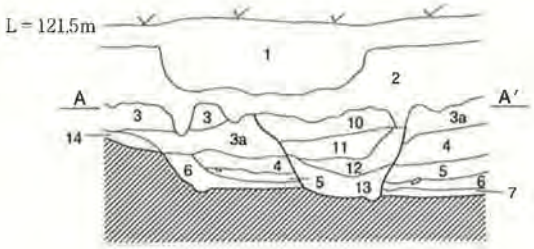


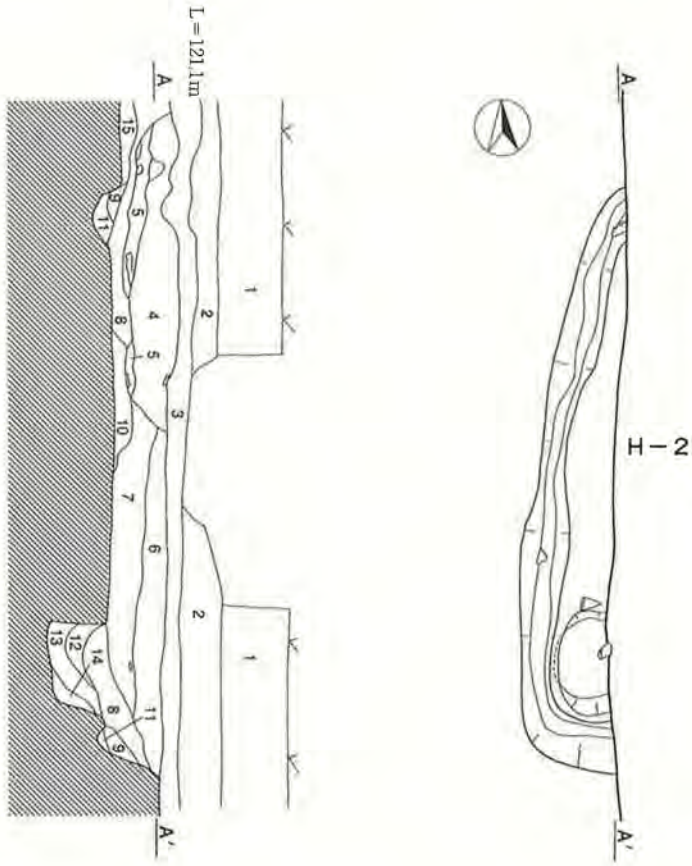
Fig.54 8区H－7号住居跡、T－1号竪穴状遺構





9区　1号住居跡セクション

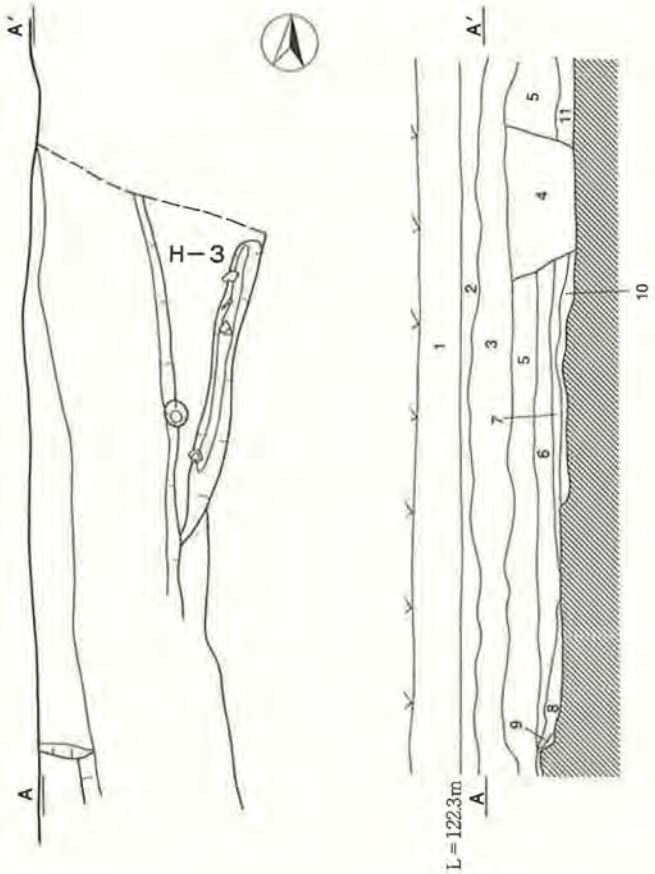
1	撹乱		
2	にぶい褐色土	As−C、Hr−Fpを顕著に含む。極めて硬い土質。	
3	褐灰色土	As−B、As−Cを含む粗い土質。硬く締まる。	
3a	褐灰色土	2層よりAs−B、As−Cの混入が多い。	
4	褐灰色土	2層よりAs−B、As−Cの混入は少ない。ローム粒、炭化材を若干含む粗い土質。	
5	灰褐色土	ローム粒、炭化材を含む細かい土質。	
6	灰褐色土	ローム粒、焼土粒を含む細かい土質。	
7	黄褐色土	貼り床。	
8	灰褐色土	ローム粒、炭化材が含まれ土質は細かい。	
9	にぶい黄褐色土	ロームブロック間に6層を含む。	
10	灰褐色土	As−Bを若干含む。	1号溝跡
11	灰褐色土	As−Bを多く含む。	1号溝跡
12	褐色土	As−Bを微量、ローム粒を若干含む粗い土質。	1号溝跡
13	灰褐色土	細かい土質。下部にローム粒を含む。	1号溝跡
14	にぶい黄褐色土	ローム主体層。	



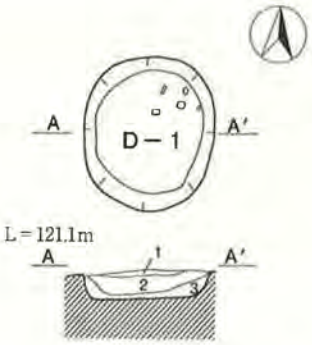
9区　2号住居跡セクション

1	撹乱	
2	にぶい黄褐色土	As−C、Hr−Fpを顕著に含む極めて硬い土質。
3	褐灰色土	As−C、Hr−Fpを微量、As−Bを多く含む硬い土質。
4	にぶい黄褐色土	As−C、Hr−Fpを若干含む。炭化材、焼土ブロックを含む。締まりなし。
5	褐色土	焼土ブロックと炭化材の互層。
6	褐色土	As−Bを含む細かい土質。
7	灰褐色土	As−Cを若干、Hr−Fpを極微量含む。
8	灰褐色土	下部にはローム粒が若干含まれる。粗い土質。
9	灰褐色土	ローム細粒が含まれる。
10	黄褐色土	As−C、ローム細粒が含まれる。粗い土質。
11	黄褐色土	ローム主体層。
12	灰褐色土	ローム粒が極微量含まれる砂質土。
13	灰黄褐色土	ローム粒が多く含まれる。粗い土質。
14	にぶい黄褐色土	ローム粒主体層。
15	にぶい黄褐色土	ローム層。

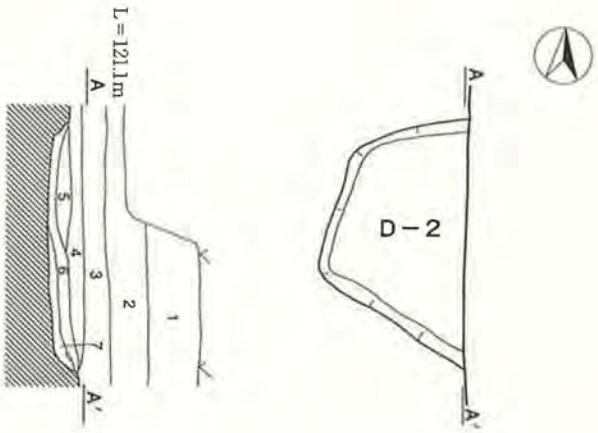
Fig.55　9区H−1・2号住居跡



9区　3号住居跡セクション
1　撹乱
2　にぶい褐色土　As−C、Hr−Fpを顕著に含む極めて硬い土質。
3　褐灰色土　As−C、Hr−Fpを微量、As−Bを多く含む硬い土質。
4　灰黄褐色土　As−C、炭化材、ローム粒を含む細かい土質。
5　褐灰色土　As−Bを若干含み、2層よりもAs−C、Hr−Fpを多く含む。締まりなし。
6　灰褐色土　2層よりもAs−C、Hr−Fpを多く含み、焼土ブロックを下部に含む。
7　灰褐色土　ローム粒を多く含む。
8　灰褐色土　焼土ブロックを多く含む。
9　にぶい黄褐色土　ローム粒主体層。
10　黄褐色土　貼り床。ローム主体で硬く締まる。
11　にぶい黄褐色土　W−1覆土。

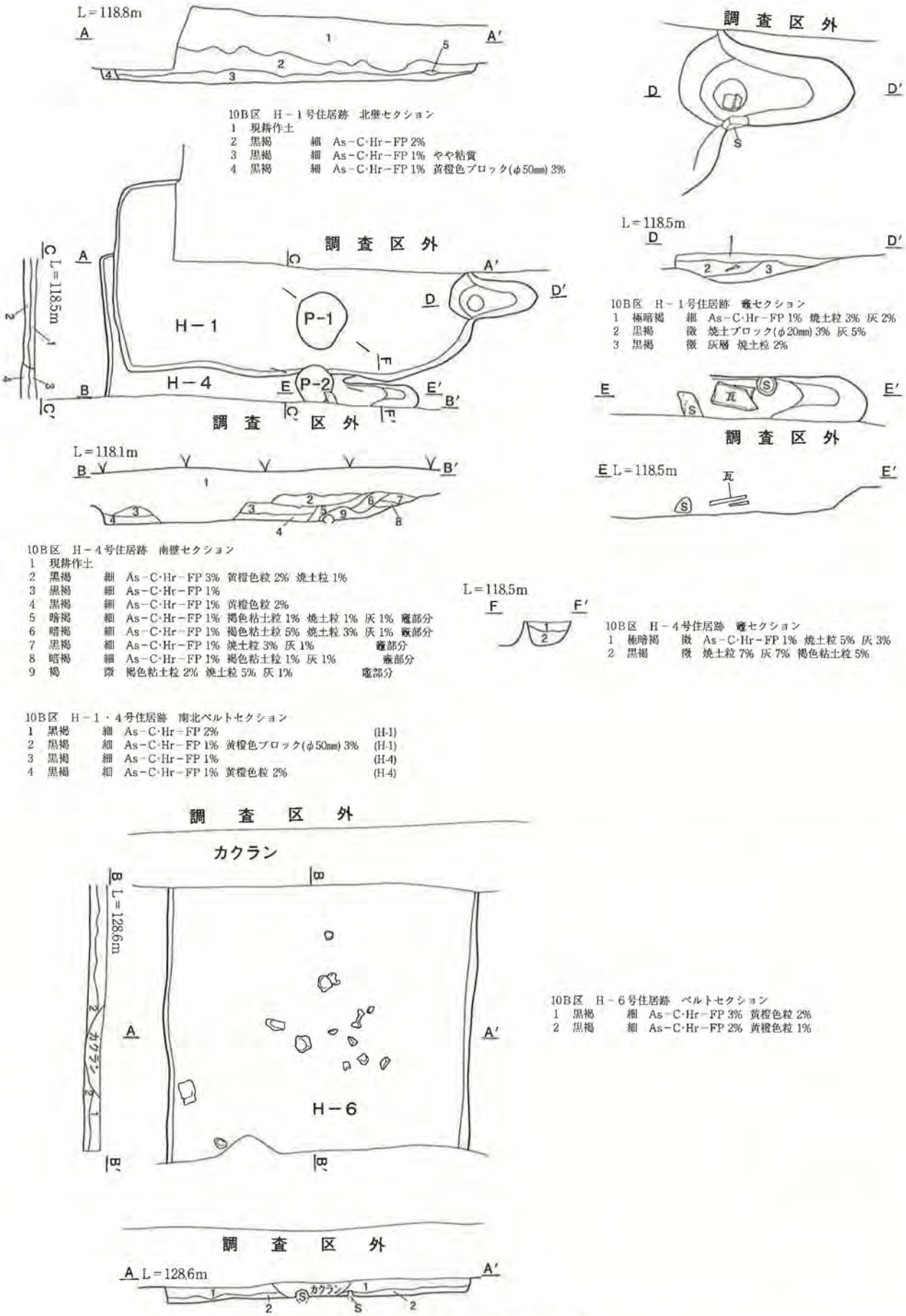


9区　1号土坑セクション
1　灰褐色土　細かい土質。
2　灰褐色土　As−C、Hr−Fpを微量に含む細かい土質。
3　にぶい黄褐色土　ローム粒を多く含む。



9区　2号土坑セクション
1　撹乱
2　にぶい黄褐色土　As−C、Hr−Fpを顕著に含む極めて硬い土質。
3　褐灰色土　As−C、Hr−Fpを微量、As−Bを多く含む硬い土質。
4　灰褐色土　細かい土質。
5　黒褐色土　As−C、Hr−Fp微量に含み、粗い土質。
6　褐色土　ローム粒を微量に含む。
7　黄褐色土　ローム粒主体層。

Fig.56　9区H−3号住居跡・D−1・2号土坑



10B区　H－1号住居跡　北壁セクション
1　現耕作土
2　黒褐　　細　As－C·Hr－FP 2%
3　黒褐　　細　As－C·Hr－FP 1%　やや粘質
4　黒褐　　細　As－C·Hr－FP 1%　黄橙色ブロック(φ50mm) 3%

10B区　H－1号住居跡　竈セクション
1　極暗褐　　細　As－C·Hr－FP 1%　焼土粒 3%　灰 2%
2　黒褐　　微　焼土ブロック(φ20mm) 3%　灰 5%
3　黒褐　　微　灰層　焼土粒 2%

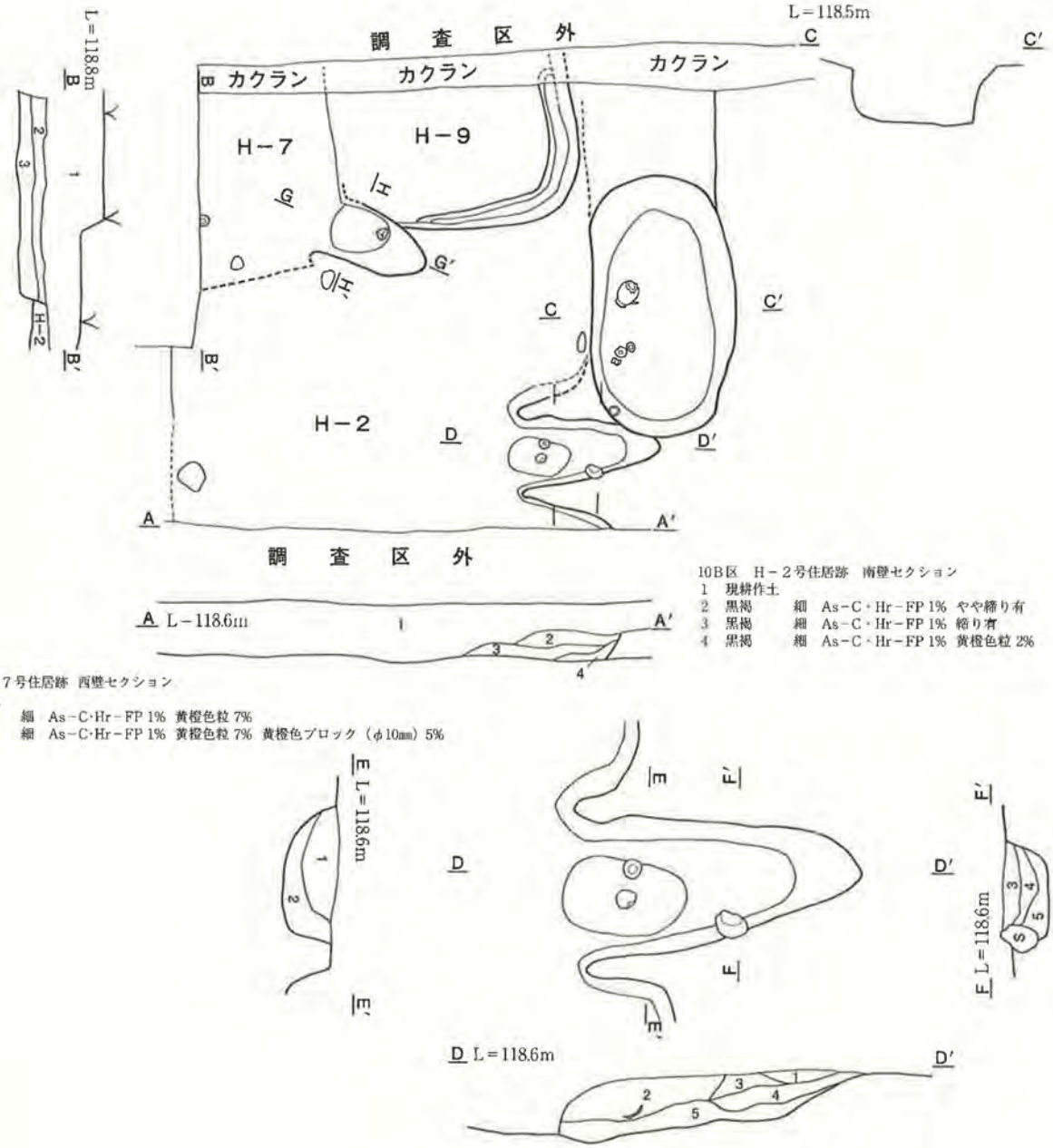
10B区　H－4号住居跡　南壁セクション
1　現耕作土
2　黒褐　　細　As－C·Hr－FP 3%　黄橙色粒 2%　焼土粒 1%
3　黒褐　　細　As－C·Hr－FP 1%
4　黒褐　　細　As－C·Hr－FP 1%　黄橙色粒 2%
5　暗褐　　細　As－C·Hr－FP 1%　褐色粘土粒 1%　焼土粒 1%　灰 1%　竈部分
6　暗褐　　細　As－C·Hr－FP 1%　褐色粘土粒 5%　焼土粒 3%　灰 1%　竈部分
7　黒褐　　細　As－C·Hr－FP 1%　焼土粒 3%　灰 1%　竈部分
8　暗褐　　細　As－C·Hr－FP 1%　褐色粘土粒 1%　灰 1%　竈部分
9　褐　　微　褐色粘土粒 2%　焼土粒 5%　灰 1%　竈部分

10B区　H－4号住居跡　竈セクション
1　極暗褐　　微　As－C·Hr－FP 1%　焼土粒 5%　灰 3%
2　黒褐　　微　焼土粒 7%　灰 7%　褐色粘土粒 5%

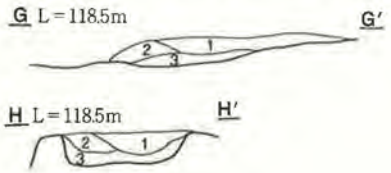
10B区　H－1・4号住居跡　南北ベルトセクション
1　黒褐　　細　As－C·Hr－FP 2%　(H-1)
2　黒褐　　細　As－C·Hr－FP 1%　黄橙色ブロック(φ50mm) 3%　(H-1)
3　黒褐　　細　As－C·Hr－FP 1%　(H-4)
4　黒褐　　細　As－C·Hr－FP 1%　黄橙色粒 2%　(H-4)

10B区　H－6号住居跡　ベルトセクション
1　黒褐　　細　As－C·Hr－FP 3%　黄橙色粒 2%
2　黒褐　　細　As－C·Hr－FP 2%　黄橙色粒 1%

Fig.57　10B区H－1・4・6号住居跡

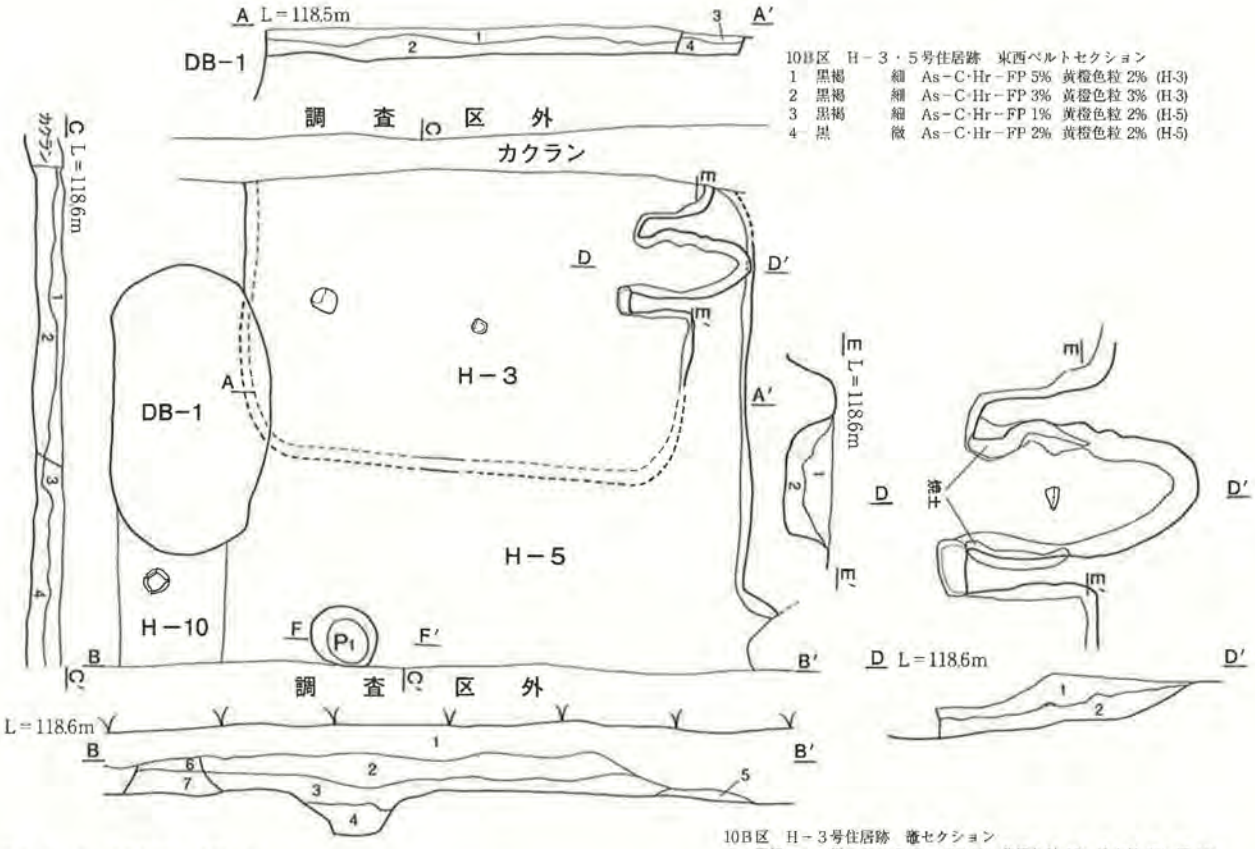


10B区　H－7号住居跡　竈セクション
1　暗褐　細　As－C・Hr－FP 1%　にぶい黄橙色粘土粒 2%　焼土粒 1%　灰 5%
2　にぶい黄橙　微　にぶい黄橙色粘土粒 30%
3　黒褐　微　灰層　にぶい黄橙色粘土粒 1%



10B区　H－2号住居跡　竈セクション
1　極黒褐　細　As－C・Hr－FP 1%　焼土粒 1%　橙色粘土粒 1%
2　橙　微　As－C・Hr－FP 1%　橙色粘土粒 20%
3　黒褐　細　As－C・Hr－FP 1%　焼土粒 3%　灰 2%
4　極黒褐　細　As－C・Hr－FP 1%　焼土粒 2%　灰 5%
5　黒　微　灰層　焼土粒 1%　橙色粒土 2%

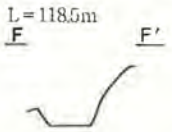
Fig.58　10B区H－2・7号住居跡、DB－1号土坑墓

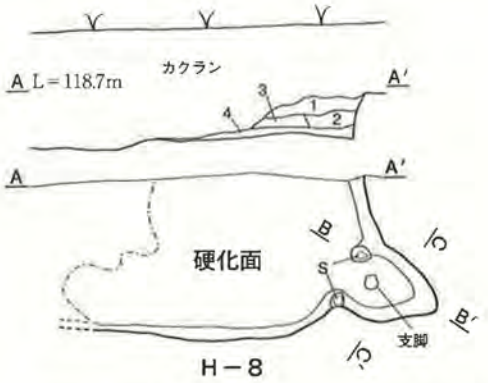


10B区 H－3・5号住居跡 東西ベルトセクション
1 黒褐 細 As－C・Hr－FP 5% 黄橙色粒 2% (H-3)
2 黒褐 細 As－C・Hr－FP 3% 黄橙色粒 3% (H-3)
3 黒褐 細 As－C・Hr－FP 1% 黄橙色粒 2% (H-5)
4 黒 微 As－C・Hr－FP 2% 黄橙色粒 2% (H-5)

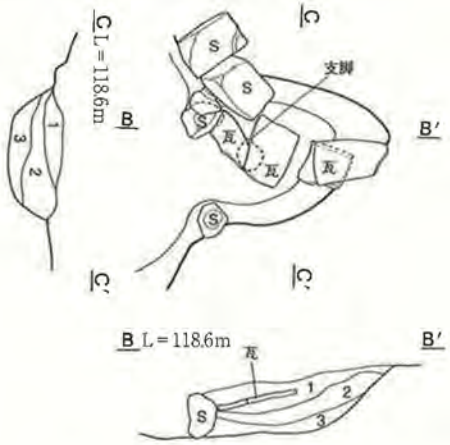
10B区 H－3号住居跡 竈セクション
1 黒褐 微 As－C・Hr－FP 1% 黄橙色粒 1% 焼土粒 3% 灰 1%
2 黒褐 微 As－C・Hr－FP 1% 黄橙色粒 2% 焼土粒 1% 灰 5%

10B区 H－5・10号住居跡 南壁セクション
1 現耕作土
2 黒褐 細 As－C・Hr－FP 1% 黄橙色粒 1% 締り弱い (H-5)
3 黒褐 細 As－C・Hr－FP 2% 黄橙色粒 3% (H-5)
4 黒褐 微 As－C・Hr－FP 1% 黄橙色粒 2% (H-5)
5 黒褐 微 灰層 As－C・Hr－FP 1% 黄橙色粒 3%
撹乱に侵食された竈の残り部分 (H-5)
6 黒褐 細 As－C・Hr－FP 1% 黄橙色粒 1% やや粘質で締り有 (H-10)
7 黒褐 細 As－C・Hr－FP 2% 黄橙色粒 3% (H-10)



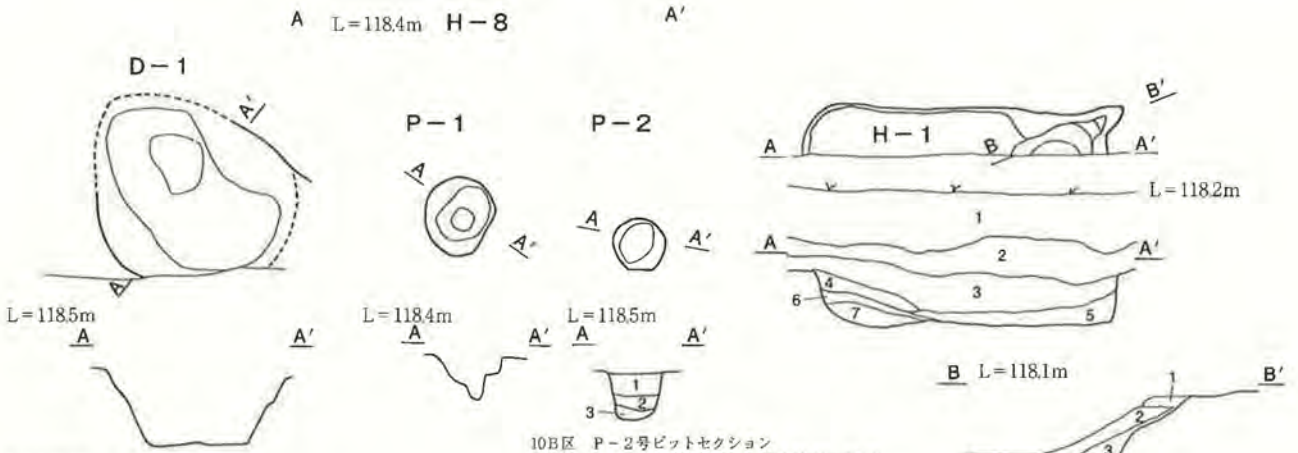


10B区 H－8号住居跡 北壁セクション
1 暗褐 細 As－C・Hr－FP 1% 黄橙色粒 2% 焼土粒 1% 炭化物 1%
2 暗褐 細 As－C・Hr－FP 1% 黄橙色粒 3% 焼土粒 1% 炭化物 2%
3 暗褐 細 As－C・Hr－FP 1% 黄橙色粒 5% 焼土粒 1% 炭化物 2%
4 黒褐 細 As－C・Hr－FP 2% 黄橙色粒 5% 炭化物 1%



10B区 H－8号住居跡 竈セクション
1 黒褐 細 As－C・Hr－FP 1% 焼土粒 1%
2 極暗褐 細 As－C・Hr－FP 1% 焼土粒 2%
3 黒褐 微 As－C・Hr－FP 1% 焼土粒 1% 灰 3%

Fig.59 10B区H－3・5・8・10号住居跡



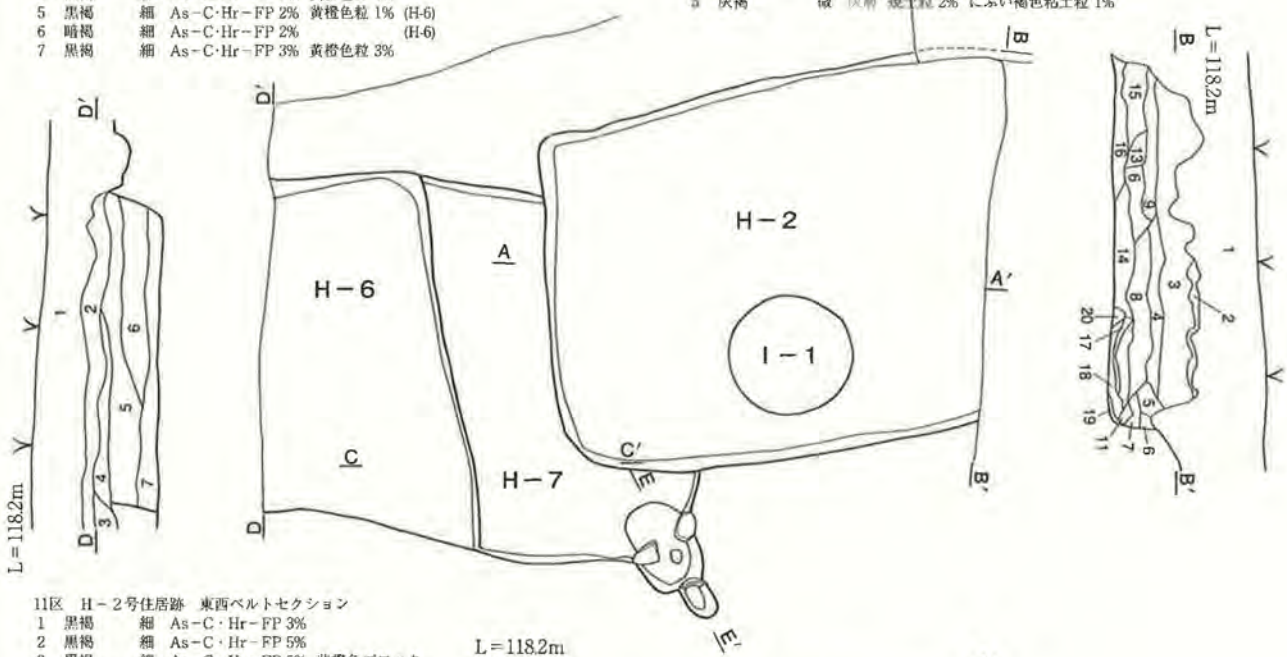
10B区　P－2号ピットセクション
1　黒　　微　黄橙色粒 1%　焼土粒 3%　灰 7%
2　黒褐　　微　黄橙色粒 3%　灰 5%
3　黒褐　　微　黄橙色粒 10%　灰 2%

11区　H－1号住居跡　西壁セクション
1　現耕作土
2　黒褐　　細　As－C・Hr－FP 2%　黄橙色粒 2%
3　黒褐　　細　As－C・Hr－FP 3%　黄橙色粒 3%　炭化物 7%
4　にぶい黄褐　　微　As－C・Hr－FP 1%　にぶい黄橙色粒 3%　焼土粒 1%　灰 2%
5　暗褐　　微　As－C・Hr－FP 1%　黄橙色粒 2%　焼土粒 2%　灰 2%
6　暗褐　　微　As－C・Hr－FP 1%　灰 7%
7　明褐　　微　竈部分

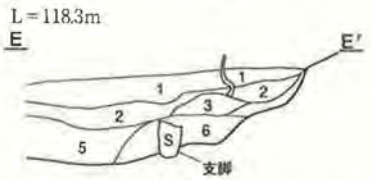
11区　H－6・7号住居跡　東西ベルトセクション
1　暗褐　　細　As－C・Hr－FP 3%　黄橙色粒 3%
2　暗褐　　細　As－C・Hr－FP 2%　黄橙色粒 3%　炭化物 1%

11区　H－6号住居跡　西壁セクション
1　現耕作土
2　黒褐　　細　As－C・Hr－FP 2%
3　黒褐　　細　As－C・Hr－FP 1%　黄橙色粒 2%
4　黒褐　　細　As－C・Hr－FP 2%　黄橙色粒 1%
5　黒褐　　細　As－C・Hr－FP 2%　黄橙色粒 1%　(H-6)
6　暗褐　　細　As－C・Hr－FP 2%　(H-6)
7　黒褐　　細　As－C・Hr－FP 3%　黄橙色粒 3%

11区　H－1号住居跡　竈セクション
1　にぶい褐　　微　にぶい褐色粘土 15%　焼土粒 10%
2　黒褐　　微　にぶい褐色粘土 10%　焼土粒 7%　灰 3%
3　褐　　微　にぶい褐色粘土 5%　焼土粒 5%　灰 5%
4　明赤褐　　微　にぶい焼土粒 3%　焼土粒 15%　灰 7%
5　灰褐　　微　灰層　焼土粒 2%　にぶい褐色粘土粒 1%



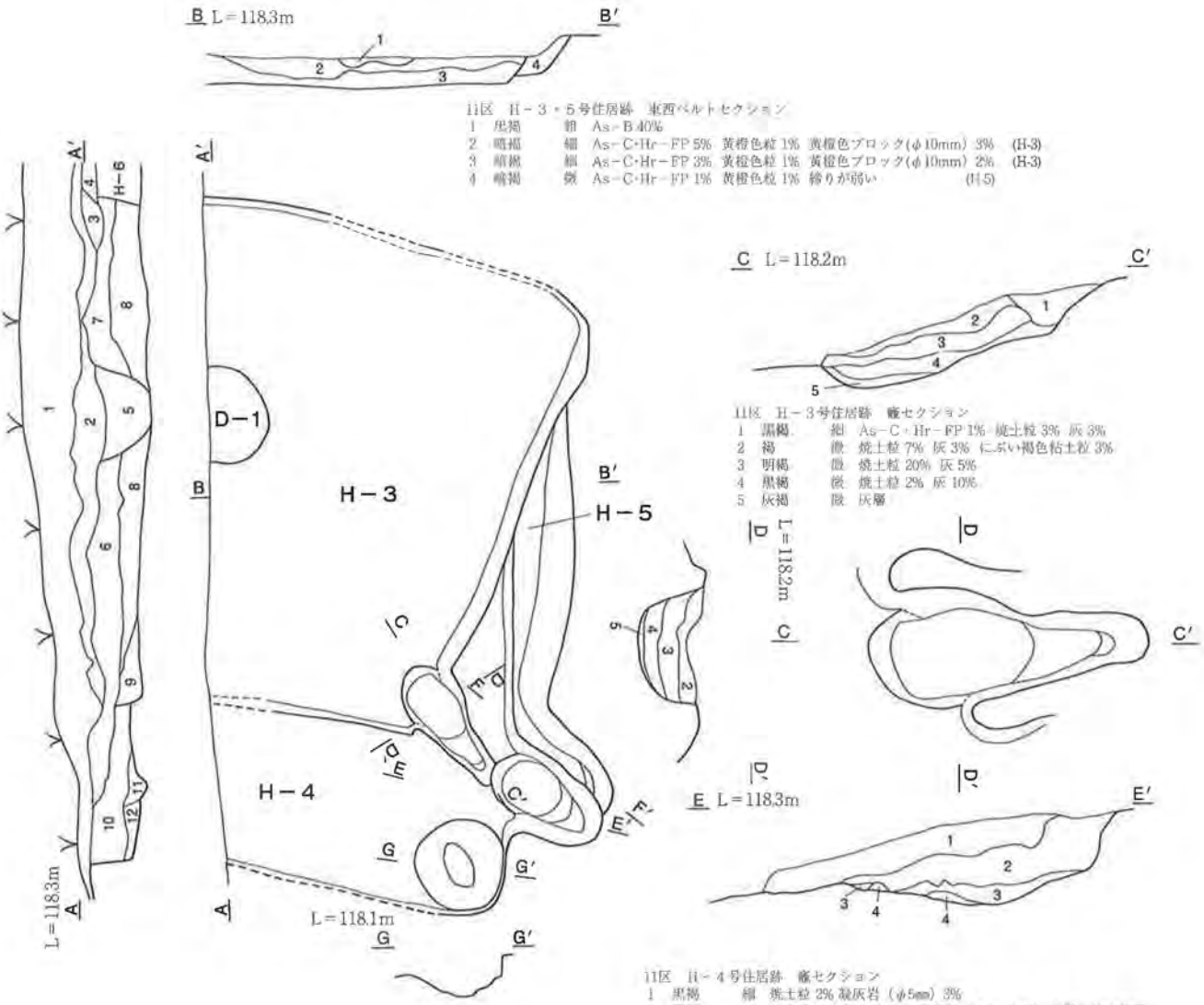
11区　H－2号住居跡　東西ベルトセクション
1　黒褐　　細　As－C・Hr－FP 3%
2　黒褐　　細　As－C・Hr－FP 5%
3　黒褐　　細　As－C・Hr－FP 5%　黄橙色ブロック (φ10～20mm) 5%
4　黒褐　　微　As－C・Hr－FP 5%　黄橙色ブロック (φ10mm) 3%
5　黒褐　　微　As－C・Hr－FP 3%　黄橙色粒 3%　黄橙色ブロック(φ10～30mm) 7%
6　黒褐　　微　As－C・Hr－FP 1%　黄橙色粒 1%　灰 3%
7　暗褐　　微　As－C・Hr－FP 1%　黄橙色粒 2%



11区　H－7号住居跡　竈セクション
1　黒褐　　細　As－C・Hr－FP 3%　にぶい黄褐色粘土 2%　灰 2%
2　黒褐　　細　As－C・Hr－FP 2%　にぶい黄褐色粘土 5%　灰 3%
3　褐　　微　焼土粒 15%　にぶい黄褐色粘土 2%　灰 3%
4　黒褐　　微　As－C・Hr－FP 1%　にぶい黄褐色粘土 7%　灰 10%　炭 2%
5　にぶい黄褐　　微　にぶい黄褐色粘土 7%　灰 3%
6　黒褐　　微　焼土粒 2%　灰 2%

11区　H－2号住居跡　東壁セクション
1　現耕作土
2　暗褐　　粗　As－B 50%
3　黒褐　　細　As－C・Hr－FP 3%
4　黒褐　　細　As－C・Hr－FP 5%
5　黒褐　　細　As－C・Hr－FP 2%　黄橙色粒 1%
6　黒褐　　細　As－C・Hr－FP 1%　黄橙色粒 2%
7　黒褐　　微　As－C・Hr－FP 1%　褐色粘土 5%
8　黒褐　　細　As－C・Hr－FP 5%　黄橙色ブロック(φ10～20mm) 5%
9　黒褐　　微　As－C・Hr－FP 2%　赤く酸化している 流水の影響か
10　黒褐　　微　As－C・Hr－FP 1%　黄橙色粒 2%
11　褐　　微　As－C・Hr－FP 1%　褐色粘土 30%
12　黒褐　　細　As－C・Hr－FP 1%　黄橙色粒 1%%　褐色粘土 1%
13　黒褐　　細　As－C・Hr－FP 2%
14　黒褐　　微　As－C・Hr－FP 1%　黄橙色粒 1%　灰 3%
15　黒褐　　微　As－C・Hr－FP 1%　黄橙色粒 3%
16　暗褐　　微　As－C・Hr－FP 1%　黄橙色粒 10%
17　黒褐　　微　焼土粒 5%　灰 3%　褐色粘土 1%
18　にぶい黄褐　　微　灰層　焼土粒 2%
19　黒褐　　微　As－C・Hr－FP 1%　黄橙色粒 2%　焼土粒 1%　灰 3%
20　暗褐　　微　褐色粘土主体

Fig.60　10B区D－1号土坑、P－1・2号ピット、11区H－1・2・6・7号住居跡



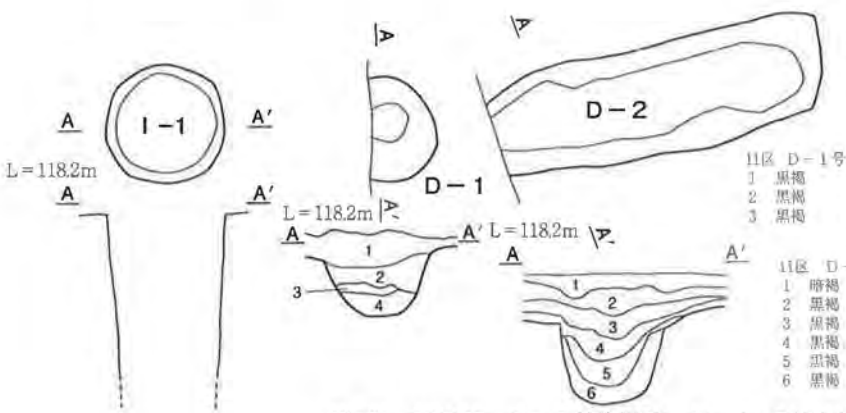
11区　H－3・5号住居跡　東西ベルトセクション
1　黒褐　　細　As－B 40%
2　暗褐　　細　As－C・Hr－FP 5%　黄橙色粒 1%　黄橙色ブロック(φ10mm) 3%　(H-3)
3　暗褐　　細　As－C・Hr－FP 3%　黄橙色粒 1%　黄橙色ブロック(φ10mm) 2%　(H-3)
4　暗褐　　微　As－C・Hr－FP 1%　黄橙色粒 1%　締りが弱い　(H-5)

11区　H－3号住居跡　竈セクション
1　黒褐　　細　As－C・Hr－FP 1%　焼土粒 3%　灰 3%
2　褐　　微　焼土粒 7%　灰 3%　にぶい褐色粘土粒 3%
3　明褐　　微　焼土粒 20%　灰 5%
4　黒褐　　微　焼土粒 2%　灰 10%
5　灰褐　　微　灰層

11区　H－4号住居跡　竈セクション
1　黒褐　　細　焼土粒 2%　凝灰岩 (φ5mm) 3%
2　黒褐　　　焼土粒 3%　粘土粒 2%　凝灰岩 (φ5mm) 4%　1層に比べ粘質
3　赤褐　　微　焼土・粘土主体
4　灰褐　　微　灰層　焼土粒 1%　粘土粒 1%

11区　H－3・4号住居跡　西壁セクション
1　現耕作土
2　黒褐　　細　As－C・Hr－FP 2%
3　黒褐　　細　As－C・Hr－FP 1%　黄橙色粒 2%
4　黒褐　　細　As－C・Hr－FP 2%　黄橙色粒 1%
5　D－1号土坑
6　暗褐　　細　As－C・Hr－FP 5%　黄橙色粒 1%　黄橙色ブロック(φ10mm) 3%　(H-3)
7　黒褐　　細　As－C・Hr－FP 3%　黄橙色粒 3%　(H-3)
8　暗褐　　細　As－C・Hr－FP 3%　黄橙色粒 1%　黄橙色ブロック(φ10mm) 2%　(H-3)
9　黒褐　　細　As－C・Hr－FP 1%　黄橙色粒 1%　(H-3)
10　黒褐　　細　As－C・Hr－FP 1%　黄橙色粒 2%　(H-4)
11　黒褐　　微　As－C・Hr－FP 2%　黄橙色粒 1%　(H-4)
12　黒褐　　細　As－C・Hr－FP 2%　黄橙色粒 1%　(H-4)

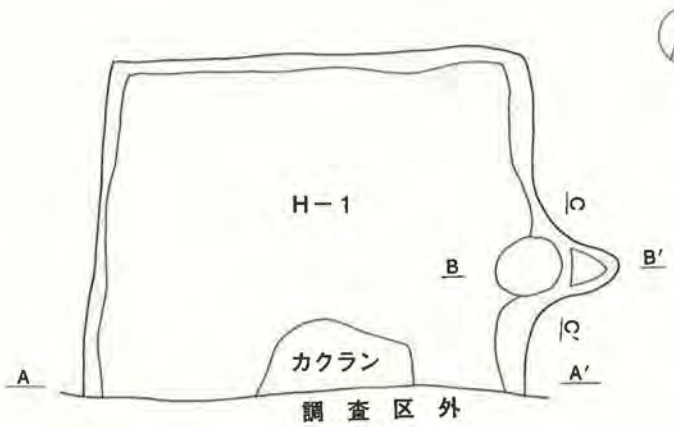
11区　H－5号住居跡　竈セクション
1　黒褐　　細　焼土粒 1%　粘土粒 2%
2　黒褐　　細　焼土粒 2%　粘土粒 2%
3　にぶい黄褐色　微　粘土主体　焼土粒 2%　凝灰岩 (φ5mm) 3%
4　灰褐　　微　灰主体　焼土粒 2%

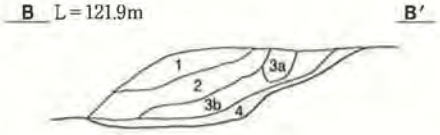


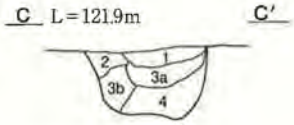
11区　D－1号土坑　セクション
1　黒褐　　細　As－C・Hr－FP 3%　黄橙色粒 1%　にぶい褐色粘土 5%　(H-3)
2　黒褐　　微　As－C・Hr－FP 1%　黄橙色粒 2%　灰 5%　(H-3)
3　黒褐　　細　As－C・Hr－FP 2%　黄橙色粒 3%　にぶい褐色粘土 3%　(H-3)

11区　D－2号土坑　セクション
1　暗褐　　細　As－C・Hr－FP 2%　黄橙色粒 1%
2　黒褐　　細　As－C・Hr－FP 3%　黄橙色粒 1%
3　黒褐　　細　As－C・Hr－FP 2%　黄橙色粒 2%
4　黒褐　　細　As－C・Hr－FP 2%　黄橙色粒 3%
5　黒褐　　微　As－C・Hr－FP 2%　黄橙色粒 3%
6　黒褐　　微　As－C・Hr－FP 1%　黄橙色粒 5%

Fig.61　11区H－3～5号住居跡、D－1・2号土坑、I－1号井戸跡







13区　H－1号住居跡　南壁セクション

1	現耕作土				
2	灰黄褐	粗	○	△	As-B 20%
3	黒褐	細	○	◎	As-C・Hr-FP 10%
4	黒褐	微	○	◎	As-C・Hr-FP 5%　黄橙色粒2%

13区　H－1号住居跡　竈東西セクション

1	暗赤褐	微	○	◎	焼土粒 5%
2	暗赤褐	微	○	◎	焼土ブロック（φ20mm) 50%
3a	にぶい赤褐	微	○	○	焼土主体（被熱粘土）
3b	暗赤褐	微	○	◎	焼土粒 5%　炭化物 2%　灰混じる
4	極暗赤褐	微	○	○	灰層　焼土粒 2%

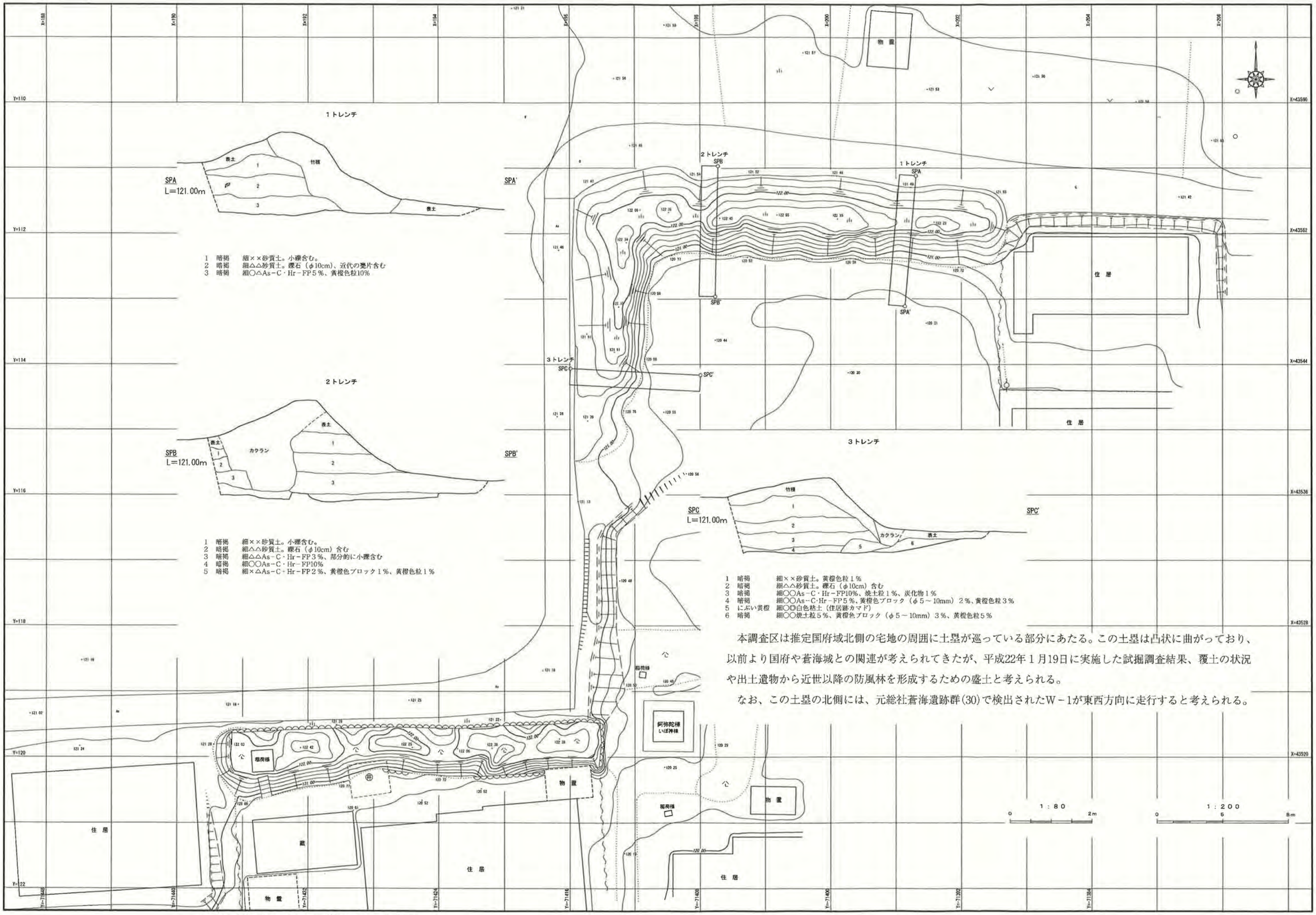
13区　H－1号住居跡　竈南北セクション

1	暗赤褐	微	○	◎	焼土粒 5%
2	黒褐	細	○	○	As-B 20%　川砂やや混じる
3a	暗赤褐	微	○	○	焼土粒 10%
3b	暗赤褐	微	○	◎	焼土ブロック（φ20mm) 50%
4	暗赤褐	微	○	◎	焼土粒 5%　炭化物 2%　灰混じる

0　1：60　2m

0　1：30　1m

Fig.62　13区H－1号住居跡



本調査区は推定国府域北側の宅地の周囲に土塁が巡っている部分にあたる。この土塁は凸状に曲がっており、以前より国府や蒼海城との関連が考えられてきたが、平成22年１月19日に実施した試掘調査結果、覆土の状況や出土遺物から近世以降の防風林を形成するための盛土と考えられる。

なお、この土塁の北側には、元総社蒼海遺跡群(30)で検出されたW－1が東西方向に走行すると考えられる。

Fig.63　蒼海城の土塁として考えられていた盛り土

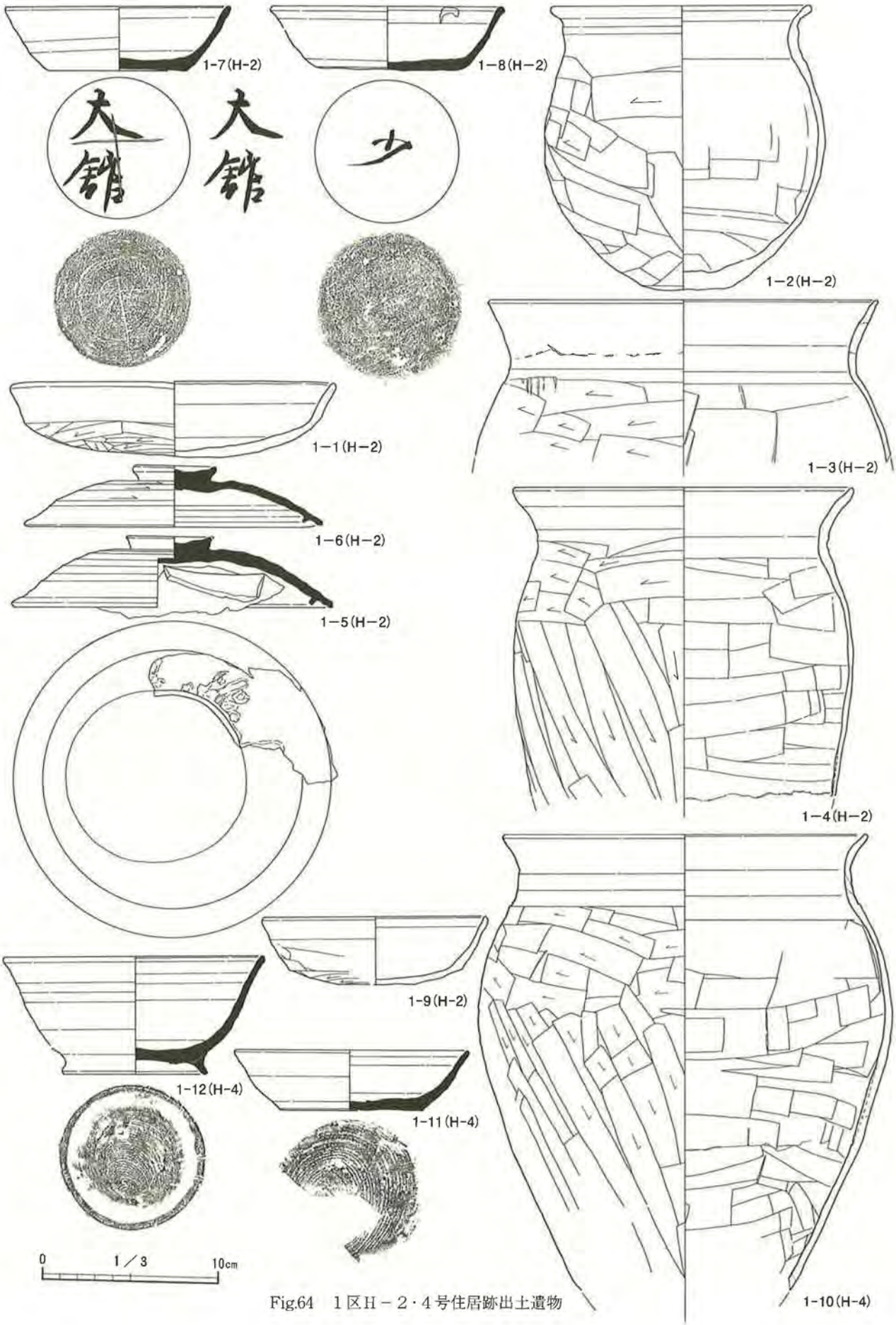


Fig.64　1区H－2・4号住居跡出土遺物

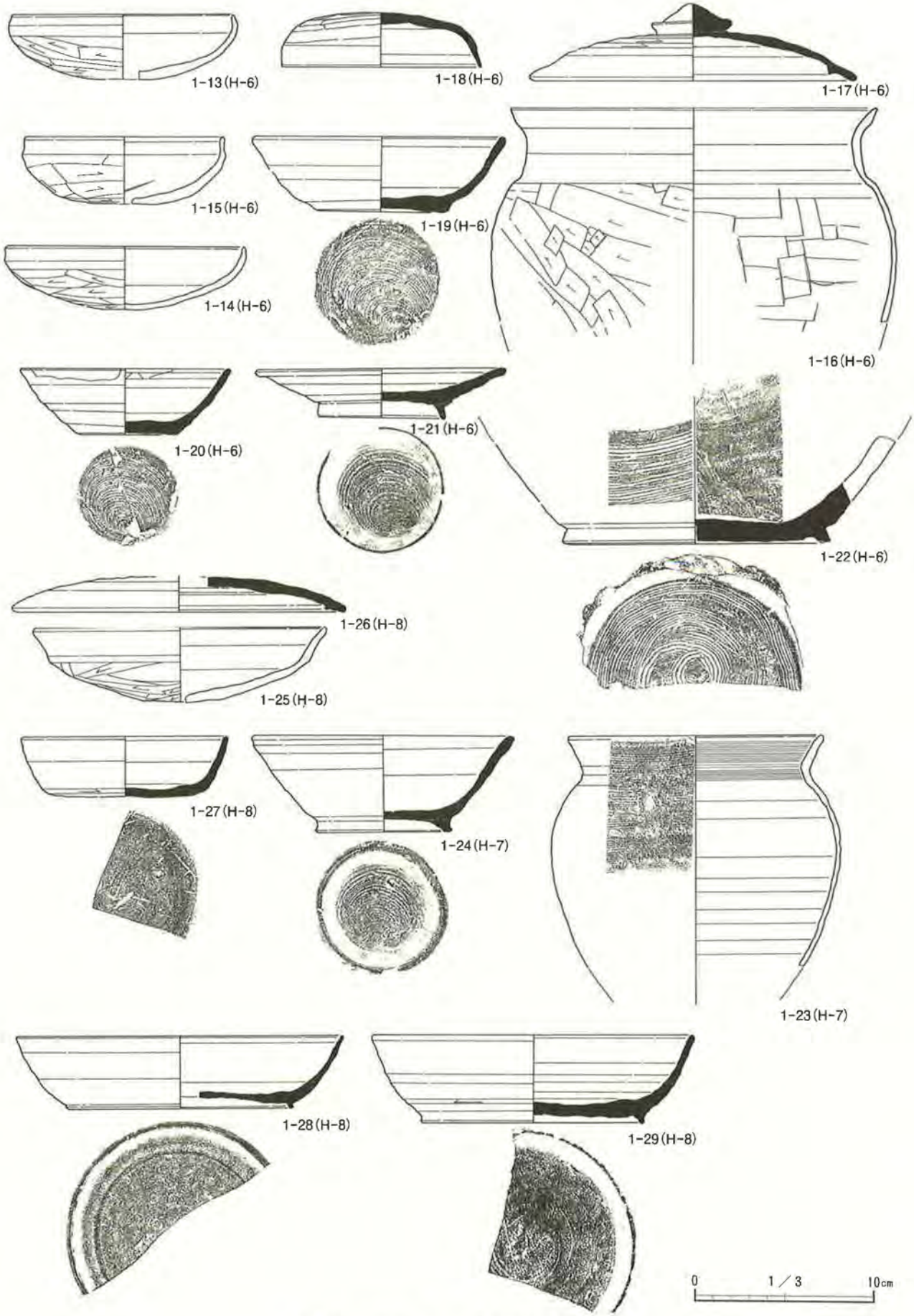


Fig.65　1区H－6～8号住居跡出土遺物

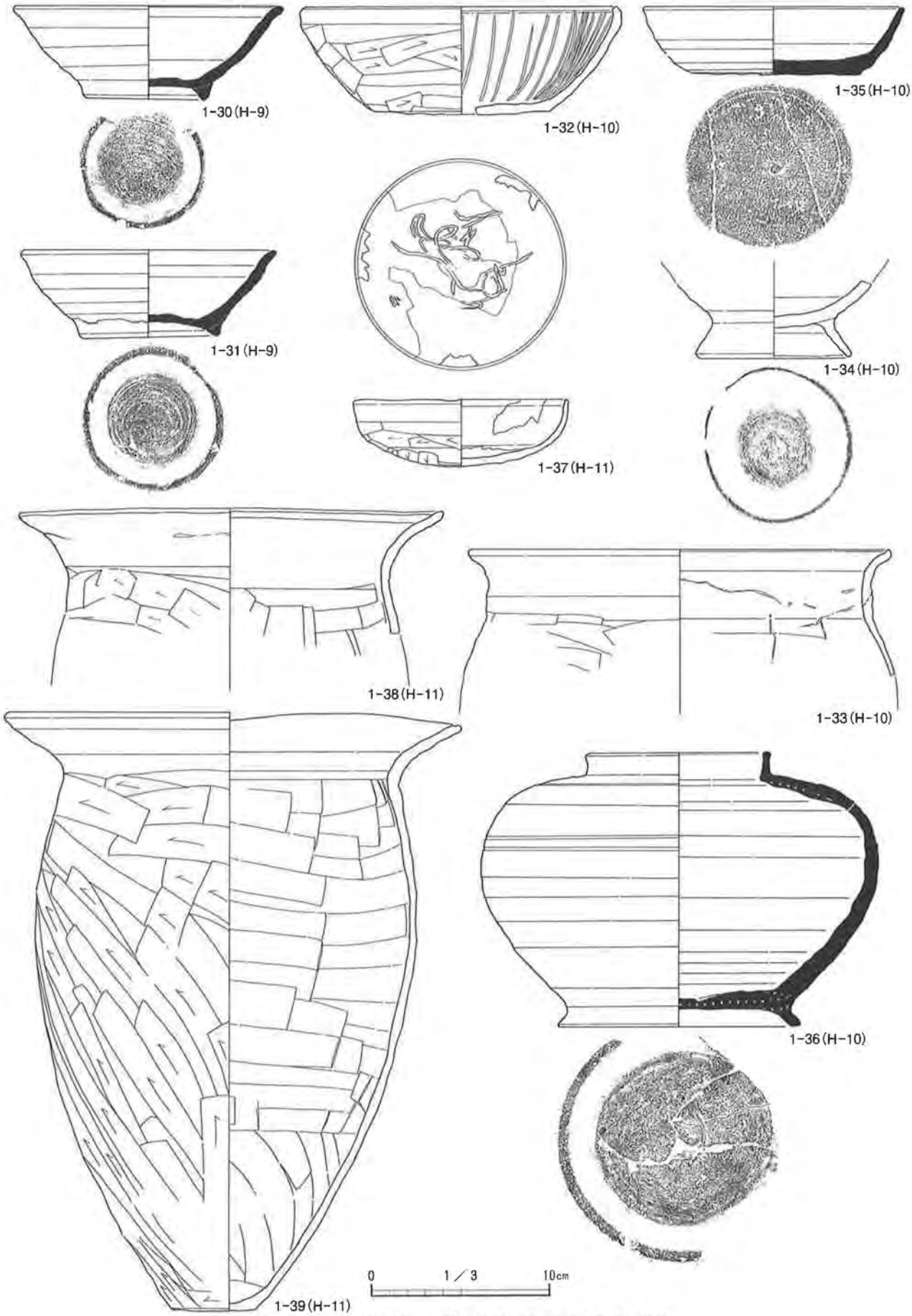


Fig.66　1区H－9～11号住居跡出土遺物

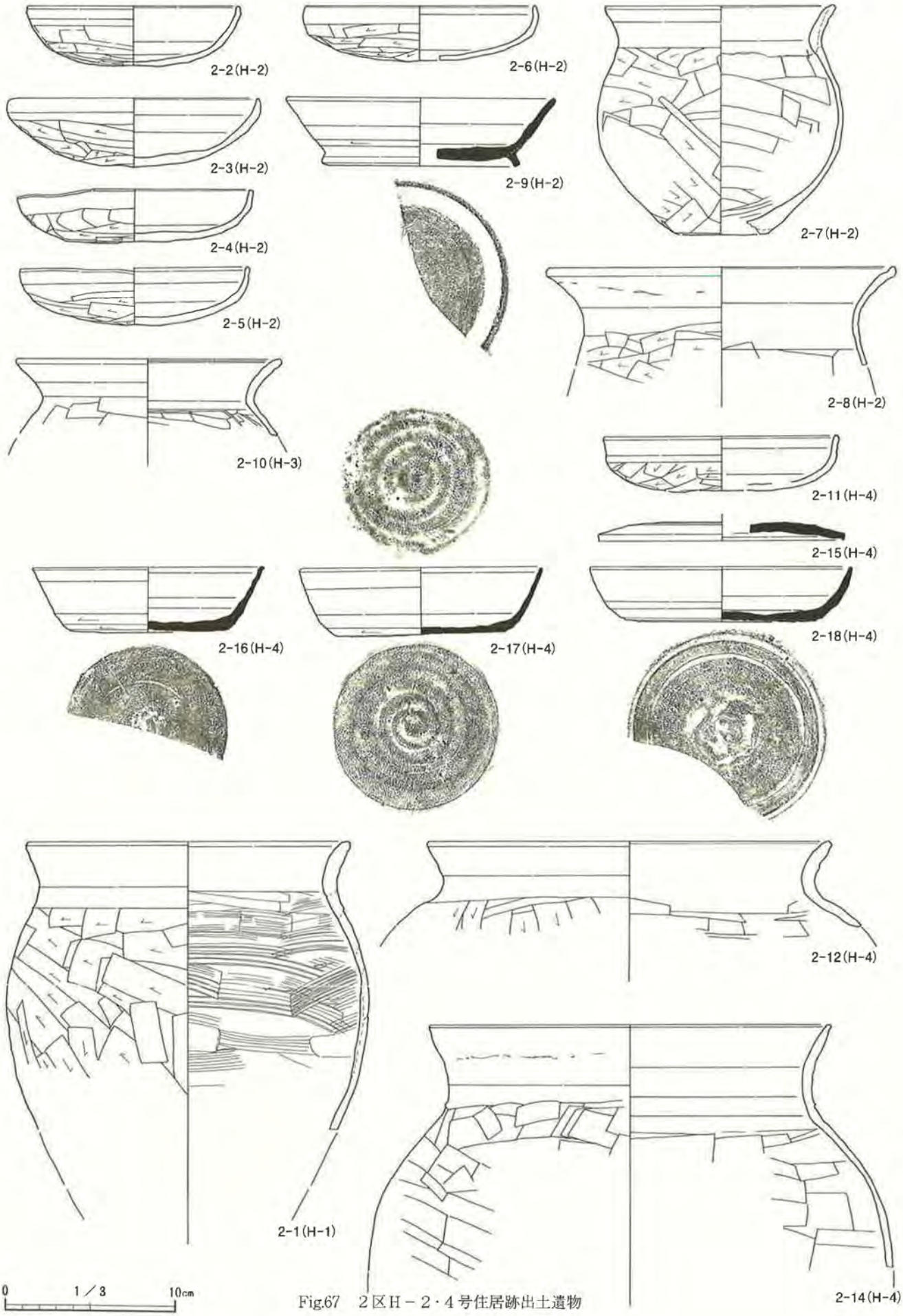


Fig.67　２区Ｈ－２・４号住居跡出土遺物

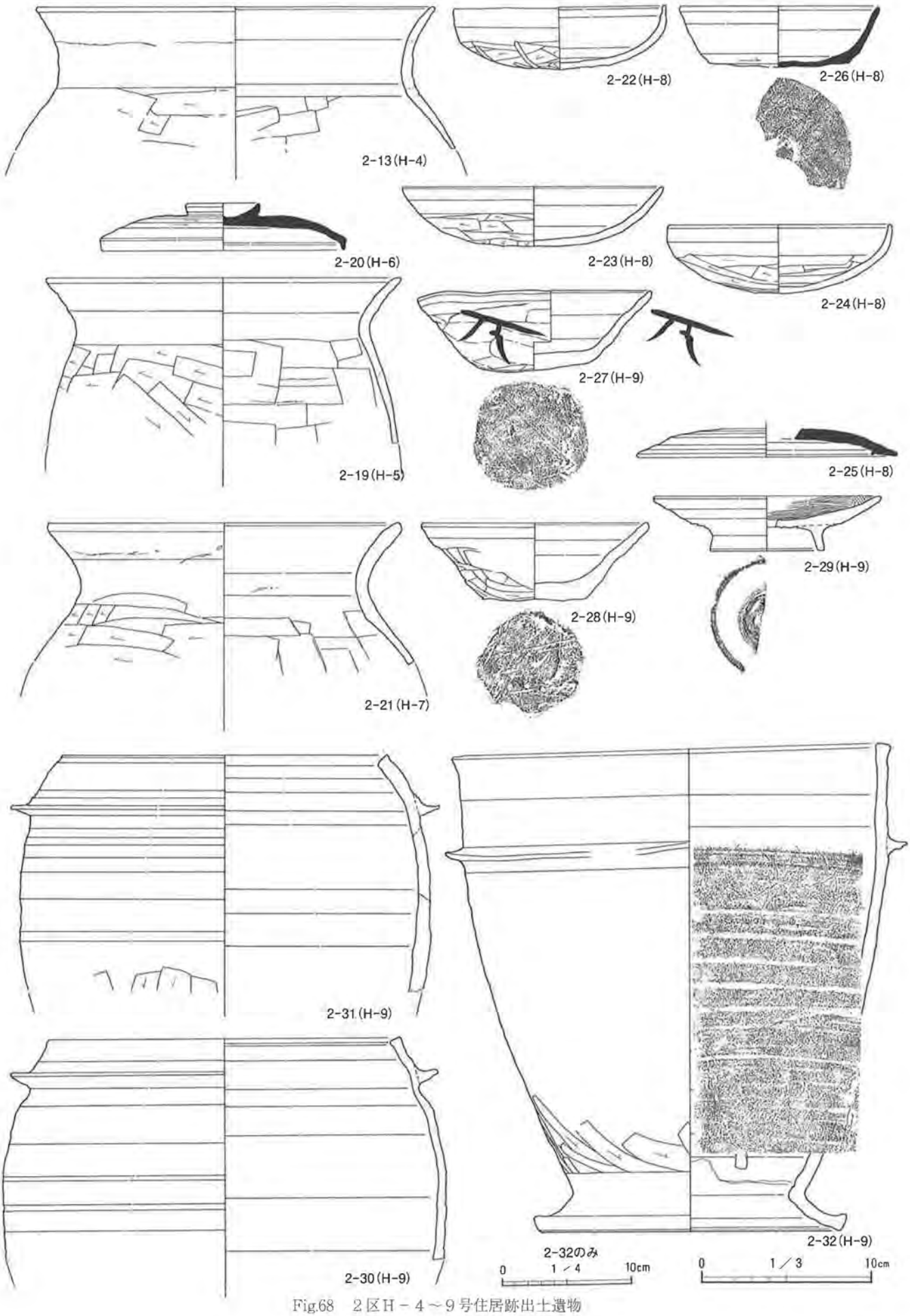


Fig.68　2区H－4～9号住居跡出土遺物

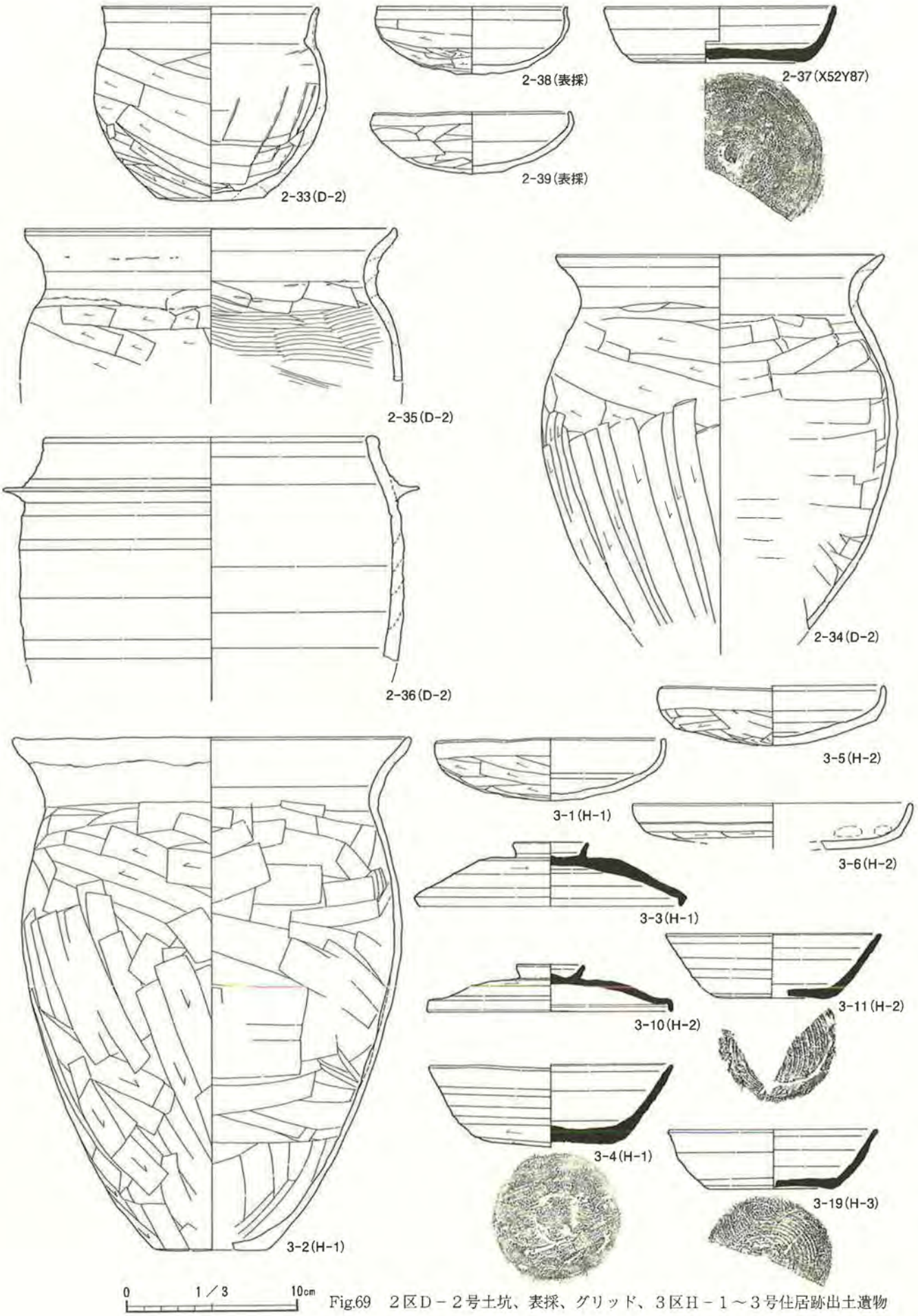


Fig.69　２区Ｄ－２号土坑、表採、グリッド、３区Ｈ－１～３号住居跡出土遺物

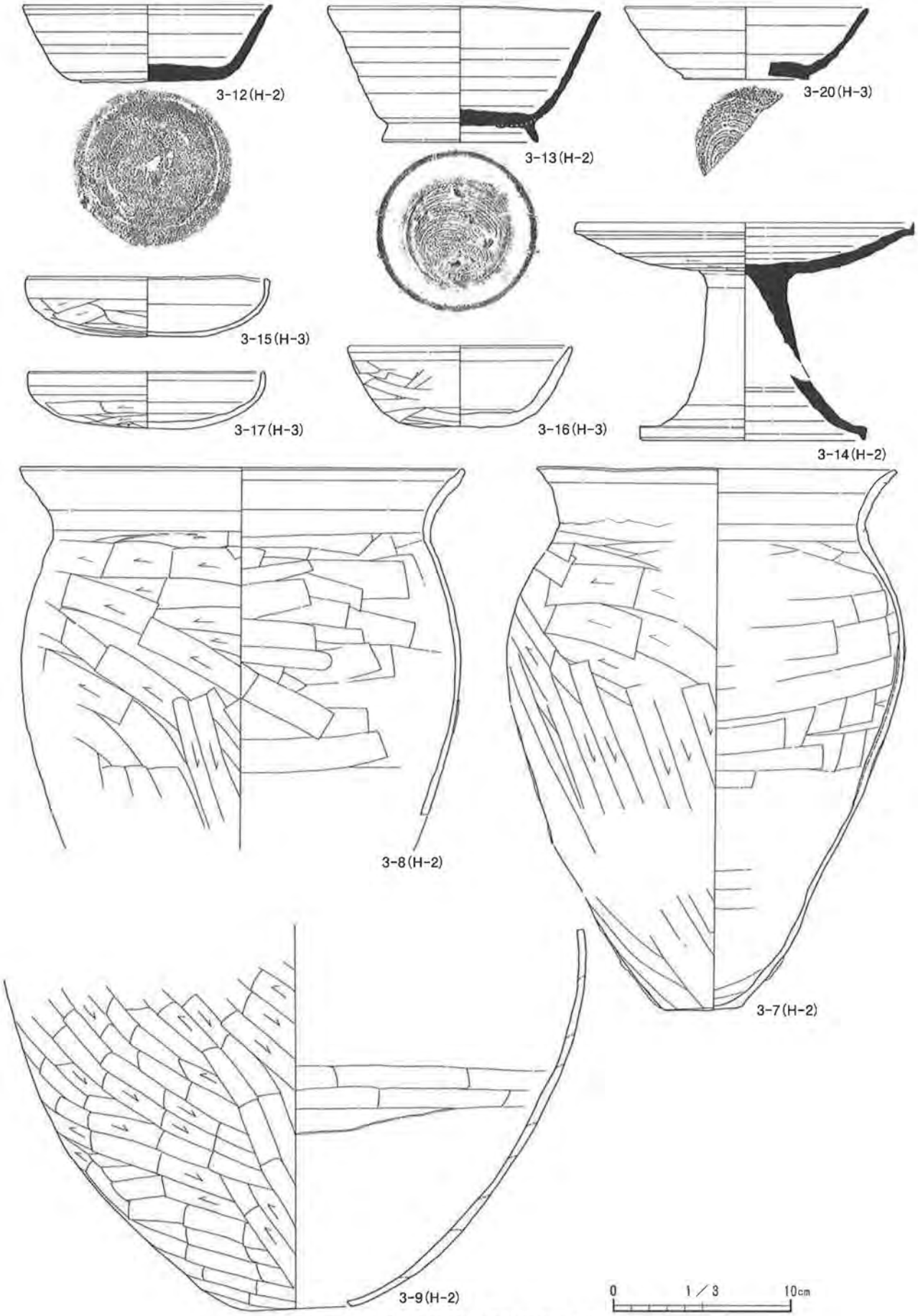


Fig.70　３区Ｈ－２・３号住居跡出土遺物

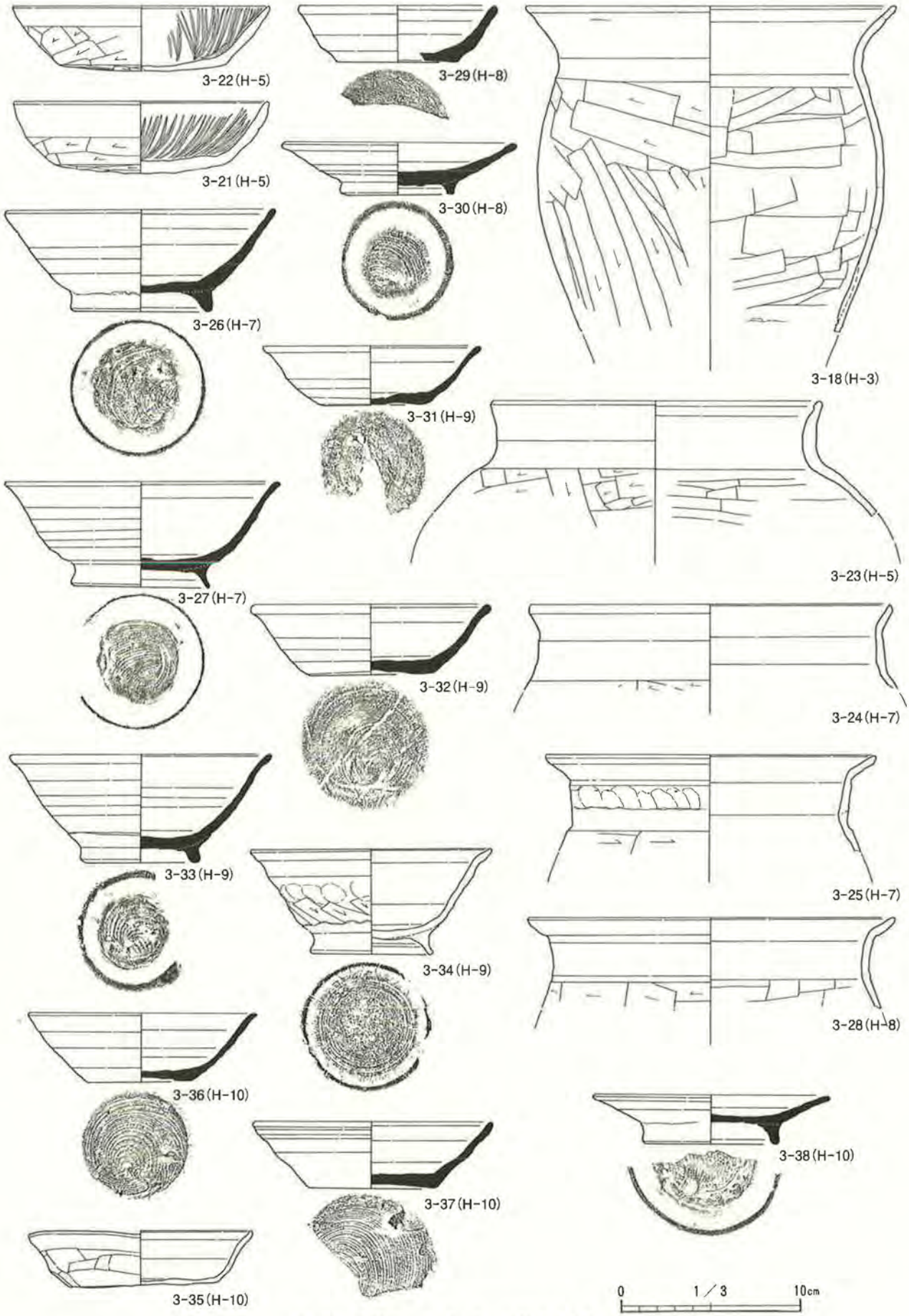


Fig.71　3区H－3・5・7～10号出土遺物

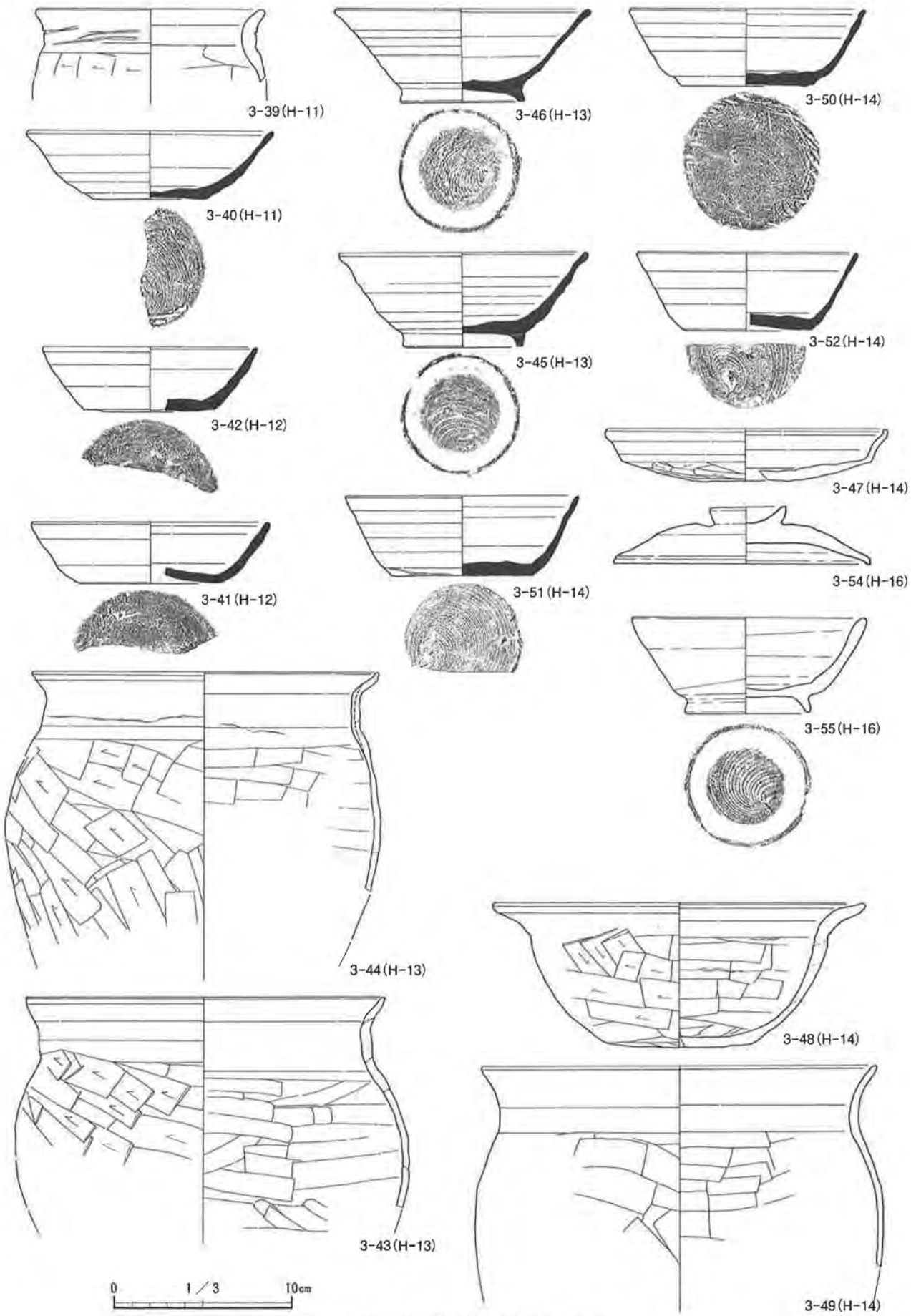


Fig.72　３区Ｈ－11～14･16号住居跡出土遺物

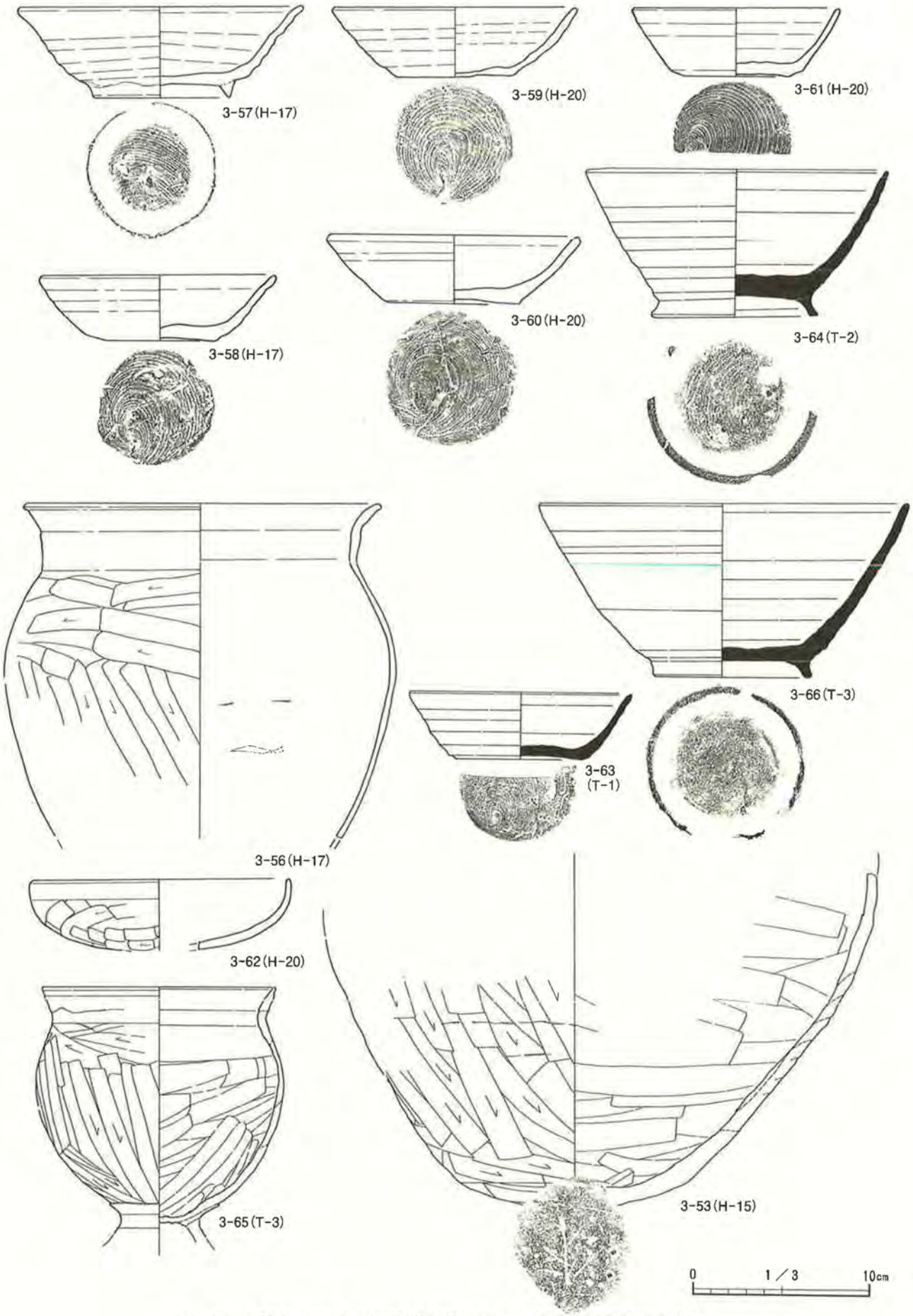


Fig.73　３区Ｈ－15･17･20･23号住居跡、Ｔ－1～3号竪穴状遺構出土遺物

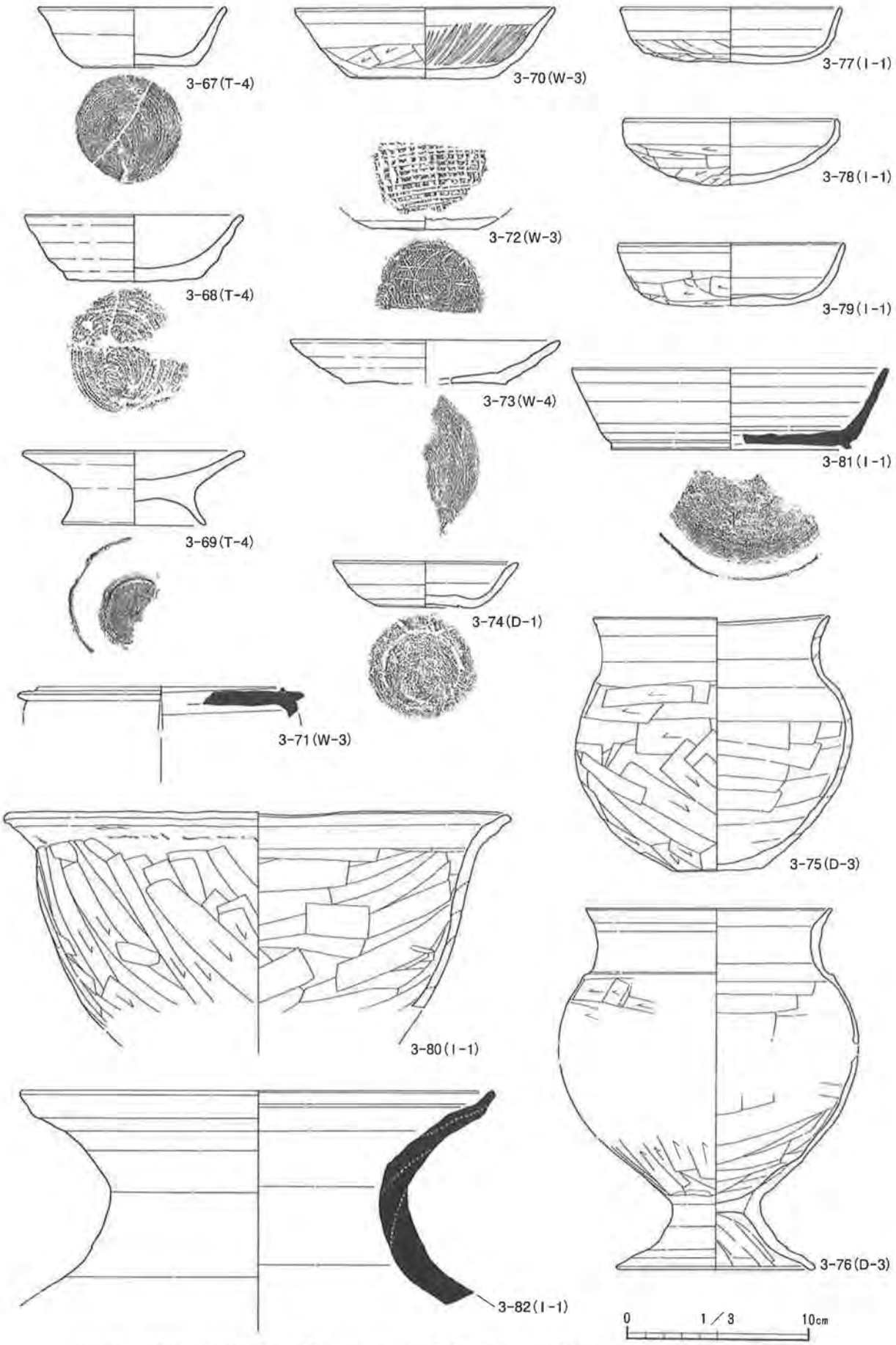


Fig.74　3区T－4号竪穴状遺構、W－3・4号溝跡、D－1・3号土坑、I－1号井戸跡出土遺物

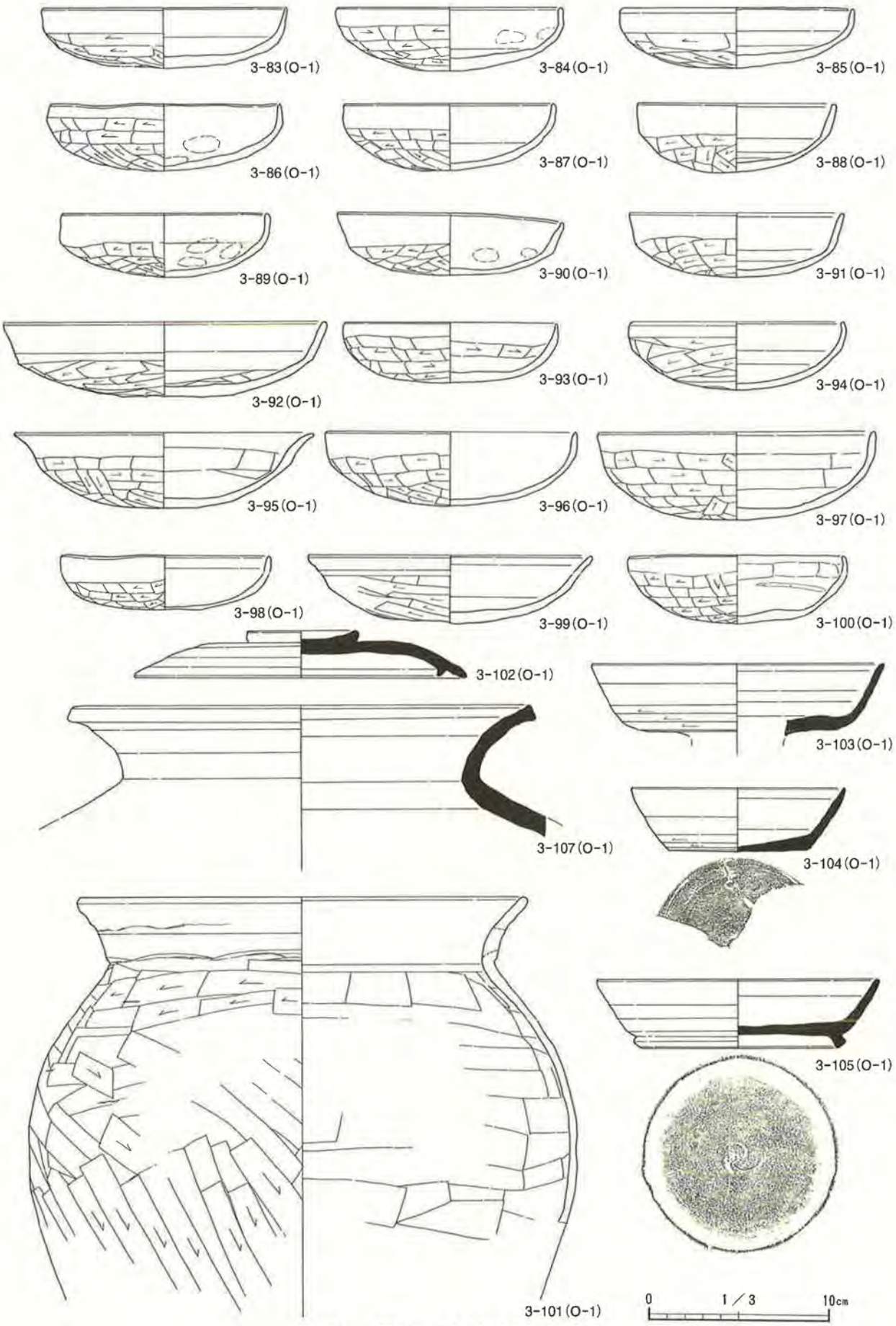


Fig.75　３区Ｏ－１号落ち込み出土遺物

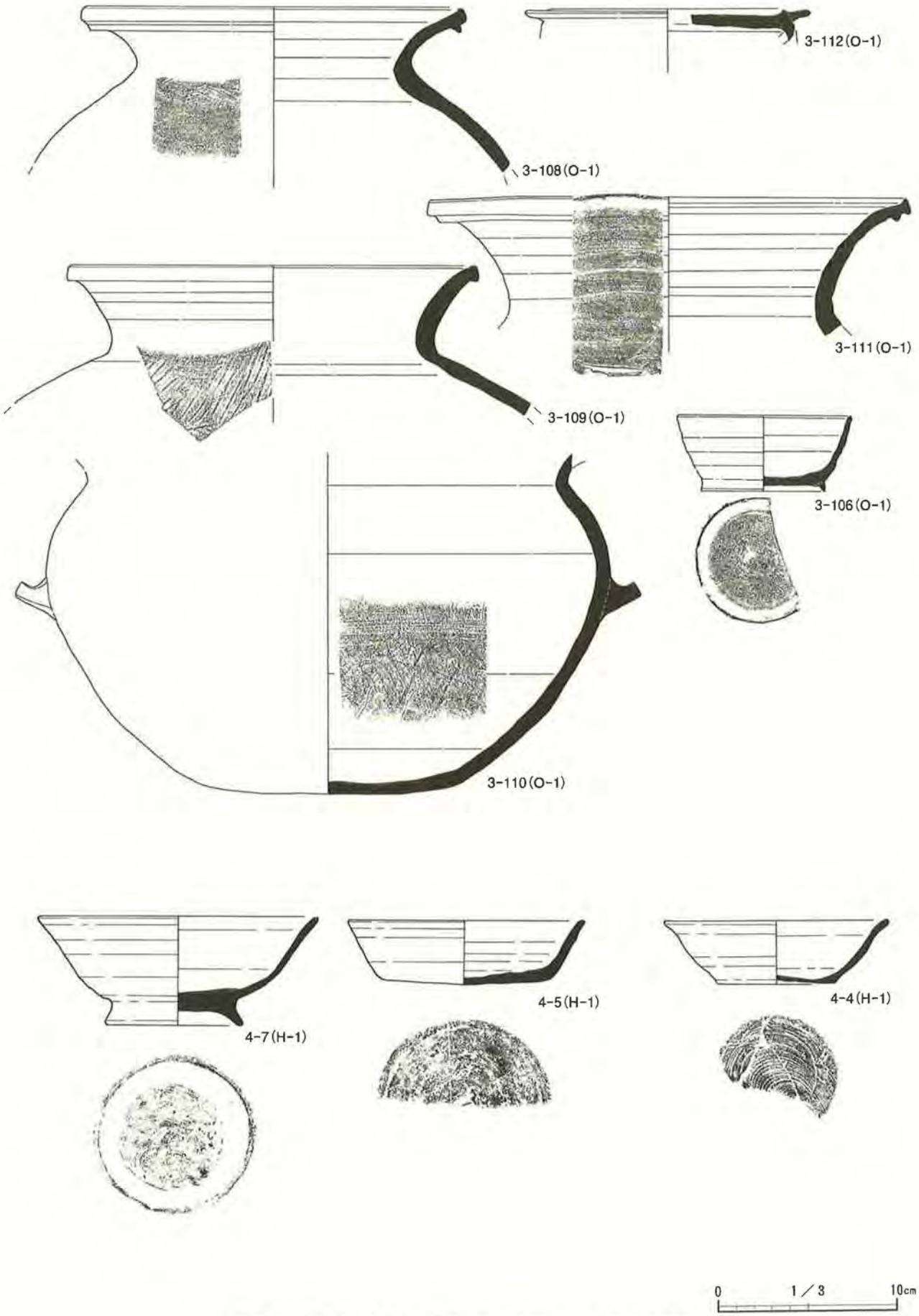


Fig.76　３区Ｏ－１号落ち込み、４区Ｈ－１号住居跡出土遺物

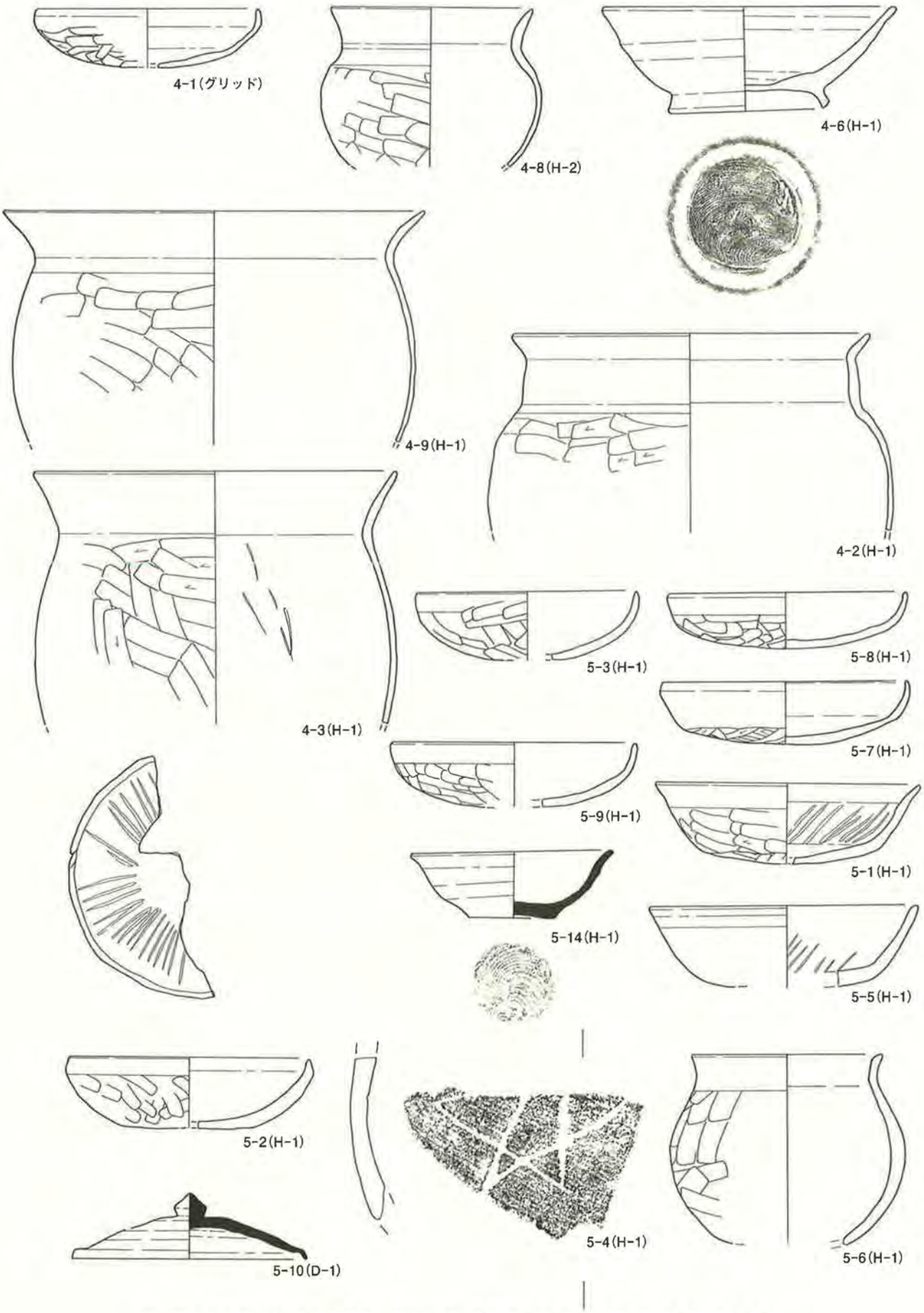


Fig.77　４区Ｈ－１・２号住居跡、グリッド、５区Ｈ－１・５区、Ｗ－３号溝跡出土遺物

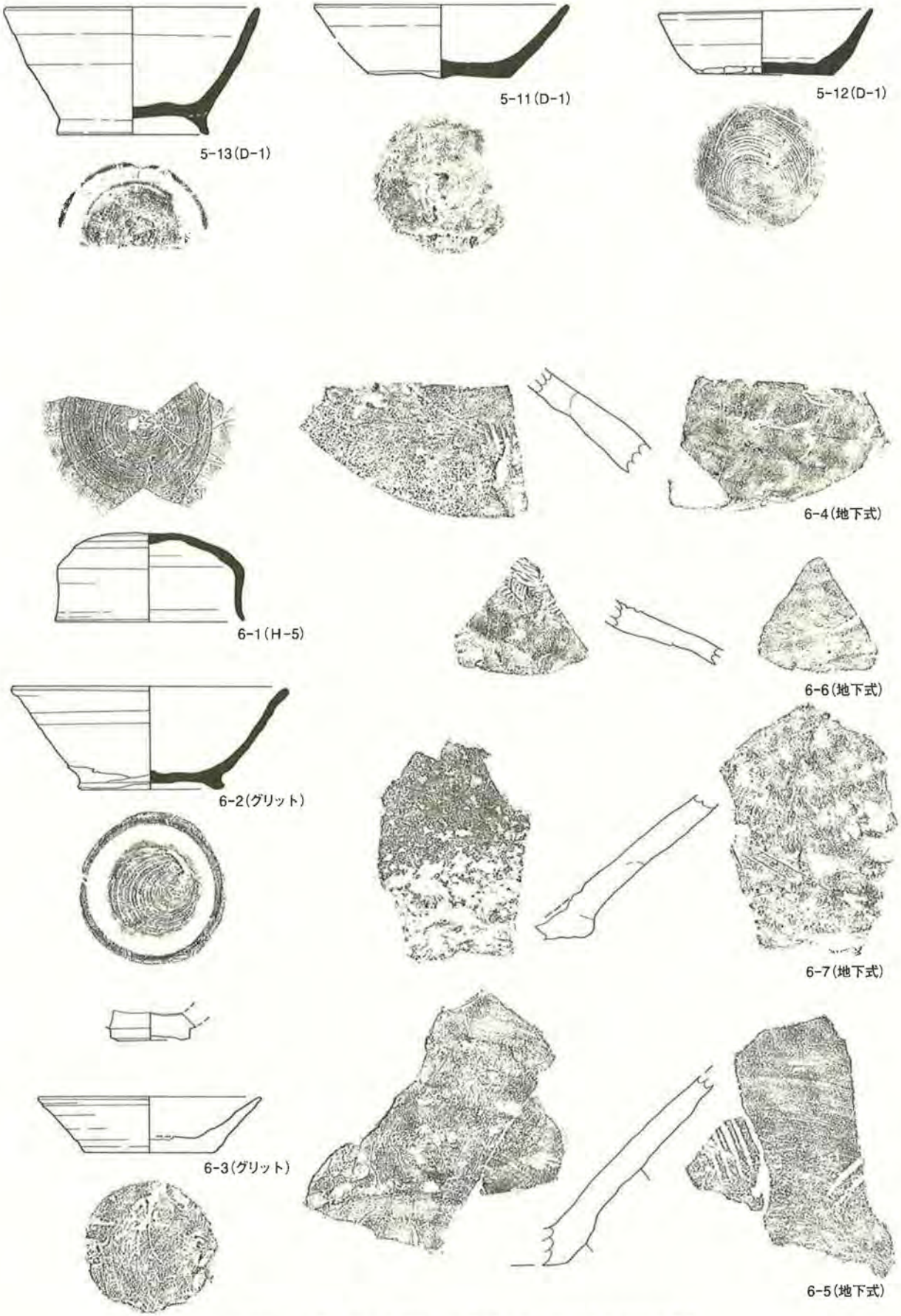


Fig.78　5区D－1号土坑、6区P－1号ピット、地下式土坑出土遺物

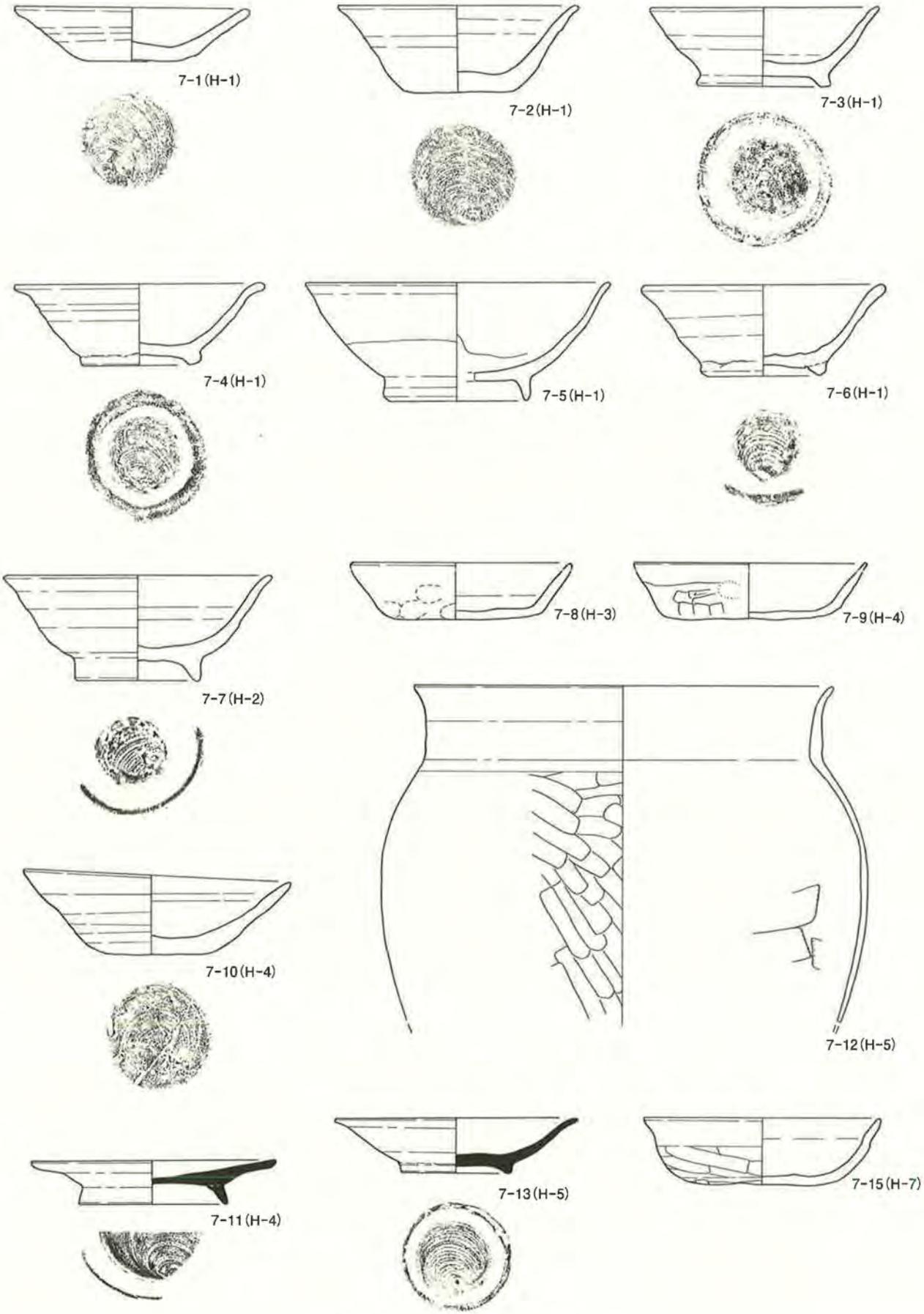


Fig.79　7区H－1～5・7区出土遺物

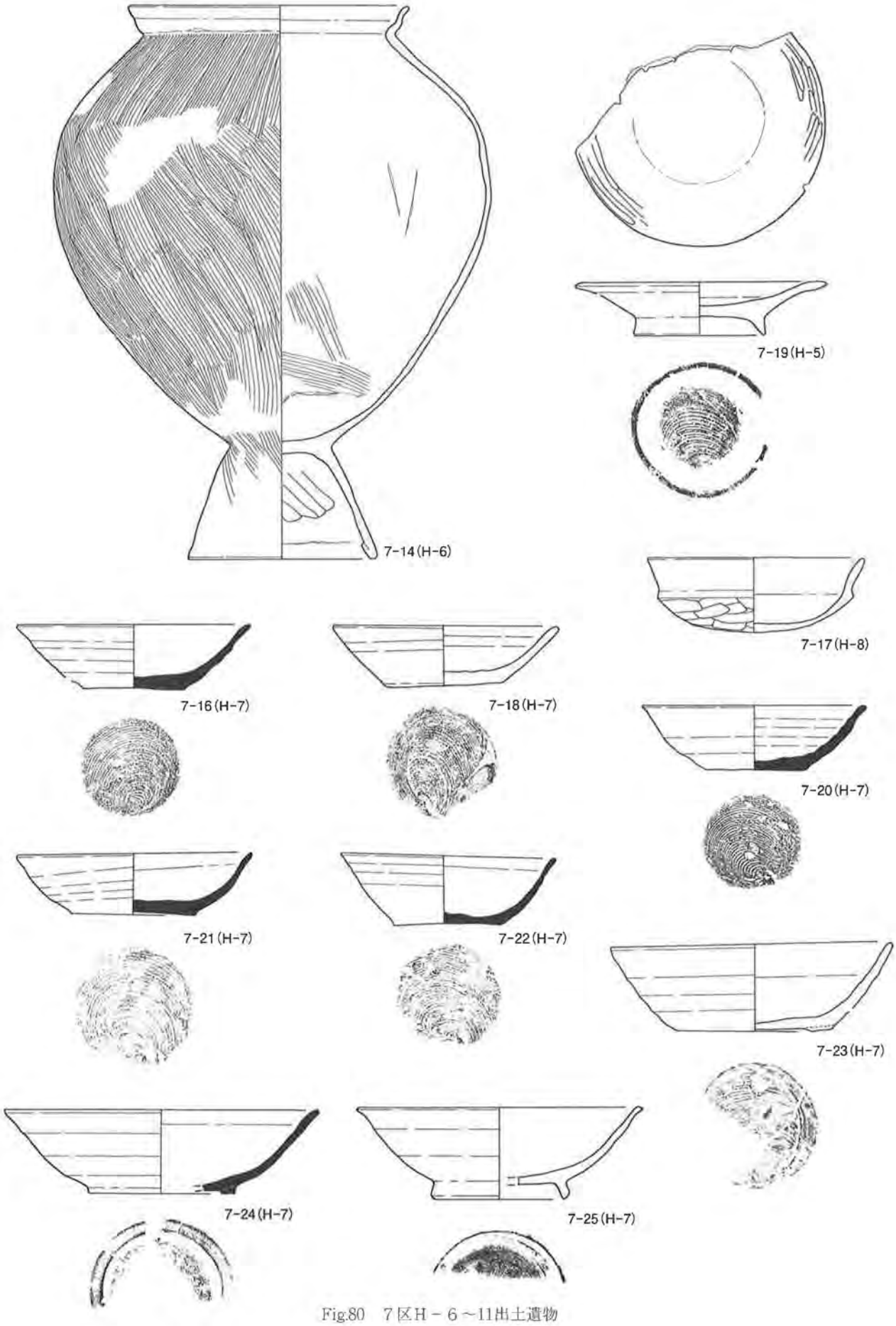


Fig.80　7区H－6～11出土遺物

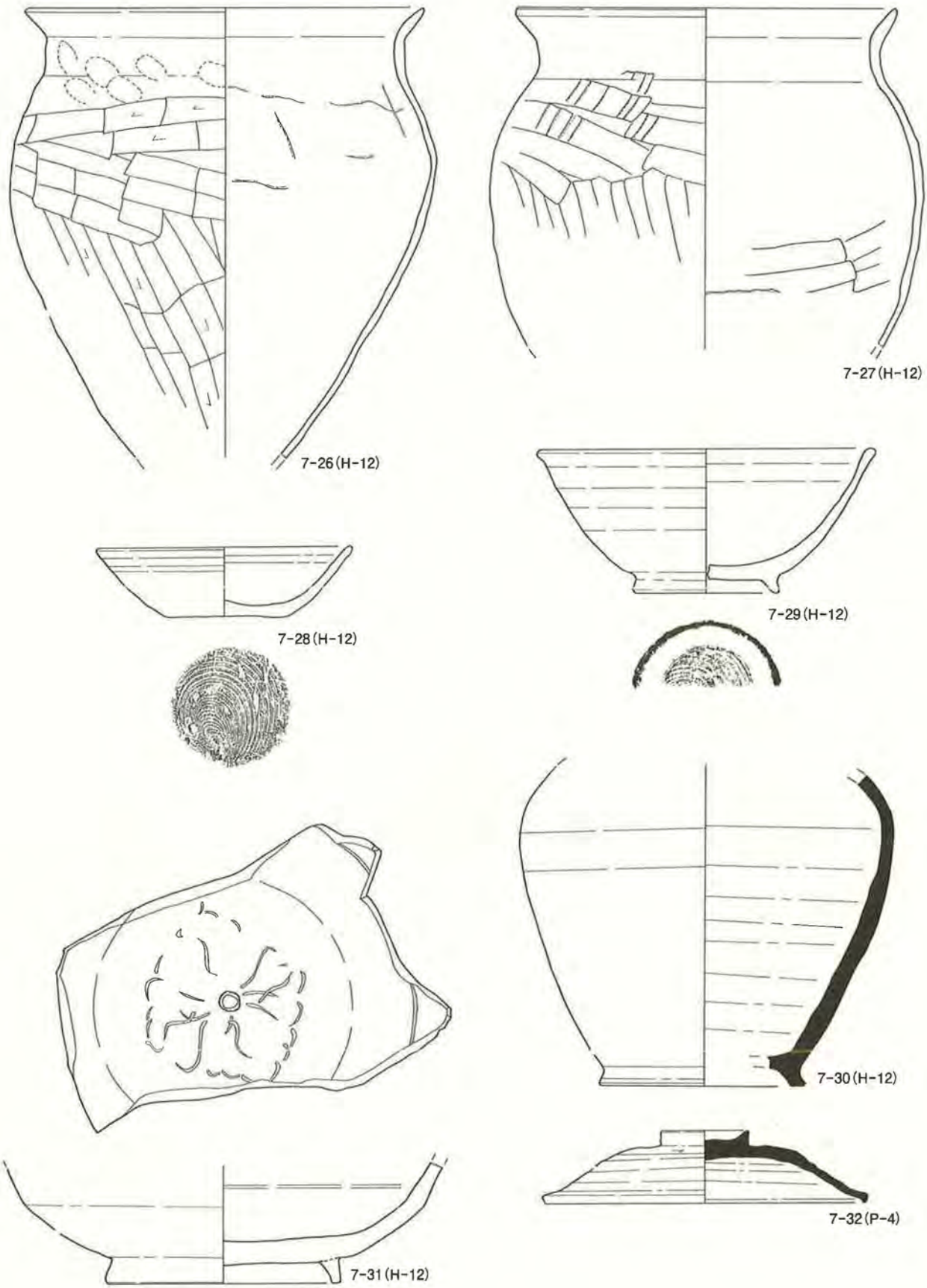


Fig.81　7区H－12、P－4号ピット出土遺物

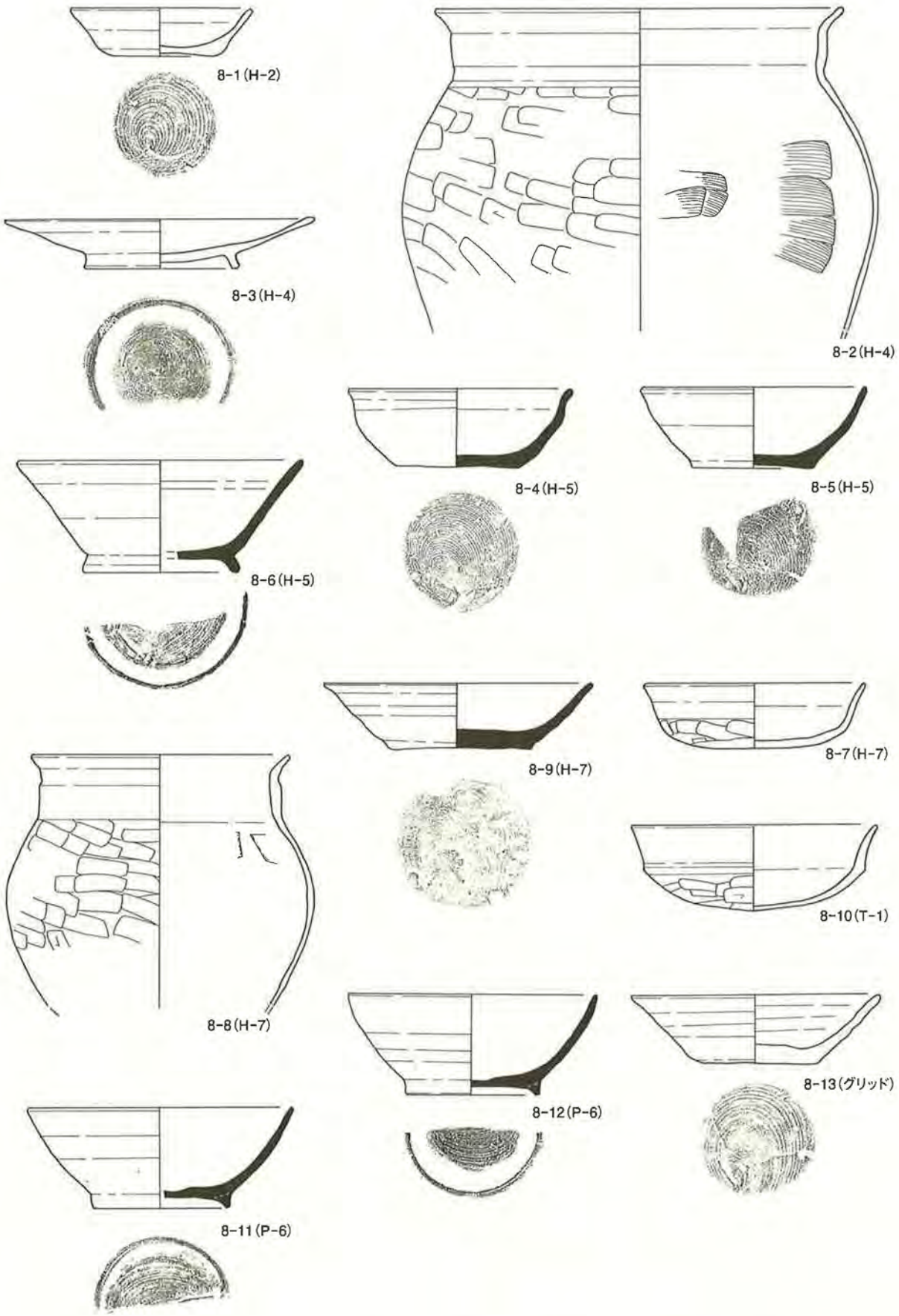


Fig.82　８区Ｈ－２・４・５・７、Ｔ－１号竪穴状遺構、Ｐ－６号ピット、グリッド出土遺物

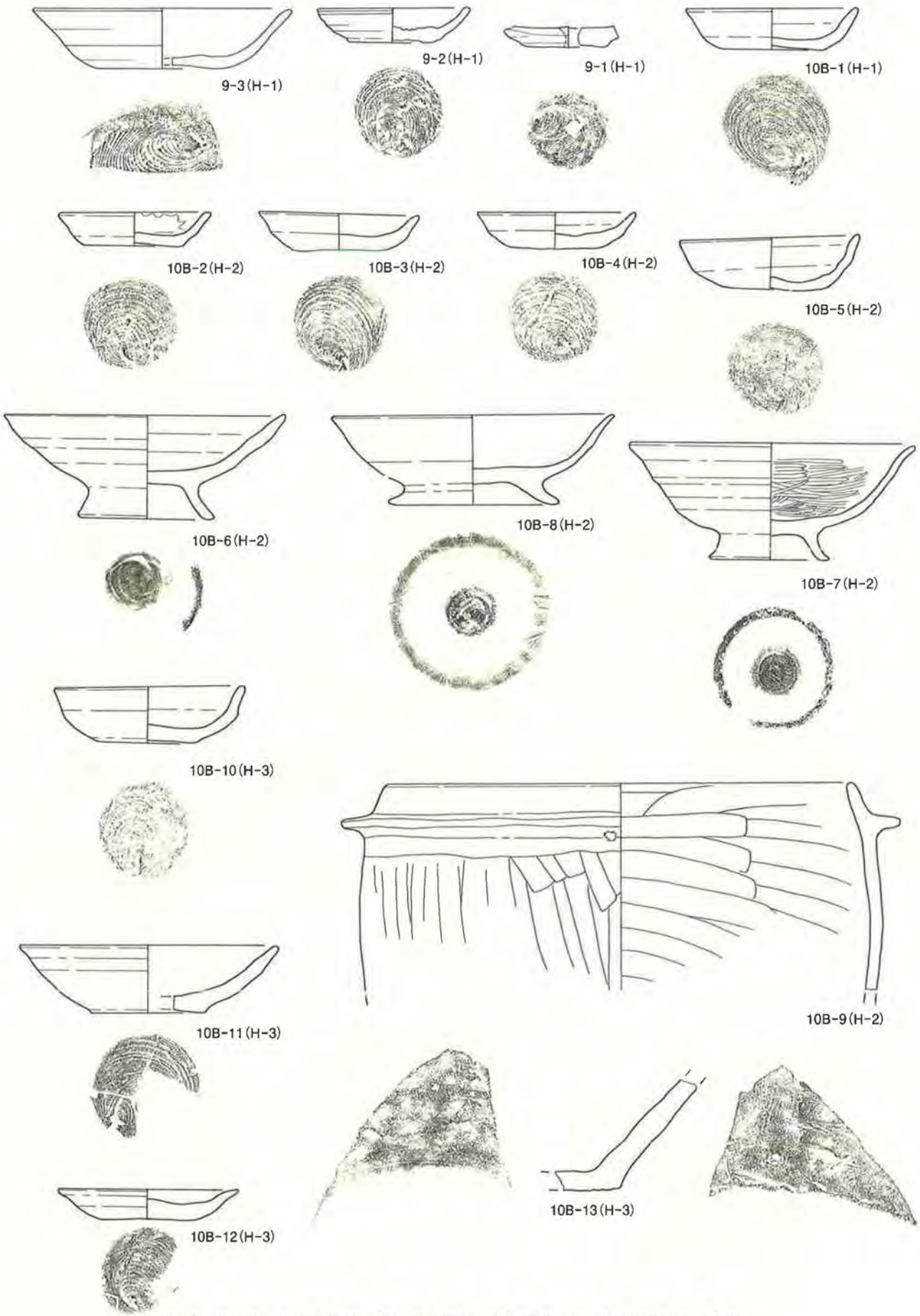


Fig.83　9区H－1号住居跡、W－1号溝跡、10B区H－2・3号住居跡出土遺物

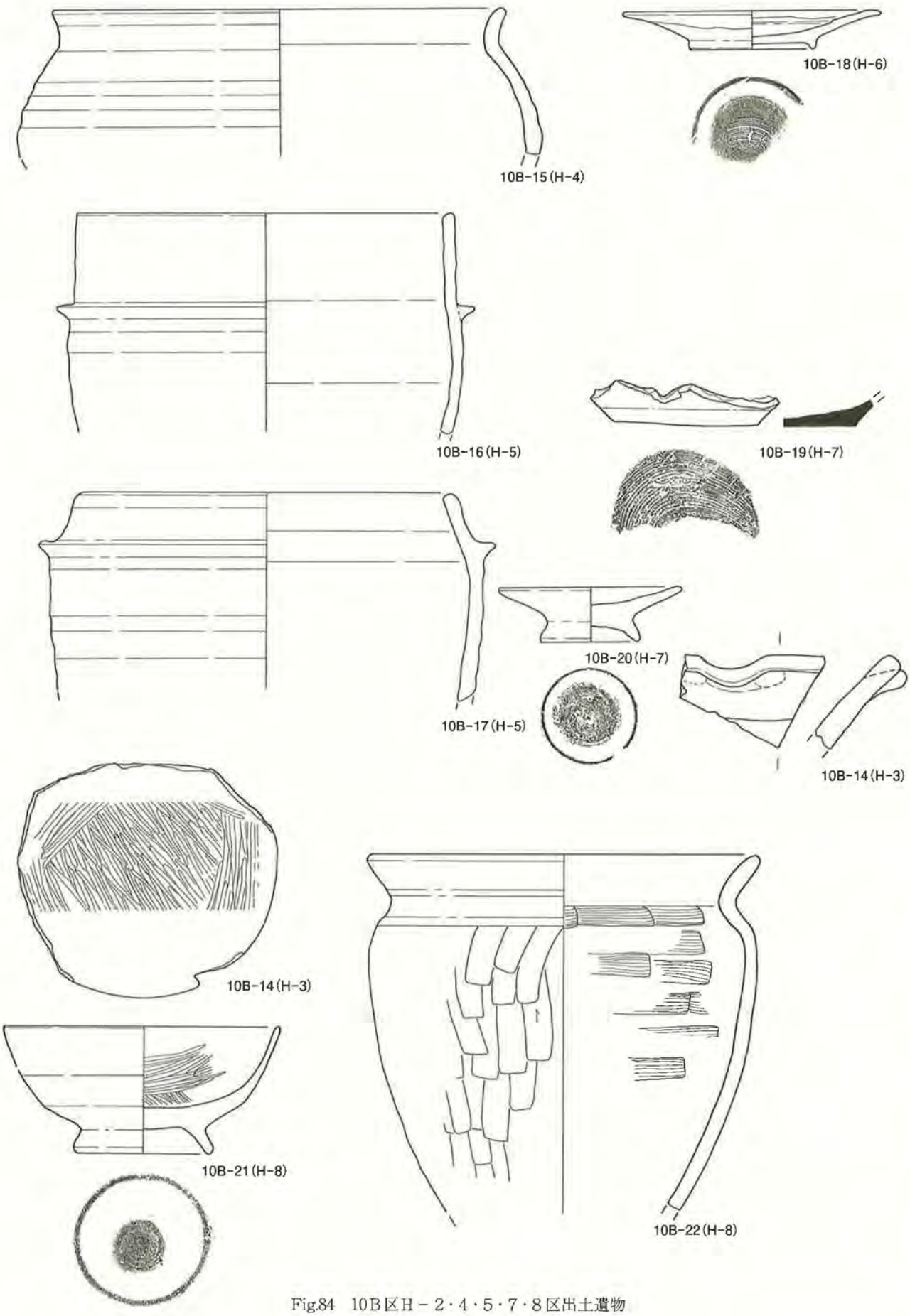


Fig.84　10B区H－2・4・5・7・8区出土遺物

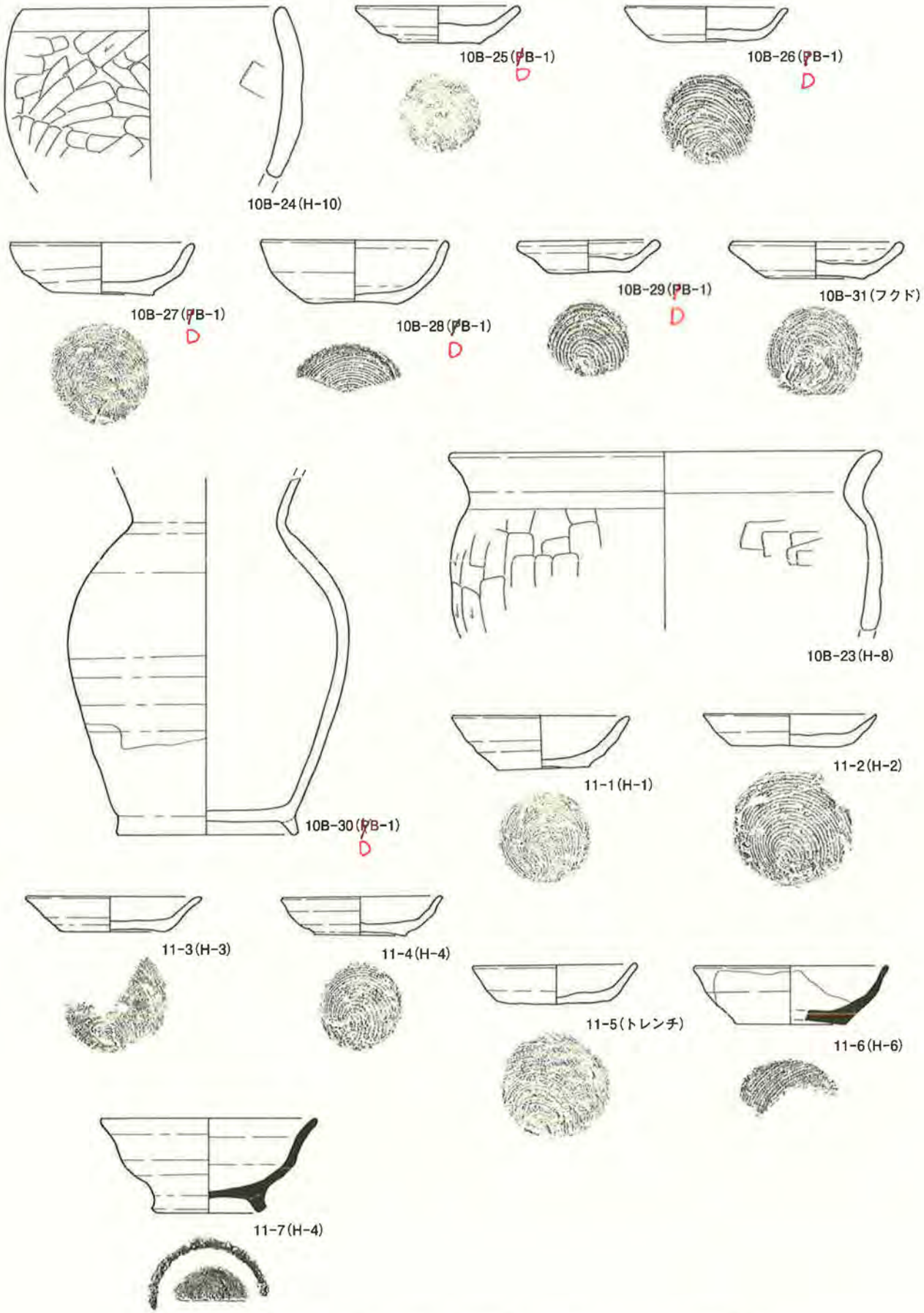


Fig.85　10B区H－5・6・8・10区、DB－1号土坑墓、11区H－2～4・7区出土遺物

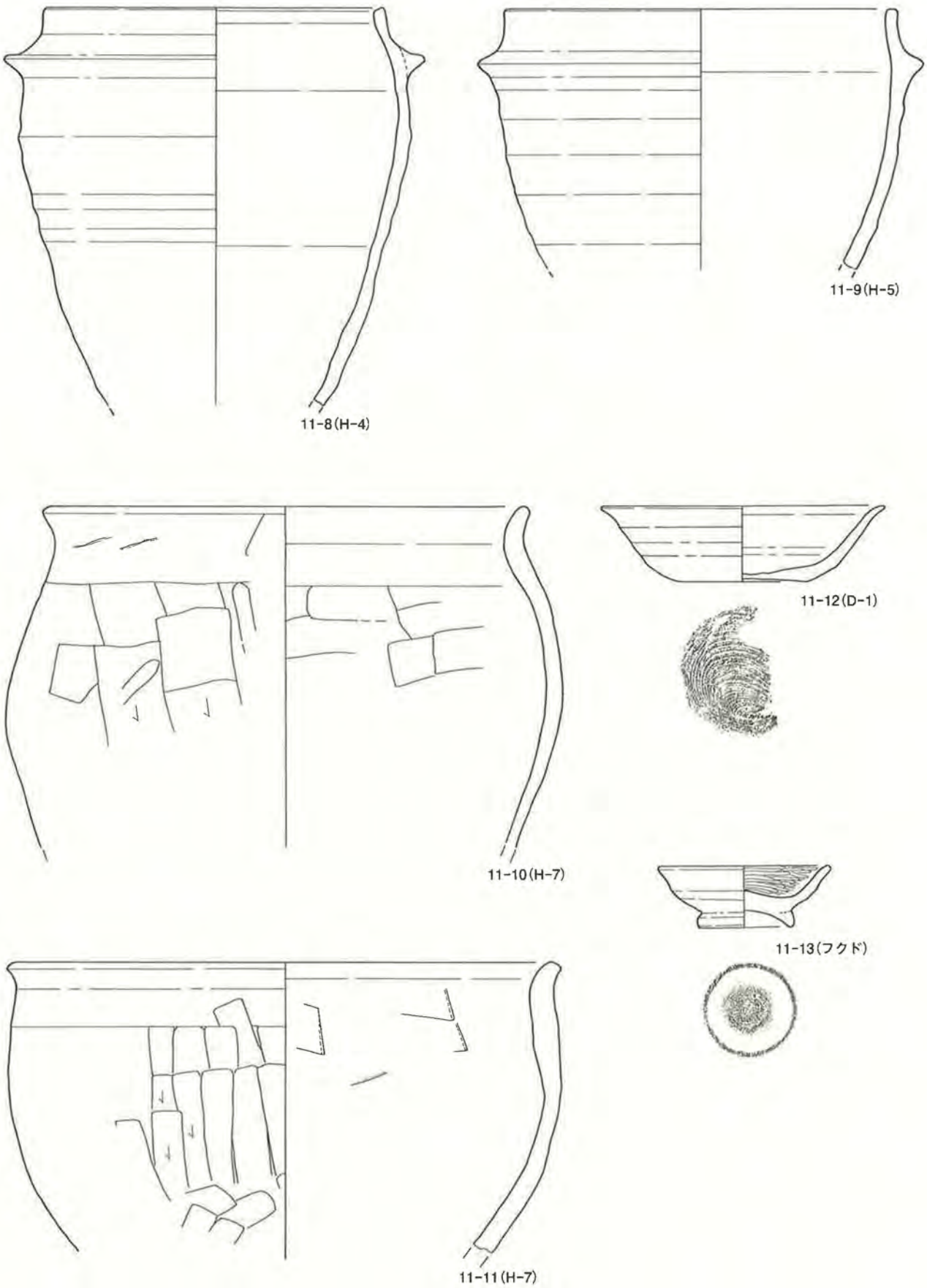


Fig.86　11区H－4・5・7・11・12区、グリッド出土遺物

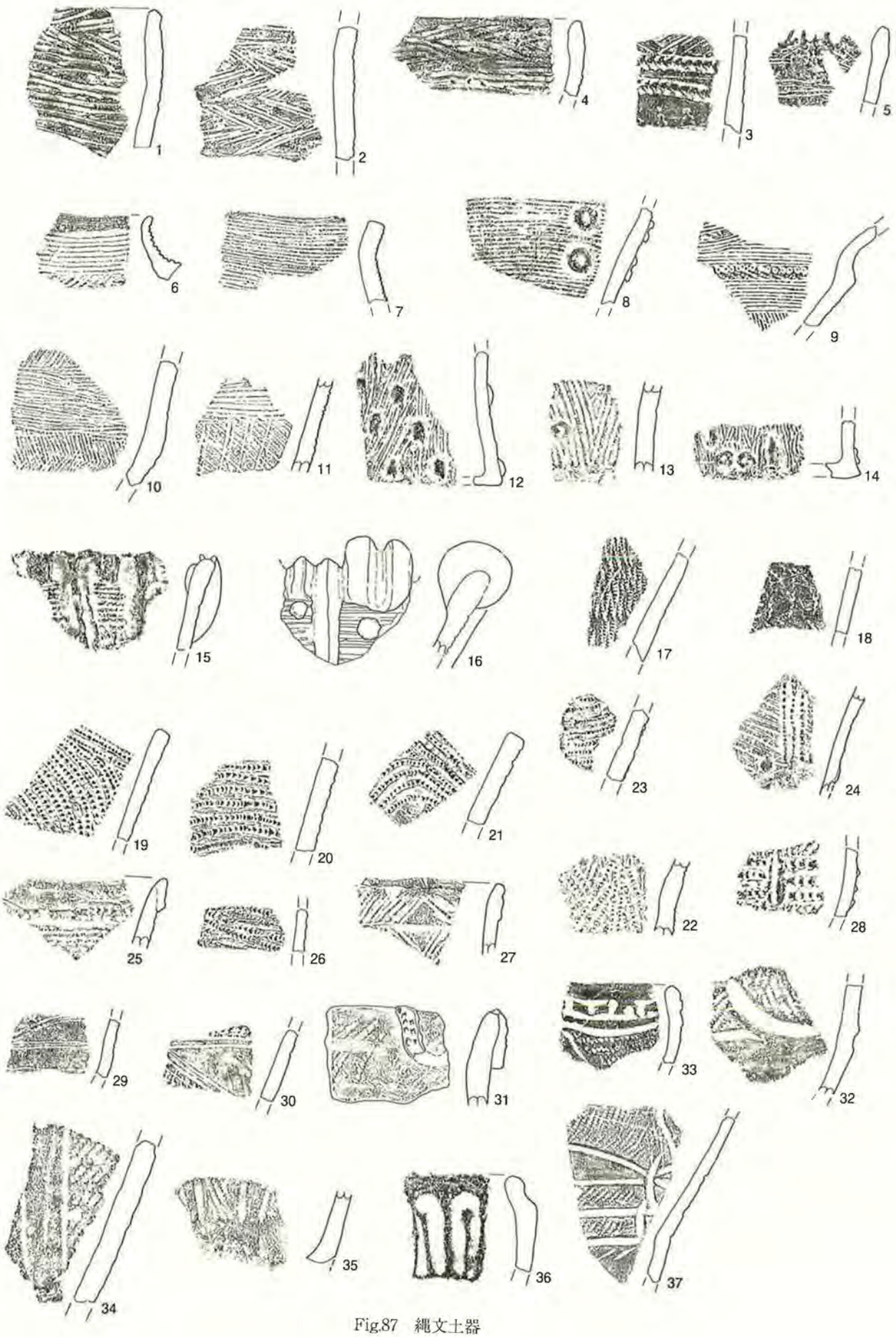

1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37

Fig.87　縄文土器

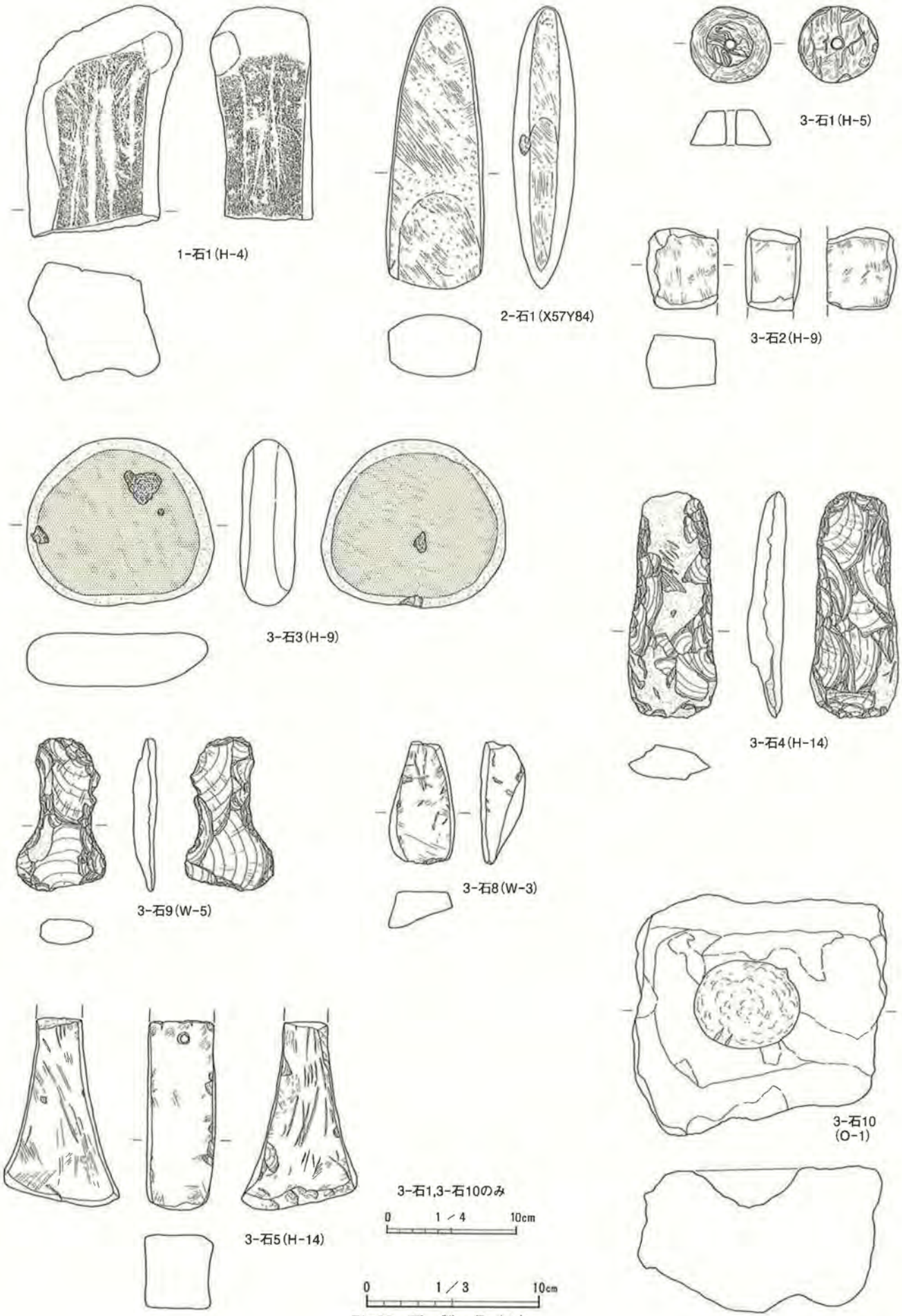

1-石1(H-4)
2-石1(X57Y84)
3-石1(H-5)
3-石2(H-9)
3-石3(H-9)
3-石4(H-14)
3-石9(W-5)
3-石8(W-3)
3-石10
(O-1)
3-石5(H-14)
3-石1,3-石10のみ
0 1／4 10cm
0 1／3 10cm

Fig.88 石 製 品（1）

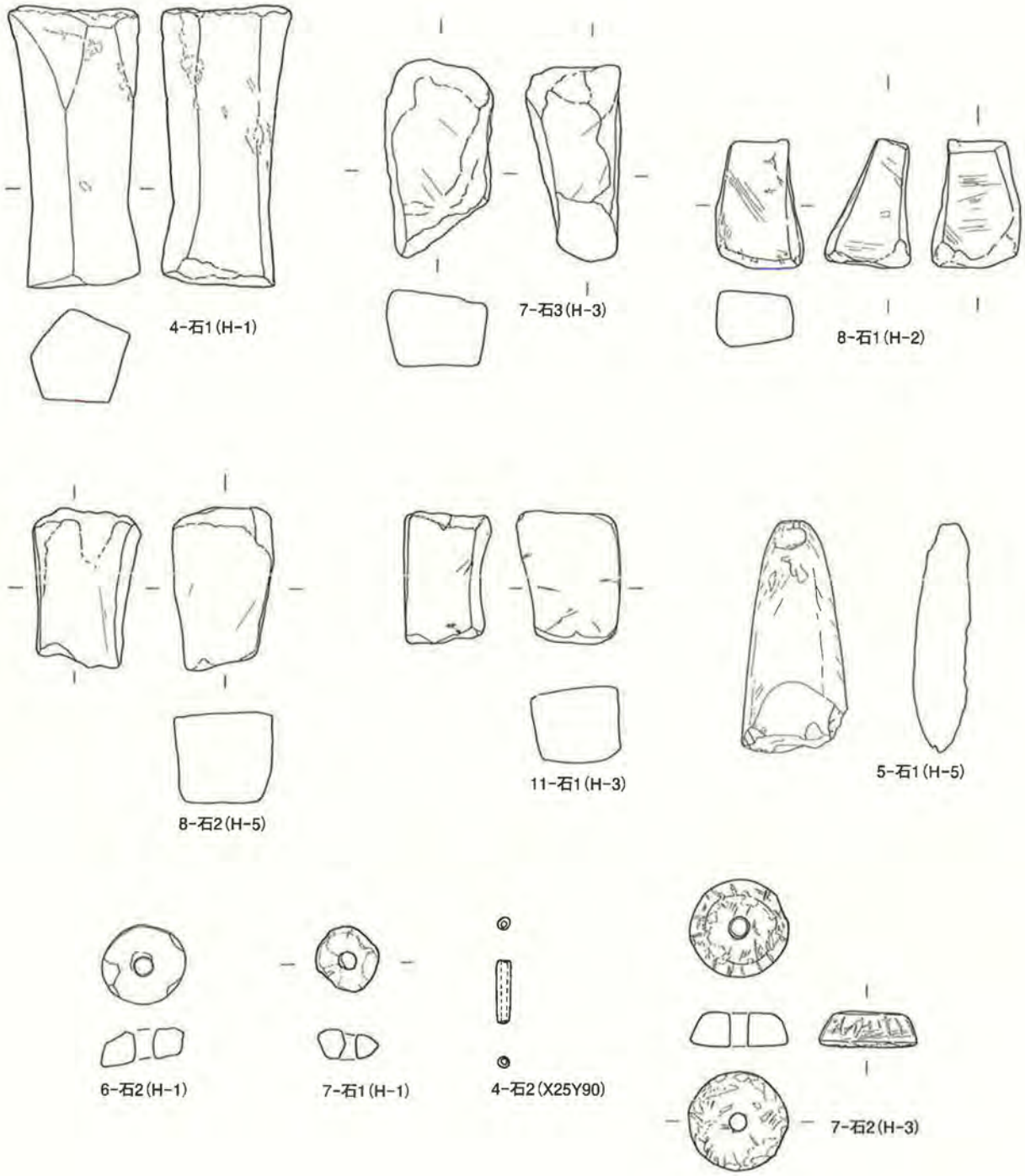

4-石1(H-1)
7-石3(H-3)
8-石1(H-2)
8-石2(H-5)
11-石1(H-3)
5-石1(H-5)
6-石2(H-1)
7-石1(H-1)
4-石2(X25Y90)
7-石2(H-3)
0
1／3
10cm

Fig.89 石 製 品（2）

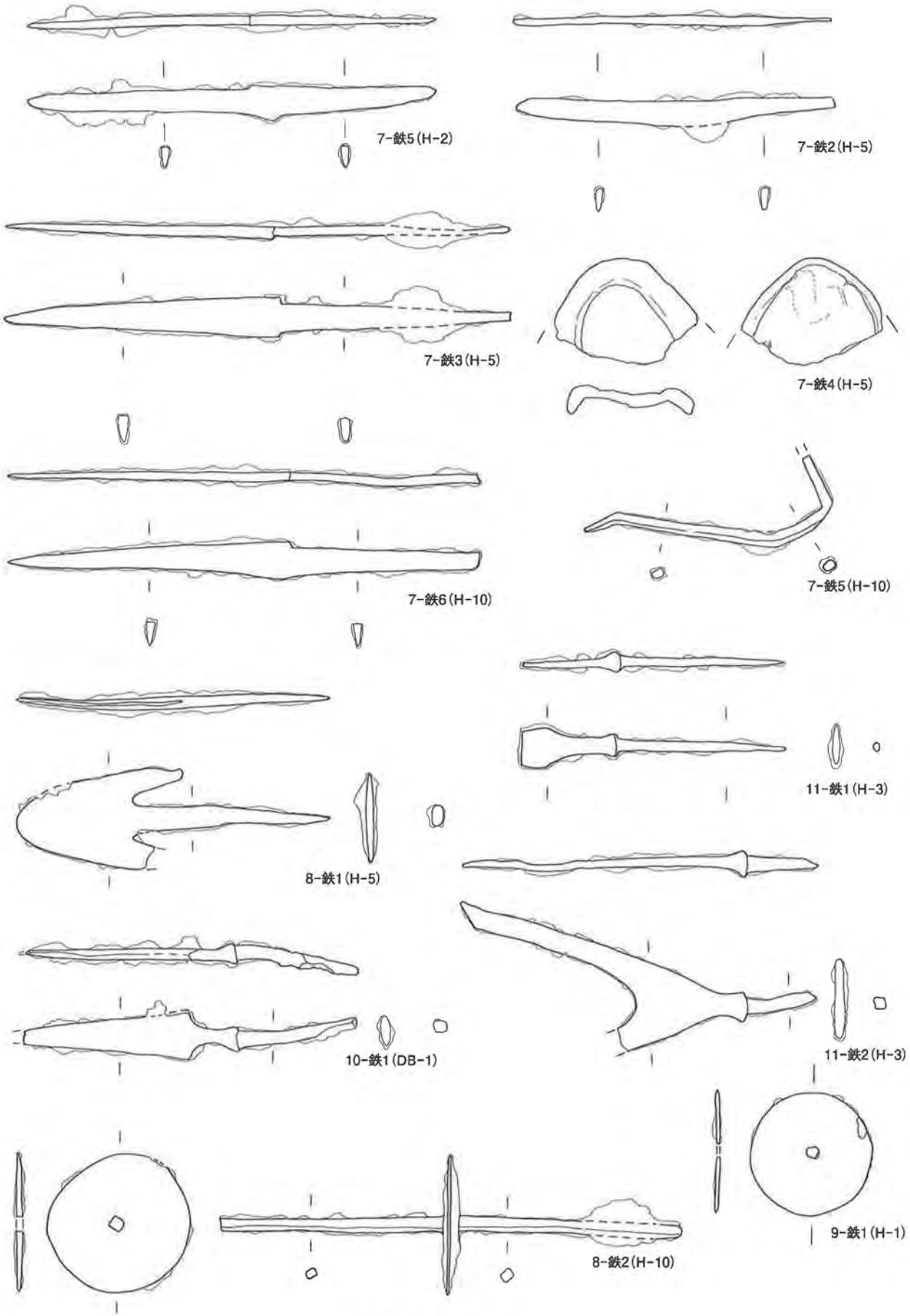

7-鉄5(H-2)
7-鉄2(H-5)
7-鉄3(H-5)
7-鉄4(H-5)
7-鉄6(H-10)
7-鉄5(H-10)
11-鉄1(H-3)
8-鉄1(H-5)
10-鉄1(DB-1)
11-鉄2(H-3)
9-鉄1(H-1)
8-鉄2(H-10)

Fig.90 鉄 製 品（1）

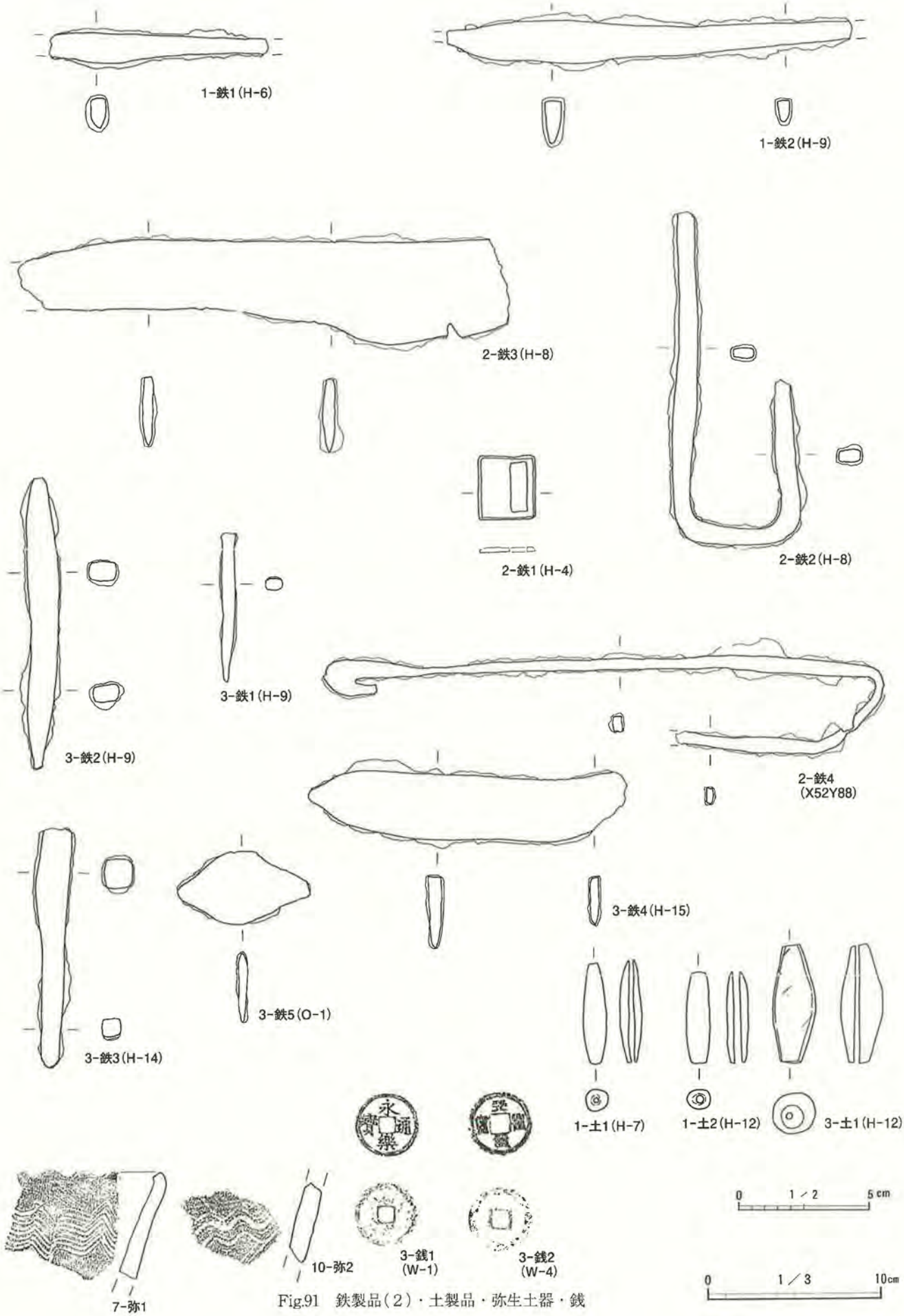


Fig.91 鉄製品(2)・土製品・弥生土器・銭

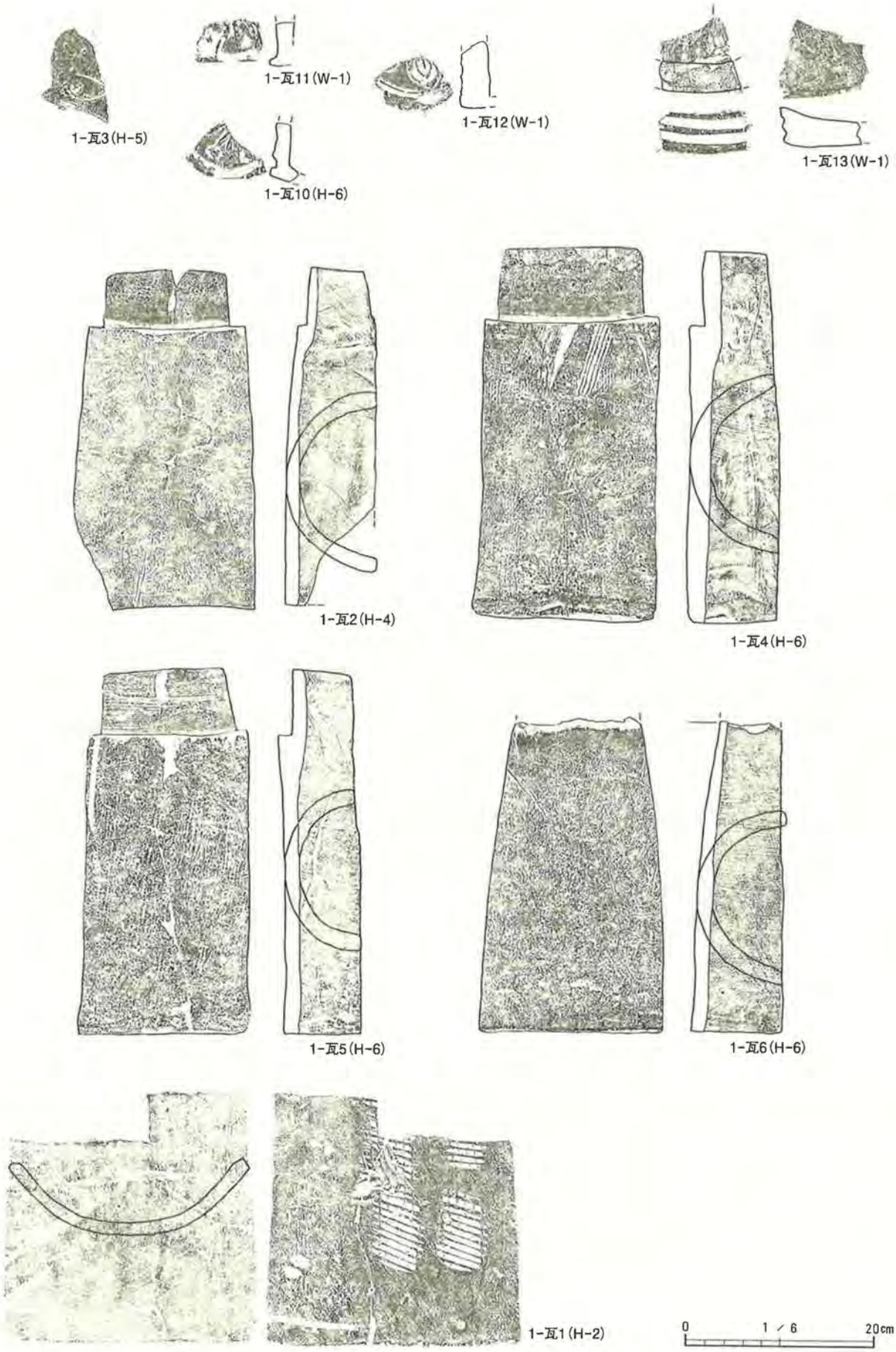
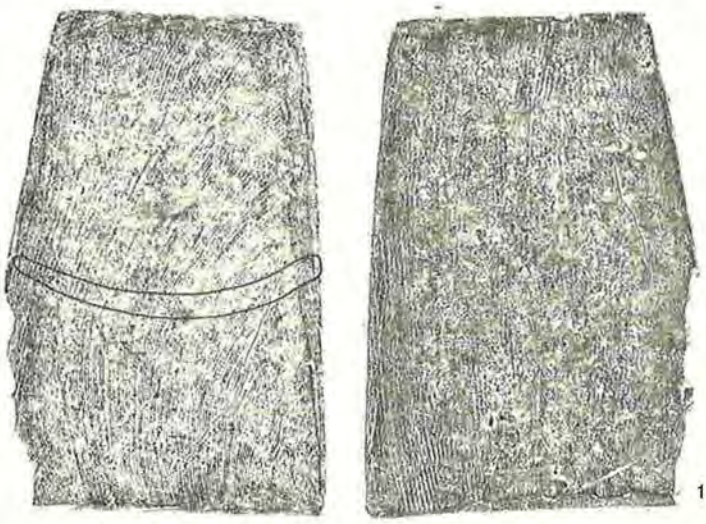
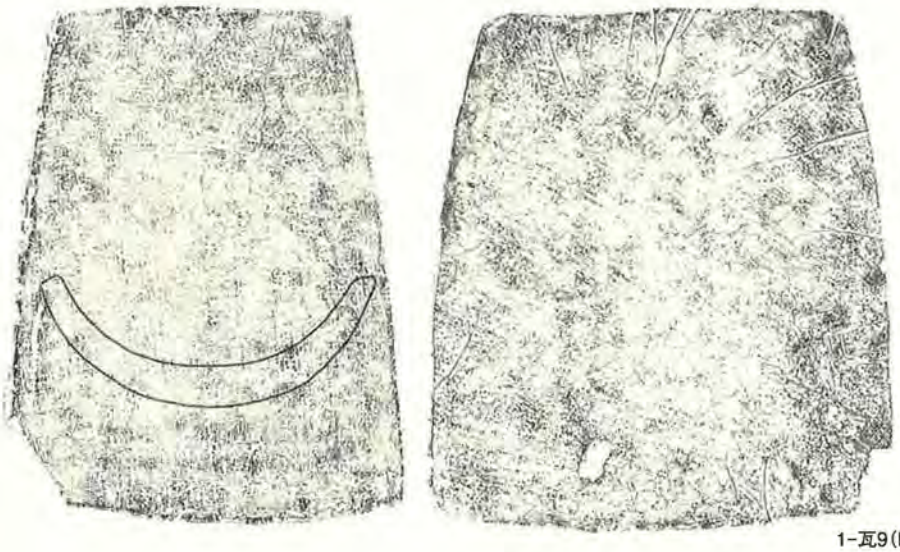

1-瓦3(H-5)
1-瓦11(W-1)
1-瓦12(W-1)
1-瓦13(W-1)
1-瓦10(H-6)
1-瓦2(H-4)
1-瓦4(H-6)
1-瓦5(H-6)
1-瓦6(H-6)
1-瓦1(H-2)
0
1 / 6
20cm

Fig.92 瓦（1）



1-瓦7(H-6)



1-瓦9(H-6)

1-瓦8(H-6)

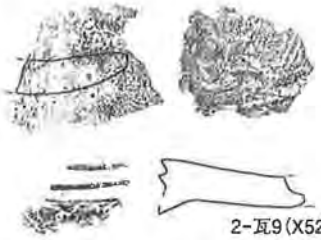
Fig.93 瓦（2）

0 1／6 20cm

2-瓦2(T-1)

2-瓦3(T-1)

2-瓦4(T-1)

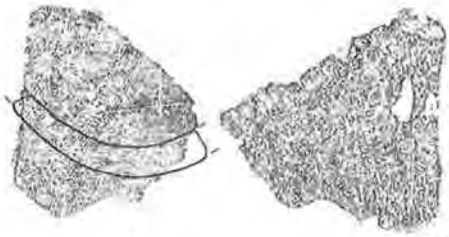

2-瓦9(X52Y84)

2-瓦6(D-2)

2-瓦7(D-3)

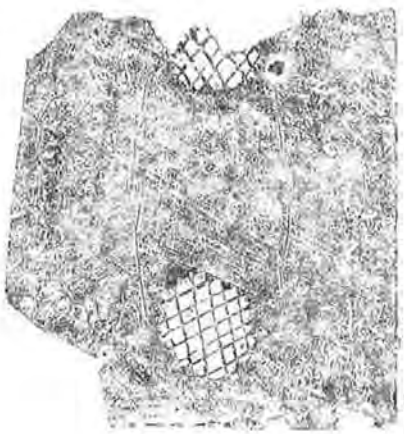
2-瓦4(T-1)

2-瓦2(T-1)


2-瓦5(T-1)

2-瓦1(H-9)

2-瓦3(T-1)


2-瓦8(D-3)

文字のみ
0 1/2 5cm

0 1/6 20cm

Fig.94 瓦（3）

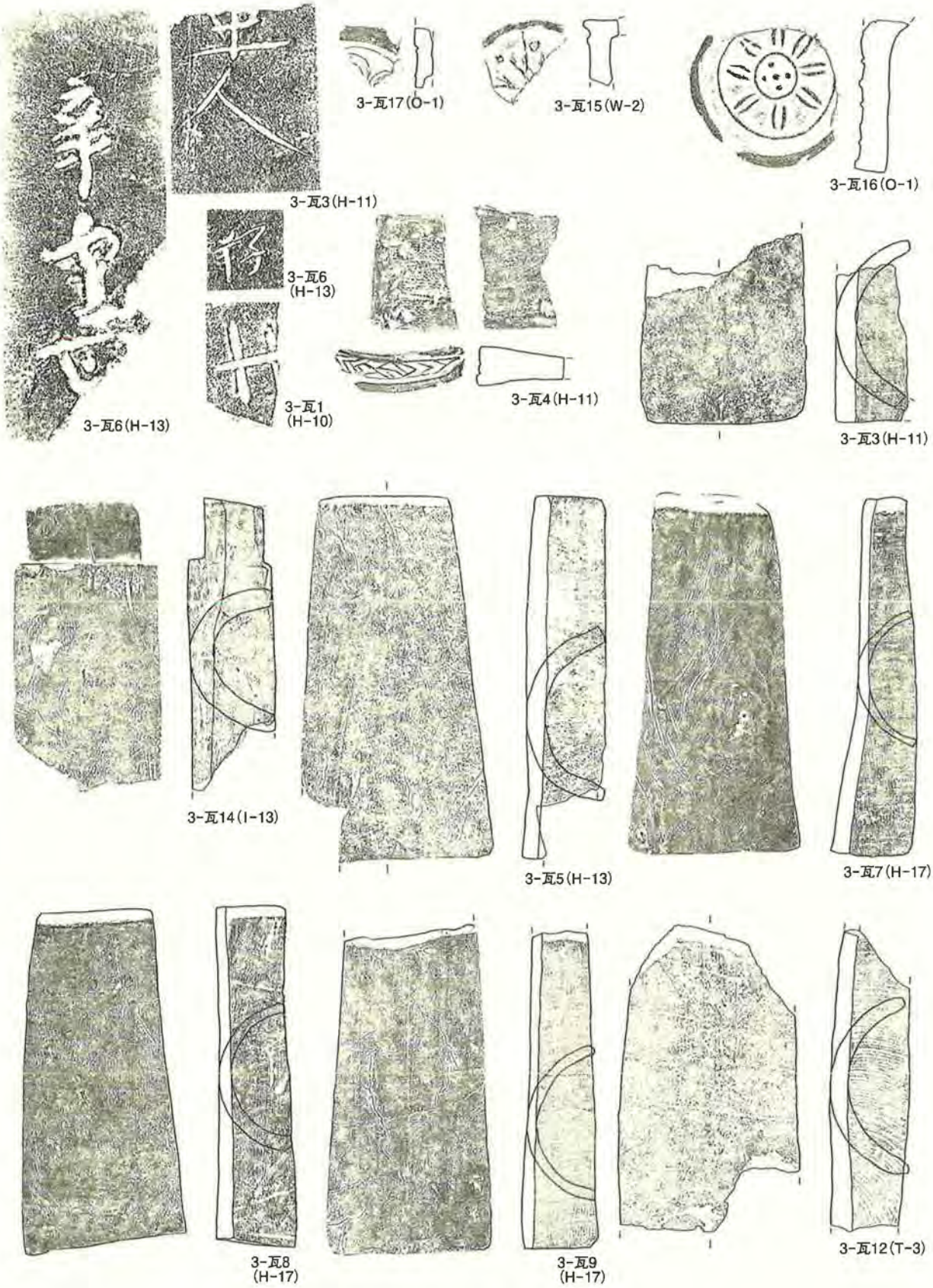
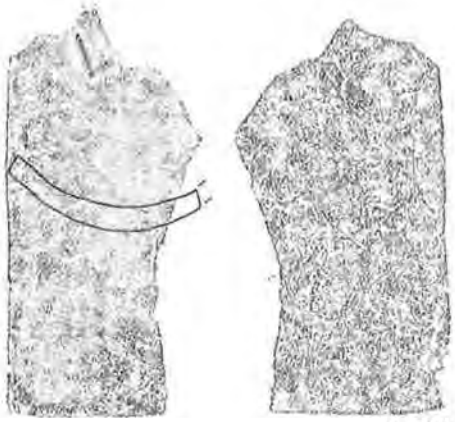
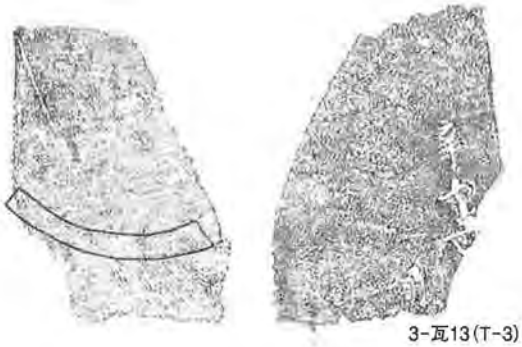

3-瓦17(O-1)
3-瓦15(W-2)
3-瓦16(O-1)
3-瓦3(H-11)
3-瓦6
(H-13)
3-瓦1
(H-10)
3-瓦4(H-11)
3-瓦6(H-13)
3-瓦3(H-11)
3-瓦14(I-13)
3-瓦5(H-13)
3-瓦7(H-17)
3-瓦8
(H-17)
3-瓦9
(H-17)
3-瓦12(T-3)
文字のみ
0 1/2 5cm
0 1/6 20cm

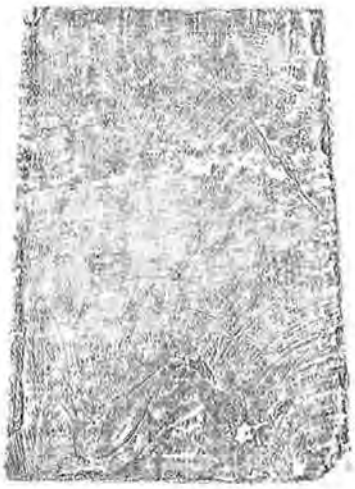
Fig.95 瓦（4）



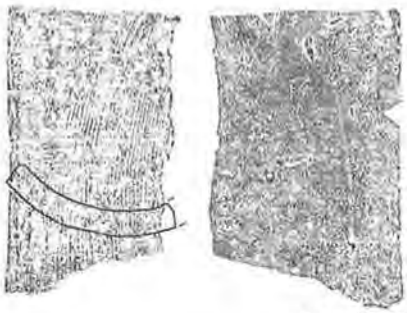
3-瓦2(H-10)



3-瓦13(T-3)



3-瓦10(H-17)



3-瓦6(H-13)

3-瓦11(H-17)

3-瓦1(H-10)

0 1/6 20cm

Fig.96 瓦（5）

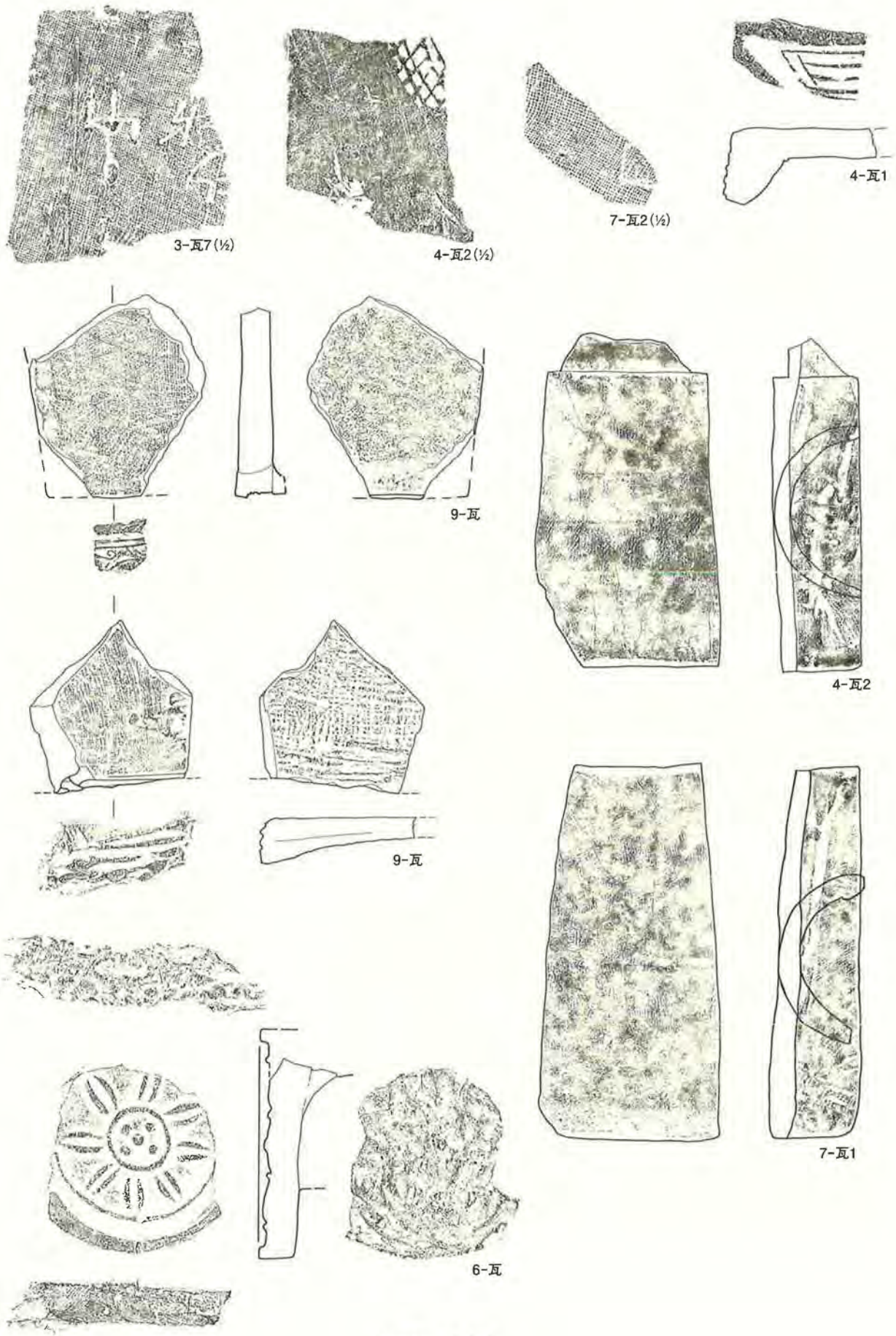
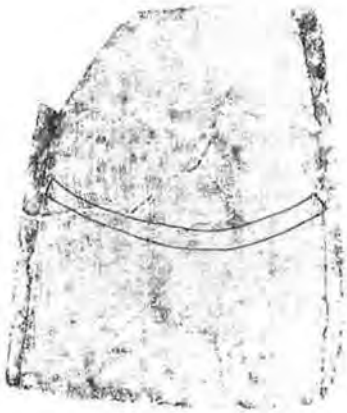
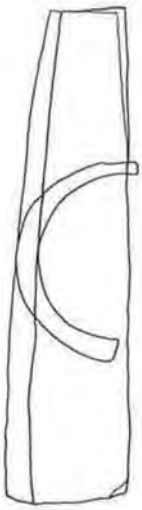


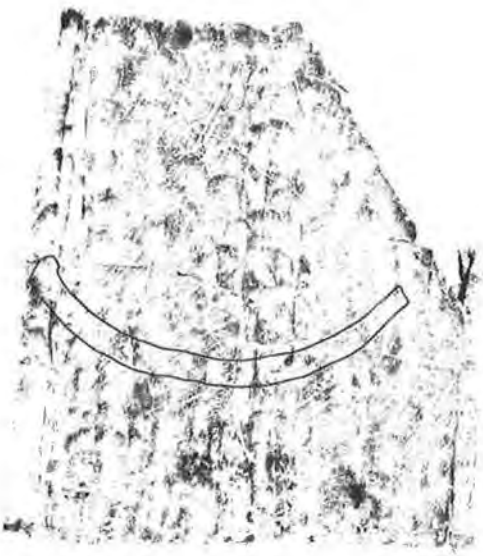
Fig.97 瓦（6）



10B-瓦1



10B-瓦2



10B-瓦3

Fig.98 瓦（7）

1区　調査区全景（南から）

1区　H－1号住居跡全景(西から)

1区　H－2号住居跡　遺物出土状況（西から）

1区　H－2・3号住居跡全景（南から）

1区　H－2号住居跡竈全景（西から）

1区　H－4号住居跡全景（西から）

1区　H－4号住居竈全景（西から）

1区　H－5号住居跡全景（西から）

1区　H－5号住居竈全景（西から）

1区　H－6号住居跡瓦出土状況（南から）

1区　H－6号住居跡全景（西から）

1区　H－6号住居跡全景（西から）

1区　H－6号住居跡竈全景（西から）

1区　H－8・12号住居跡全景（全景）

1区　H－8号住居跡（西から）

1区　H－9号住居跡遺物出土状況（西から）

1区　H－9号住居跡全景（西から）

1区　H－9号住居跡竈全景（西から）

1区　H－10号住居跡全景(西から)

1区　H－11号住居跡全景(南から)

1区　H－11号住居跡竈全景(南から)

2区　H－1号住居跡全景（西から）

2区　H－2号住居跡遺物出土状況（西から）

2区　H－2号住居跡全景（西から）

2区　H－2号住居跡竈全景（西から）

2区　H－3号住居跡全景（西から）

2区　H－3号住居跡竈全景（西から）

2区　H－4号住居跡全景（西から）

2区　H－4号住居跡竈全景（西から）

2区　H－6号住居跡全景（北から）

2区　H－9号住居跡遺物出土状況（東から）

2区　H－9号住居跡、T－1号竪穴状遺構遺物出土状況（南から）

2区　H－9号住居跡、T－1号竪穴状遺構遺物出土状況（北から）

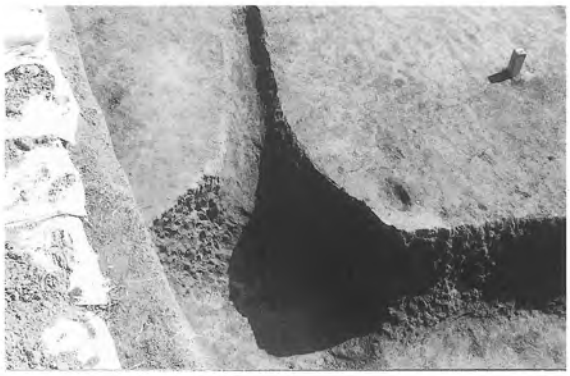
3区　H－1号住居跡埋設土器出土状況（南から）

3区　H－1号住居跡全景（西から）

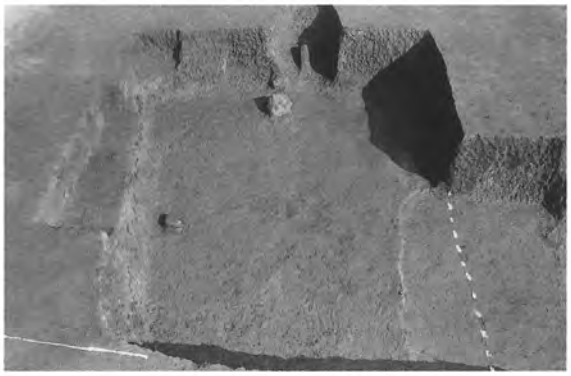
3区　H－2号住居跡全景（西から）

3区　H－2号住居跡竈全景（西から）

3区　H－3号住居跡全景（西から）



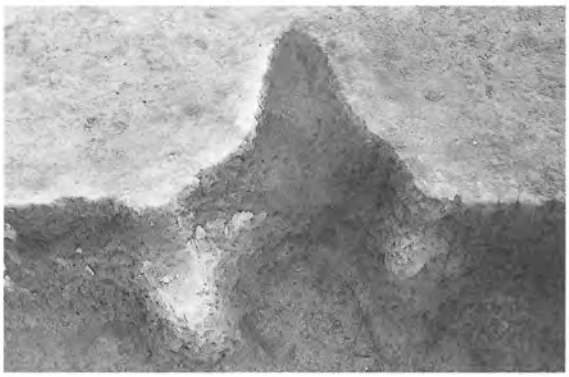
3区　H－3号住居跡竈全景（西から）



3区　H－5号住居跡全景（西から）

3区　H－5号住居跡竈全景（西から）

3区　H－6号住居跡全景（西から）



3区　H－6号住居跡竈全景（西から）

3区　H－7号住居跡全景（西から）

3区　H－7号住居跡竈全景（西から）

3区　H－8号住居跡全景（西から）

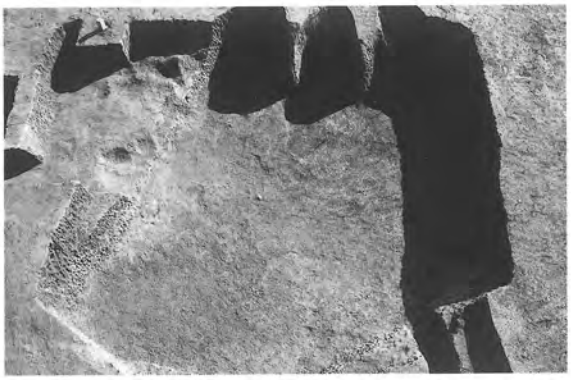
3区　H－8号住居跡竈全景（西から）

3区　H－9号住居跡全景（西から）

3区　H－9号住居跡竈全景（西から）

3区　H－9・10号住居跡全景（西から）

3区　H－10号住居跡竈全景（西から）



3区　H－11号住居跡全景(西から)

3区　H－11号住居跡竈全景(西から)

3区　H－12号住居跡全景(西から)

3区　H－12号住居跡竈全景(西から)

3区　H－13号住居跡竈遺物出土状況1（東から）

3区　H－13号住居跡竈全景(西から)

3区　H－14号住居跡全景(西から)

3区　H－14号住居跡竈全景(西から)

3区　H－15号住居跡全景(西から)

3区　DB－2号土坑墓全景（南から）

3区　T－3号竪穴状遺構遺物出土状況（南から）

3区　T－3号竪穴状遺構全景（西から）

3区　W－1号溝跡全景（北から）

3区　W－2号溝跡全景（北から）

3区　調査区中央部全景（北から）

3区　W－5号溝跡全景（北から）

3区　I－1井戸跡全景（北から）

3区　O－1号落ち込み全景（南東から）

3区　O－1号落ち込み全景（北西から）

3区　西調査区全景（南から）

3区　H－16号住居跡遺物出土状況（西から）

3区　H－16号住居跡全景（西から）

3区　H－16号住居跡竈全景（西から）

3区　H－16号住居跡 P_5 遺物出土状況（南から）

3区　H－17号住居跡全景(南から)

3区　H－17号住居跡竈周辺遺物出土状況（西から）

3区　H－17号住居跡竈全景（西から）

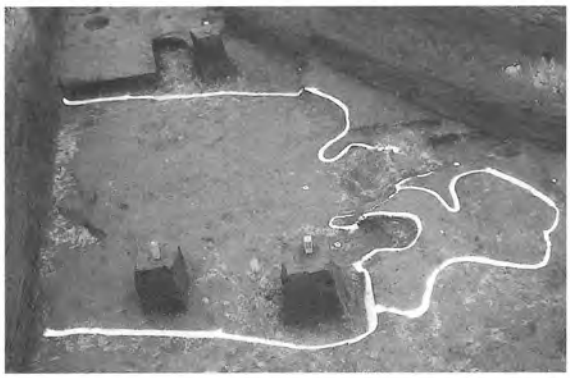
3区　H－17号住居跡 P_5 遺物出土状況（西から）

3区　H－18・20号住居跡全景（南から）

3区　H－20号住居跡竈周辺遺物出土状況（西から）

3区　H－19号住居跡全景（西から）

3区　H－21・22号住居跡全景（南から）

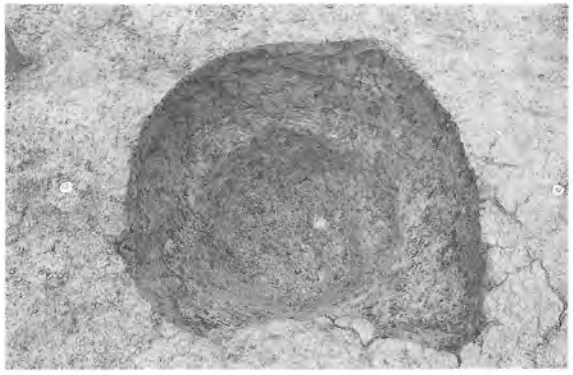


3区　H－23・24号住居跡全景（南から）

3区　T－4・5号竪穴状遺構全景（北から）

3区　D－4号土坑全景（南から）

3区　D－5号土坑全景（北から）

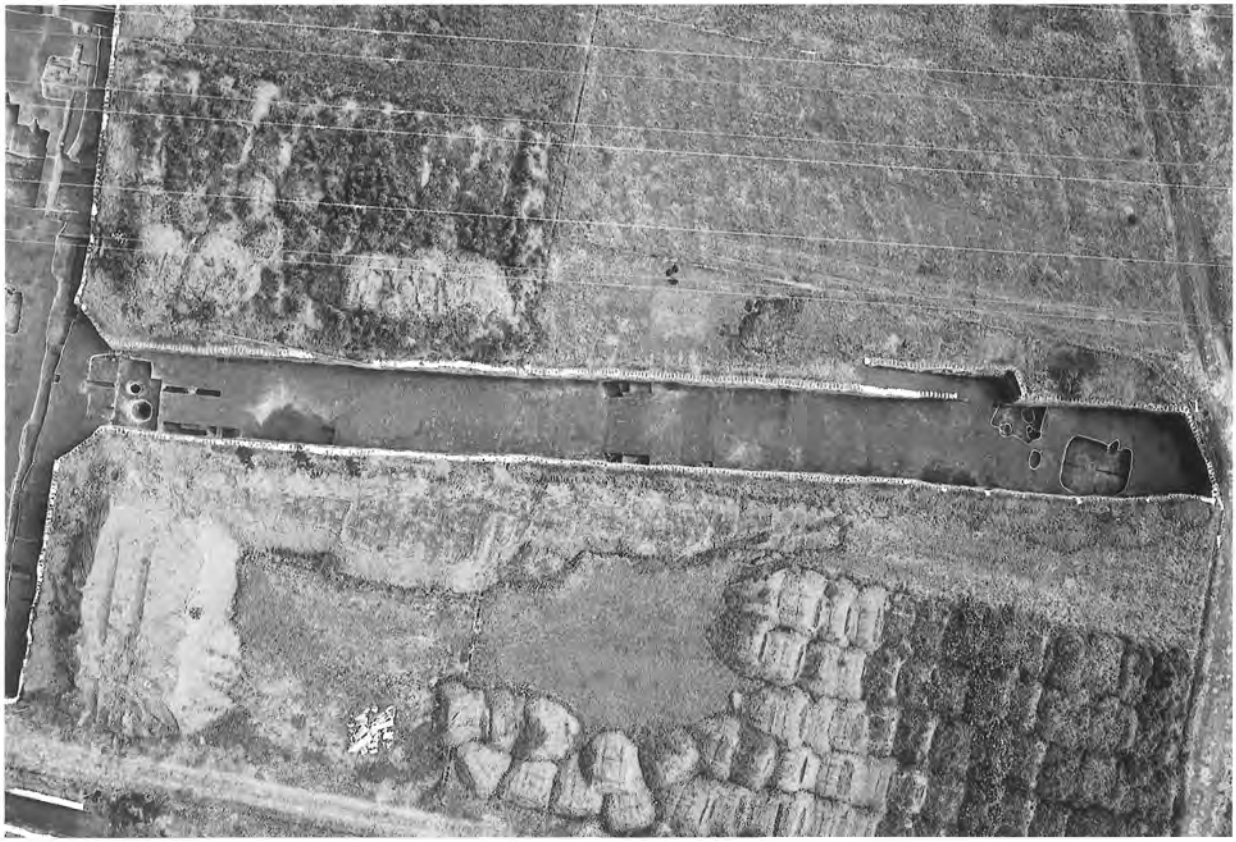


3区　D－6号土坑全景（西から）

3区　D－7土坑全景（北から）

3区　D－8号土坑全景（北から）

3区　DB－3号土坑全景（北から）



4区　調査区全景（西から）

4区　H－1号住居跡遺物出土状況（西から）

4区　H－2号住居跡全景（南から）

4区　H－2号住居跡竈全景(西から)

4区　H－3号住居跡、
D－4・5・6号土坑全景（南から）

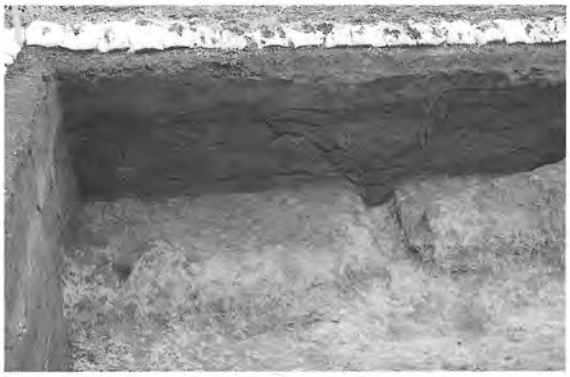
4区　D－1号土坑全景（西から）

4区　D－2・3号土坑全景（西から）

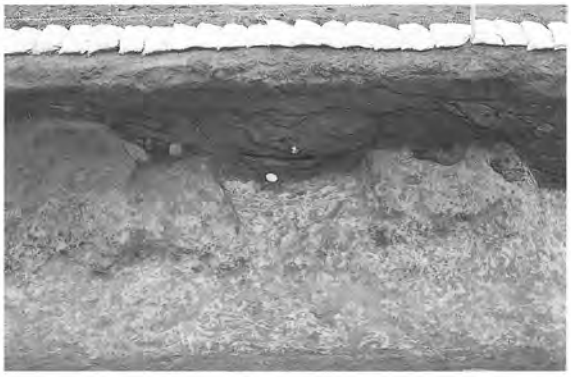
5区　H－1号住居跡全景(西から)

5区　H－1号住居跡竈全景（西から）

5区　調査区全景（南西から）



5区　H－2・4号住居跡、W－5号溝全景（北から）



5区　H－3号住居跡、D－1号土坑全景（北から）

5区　D－1号土坑遺物出土状況（北から）

5区　H－5号住居跡全景（南西から）

6区　全景（西から）

6区　H－1全景（南から）

6区　H－4全景（南から）

6区　T－2全景（南から）

6区　T－1全景（南から）

6区　地下式土坑（東から）

6区　地下式土坑礫出土状況（北から）

6区　地下式土坑遺物出土状況（南から）

6区　W－1·W－2·W－3併走状況(東から)

6区　W－1·W－3全景(北から)

6区　W－2全景（南から）

6区　W－2石岸（東から）

6区　W－2調査状況

7区　調査区全景（西から）

7区　H－1号住居跡全景（西から）

7区　H－1号住居跡竈周辺遺物出土状況（西から）

7区　H－1号住居跡竈全景（西から）

7区　H－2·6·8号住居跡全景(東から)

7区　H－6号住居跡甕出土状況（北から）

7区　H－3·7·9·11号住居跡全景（東から）

7区　H－4号住居跡全景（西から）

7区　H－5・10号住居跡全景（西から）

7区　H－5号住居跡竈全景（西から）

7区　H－5号住居跡 P_1 遺物出土状況（北から）

7区　H－5号住居跡 P_1 遺物出土状況近影（北から）

7区　H－5号住居跡緑釉陶器出土状況（南から）

7区　H－12号住居跡全景（西から）

7区　H－12号住居跡竈全景（西から）

7区　H－12号住居跡竈煙道部石組み（西から）

7区　H－12号住居跡竈煙道部設置甕断面（南から）

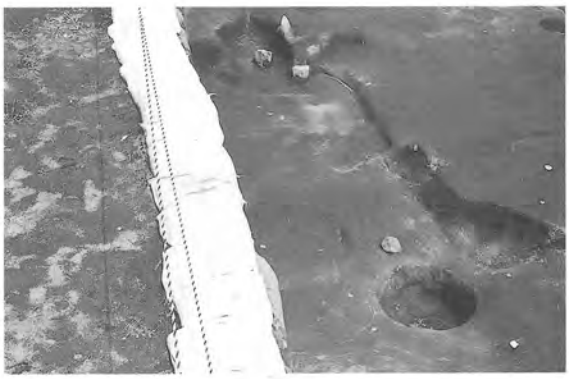
7区　D－1号土坑全景（南から）

7区　W－1号溝跡全景（東から）

7区　W－1号溝跡階段状部分全景（東から）

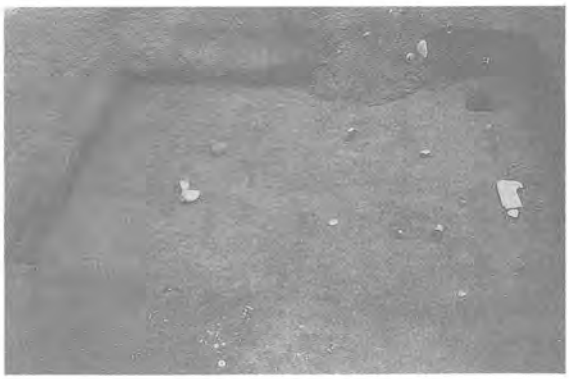
7区　I－1号井戸跡全景（東から）

8区　調査区全景（西から）



8区　H－2号住居跡全景（西から）

7区　H－1号住居跡竈全景（西から）



8区　H－3号住居跡全景（南東から）

8区　H－3号住居跡竈全景（西から）

8区　H－4号住居跡全景（北から）

8区　H－5·10号住居跡全景(南西から)

8区　H－5号住居跡竈全景（西から）

8区　H－10号住居跡鉄製紡錘車出土状況（西から）

8区　H－6・7号住居跡、
T－1号竪穴状遺構全景（西から）

8区　H－7号住居跡竈全景（西から）

8区　O－1号落ち込み全景（南から）

8区　P－1号ピット全景(東から)

9区　全景（南から）

9区　R－1・R－2全景（南から）

9区　H－1全景（北から）

9区　W－1・H－2号全景（南から）

9区　H－3全景（南東から）

9区　W－1全景（南から）

9区　W－1遺物出土状況(西から)

10A・B区　調査区全景（東から）

10B区　H－1号住居跡全景（西から）

10B区　H－1号住居跡竈全景（西から）

10B区　H－2号住居跡全景（西から）

10B区　H－3号住居跡
竈周辺遺物出土状況全景（西から）

10B 区　H － 2 号住居跡竈全景（西から）

10B 区　H － 3 号住居跡全景（西から）

10B 区　H － 3 号住居跡竈全景（西から）

10B 区　H － 4 号住居跡全景（西から）

10B 区　H － 4 号住居跡竈全景（西から）

10B 区　H － 5･10 号住居跡全景（西から）

10B 区　H － 10 号住居跡遺物出土状況（西から）

10B 区　H － 6・8 号住居跡全景（南から）

10B 区　H － 8 号住居跡竈遺物出土状況（北西から）

10B 区　H － 8 号住居跡竈全景（北西から）

10B 区　H － 7･9 号住居跡全景（西から）

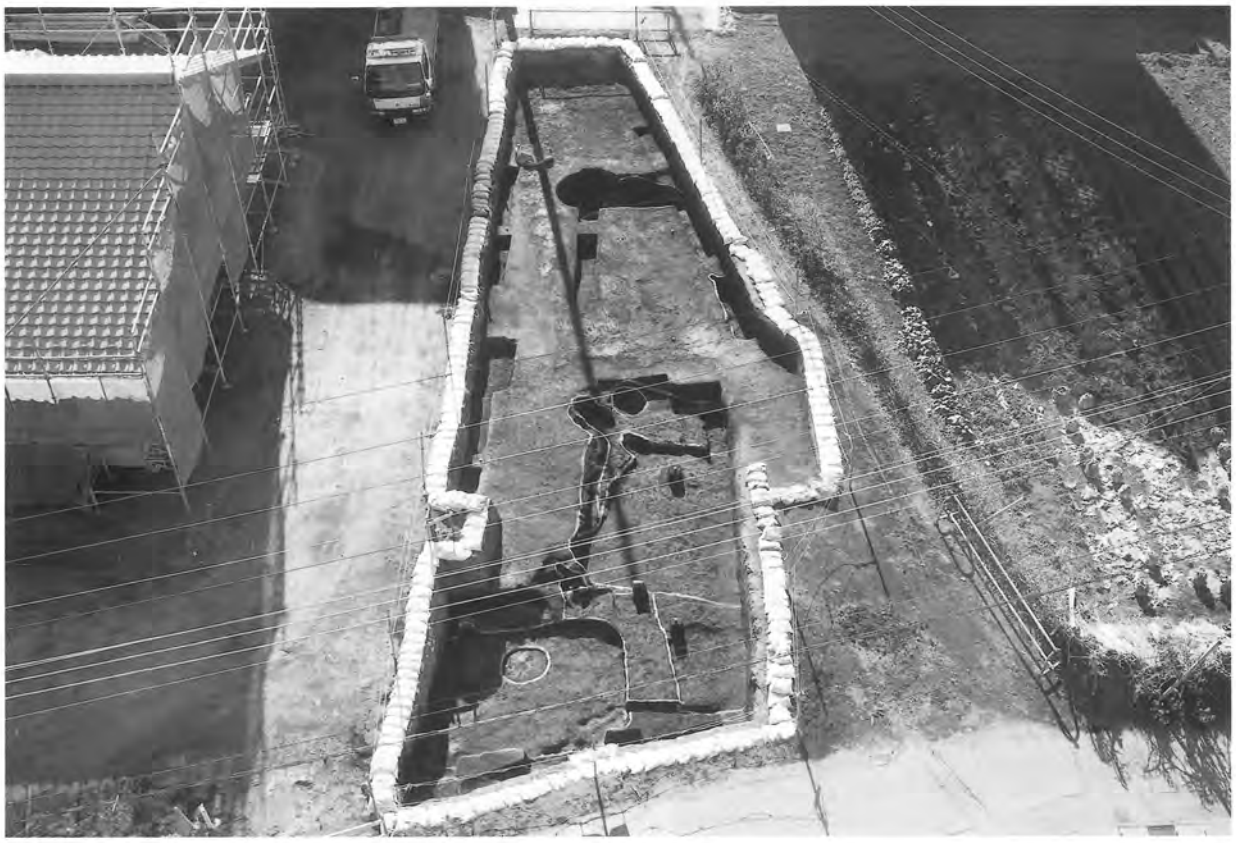
10B 区　DB － 1 号土坑墓全景(北から)

10B 区　DB － 1 号土坑墓遺物出土状況（東から）

10B 区　DB － 1 号土坑墓壺出土状況（南から）

11 区　H － 1 号住居跡全景（北から）

11 区　H － 2 号住居跡全景（西から）



11区　調査区全景（北から）

11区　H－2号住居跡遺物出土状況（東から）

11区　H－3号住居跡全景（西から）

11区　H－3号住居跡竈全景（北西から）

11区　H－4・5号住居跡全景（北西から）

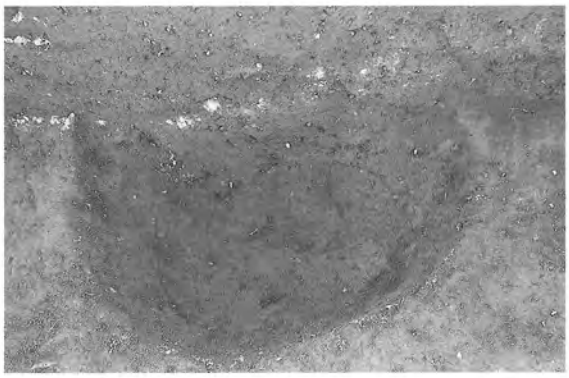
11区　H－4・5号住居跡竈全景（北西から）

11区　H－6・7号住居跡全景（北から）

11区　H－7号住居跡竈周辺遺物出土状況（北西から）

11区　H－7号住居跡竈全景（北西から）

11区　H－7号住居跡竈煙道部設置甕近影（北西から）



11区　D－1号土坑全景（東から）

11区　D－2号土坑全景（北から）

11区　I－1号井戸跡全景（東から）

13区　調査区全景（西から）

13区　H－1号住居跡全景（西から）

13区　H－1号住居跡竈全景(西から)

蒼海城の土塁として考えられていた盛土（東から）

蒼海城の土塁として考えられていた盛土（南西から）

PL.30

1-2

1-7

1-8

1-3

1-1

1-5

1-4

1-6

1-9

1-12

1-13

1-14

1-10

1-15

1-18

1-19

1-20

1-21

1-24

1-16

1-25

1-30

1-23

1-29

1-31

1-32

1-38

1-35

1-37

1-36

1-39

PL.32

2-2

2-3

2-4

2-5

2-6

2-17

2-18

2-27

2-22

2-24

2-37

2-38

2-39

2-1

2-33

2-7

2-21

2-19

2-30

2-32

2-34

3-1

3-4

3-5

3-11

3-12

3-13

3-2

3-7

3-15

3-17

3-14

3-19

3-21

3-8

3-18

3-26

3-27

3-30

3-32

3-33

3-34

3-35

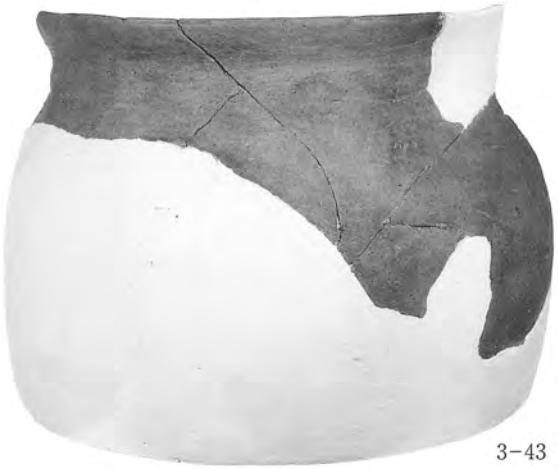
3-45

3-36

3-47

3-52

3-44


3-43

3-54

3-55

3-57

3-56

3-58

3-59

3-60

3-61

3-62

3-65

3-64

3-67

3-68

3-63

3-66

3-69

3-73

3-77

3-80

3-78

PL.36

3-74

3-83

3-84

3-75

3-85

3-86

3-87

3-88

3-89

3-90

3-91

3-92

3-93

3-94

3-95

3-96

3-97

3-98

3-100

3-102

3-99

3-105

3-101

4-1

4-2

4-3

4-4

4-5

4-6

4-7

4-9

4-8

5-1

5-4

5-2

5-3

5-5

5-7

5-10

5-8

5-9

5-11

5-6

5-13

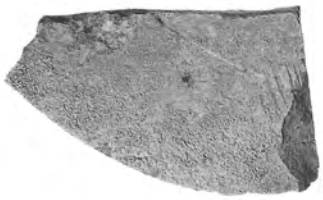
5-12

PL.38

6-1

6-2

6-3


6-4

6-6

6-7

6-5

7-1

7-2

7-3

7-4

7-5

7-6

7-7

7-8

7-9

7-10

7-12

7-14

7-11

7-13

7-21

8-9

8-10

7-22

8-3

8-11

8-12

8-6

7-26

7-23

7-24

7-25

7-28

7-29

7-30

7-27

7-31

7-32

PL.40

8-1

8-3

8-2

8-4

8-5

8-6

8-7

8-8

8-9

8-10

8-11

8-12

8-13

9-3

9-2

9-1

10B-1

10B-2

10B-3

10B-4

10B-5

10B-6

10B-8

10B-7

10B-9

10B-10

10B-11

10B-15

10B-12

10B-13

10B-16

10B-14

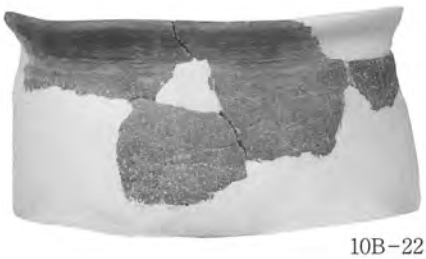
10B-19

10B-18

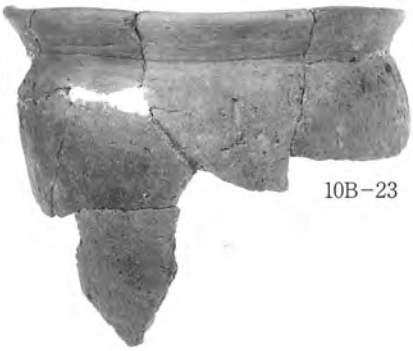
10B-17

10B-20

10B-21


10B-22

10B-24


10B-23

PL.42

10B-25

10B-26

10B-27

10B-28

10B-29

10B-31

11-1

11-2

11-3

11-4

11-5

11-6

11-7

11-8

11-9

11-10

11-11

11-13

11-12

3-瓦16

3-瓦4

3-瓦7

4-瓦1

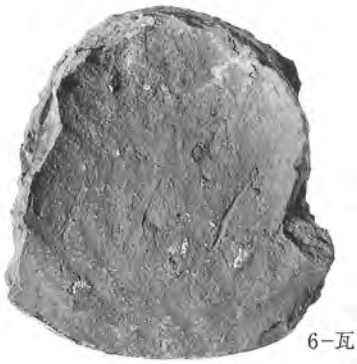
3-瓦13

3-瓦6

2-瓦2

4-瓦2

6-瓦1



6-瓦1

9-瓦1

9-瓦1

1-瓦2

1-瓦2

1-瓦4

1-瓦4

1-瓦5

1-瓦5

1-瓦6

1-瓦6

1-瓦7

1-瓦7

1-瓦9

1-瓦9

3-瓦7

3-瓦7

3-瓦8

3-瓦8

3-瓦9

3-瓦9

3-瓦10

3-瓦10

PL.48

3-瓦11

3-瓦11

4-瓦2

4-瓦2

7-瓦1

7-瓦1

10B－瓦1

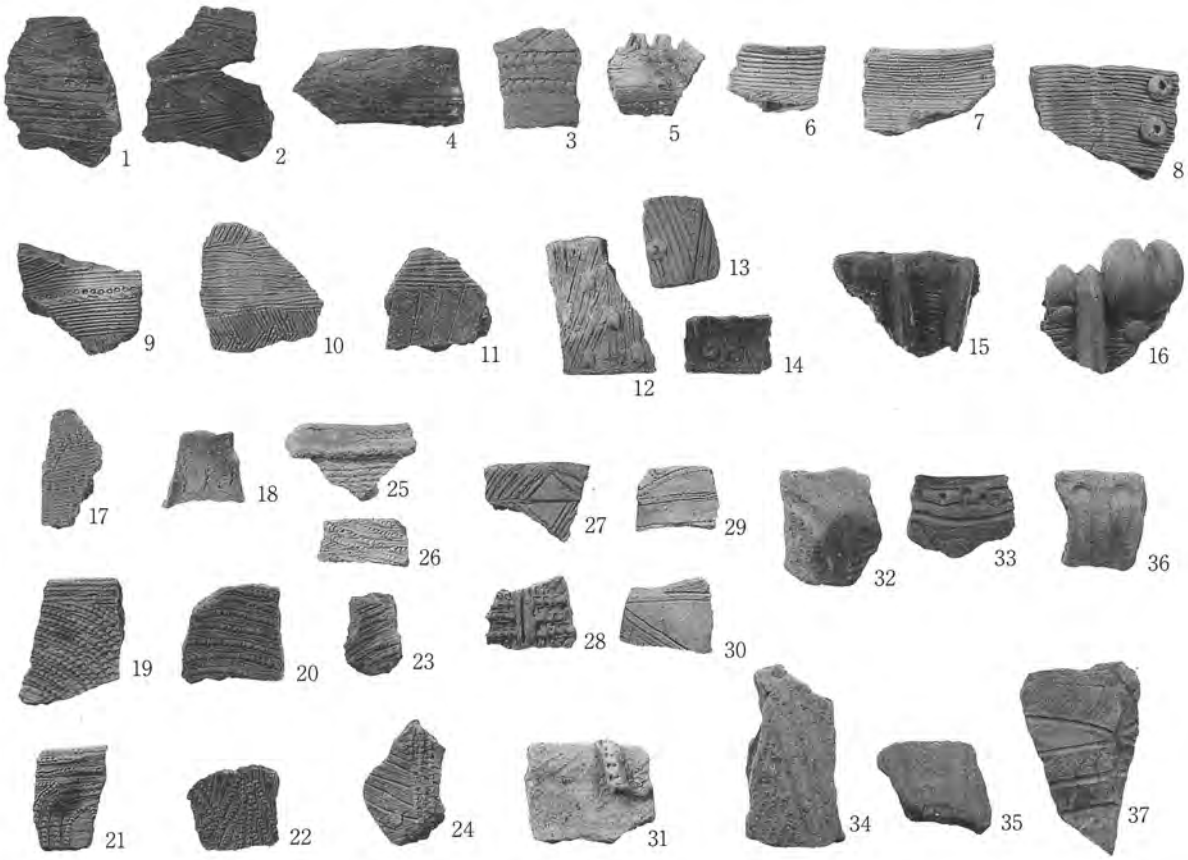
10B－瓦1

10B－瓦2

10B－瓦2

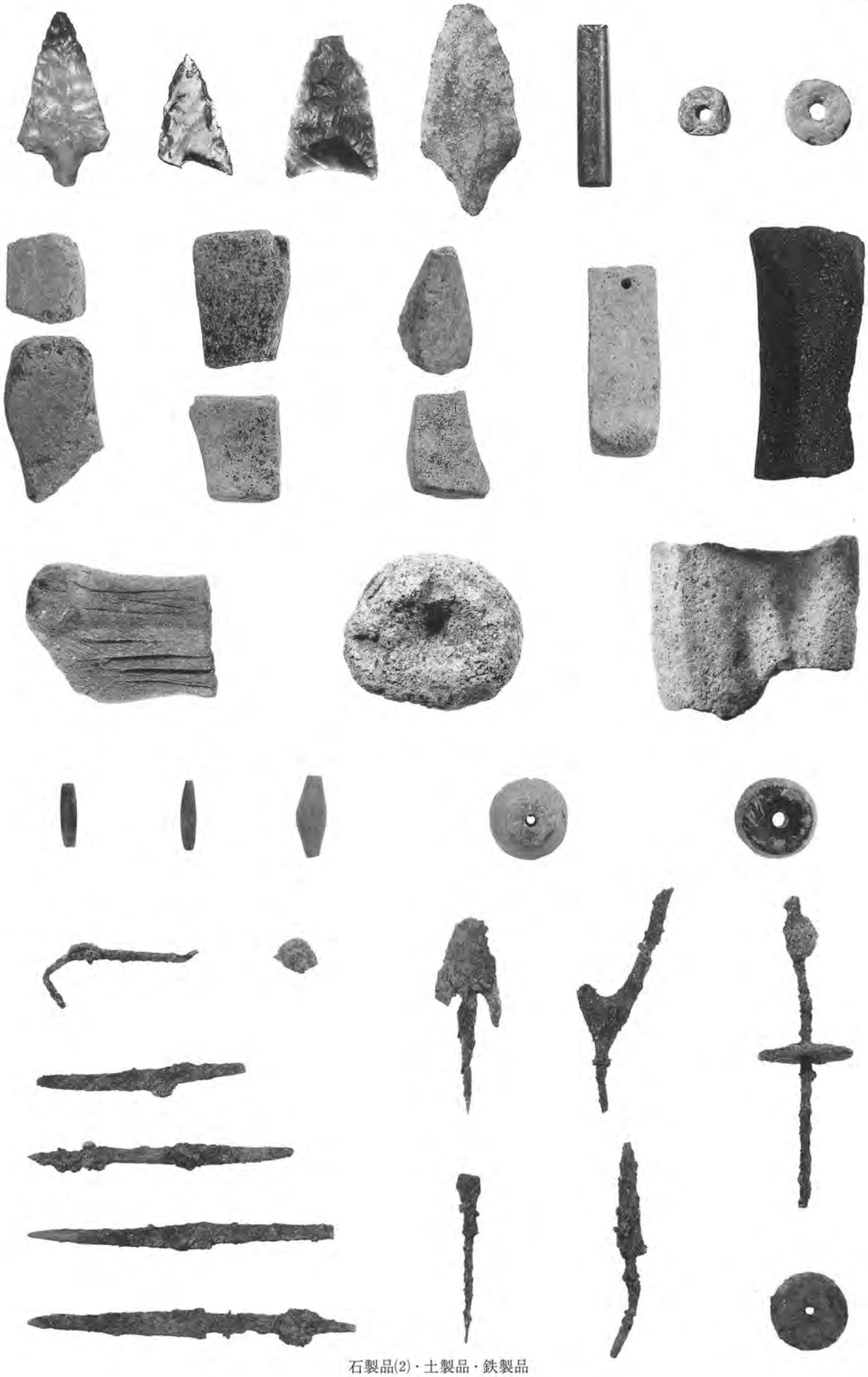
10B－瓦3

10B－瓦3


1
2
4
3
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
25
26
27
29
32
33
36
19
20
23
28
30
21
22
24
31
34
35
37

縄文土器

石製品(1)



石製品(2)・土製品・鉄製品

抄　　録

フリガナ	モトソウジャオウミイセキグン(26)
書名	元総社蒼海遺跡群（26）
副書名	前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著者名	山下歳信・阿久澤真一・並木勝洋・福田貫之・清水亮介
編集機関	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
編集機関所在地	〒371－0018　群馬県前橋市三俣町二丁目10－２
発行年月日	西暦2010年３月19日

フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所在地	コード		位置(日本測地系)		調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号	北緯	東経			
モトソウジャオウミイセキグン 元総社蒼海遺跡群 (26)	前橋市元総社町 1802-1ほか	10201	21A130 -26	36° 23′ 27″	139° 01′ 53″	20090518 ～ 20091225	約4,058㎡	前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
元総社蒼海遺跡群(26)	集落跡	古墳時代	竪穴住居跡９軒	土師器、須恵器　他	
		奈良・平安時代	竪穴住居跡90軒、竪穴状遺構９軒、溝跡16条、土坑38基	土師器、須恵器、鉄製品、石製品、瓦	
		中世	溝跡２条、土壙墓３基	鉄製品、石製品	

元総社蒼海遺跡群（26）

2010年３月14日　印　刷
2010年３月19日　発　行

編集発行　前橋市埋蔵文化財発掘調査団
前橋市三俣町二丁目10－２
ＴＥＬ 027－231－9531
印 刷 所　上毎印刷工業株式会社